

RX-78-2 GUNDAM
RX-78NT1 GUNDAM・ALEX
RX-78NT1-FA GUNDAM・ALEX
RX-79(G) GUNDAM
RX-75 GUNTANK
RX-77-2 GUNCANNON
RX-77D GUNCANNON
RB-79 BALL
RGM-79(G) GM
RGM-79 GM
RGM-79GS GM COMMAND
RGM-79SC GM SNAIPERCUSTAM
RGM-79SP GM SNAIPER II
RGC-80 GM CANNON
MS-05B ZAKU I
MS-06D DESERT ZAKU
MS-06F ZAKU II
MS-06FZ ZAKU II
MS-06J ZAKU II
MS-06K ZAKU CANNON
MS-06R-1A ZAKU II R
MS-06R-2 ZAKU II R
MS-06S ZAKU II

GUNDAM MECHANICS I

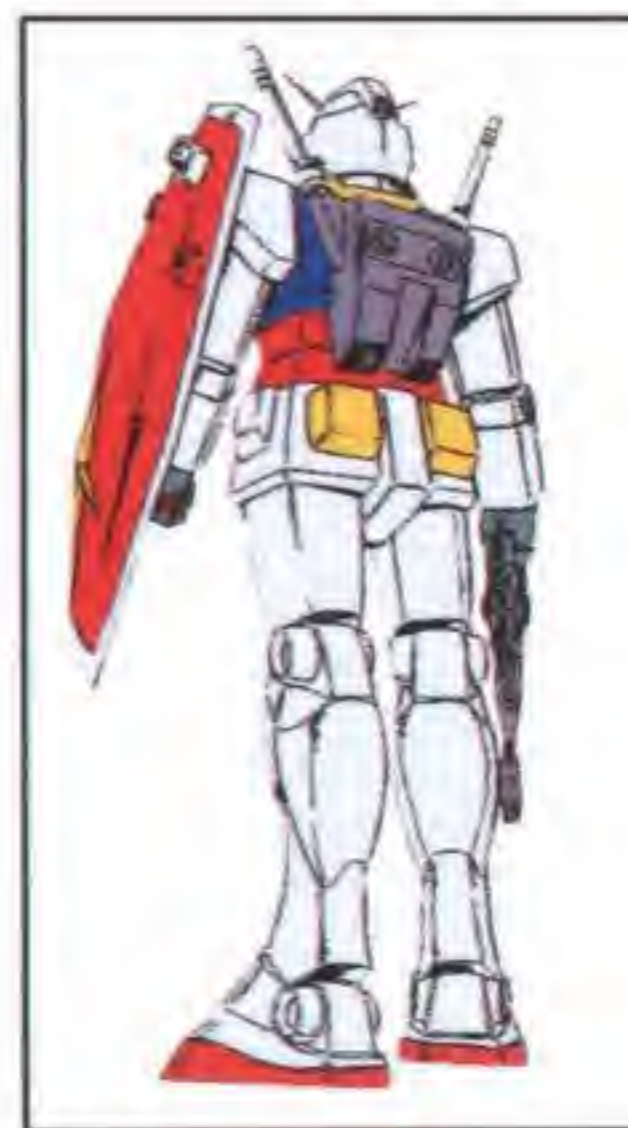
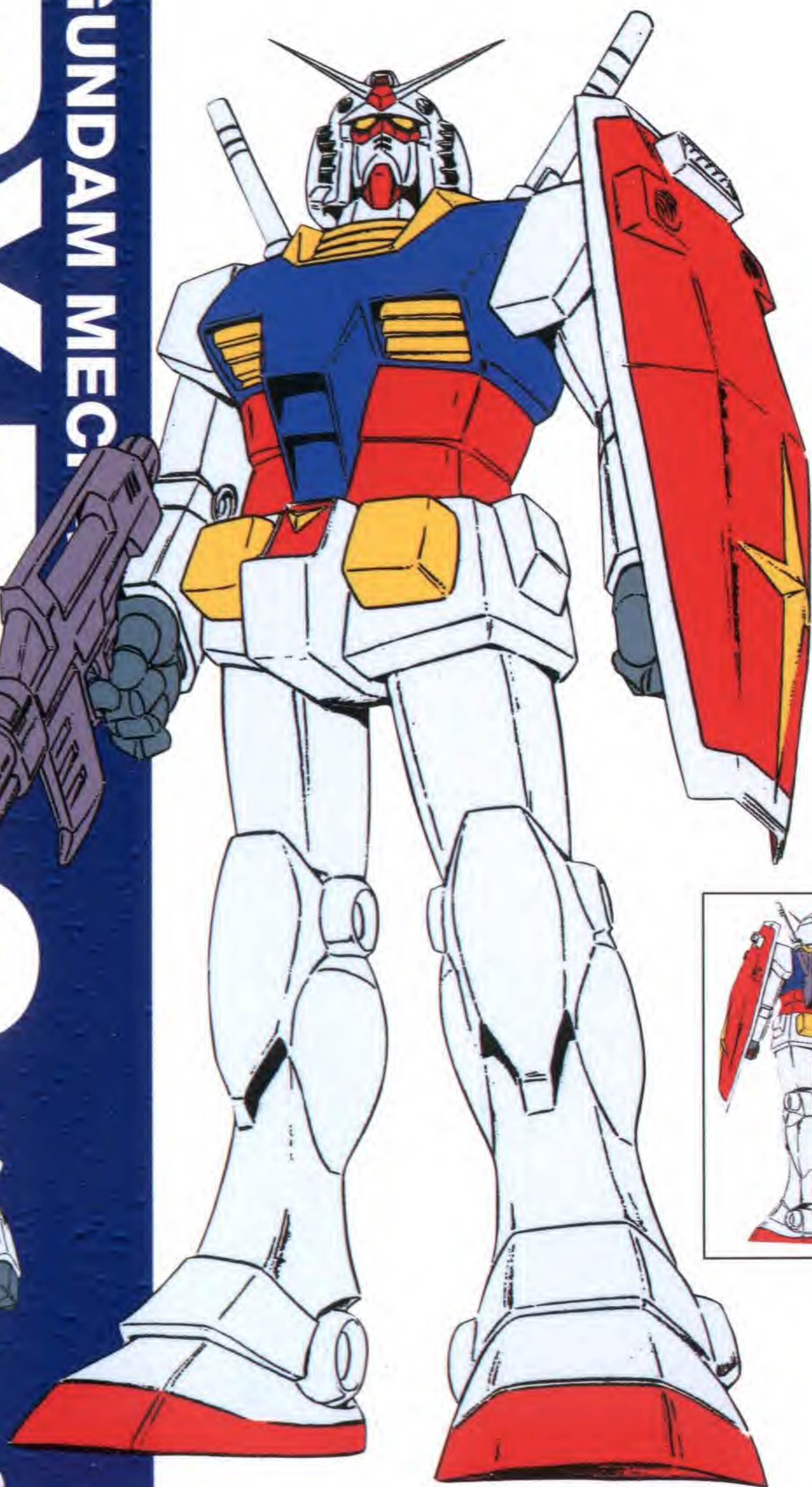
ガンダムメカニクス1

MS-07B GUFU
MS-09 DOM
MS-09F/TROP DOM TOROPEN
MS-09R RICK DOM
MS-09R II RICK DOM II
MS-14A GELGOOG
MS-14B GELGOOG B
MS-14C GELGOOG CANNON
MS-14F GELGOOG M
MS-14Fs GELGOOG M
MS-14JG GELGOOG J
YMS-15 GANN
MS-18E KÄMPFER
MSM-03 GOG
MSM-03C HY GOG
MSM-04 AGUY
MSM-07 ZUGOK
MSM-07E ZUGOK E
MSM-10 ZOCK
MAM-07 GRUBLO
MA-05 BYGRO
MA-08 BYG-ZAM
MAN-05 BRAW-BRO
MAN-08 ELMETH
MSN-02 ZIONG

ガンダム

GUNDAM MECH

RX-78-2



RX-78-2

ガンダム

機種分類：汎用試作型MS

製造：連邦軍

全高／頭頂高：18.5／18.0m

本体／全備重量：43.4／60.0 t

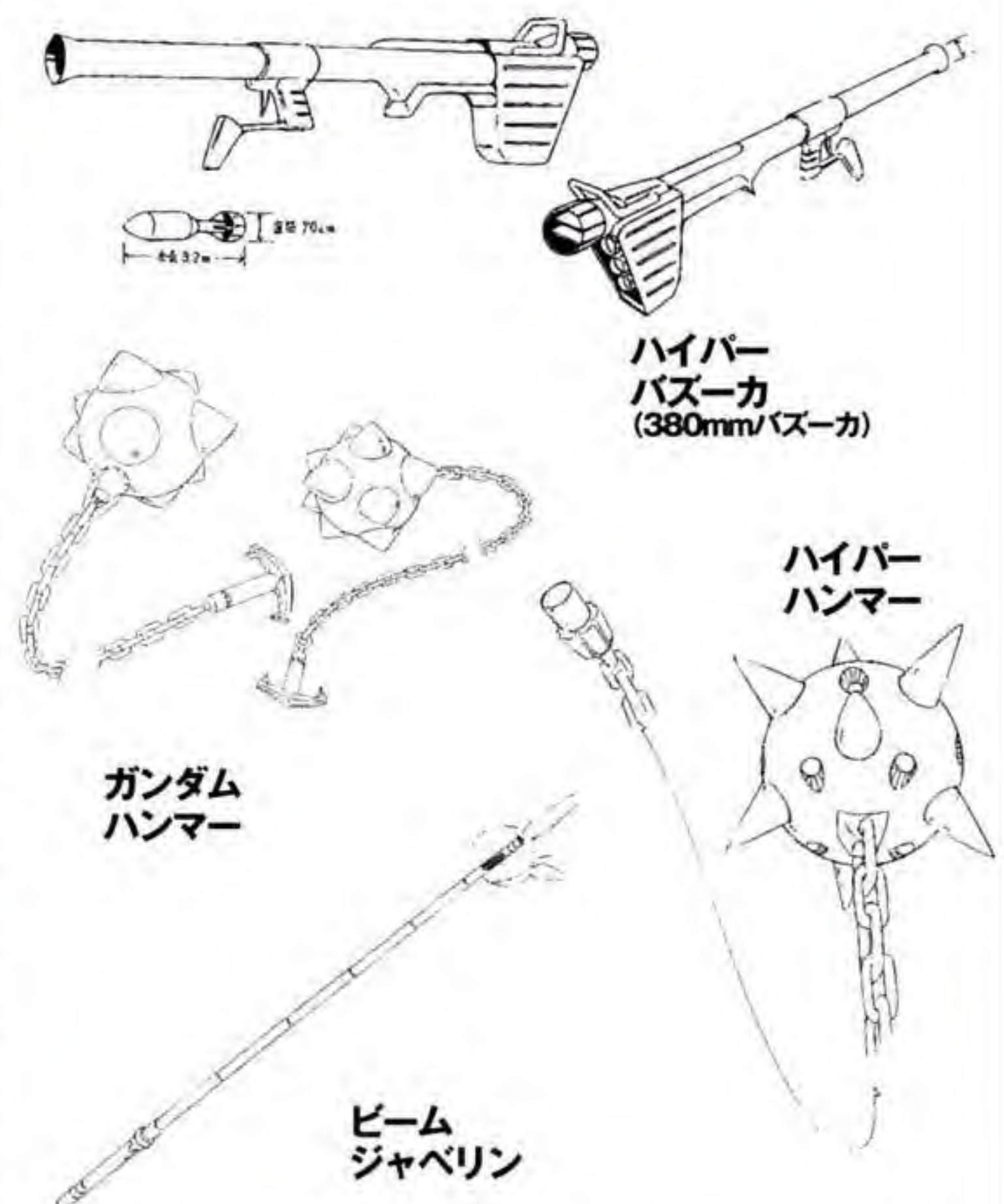
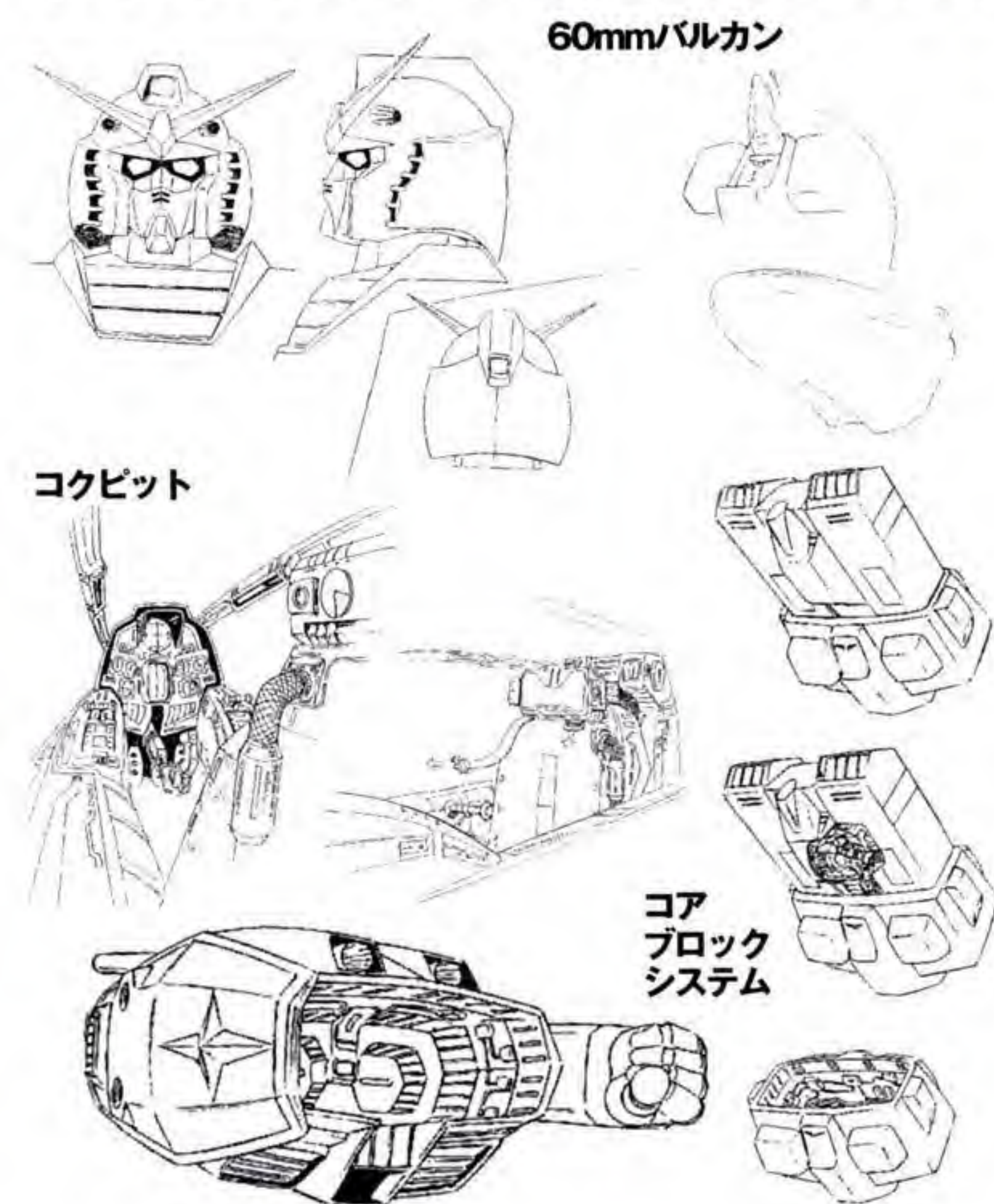
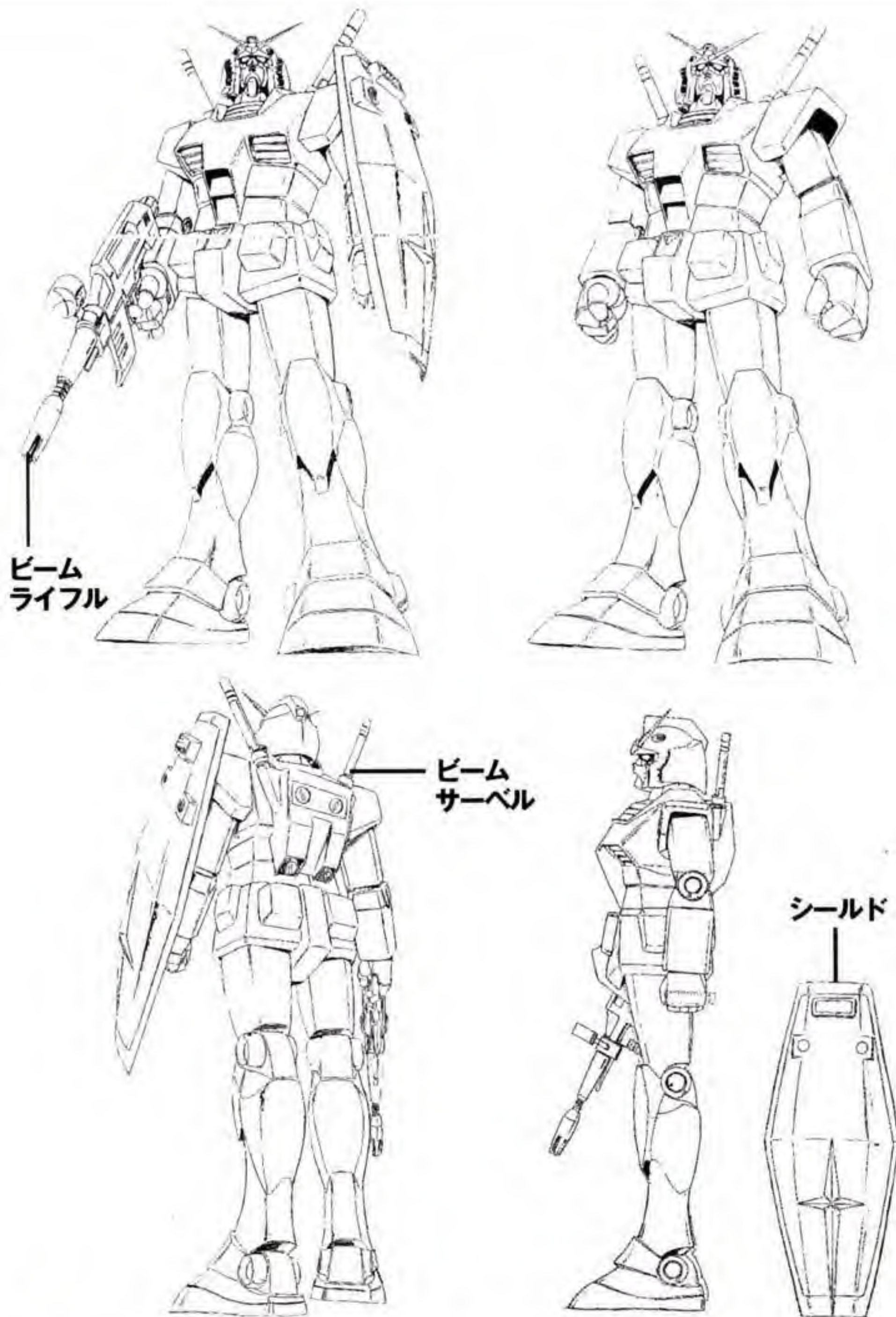
ジェネレータ出力：1,380kw

スラスタ総推力：55,500kg

センサー有効半径：5,700m

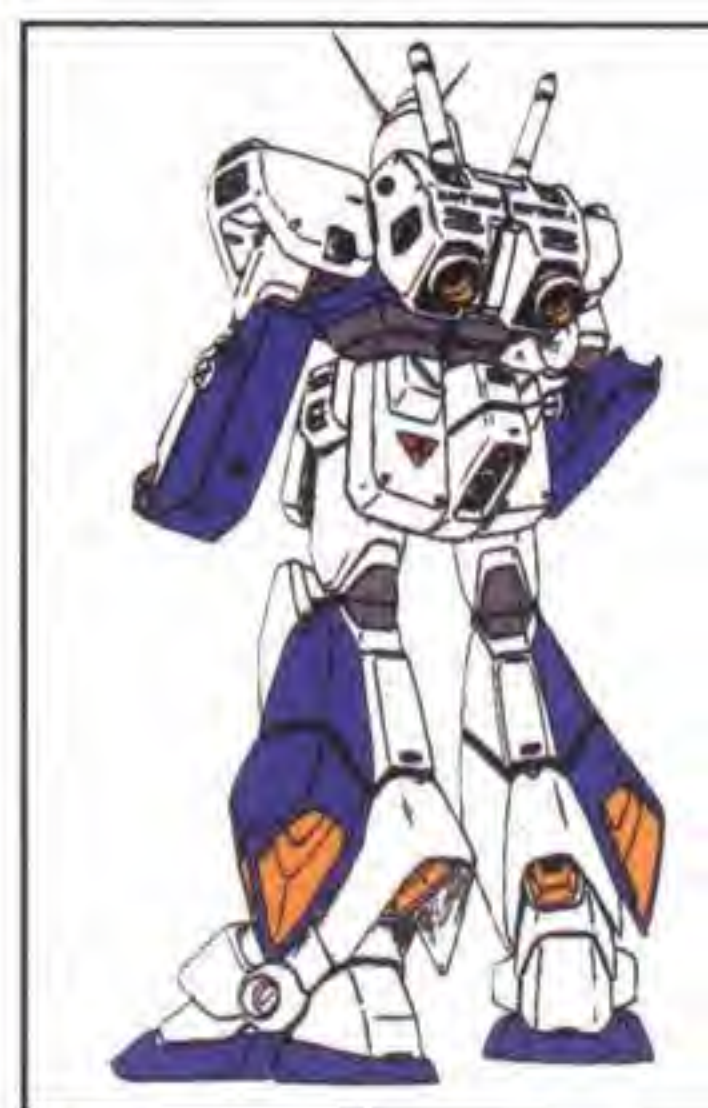
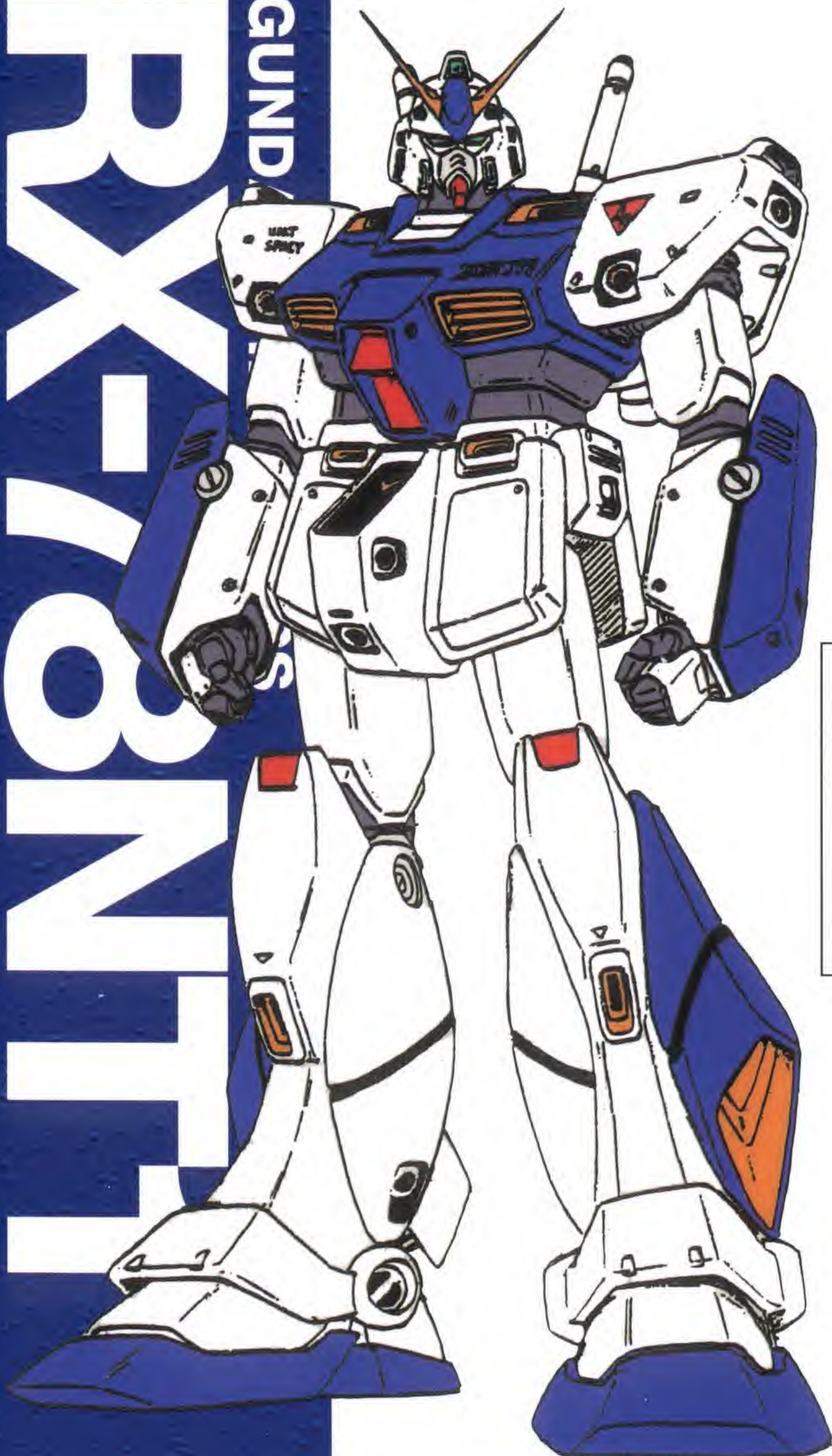
●「RX計画」により開発された3機種目のRXタイプMS。RX-75、77 同様、貴重な実戦データを記憶した「教育型コンピュータ」の回収とパイロットの脱出のため、コクピット兼脱出装置としてコアブロックシステムを採用している。

試作機である本機は、当初から生産コストを度外視して開発されている。高価な新開発装甲材「ルナチタニウム合金」の採用、画期的な新技術「エネルギーCAP」と高出力ジェネレータの搭載により、MSとしては初めてビームライフルを装備するなど、その性能はきわめて高い。汎用MSとして開発されたために柔軟な運用が可能で、実戦結果も良好だったため、のちの量産機「RGM-79ジム」にはこのRX-78の運用コンセプトが生かされている。



アレックス

GUNDAM



RX-78NT1

アレックス

機種分類：NT専用試作型MS

製造会社：連邦軍

全高 頭頂高：18.5 18.0m

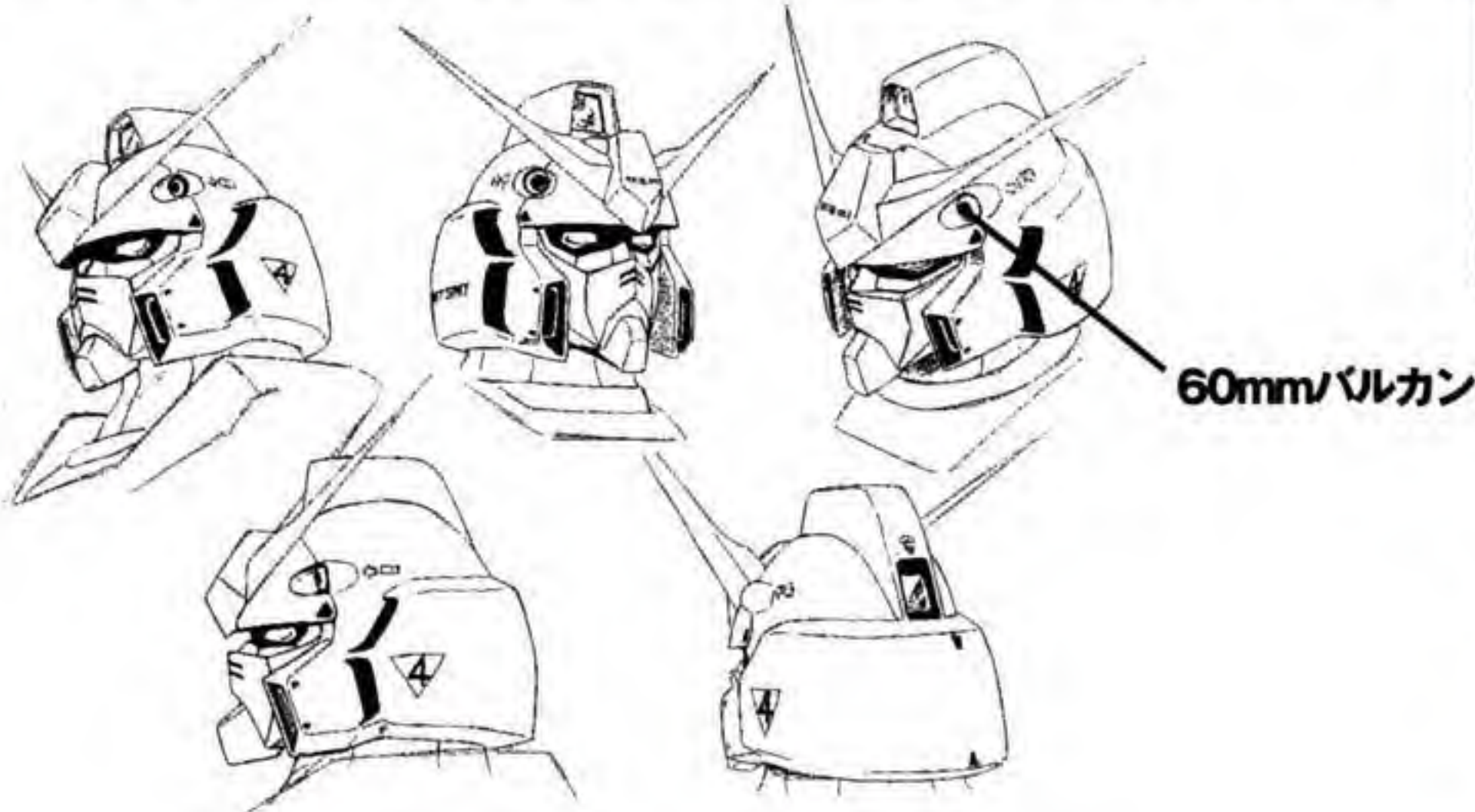
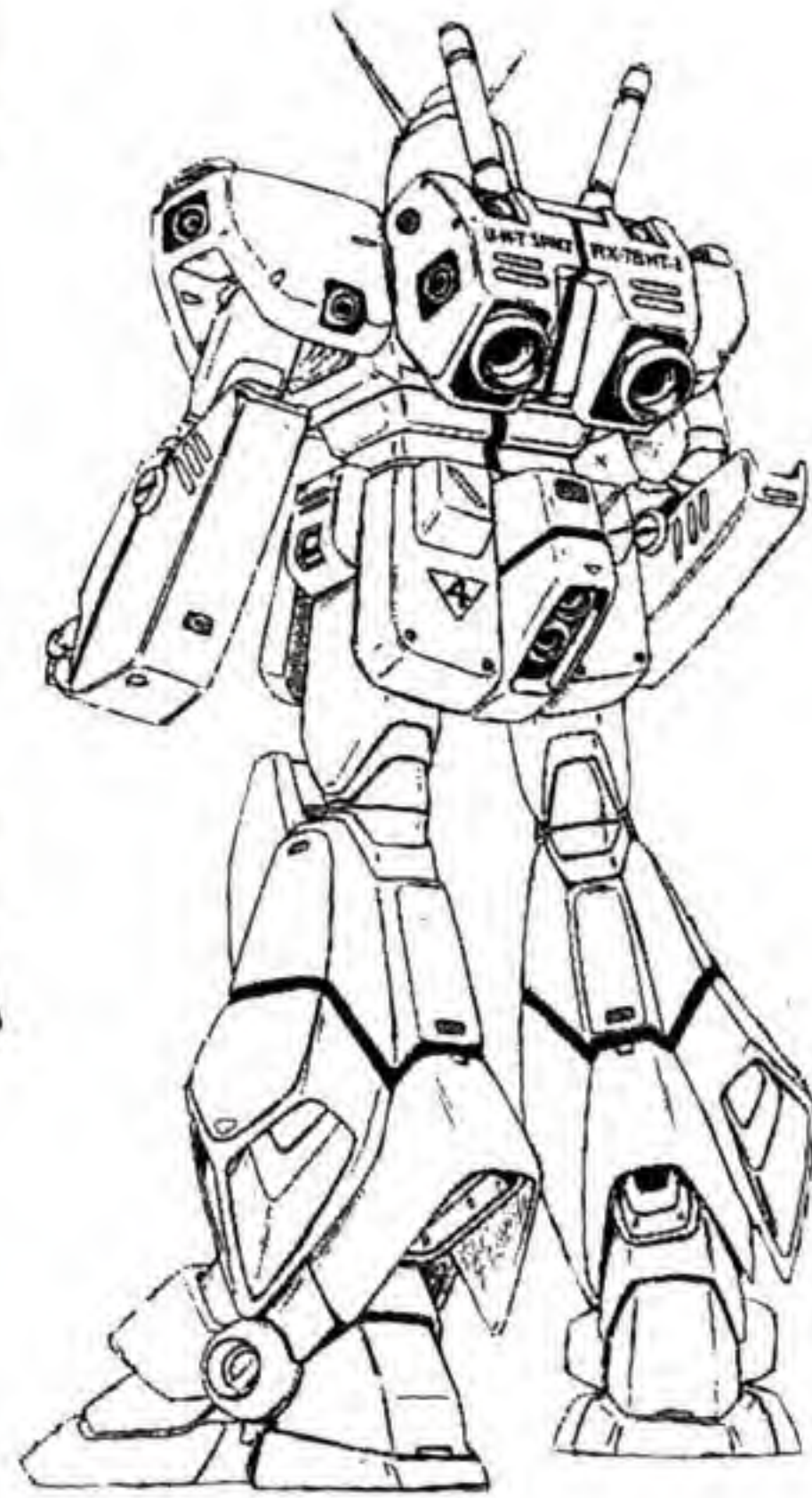
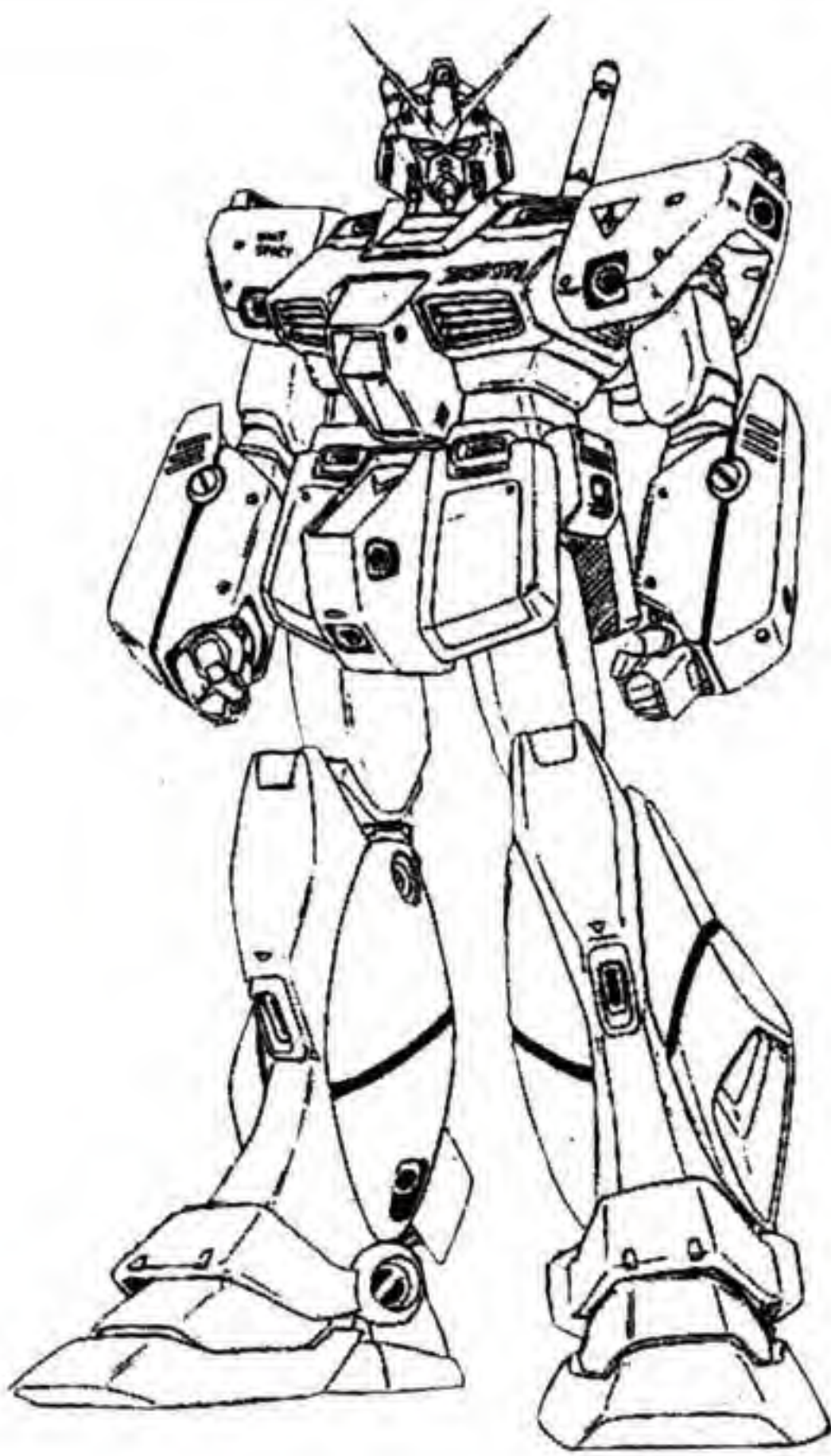
本体 全備重量：40.0 72.5t

ジェネレータ出力：1,420kw

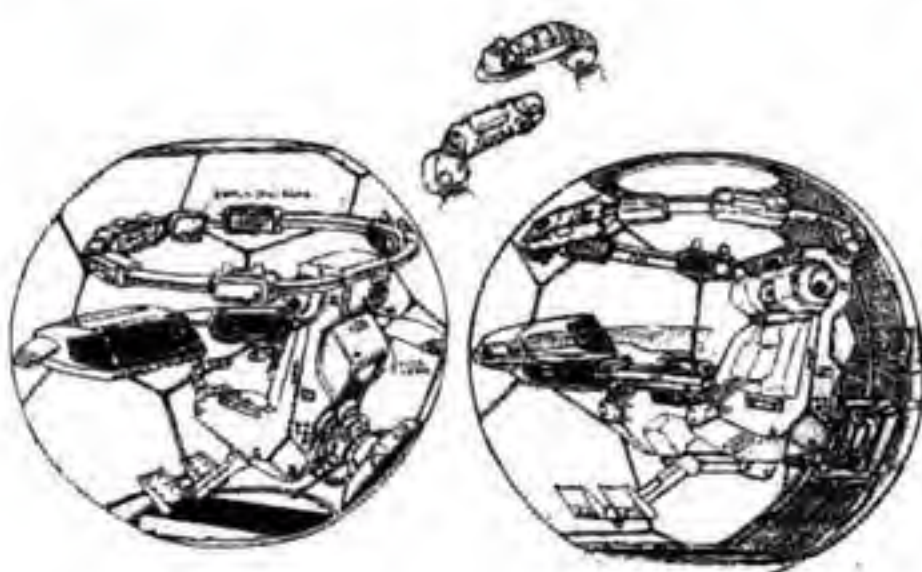
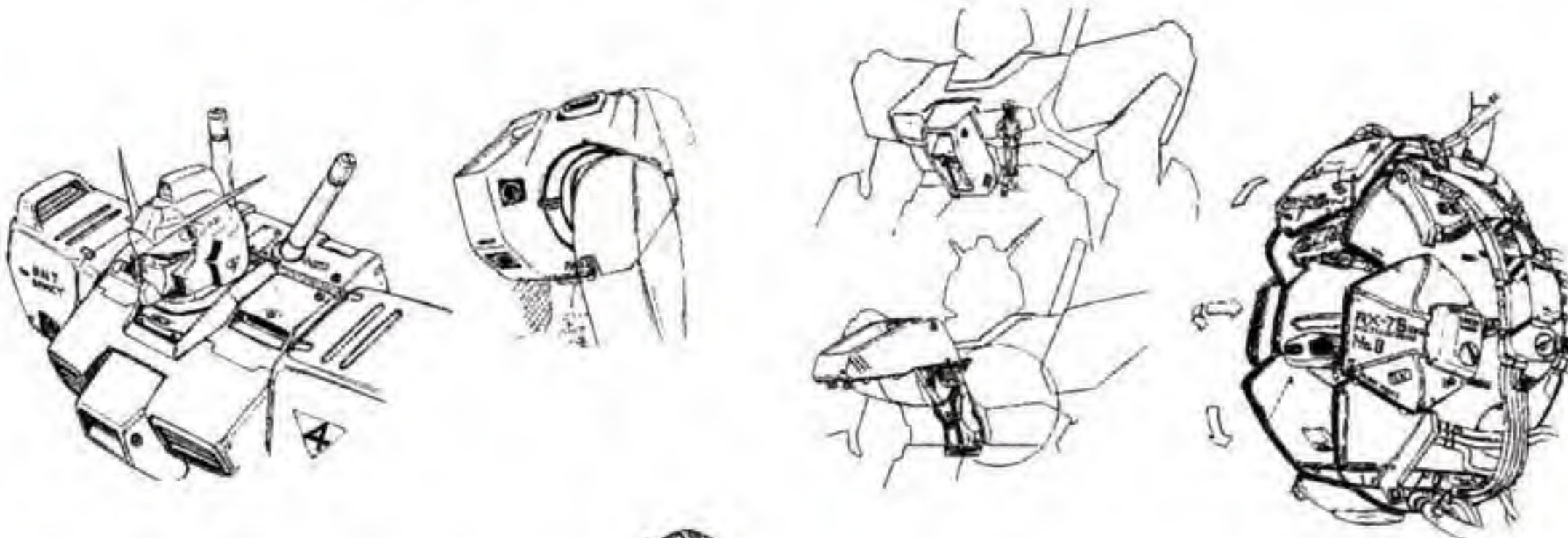
スラスター総推力：132,000kg

センサー有効半径：5,900m

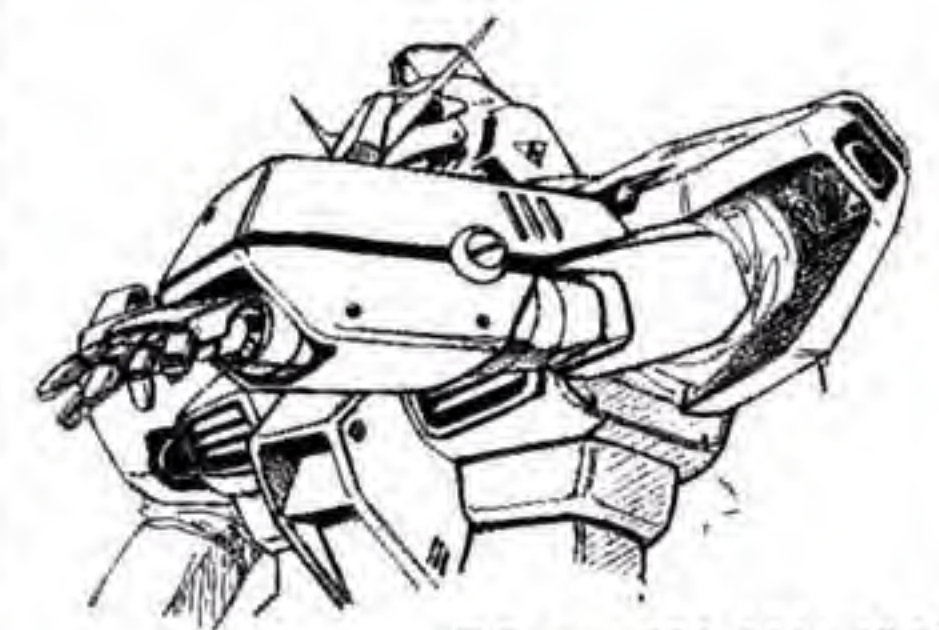
●「RX-78NT1」は、ホワイトベース隊所属のニュータイプとうわさされたパイロット、アムロ・レイ少尉専用開発された機体である。型式番号の“NT”はニュータイプ専用機であることを意味するが、同じニュータイプ専用とはいえ、ジオン軍が研究していた「サイコミュ」技術を利用した機体とは性質が異なる。マグネットコーティング（駆動系の摩擦抵抗を軽減する磁気被膜処理）技術などにより機体の反応速度や追従性を向上させ、レイ少尉の操縦能力を制約しないことによって、そのニュータイプ能力に対応しようとしたのである。また、コクピットには全周囲モニターを採用したため、コアブロックシステムは導入されていない。



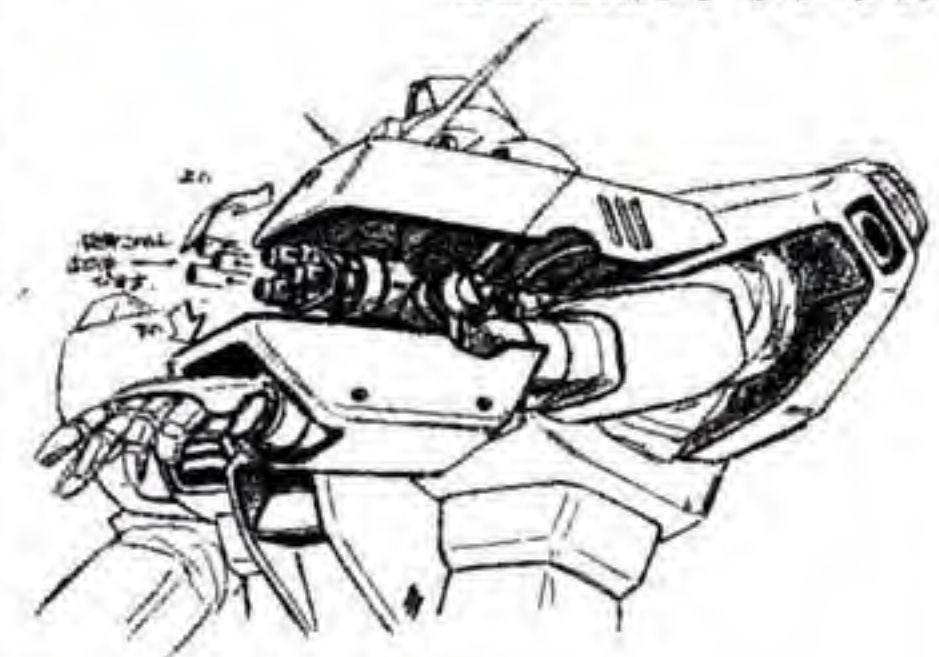
60mmバルカン



コクピット



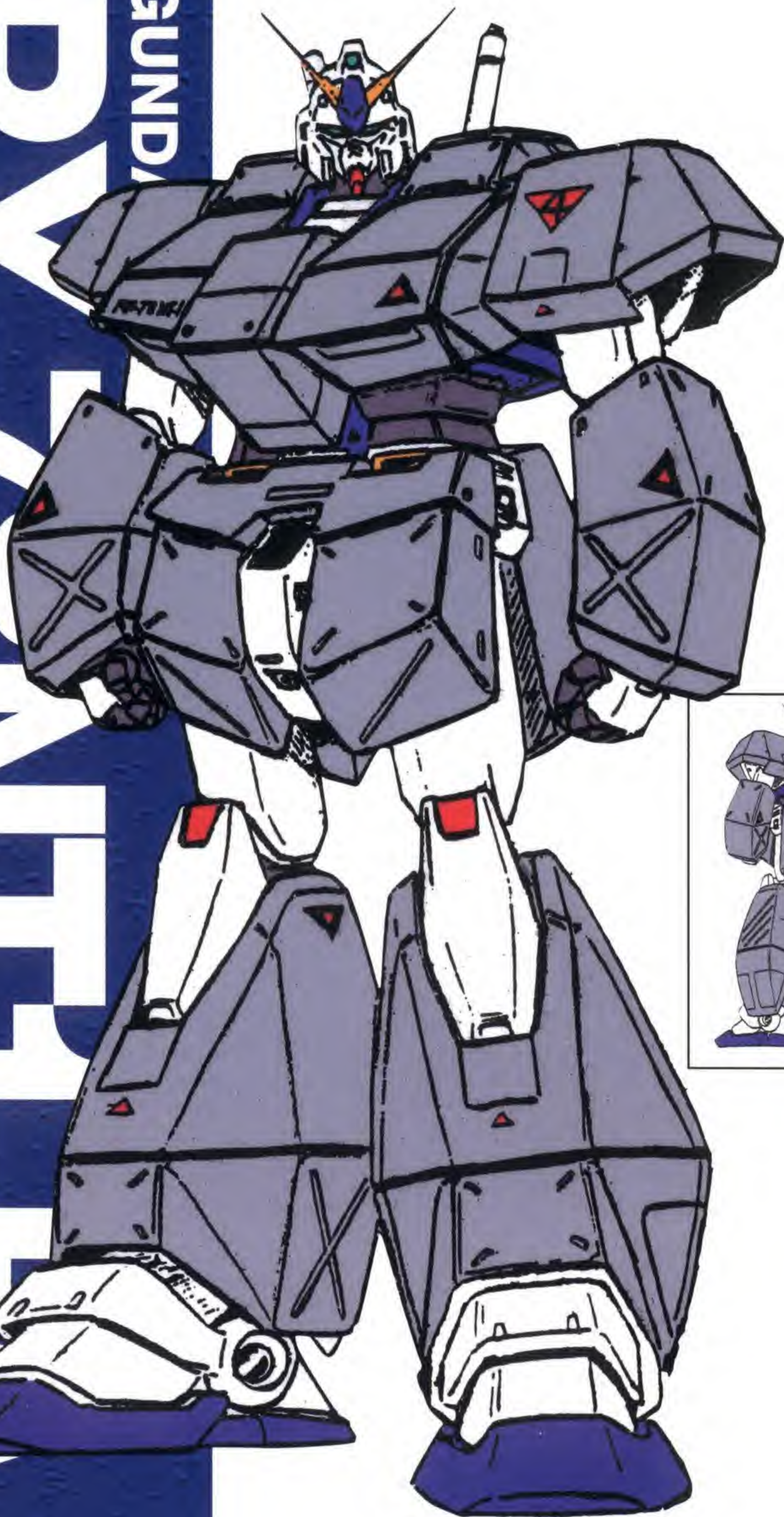
90mmガトリングガン



ビームサーベル

アレックス・チョバムアーマー仕様

GUNDAM



RX-78NT1-FA

アレックス・チョバムアーマー仕様

機種分類：NT専用試作型MS

製造会社：連邦軍

全高／頭頂高：18.5／18.0m

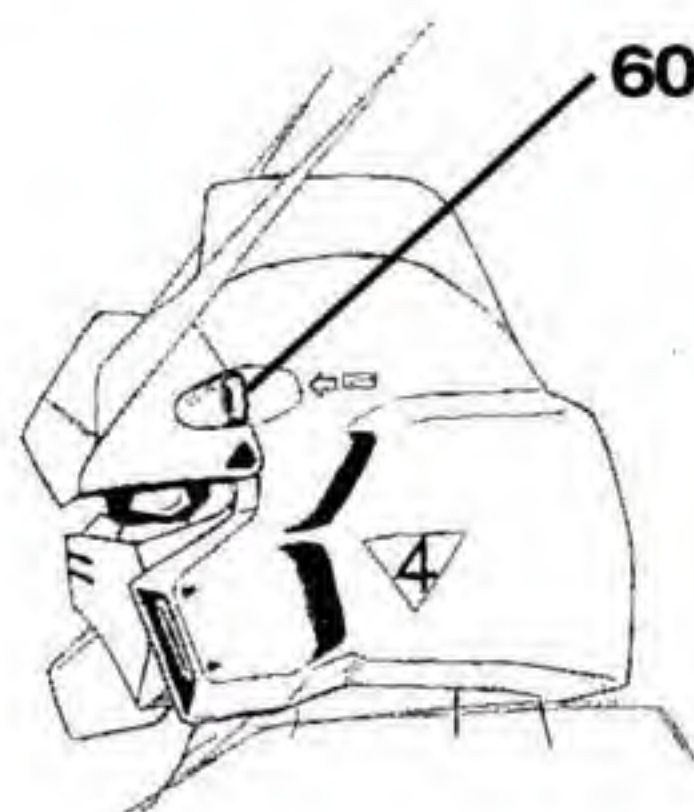
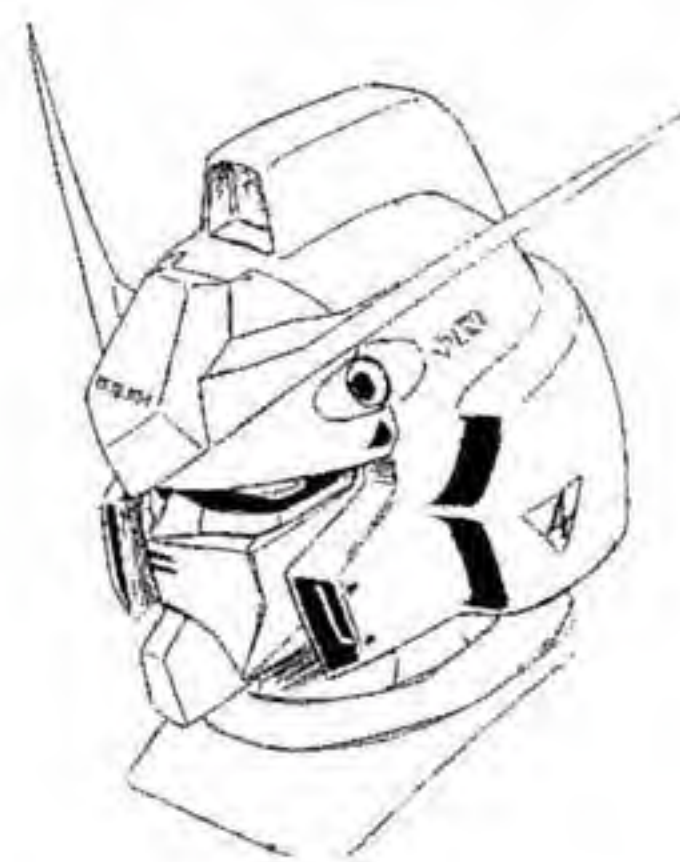
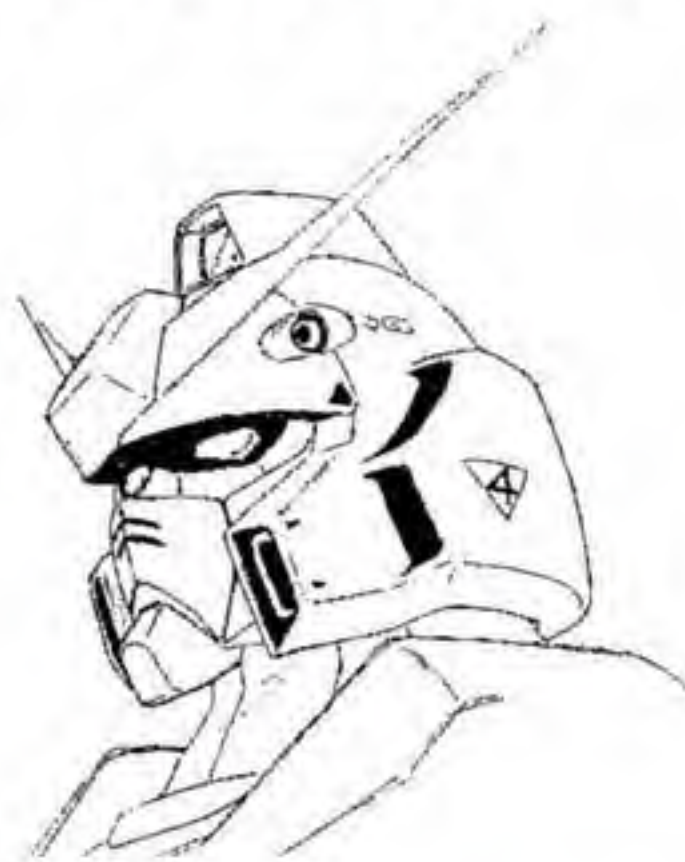
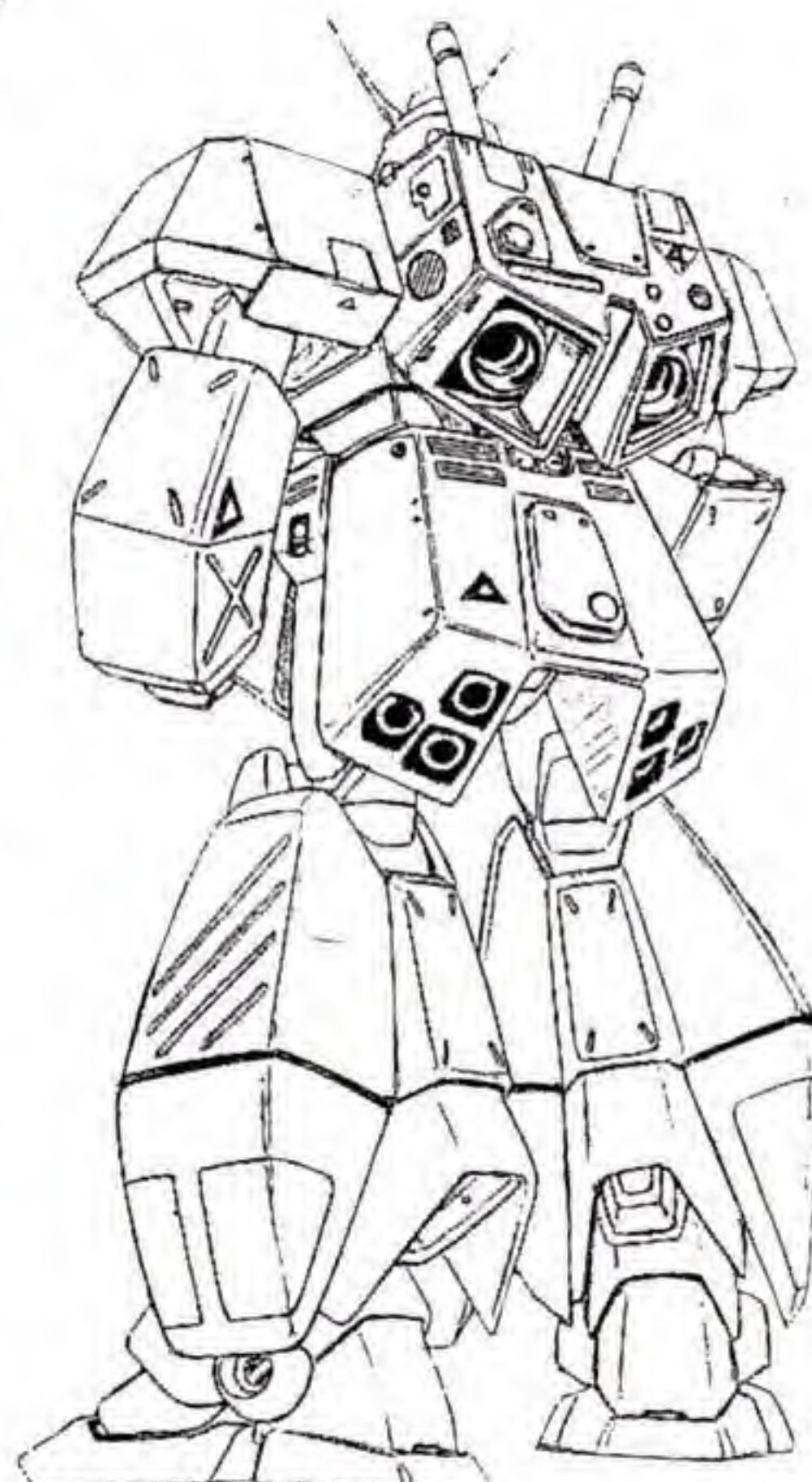
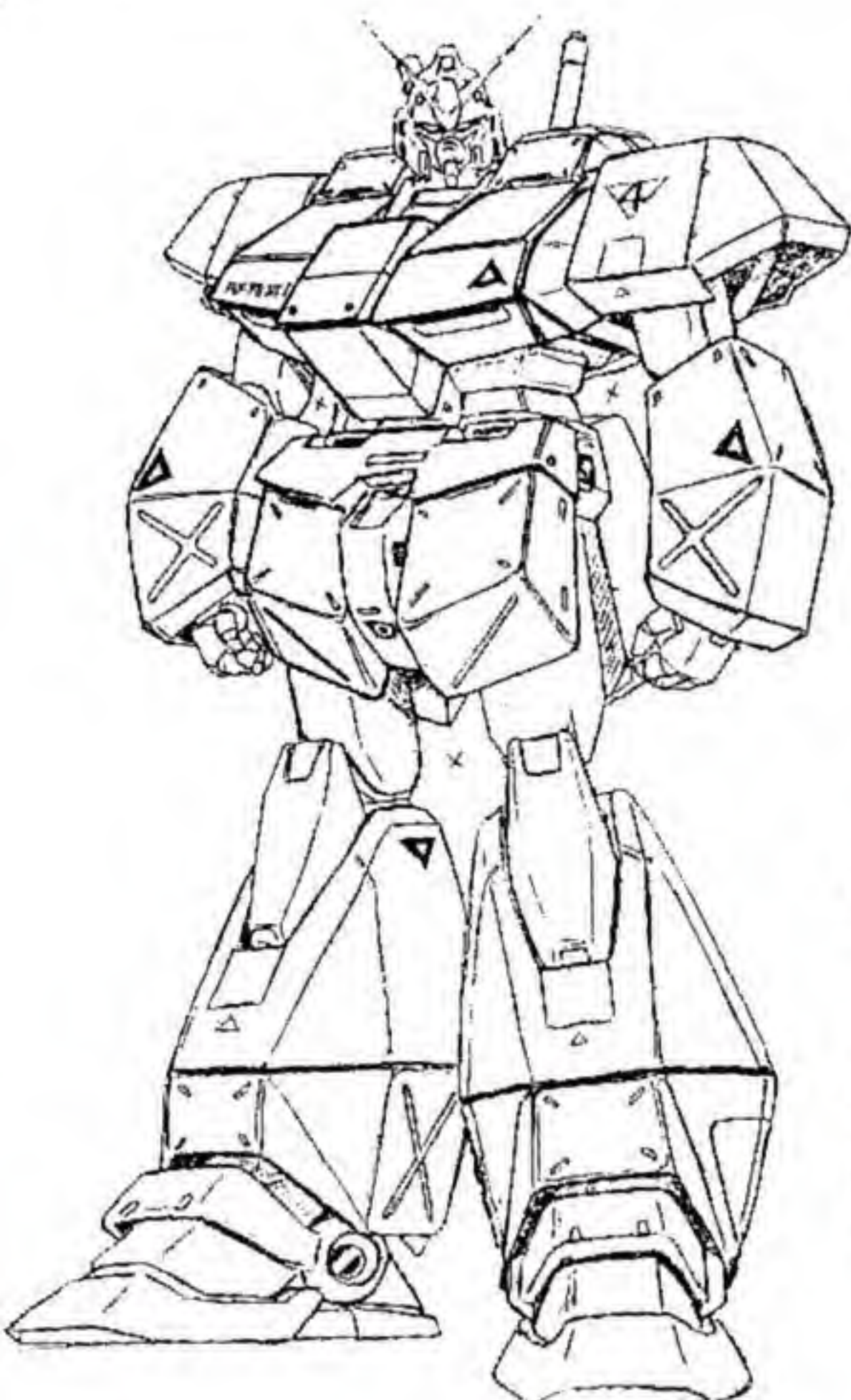
本体／全備重量：50.0／95.0 t

ジェネレータ出力：1,420kw

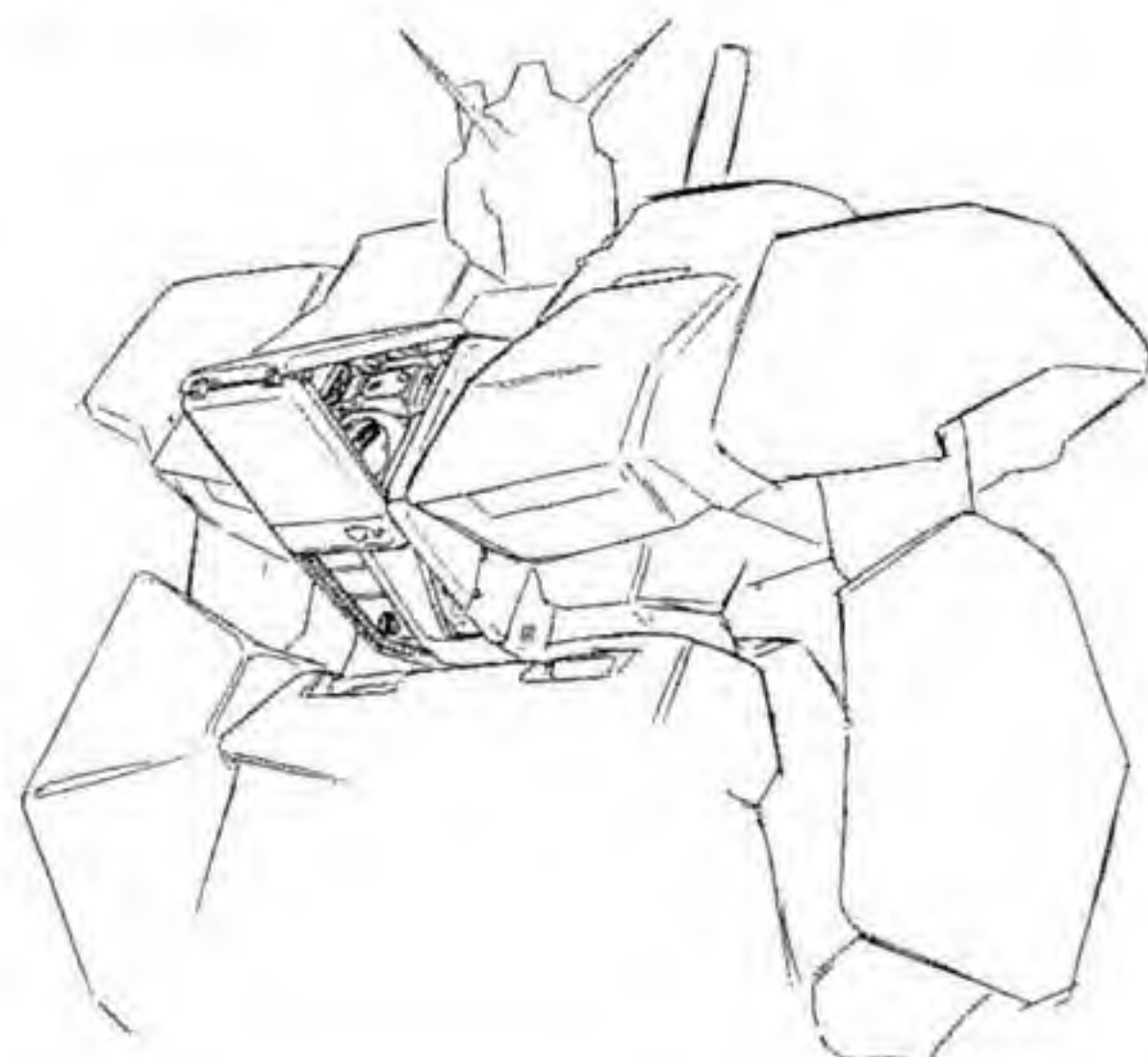
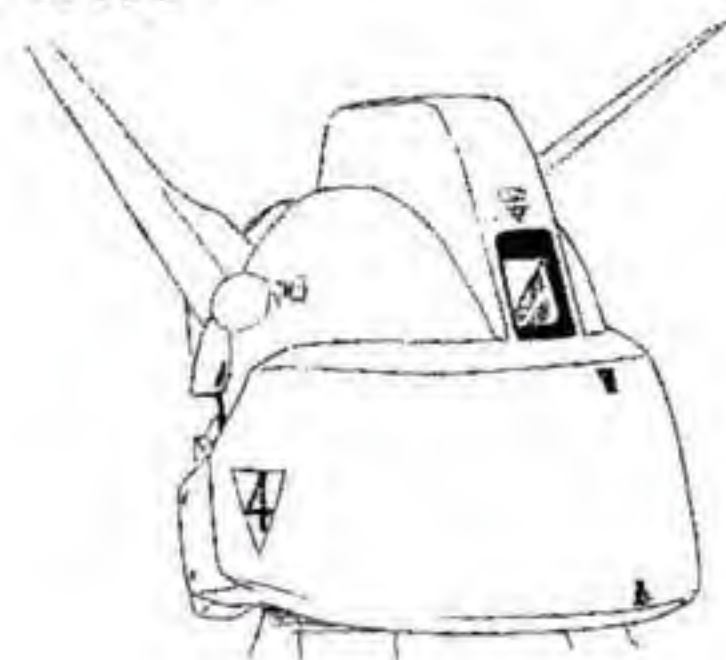
スラスター総推力：146,000kg

センサー有効半径：5,900m

●「RX-78NT1-FA」とは、「RX-78NT1アレックス」に追加装甲としてチョバムアーマー（複合装甲＝ハイブリットアーマーとも呼ばれる）を装着した状態のことを言い、型式番号の“FA”はフルアーマーを意味する。耐弾性向上を目的とした追加装甲は、すでにRX-78の計画段階から構想としてあった「フルアーマーオペレーション」の産物で、これを装備すると全重量は95 tにも跳ね上がった。この重量増加による機動性の低下を補うため、アーマーにも補助のスラスターが装備されている。MSの売りである機動性を低下させてまで装甲を強化するのは本末転倒な話だが、サイズの1フィールド発生機を装備できないMSにとって、このような追加装甲システムが有効だったのも事実である。

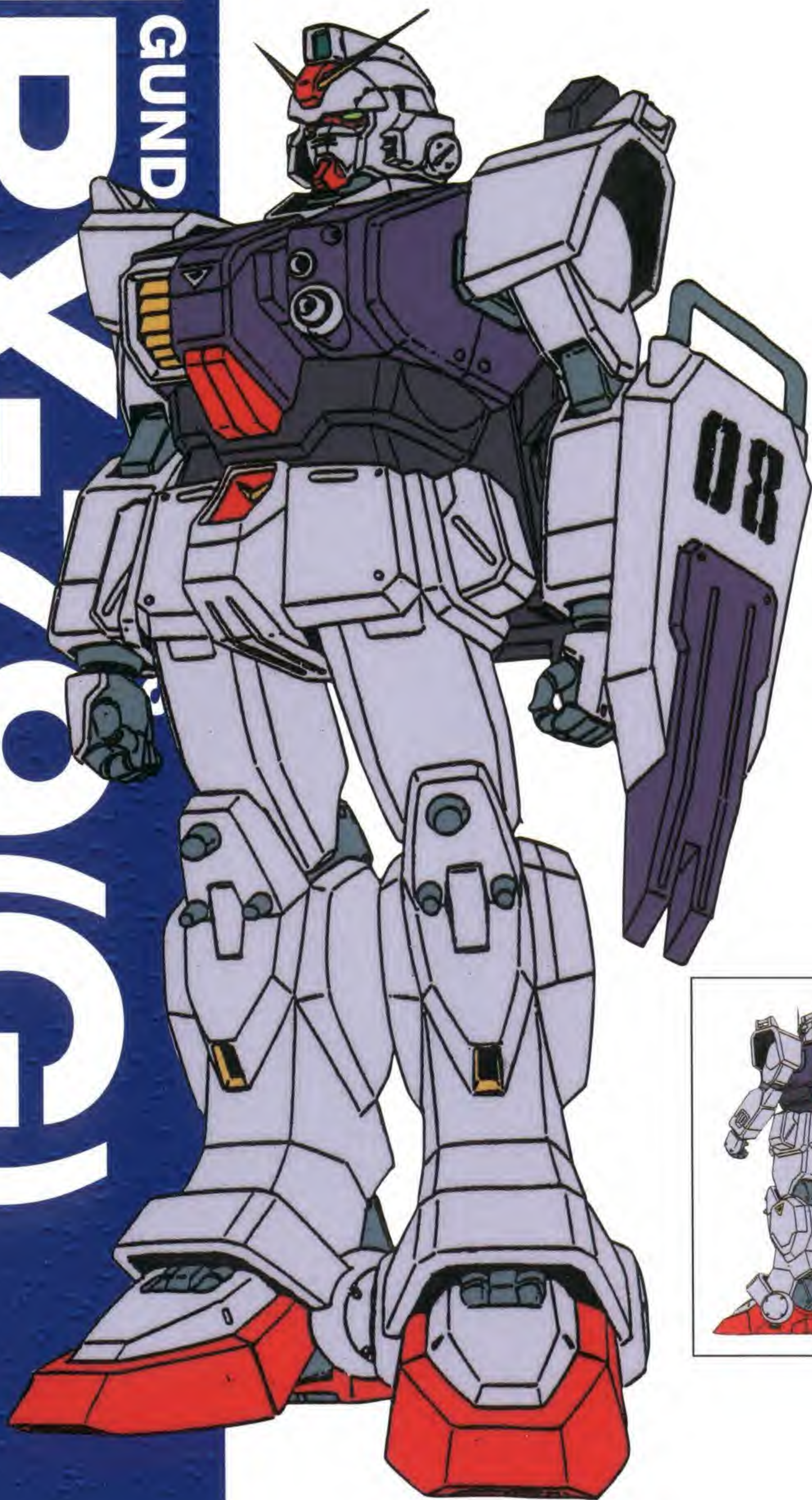


60mm/バルカン

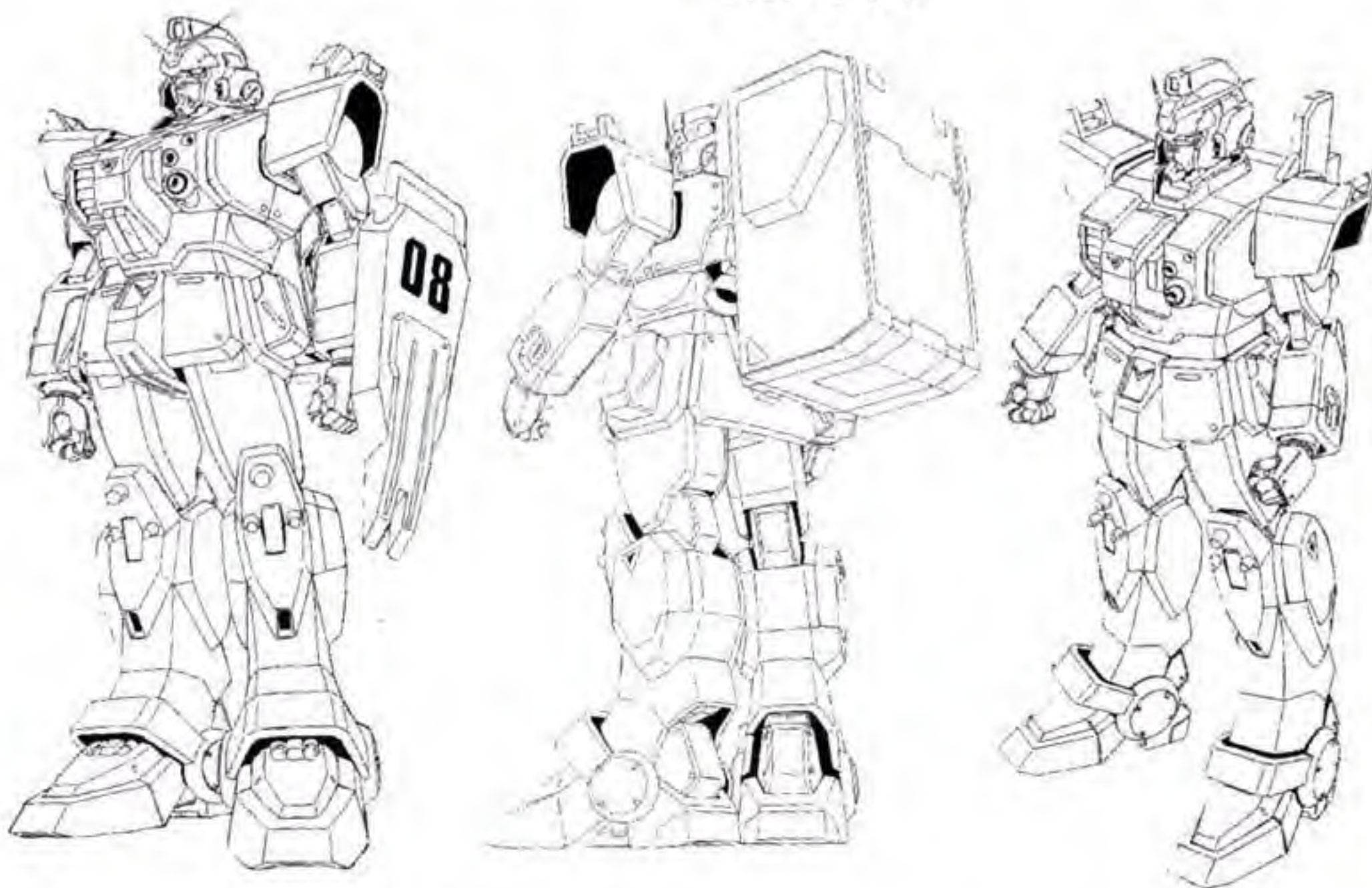


量産型ガンダム

GUNDAM



兵装コンテナ



RX-79(G)

量産型ガンダム

機種分類：陸戦用MS

製造：連邦軍

全高／頭頂高：18.2／18.0m

本体／全備重量：52.8／73.0 t

ジェネレータ出力：1,350kw

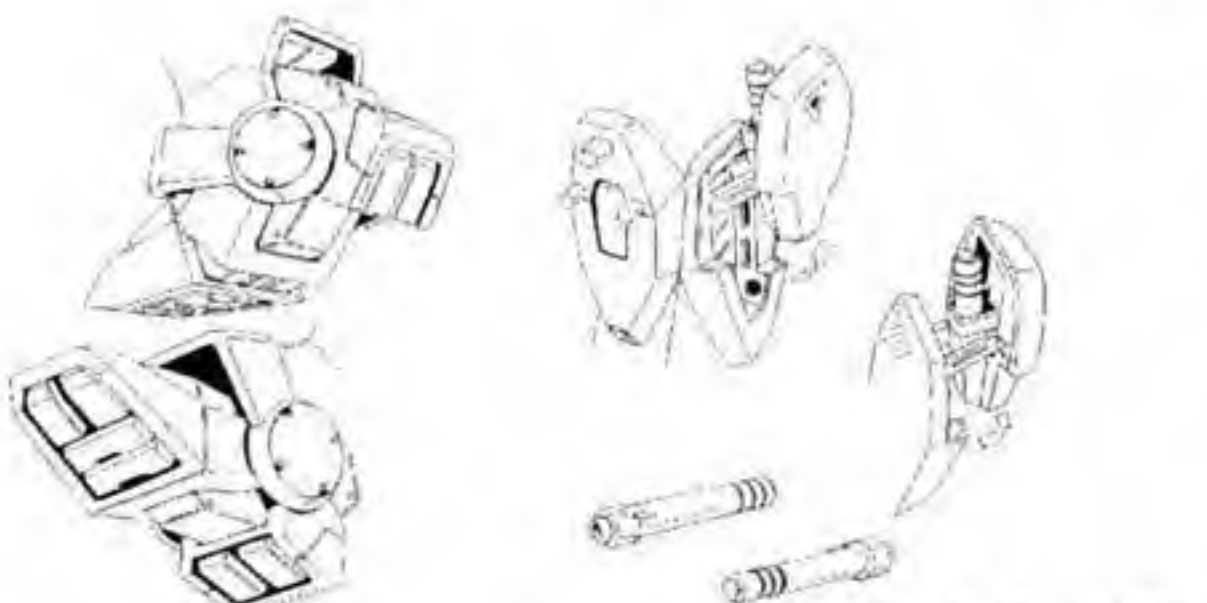
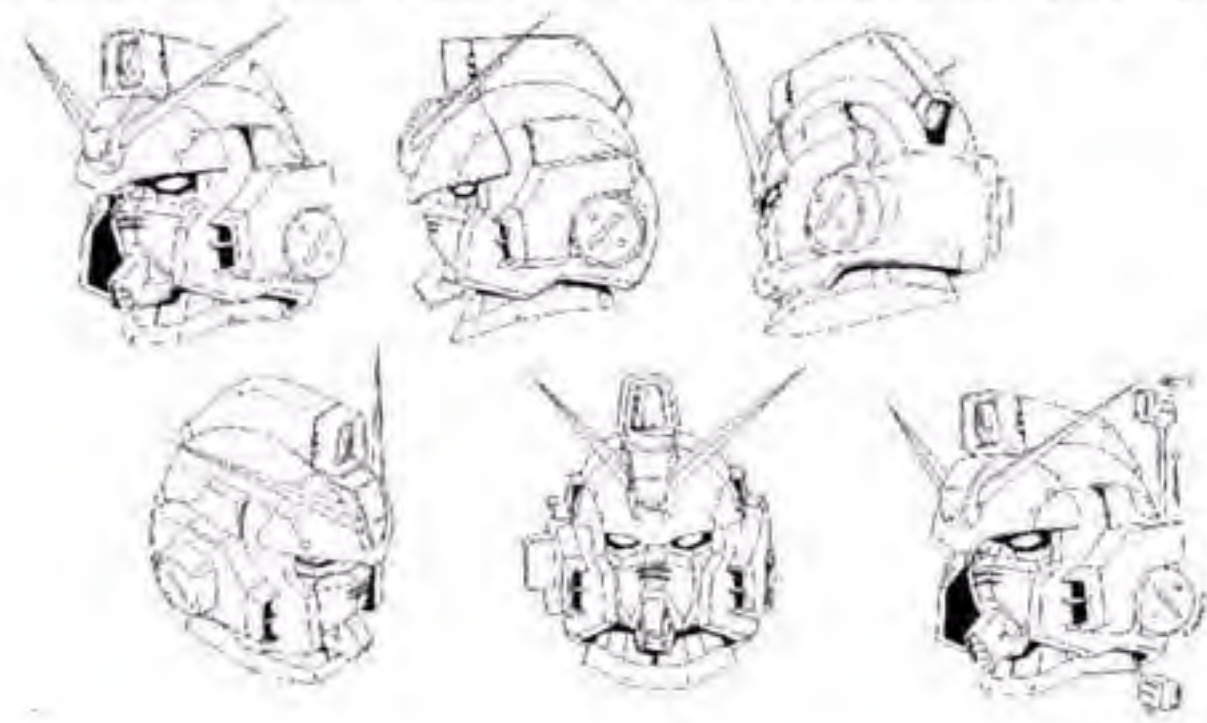
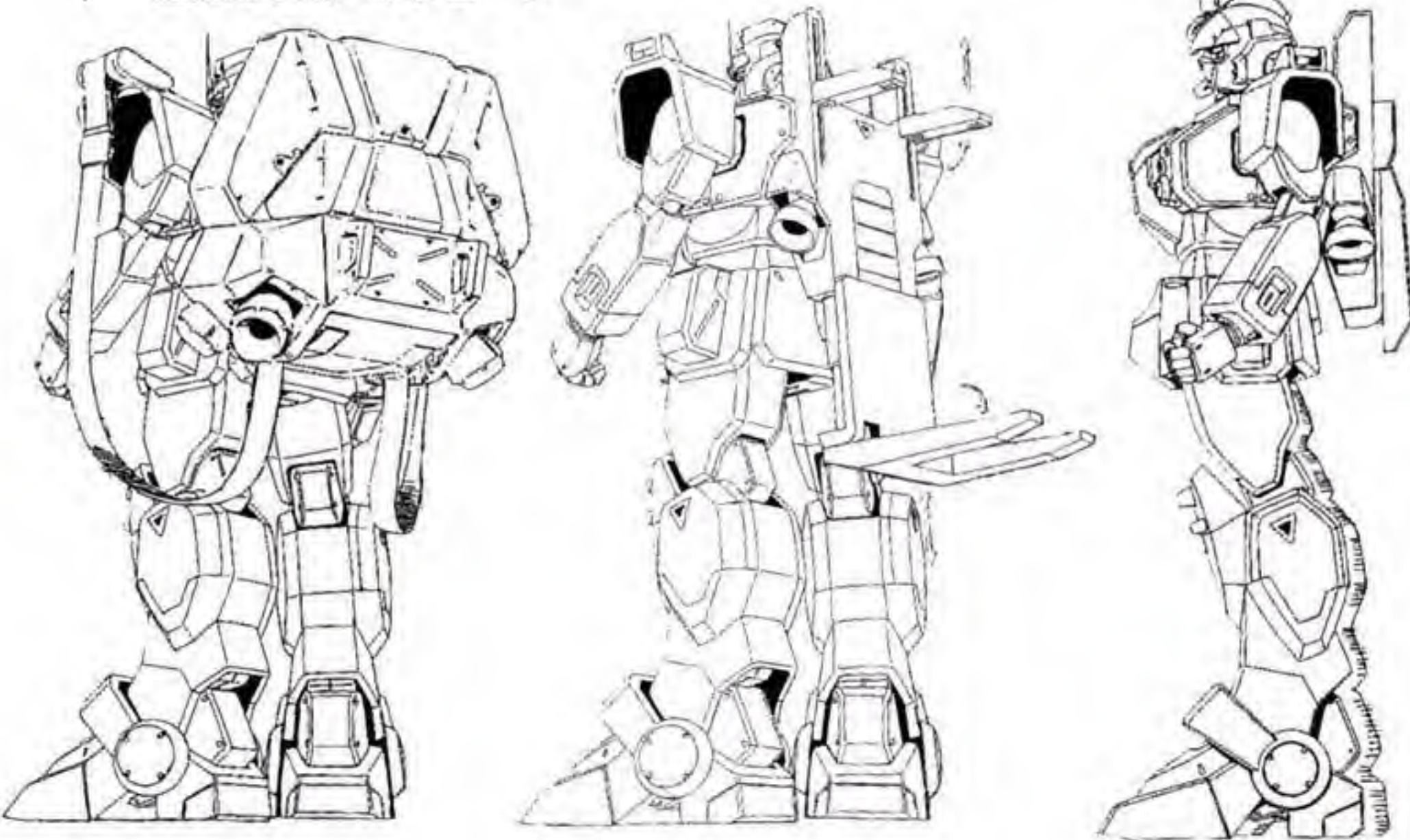
スラスター総推力：52,000kg

センサー有効半径：5,900m

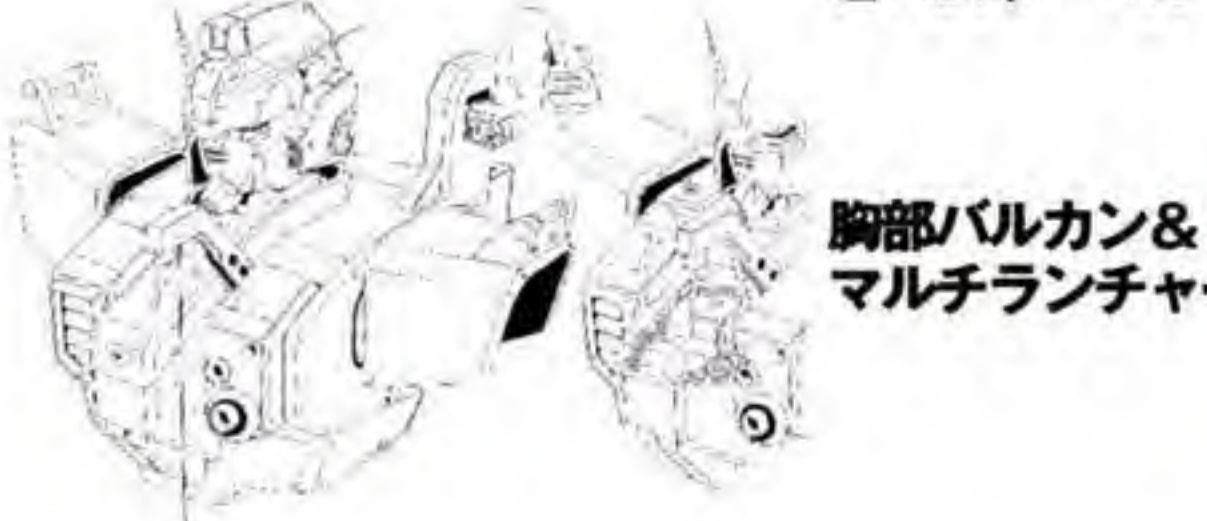
●試作機であるRXシリーズの製作過程で生じた余剰パーツを流用して生産された機体。ジオンの地球侵攻によって奪われた、数々の重要拠点の奪回を計った連邦軍は、地上戦力強化のため、量産MS「RGM-79」の生産に先行して、このRX-79(G)を生産した。ジェネレータなどにRXシリーズの物を流用しているため基本性能は高く、ビームライフルの使用も可能である。しかし、個々の機体性能には若干のバラつきがあり、簡素化のためコアブロックシステムも廃止されている。

地上での運用が前提のため、宇宙戦闘能力はなく、小型のシールドや弾薬／補給物資運搬用の兵装コンテナなど、地上での運用に適した装備が施されている。20機程度が生産され、半数は東南アジアの機械化大隊に配備された。

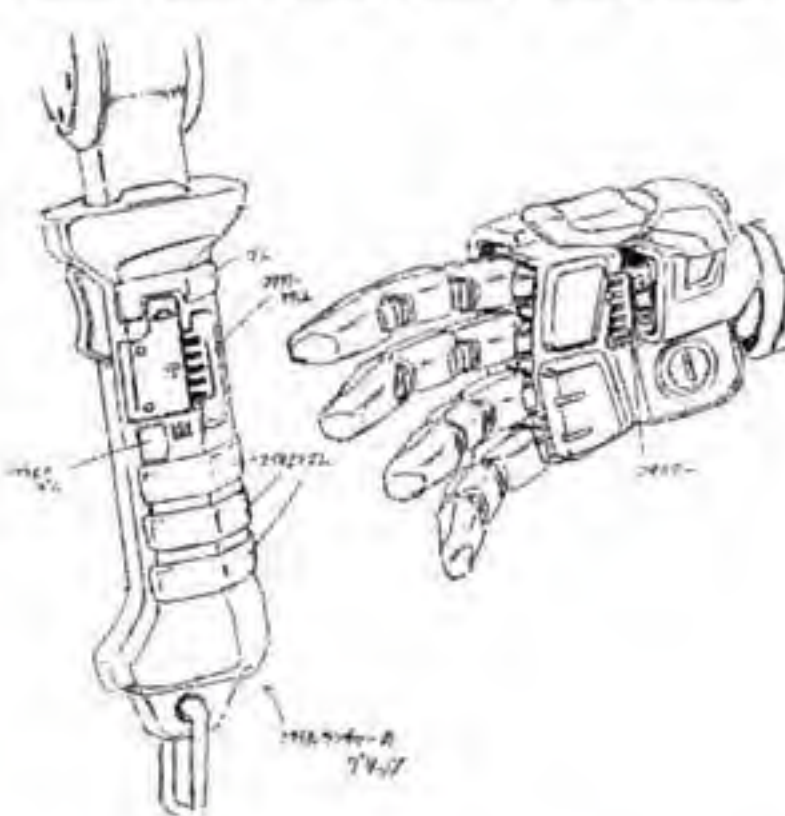
空挺降下用パラシュート



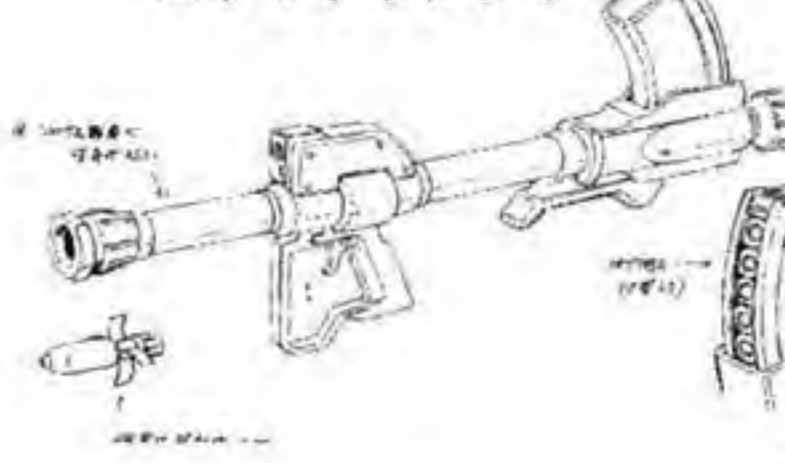
ビームサーベル



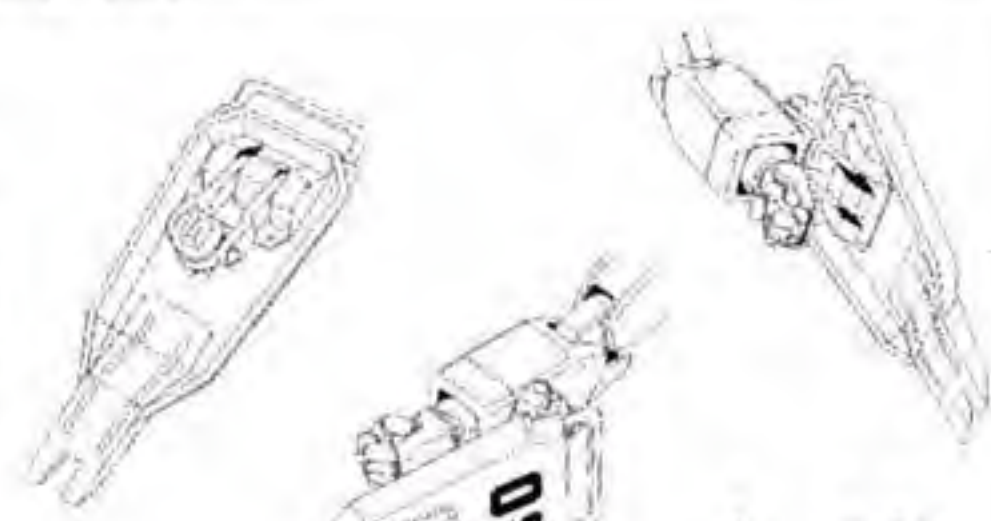
胸部バルカン&マルチランチャー



ロケットランチャー



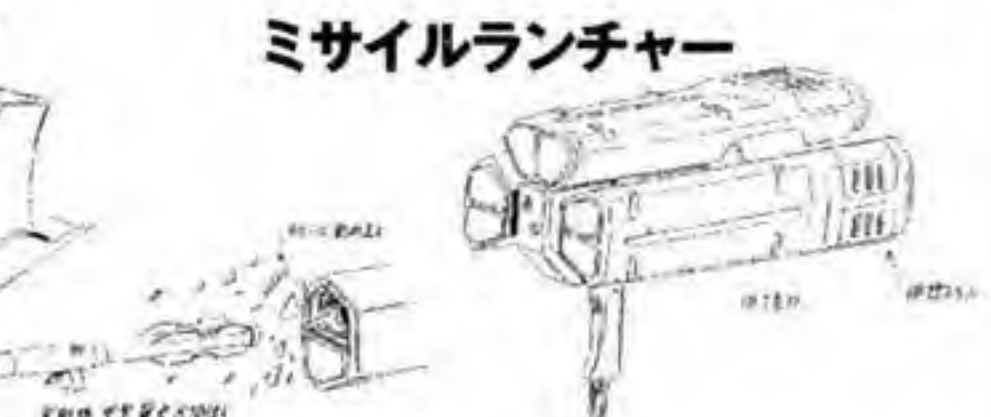
ビームライフル



シールド



100mmマシンガン



ミサイルランチャー

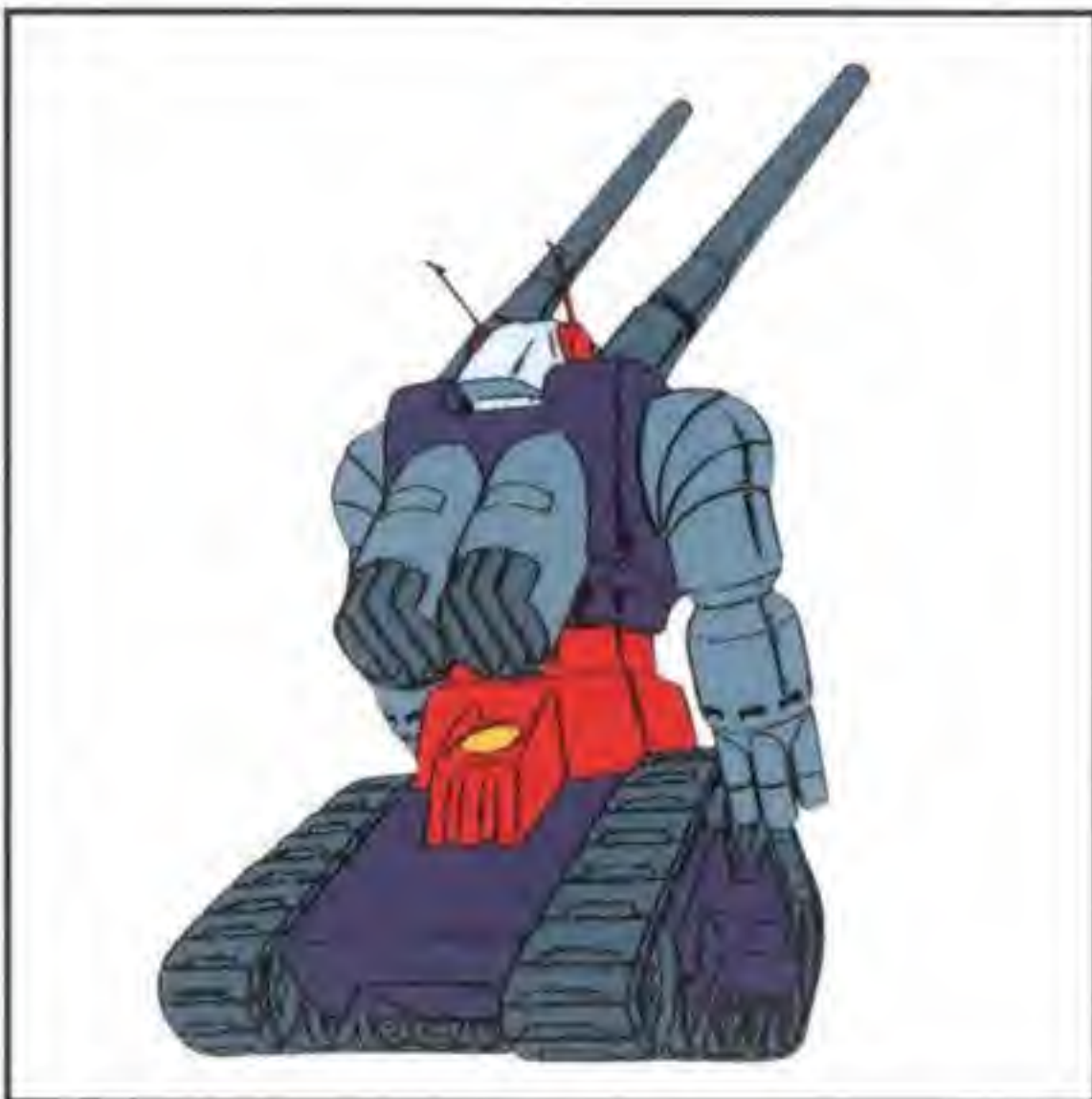


180mmキャノン

ガンタンク

GUUNDAM MECHANICS

RX-78



RX-75

ガンタンク

機種分類：砲撃戦用試作型MS

製造：連邦軍

全高／頭頂高：15.6／15.0m

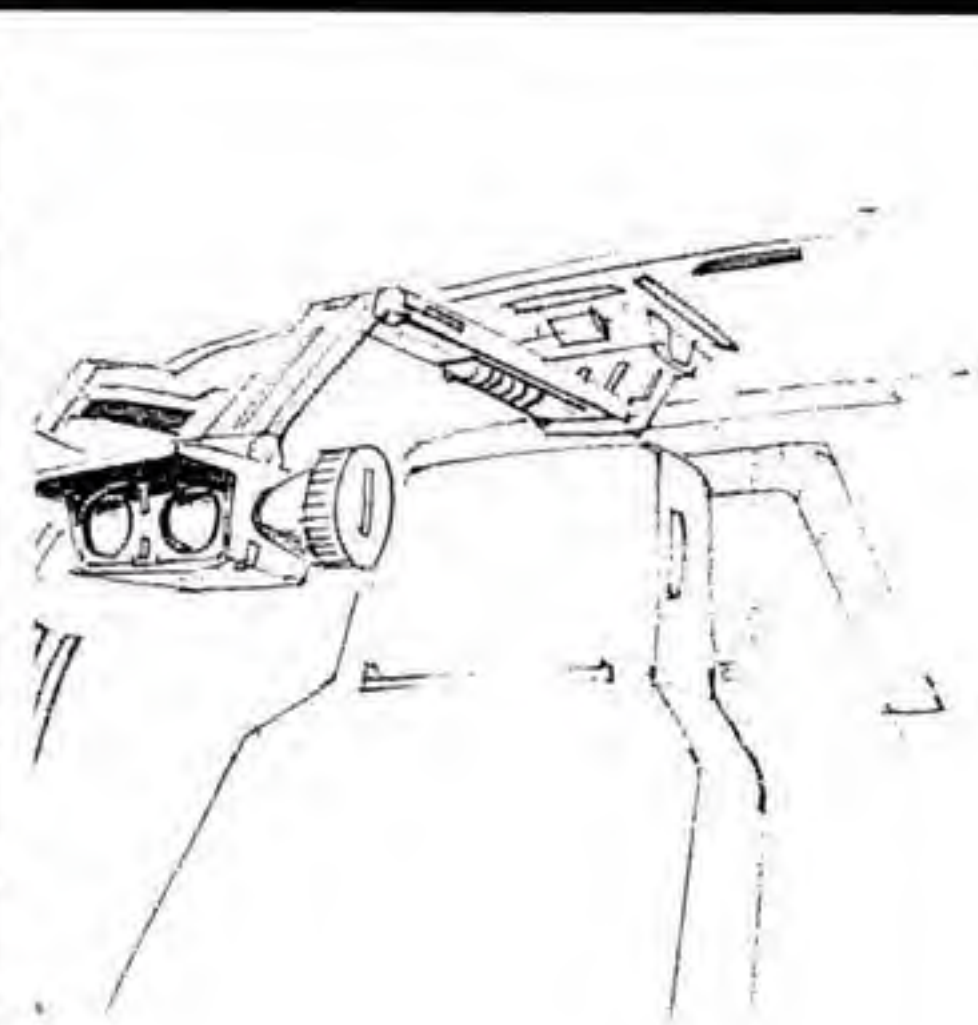
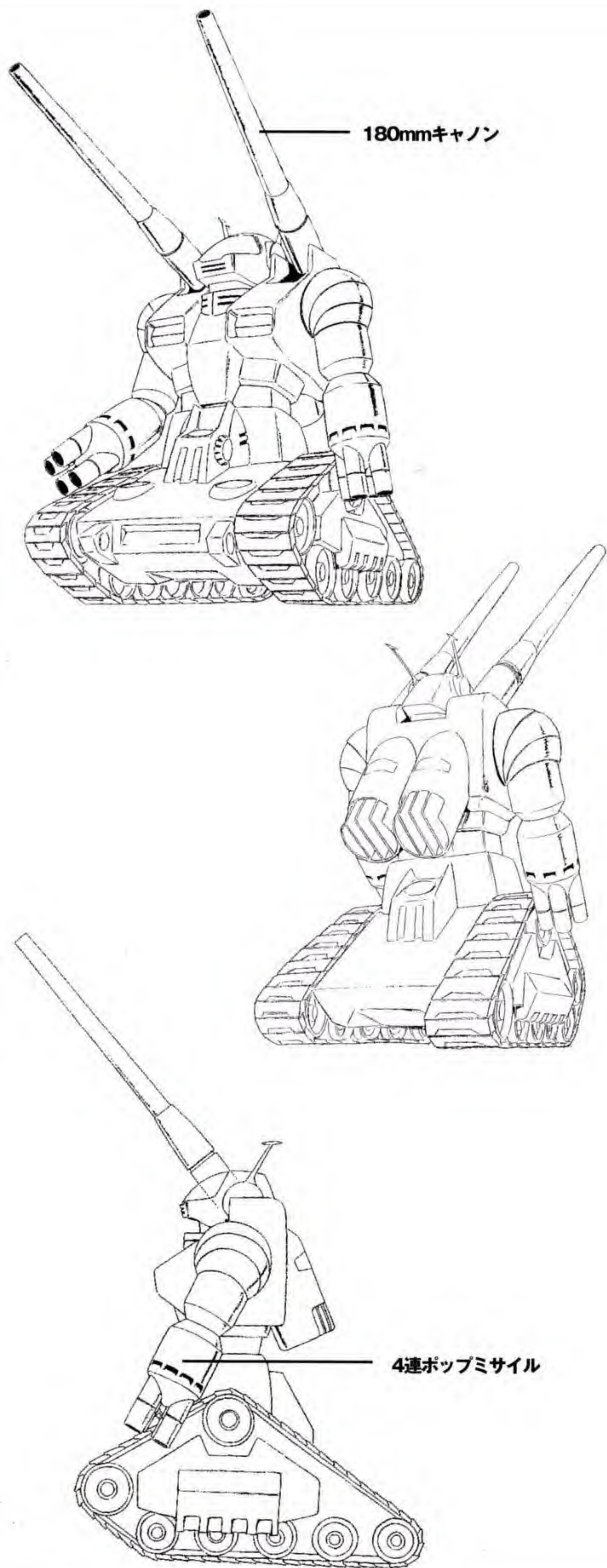
本体／全備重量：56.0／80.0 t

ジェネレータ出力：878kw

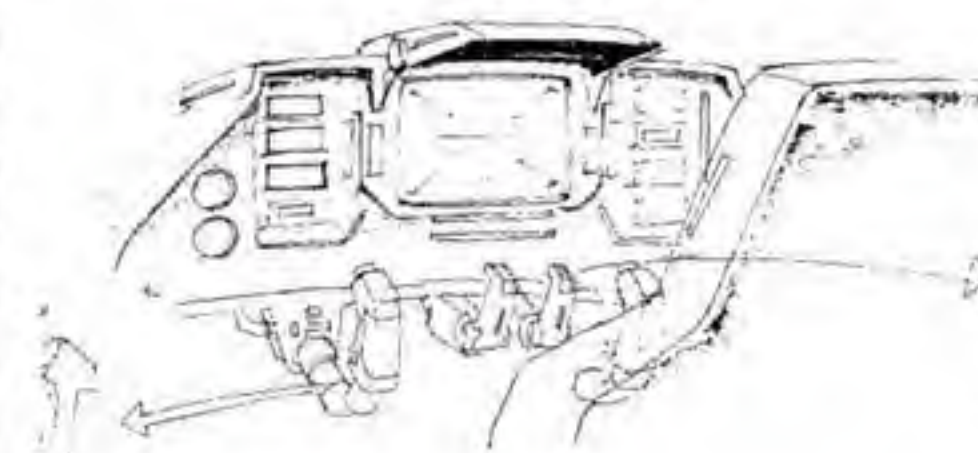
センサー有効半径：6,000m

●「RX計画」により最初に開発されたRXタイプMS。極秘に入手したジオンの新兵器、「モビルスーツ」の断片的な情報を元に開発。試行錯誤の末、何機もの試作機が製作された。歩行システムが完成する前に造られたMSであるため、脚ではなくキャタピラによって走行する。また、マニピレータを持たないため、人型兵器としての有用性はなく、MSというより戦車に近い機体となっている。

この「RX-75-4」モデルは、RX-77、78と互換性を持たせるため、コクピット兼脱出装置としてコアブロックシステムを組込んだ最終モデルである。初期モデルとは違い、「V作戦」におけるMS運用実験に使われる予定だった本機は、装甲材に「ルナチタニウム合金」が使われるなど、実戦使用に耐える作りとなっている。



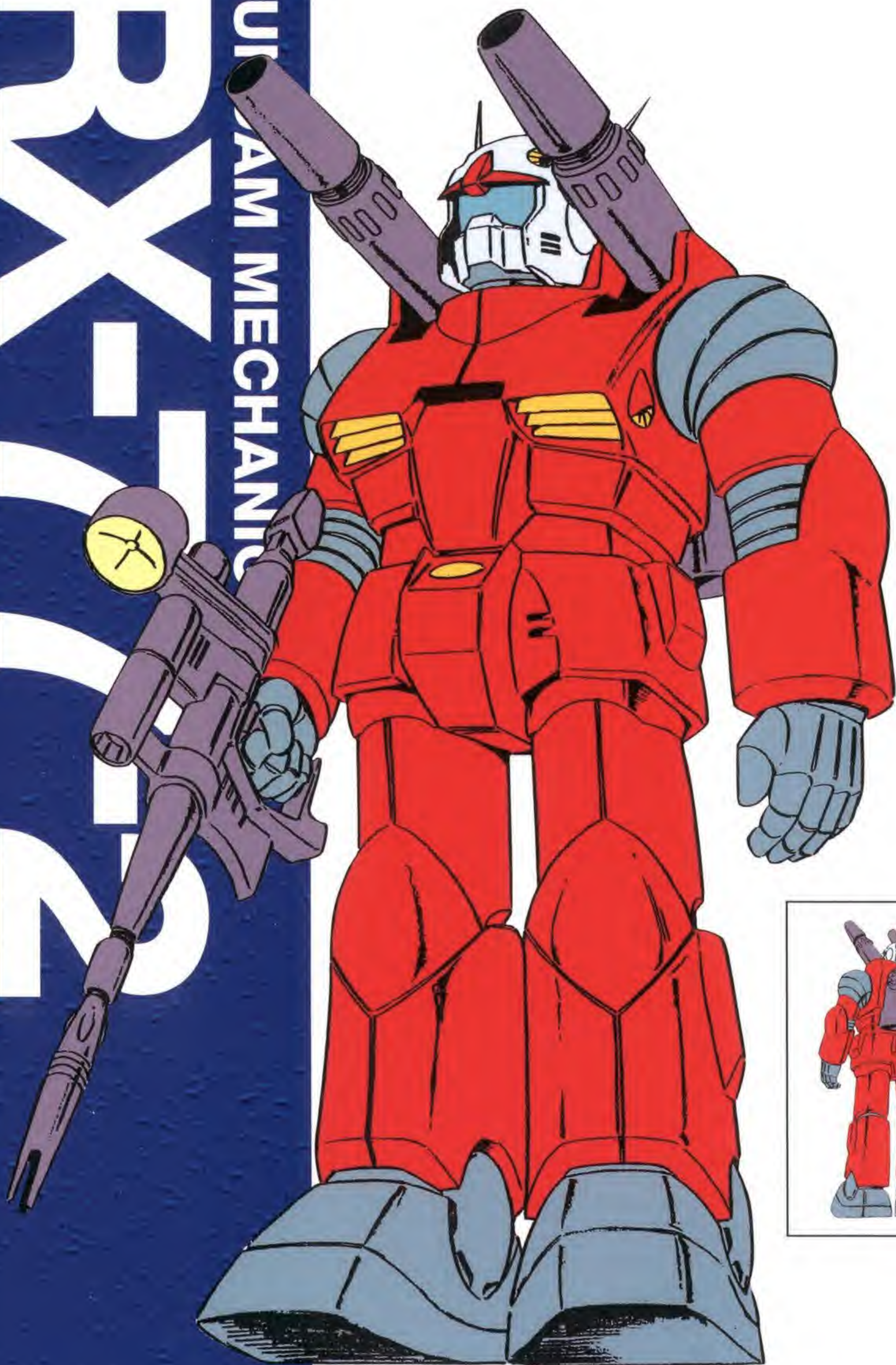
コクピット

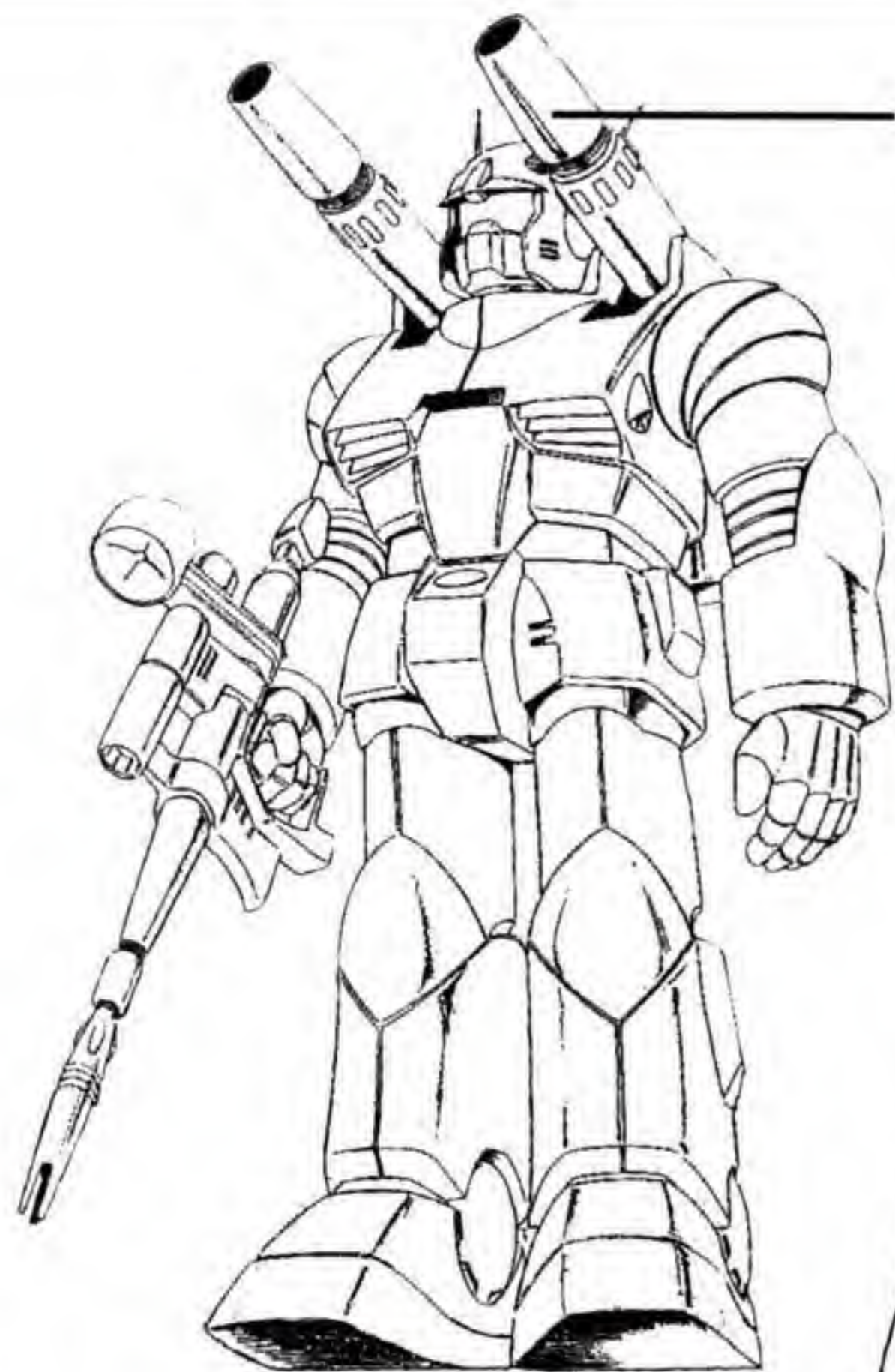


ガンキャノン

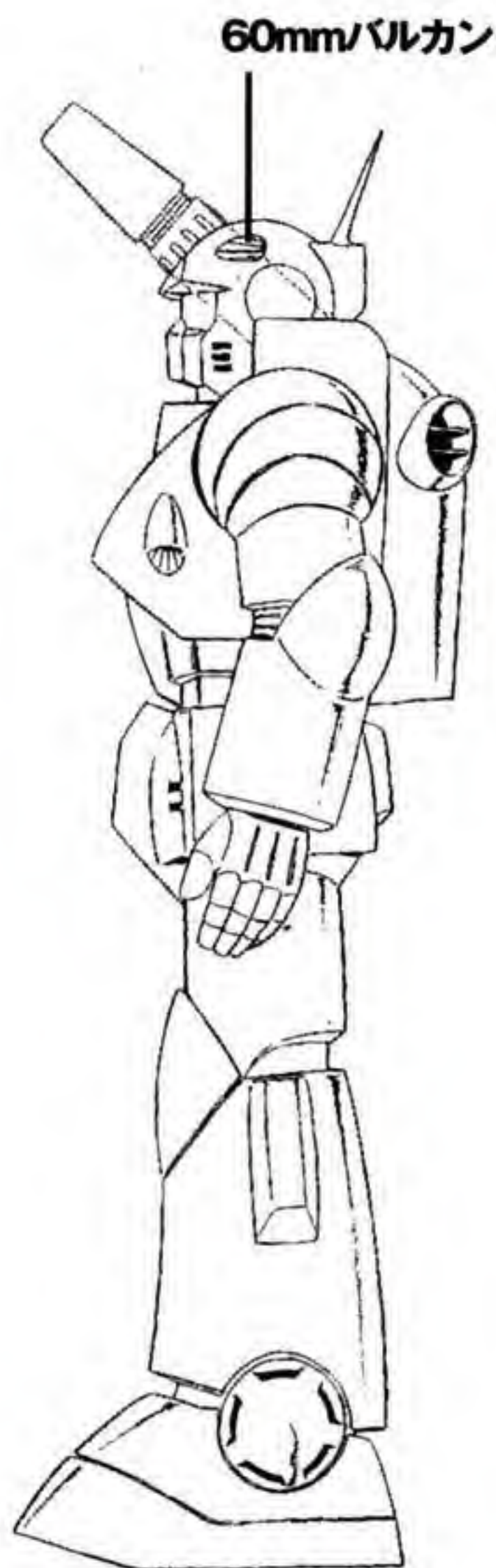
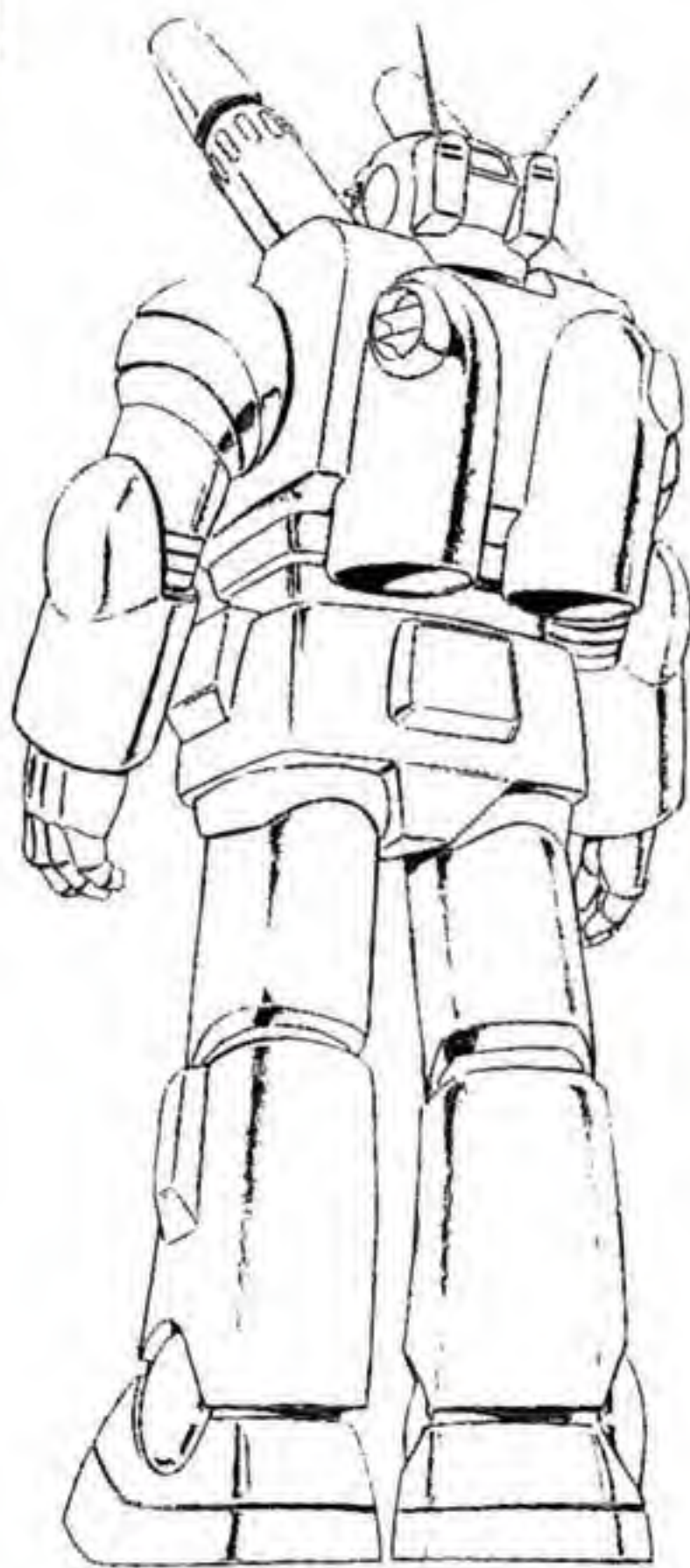
GUILLIAMS MECHANICS

RX-78-2

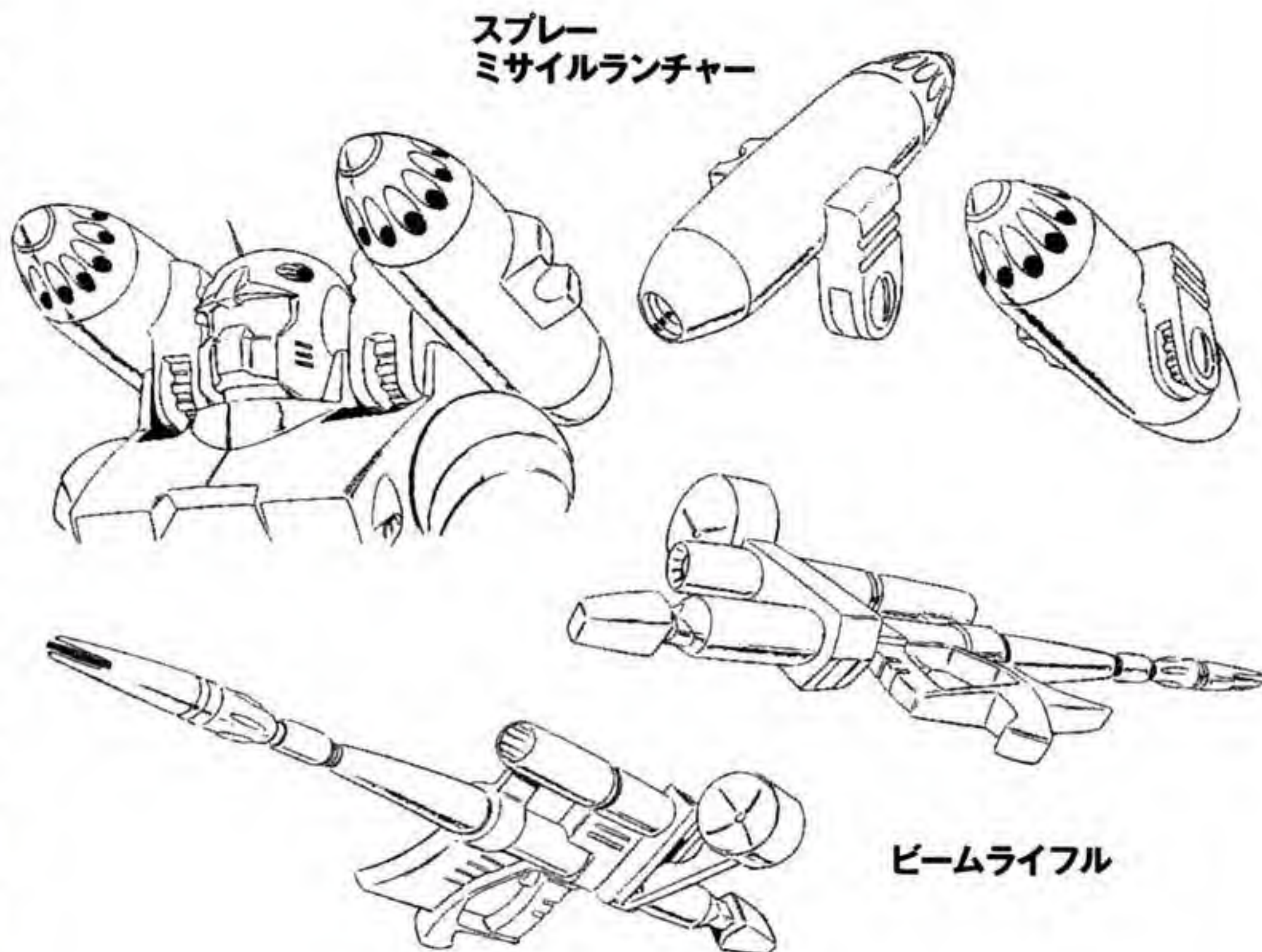




240mmキャノン



60mmバルカン



スプレー
ミサイルランチャー

ビームライフル

RX-77-2 ガンキャノン

機種分類：砲撃戦用試作型MS

製造：連邦軍

全高／頭頂高：18.1／17.5m

本体／全備重量：51.0／70.0t

ジェネレータ出力：1,380kw

スラスター総推力：51,800kg

センサー有効半径：6,000m

●「RX計画」により開発された2機種目のRXタイプMS。他のRXタイプ同様、コクピット兼脱出装置としてコアブロックシステムを採用している。

装甲材には新開発の「ルナチタニウム合金」を使用。砲撃戦用タイプのため、格闘戦用の「RX-78」よりも装甲を厚くして機動性を犠牲にし、防御力を高めている。固定武装の240mmキャノン砲は射程が長く、主に後方からの支援砲撃に使用された。開発当初はビームライフルの装備予定はなかったが、「エネルギーCAP」技術の確立によりビームライフルが完成し、ジェネレータ出力にも余裕があったため、のちに装備が可能のように改良された。「RX-77-2ガンキャノン」は、比較的良好な実戦結果が得られたため、少数ではあるが量産が行なわれている。

ガンキャノン量産型

GUNDAM



RX-77D

ガンキャノン量産型

機種分類：中距離支援用量産型MS

製造会社：連邦軍

全高／頭頂高：18.1／17.5m

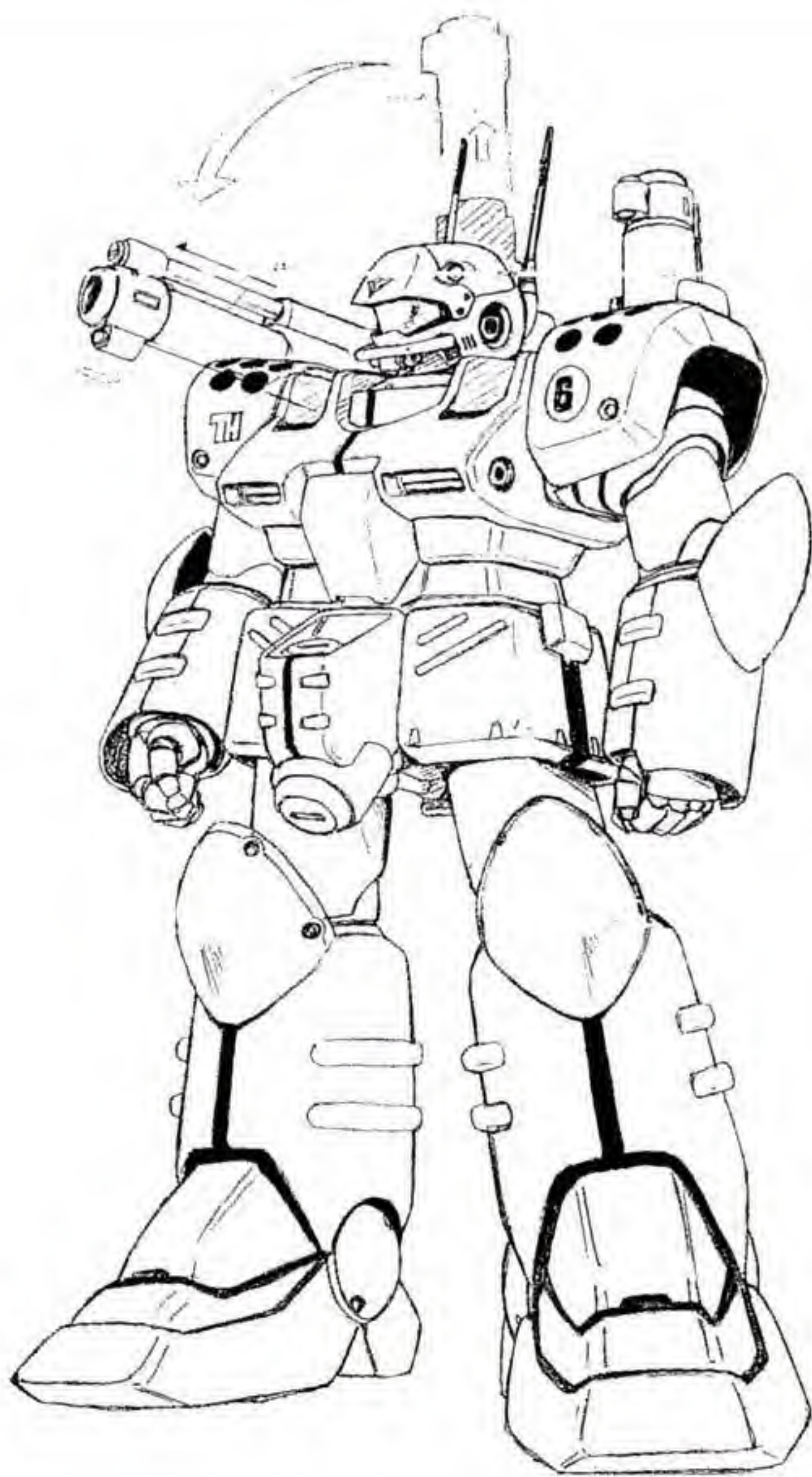
本体／全備重量：51.0／70.2t

ジェネレータ出力：1,410kw

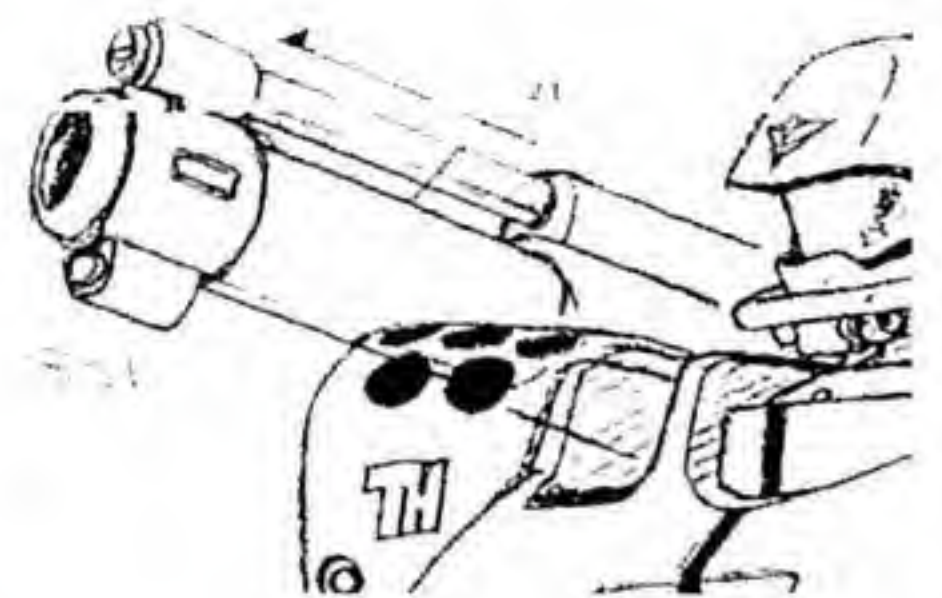
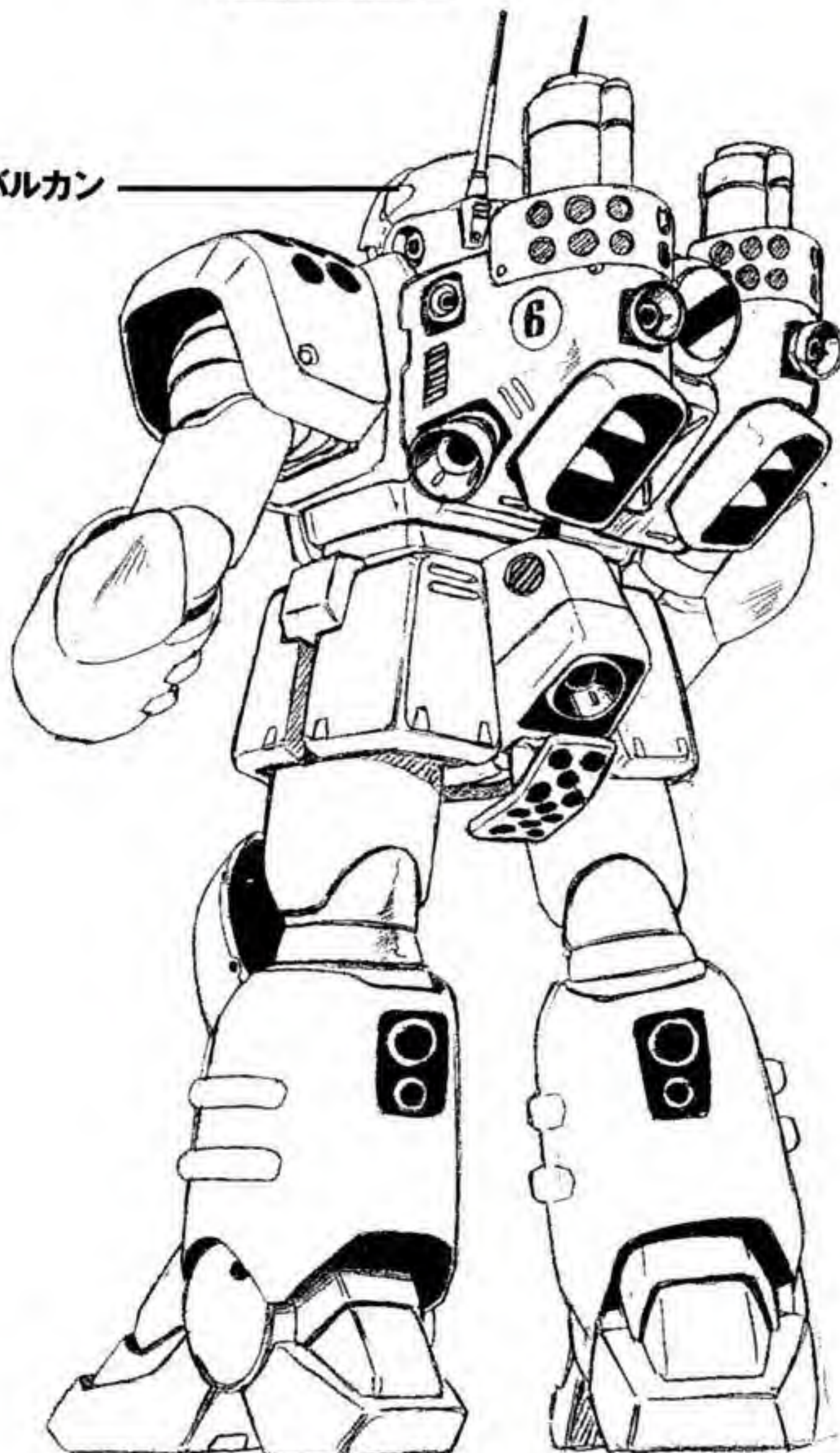
スラスタ総推力：93,500kg

センサー有効半径：7,300m

●「RX-77D」は、支援砲撃用のMSとして開発された「RX-77-2ガンキャノン」の良好な実戦結果を受け、量産型として開発／生産されたMSである。量産化にあたりコスト高騰の原因となるコアブロックシステムは省略され、装甲材もルナチタニウム合金から安価なチタン・セラミック複合材に変更された。このようなコスト削減とともに、「RX-77-2」でのノウハウが生かされ、機体各所に改良が施されている。スラスタや姿勢制御バーニアは増設され、宇宙空間での機動性の向上が図られた。また、2門の240mmキャノンの砲身が、近距離戦闘の際の邪魔にならないよう伸縮してバックパックに収納されるなど、さまざまな配慮がなされている。



60mmバールカン

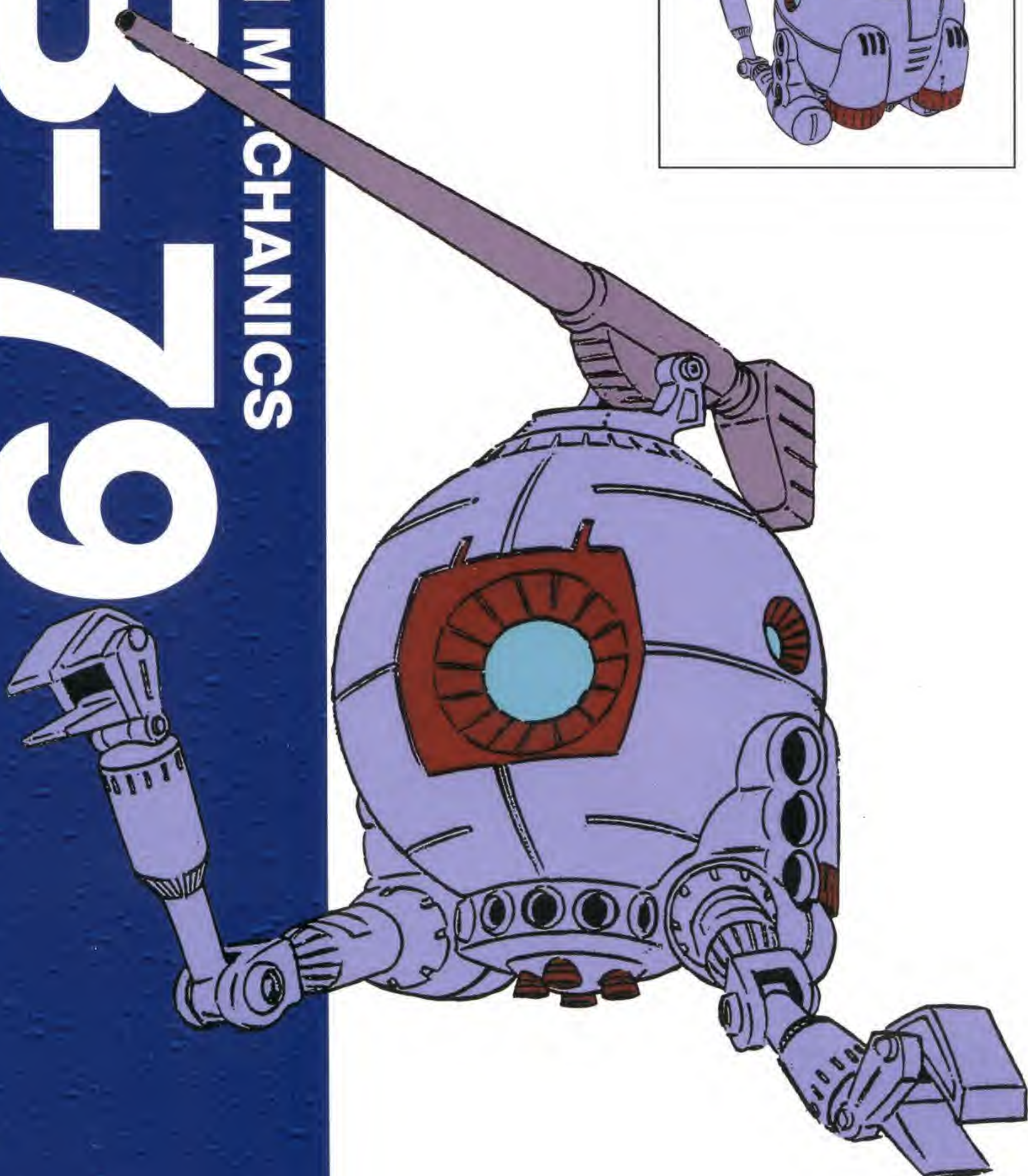
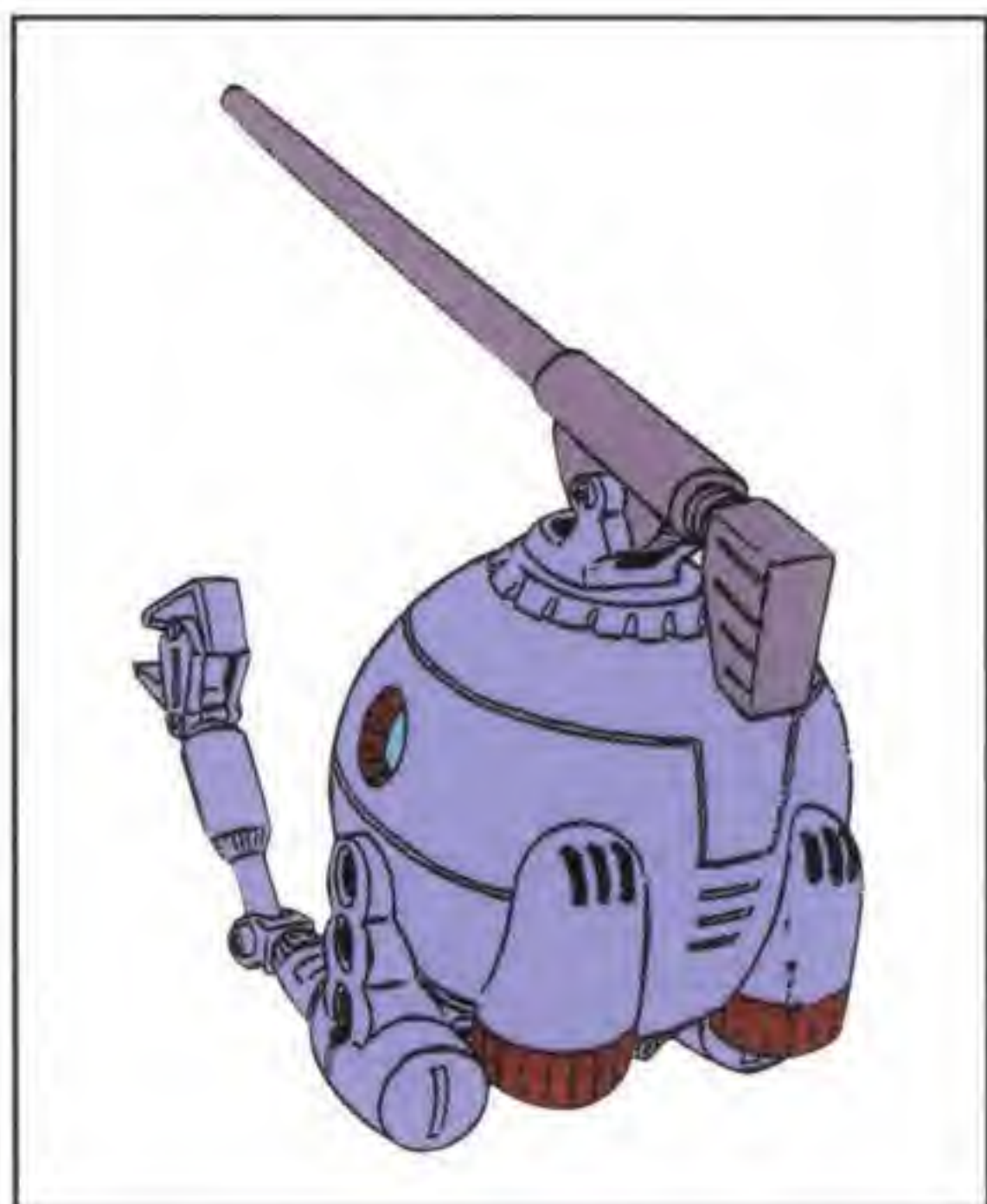


240mmキャノン

ボール

GUNDAM MECHANICS

BB-79



RB-79

ボール

機種分類：支援用モビルポッド

製造：連邦軍

全高：12.8m

本体／全備重量：17.2／25.0 t

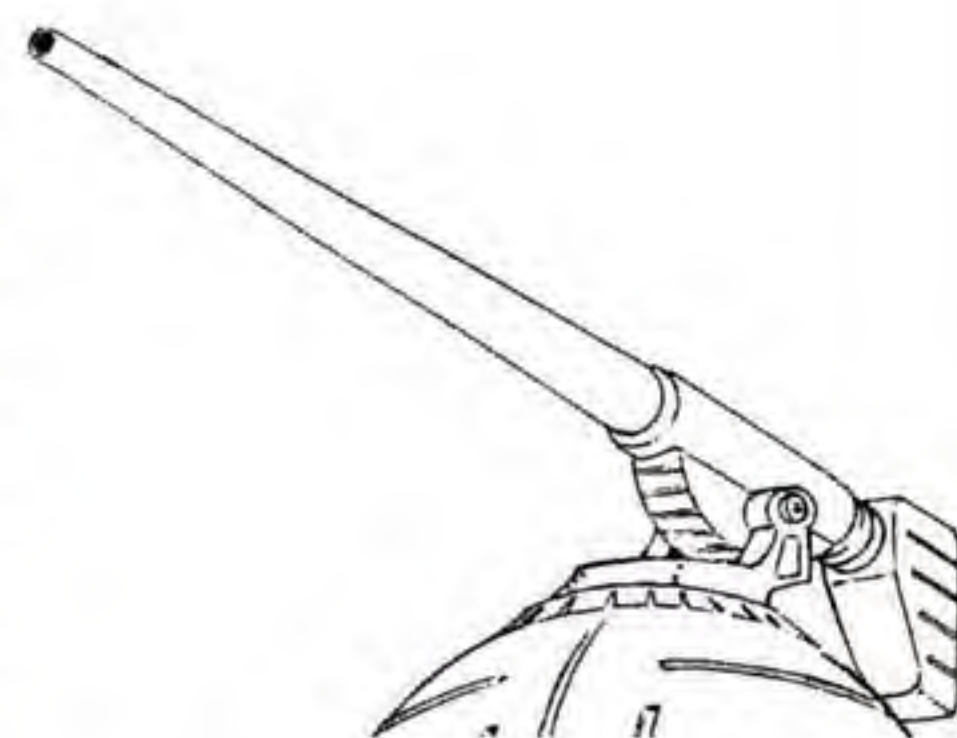
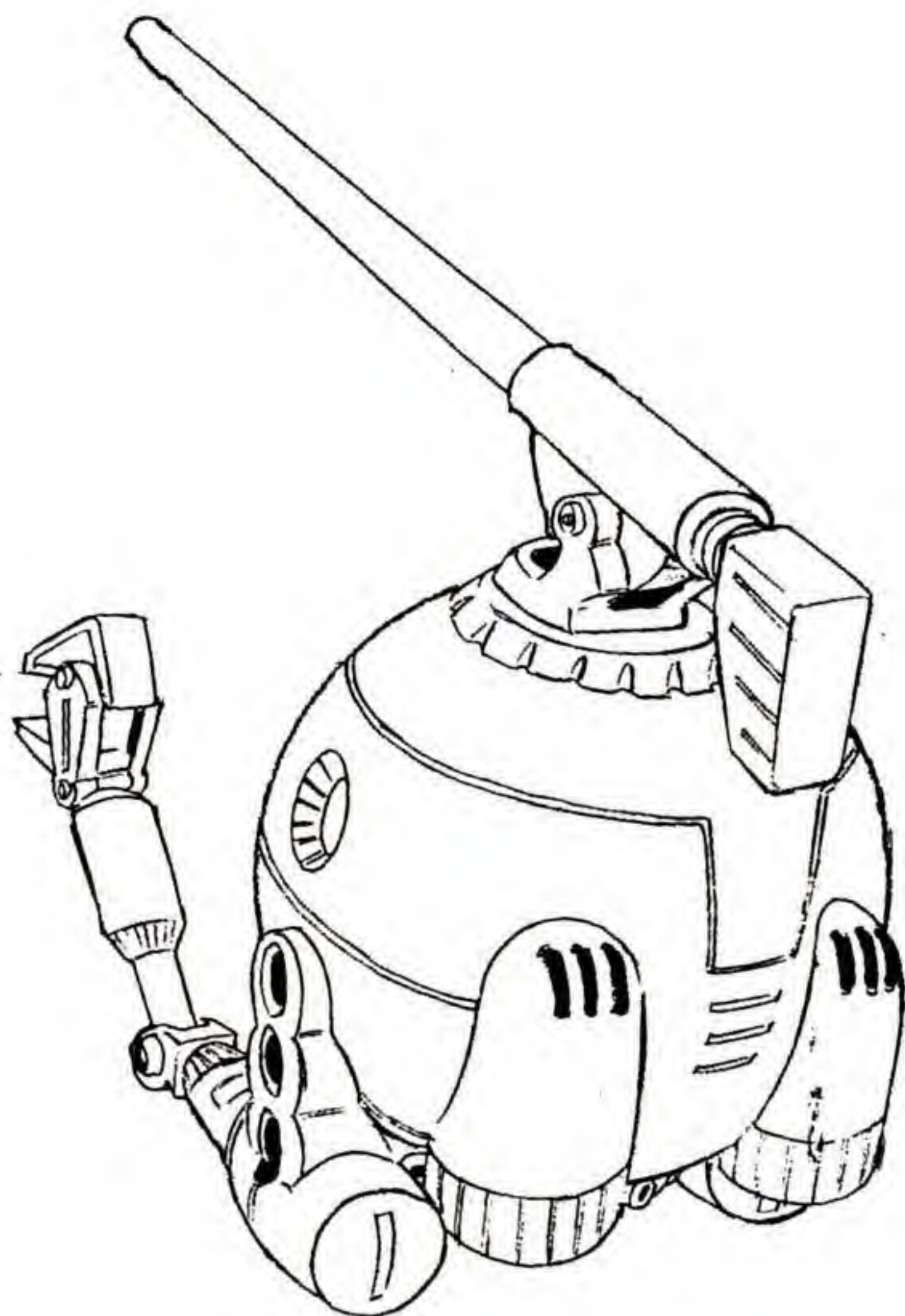
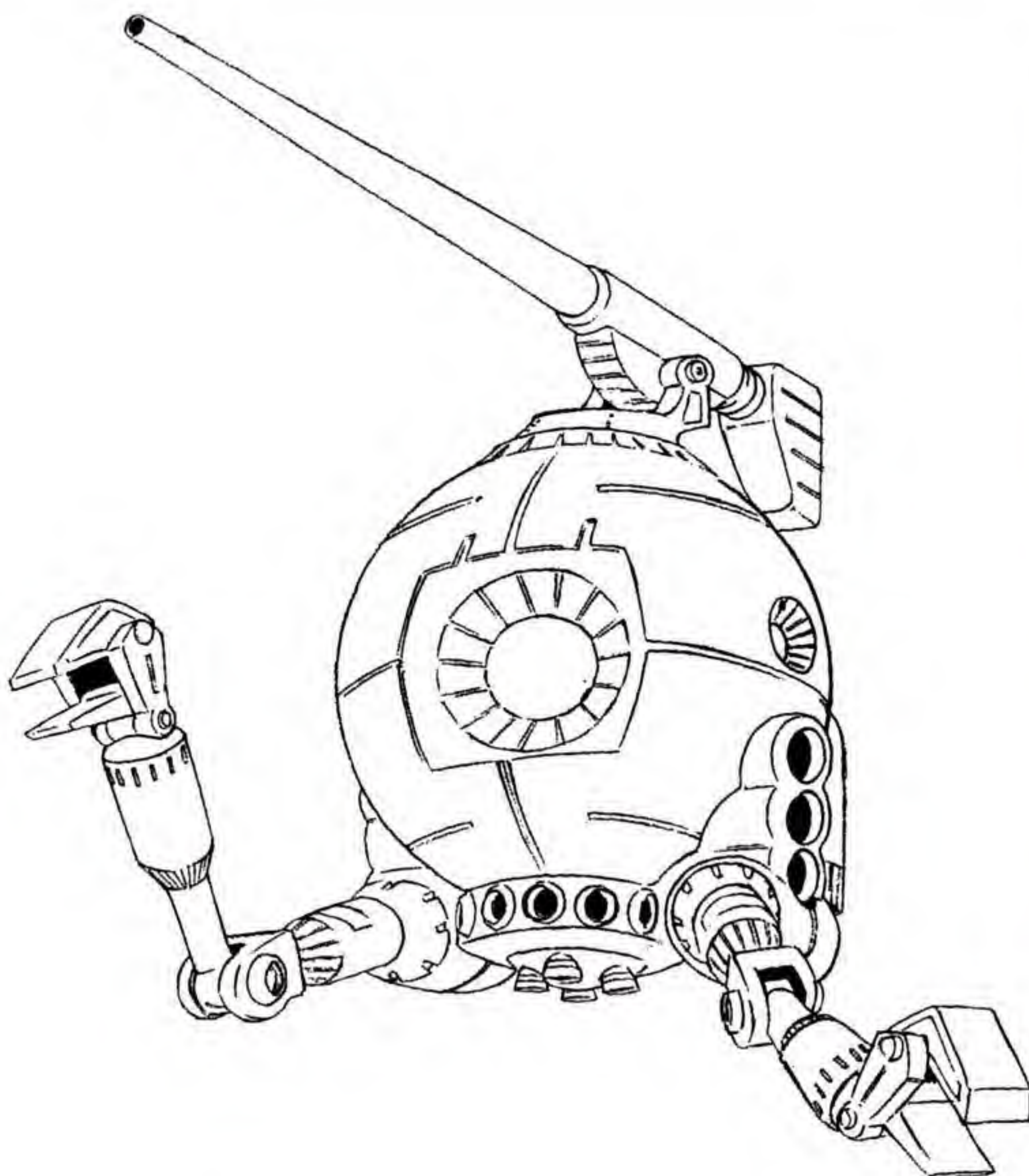
ジェネレータ出力：400kw

スラスター総推力：24,000kg

センサー有効半径：4,000m

●「V作戦」によって量産MSが完成するまでの間、ジオン軍のMSに対抗するため、場しのぎとして連邦軍が宇宙用作業ポッド「SP-W3」を改良して造った戦闘用ポッド。

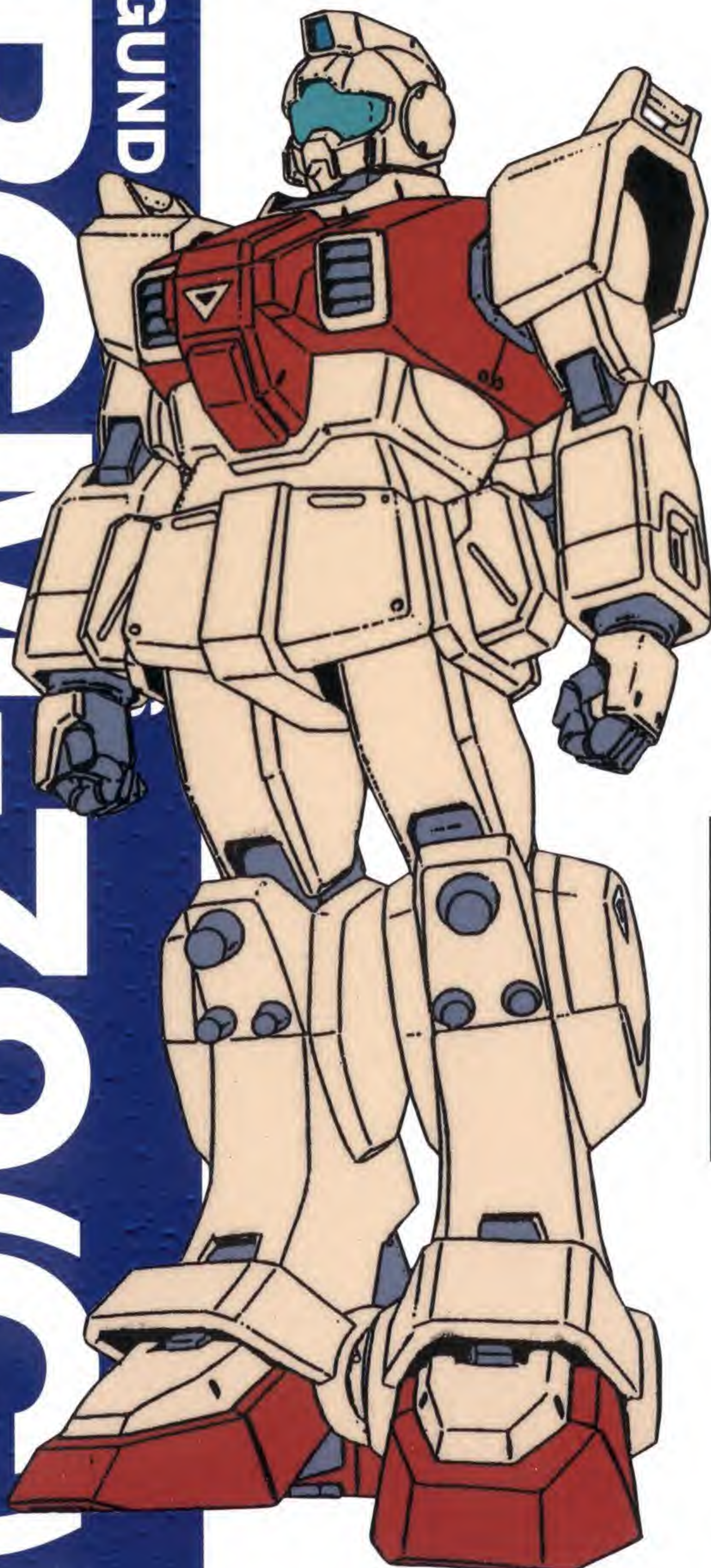
その戦闘能力は低く、連邦軍のパイロットからはあまり評判が良くなかった。大戦中期に大量生産され、「RGM-79ジム」配備後は、その支援メカとして使用された。

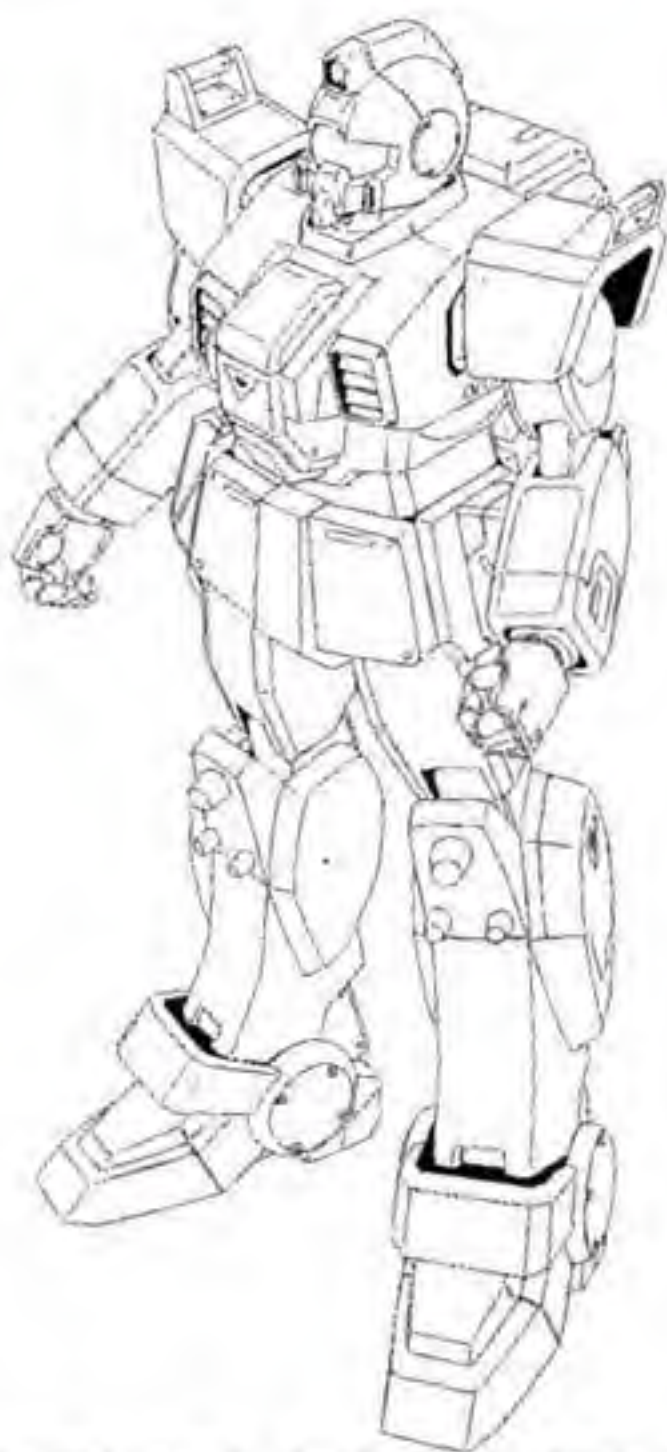
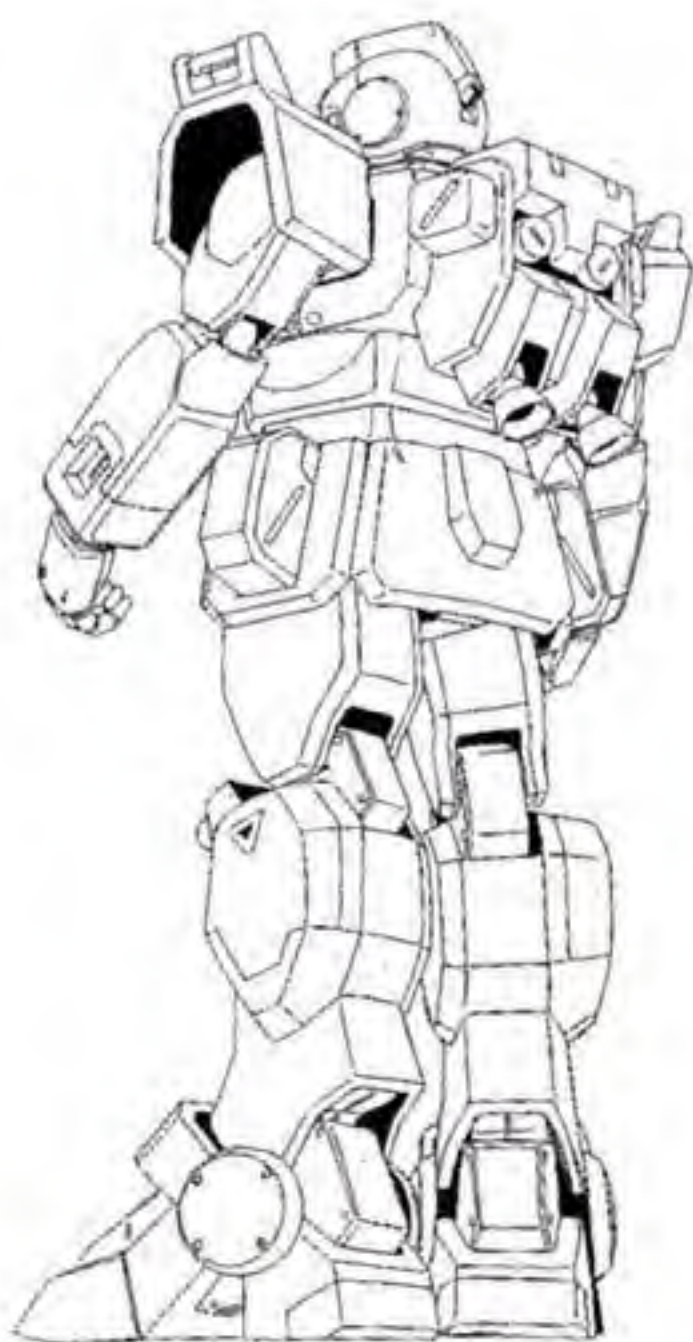


180ミリキャノン

地上戦用ジム

GUND





RGM-79(G)

地上戦用ジム

機種分類：陸戦用MS

製造：連邦軍

全高／頭頂高：18.0／18.0m

本体／全備重量：53.8／66.0 t

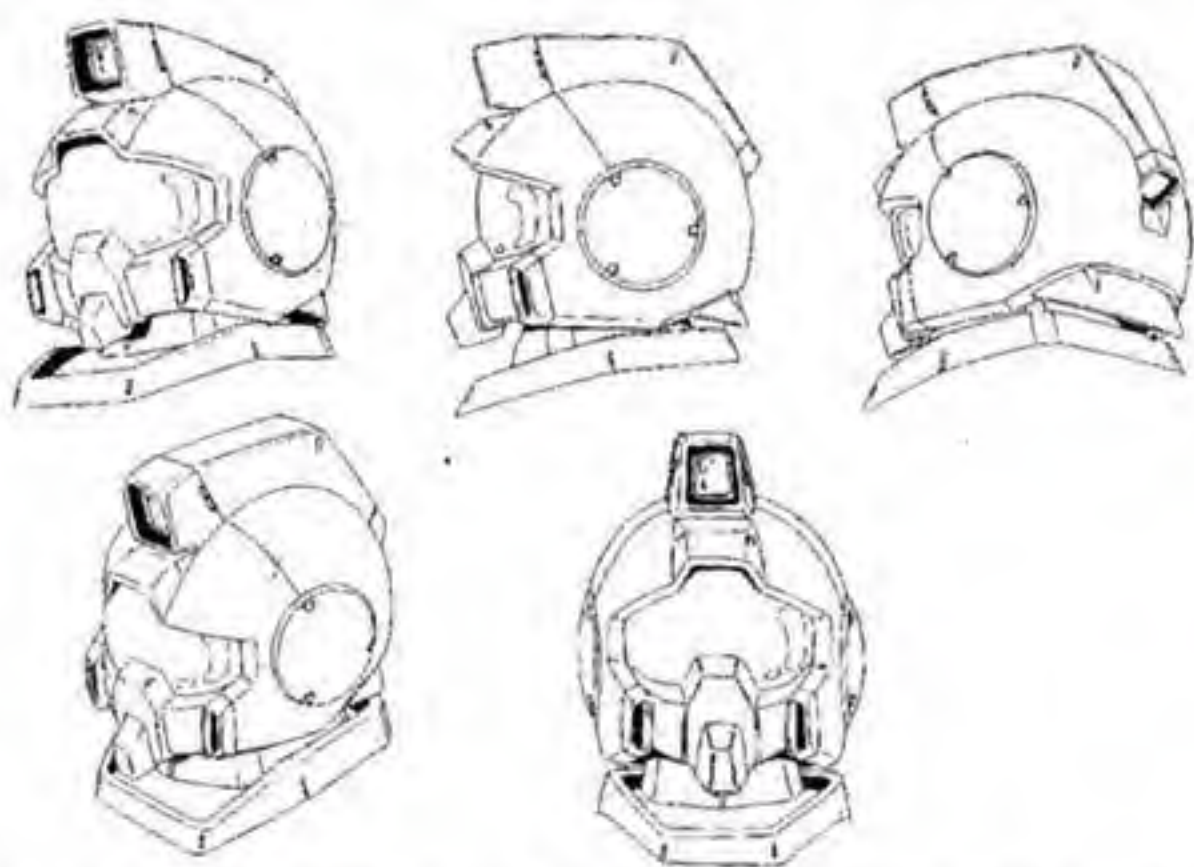
ジェネレータ出力：1,150kw

スラスタ総推力：49,000kg

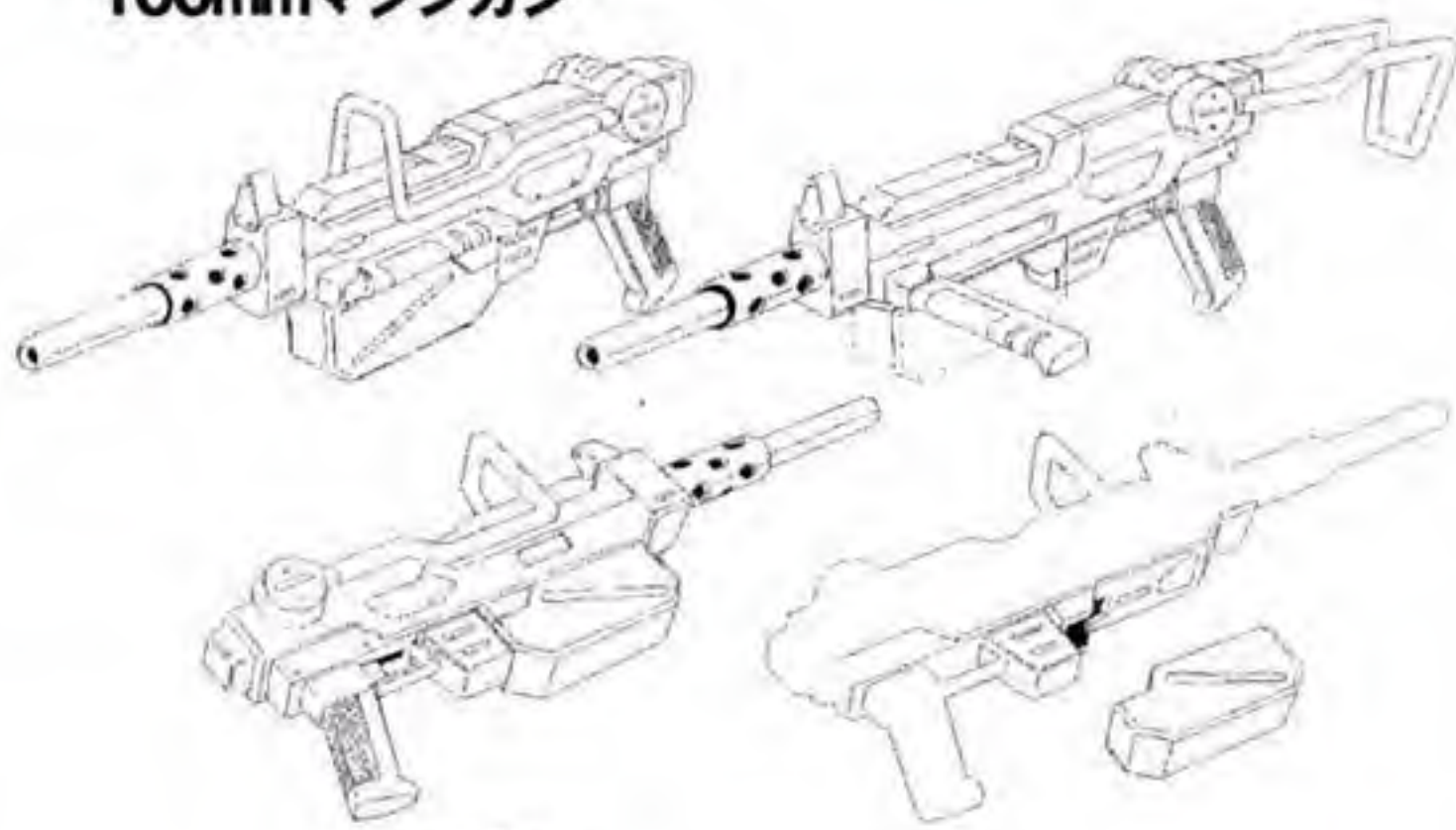
センサー有効半径：6,000m

●量産が決定した「RGM-79ジム」に先行して、深刻な事態にある地球の各戦線用に急生産された地上戦用のジム。「RX-79(G)」とともに地球上の重要拠点に配備された。

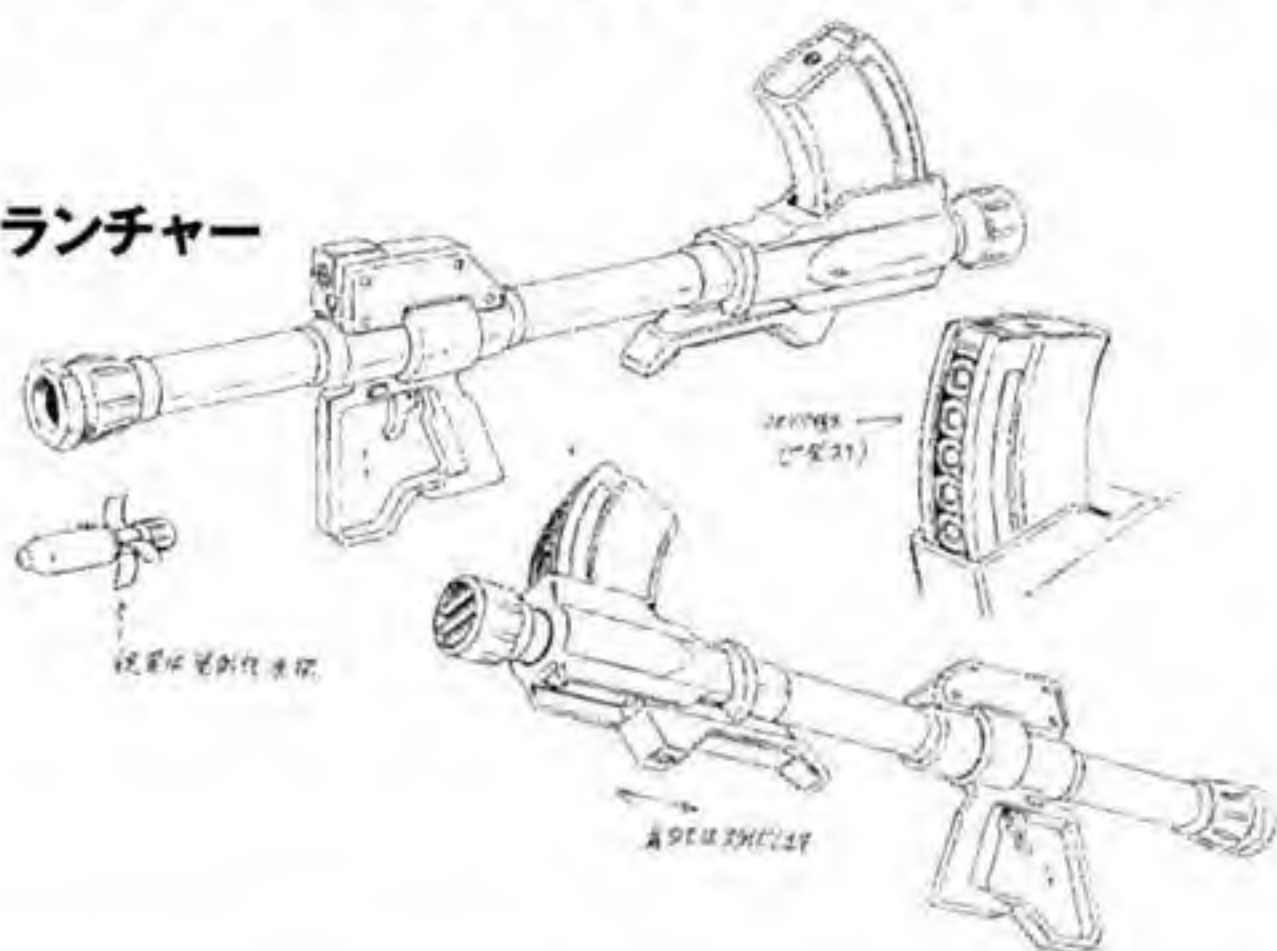
ジェネレータを安価で低出力な物に換装するなど、高価なRXシリーズに比べ各所にコスト削減が計られているが、一方で装甲材にルナチタニウム合金を使用するなど、のちの量産型よりは、むしろガンダムタイプに近い機体となっている。ジェネレータ出力が低いため、ビームライフルの使用はできないが、100mmマシンガン、ロケットランチャーなどオプション武装は充実している。連邦軍本部の南米ジャブローで生産されたこれらの機体は、各部隊に配備が進められた。同じ先行量産機では宇宙型の「RGM-79E」がある。



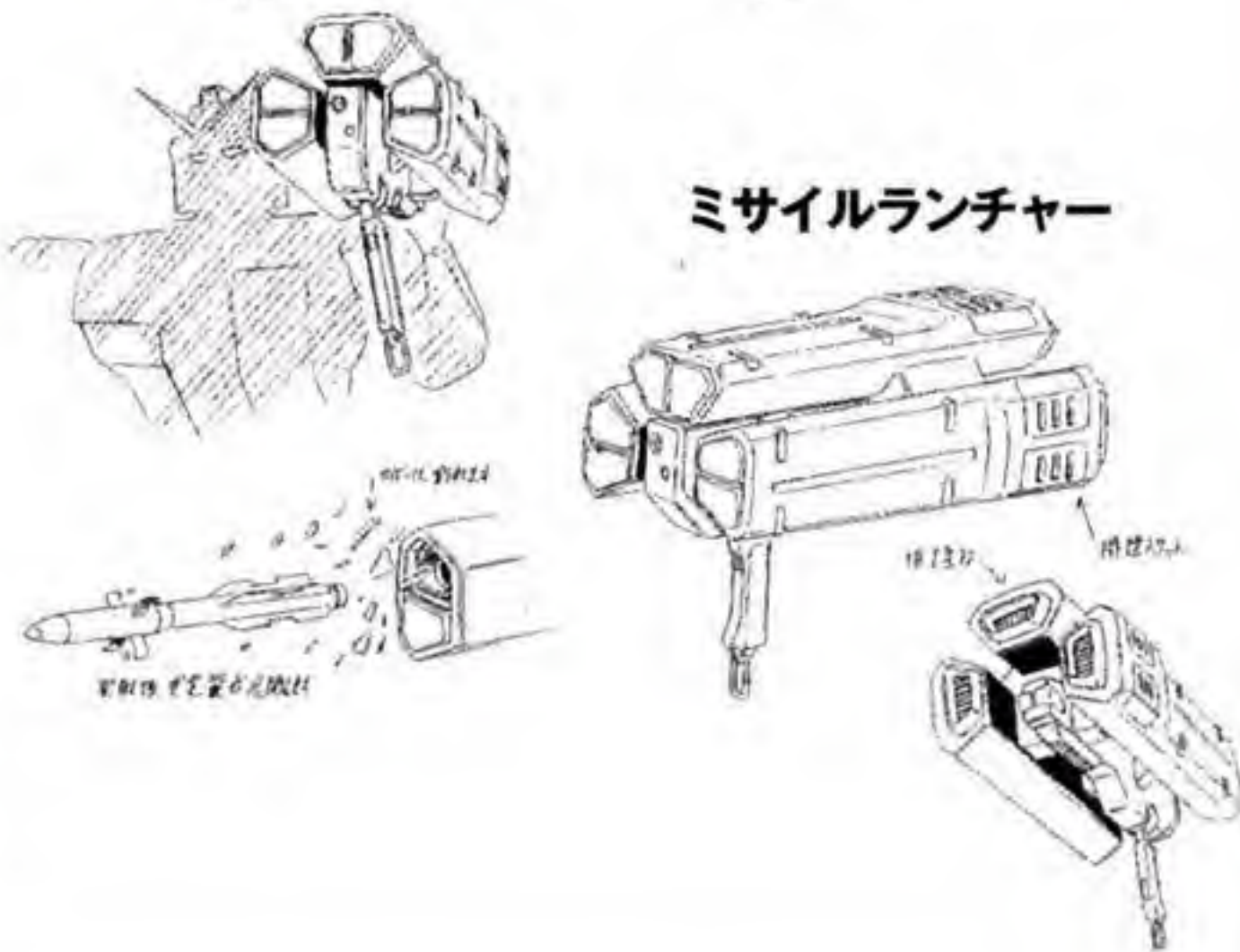
100mmマシンガン



ロケットランチャー



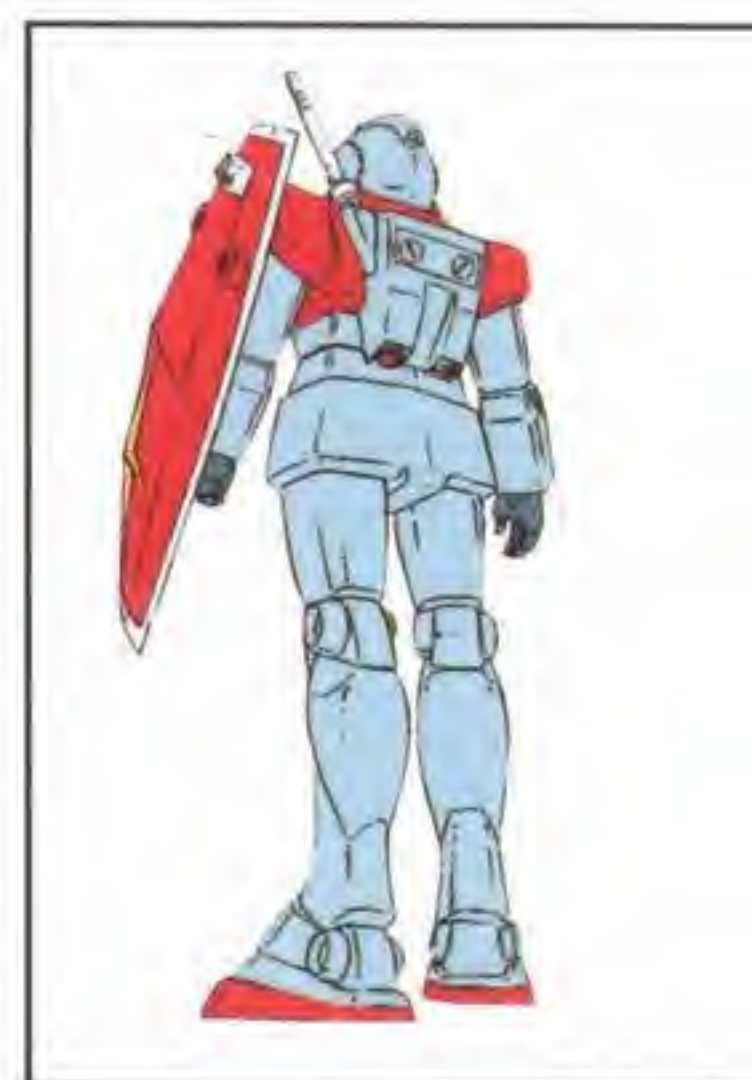
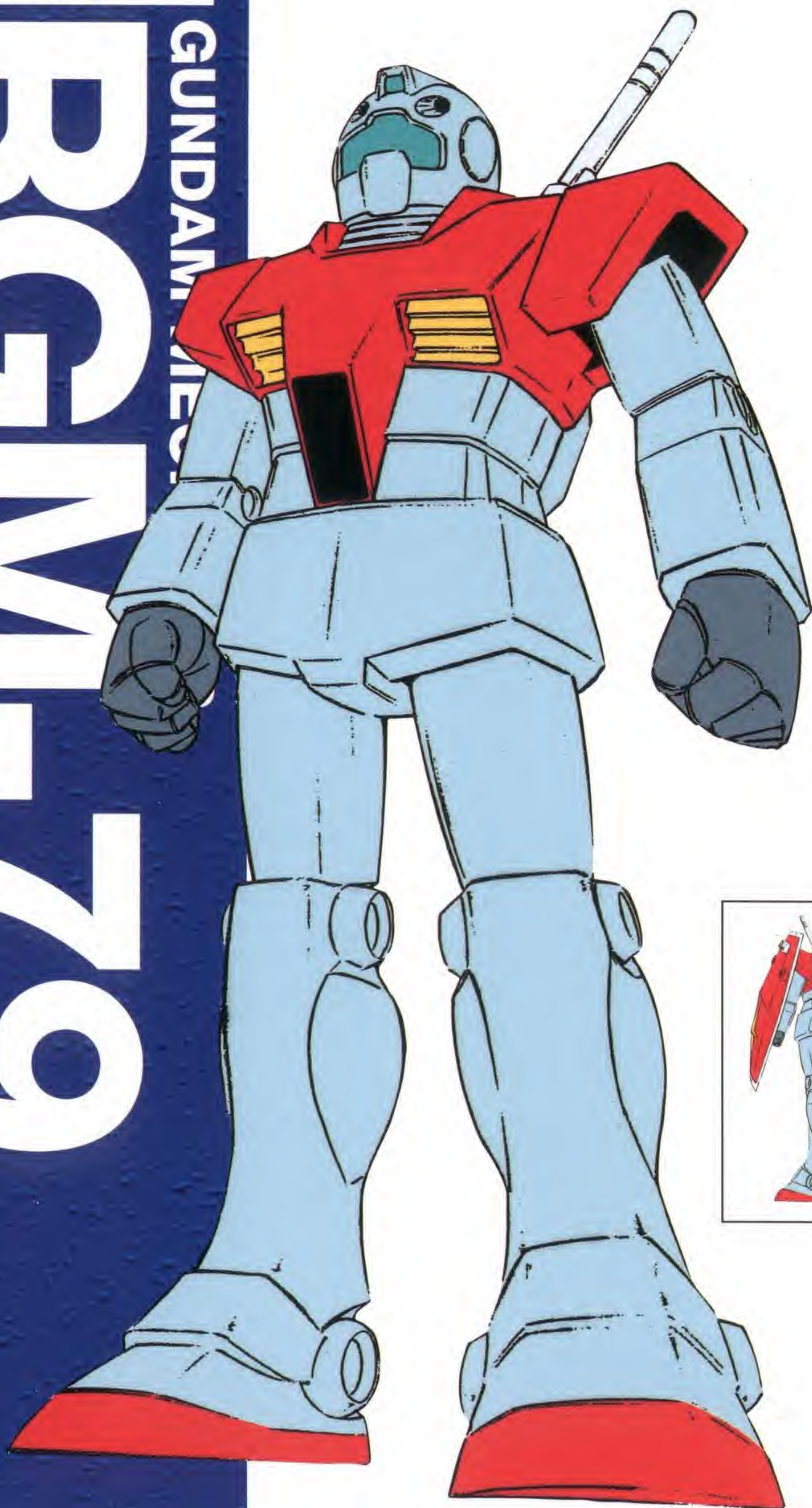
ミサイルランチャー



ジム

GUNDAM

PROG
VAL-7



RGM-79

ジム

機種分類：汎用量産型MS

製造：連邦軍

全高／頭頂高：18.5／18.0m

本体／全備重量：41.2／58.8 t

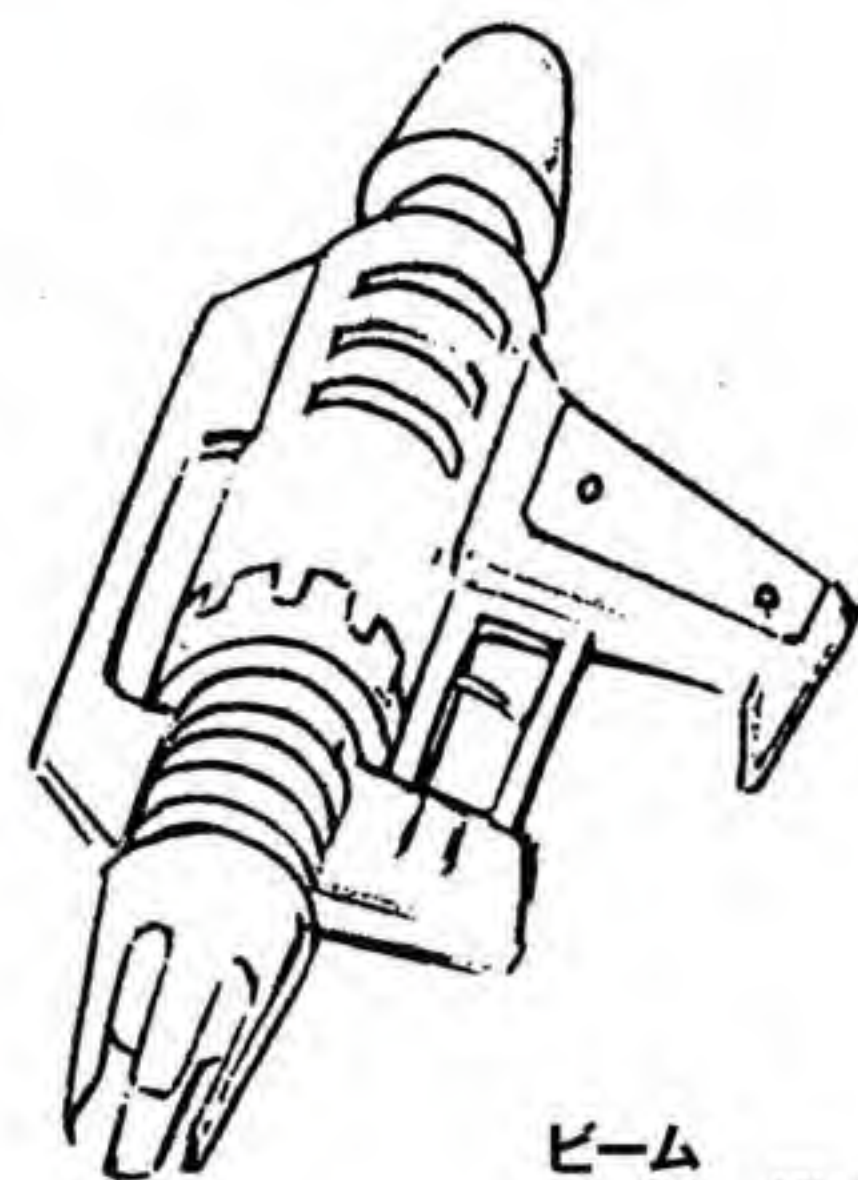
ジェネレータ出力：1,250kw

スラスター総推力：55,500kg

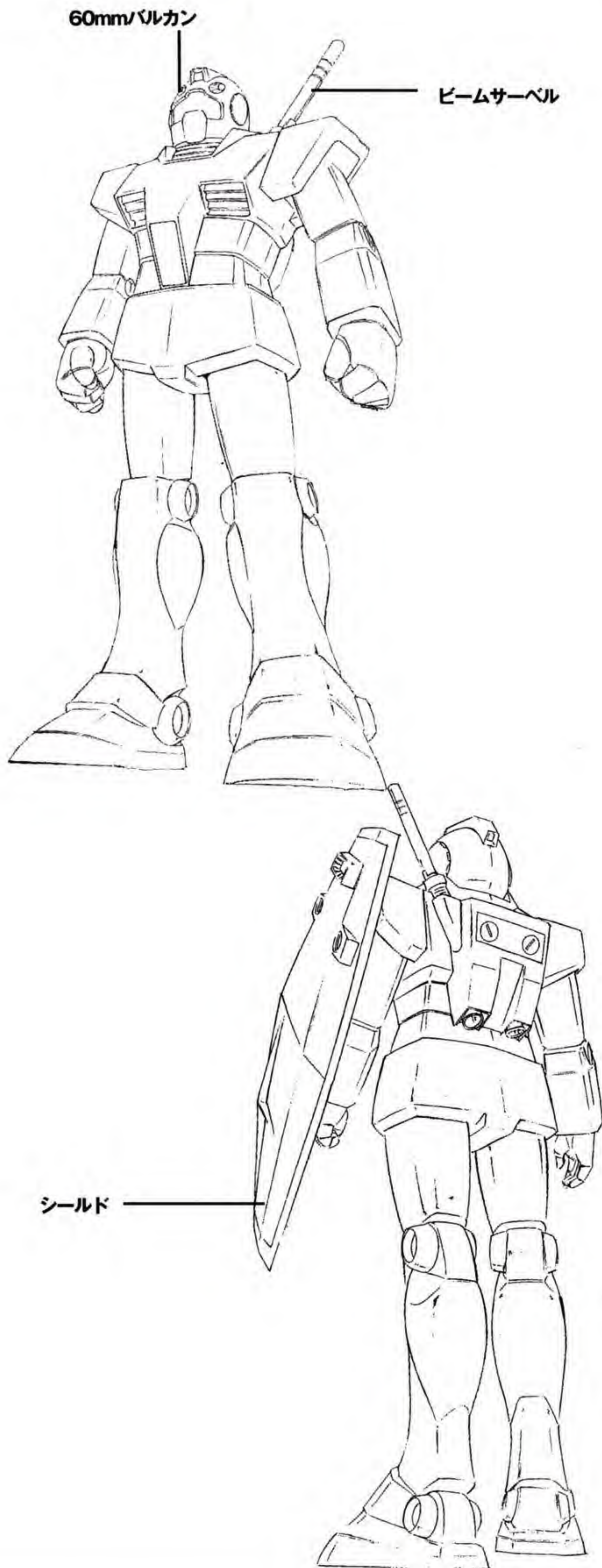
センサー有効半径：6,000m

●ルウム戦役で大敗し、地球降下作戦によって地上・宇宙ともにイニシアチブを失った連邦軍は、ジオン軍のザクⅡに対抗するため、0079年4月に「V作戦」を発動、かねてより進めていた量産型MSの開発（RX計画もその一環）・生産を最優先事項とした。こうして連邦軍が開発したMSが「RGM-79ジム」である。

生産性を優先させたため、機体性能は低く抑えられ、結果としてジェネレータの出力が不足し、ビームライフルの装備を断念、簡易版のビームスプレーガンや90mmマシンガンといった銃器類に装備が変更された。大戦末期に大量生産されたジムは、直ちに各部隊に配備され「ソロモン攻略戦」「ア・バオア・クー攻防戦」の主戦力として活躍。連邦軍を勝利へと導いた。



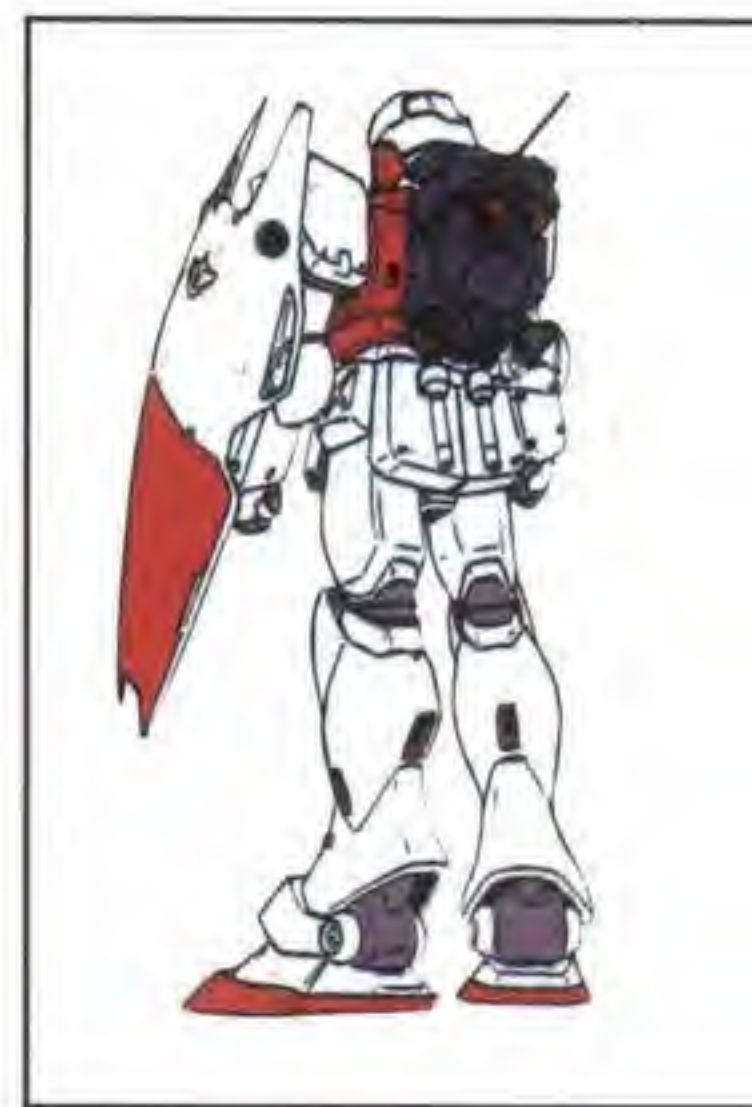
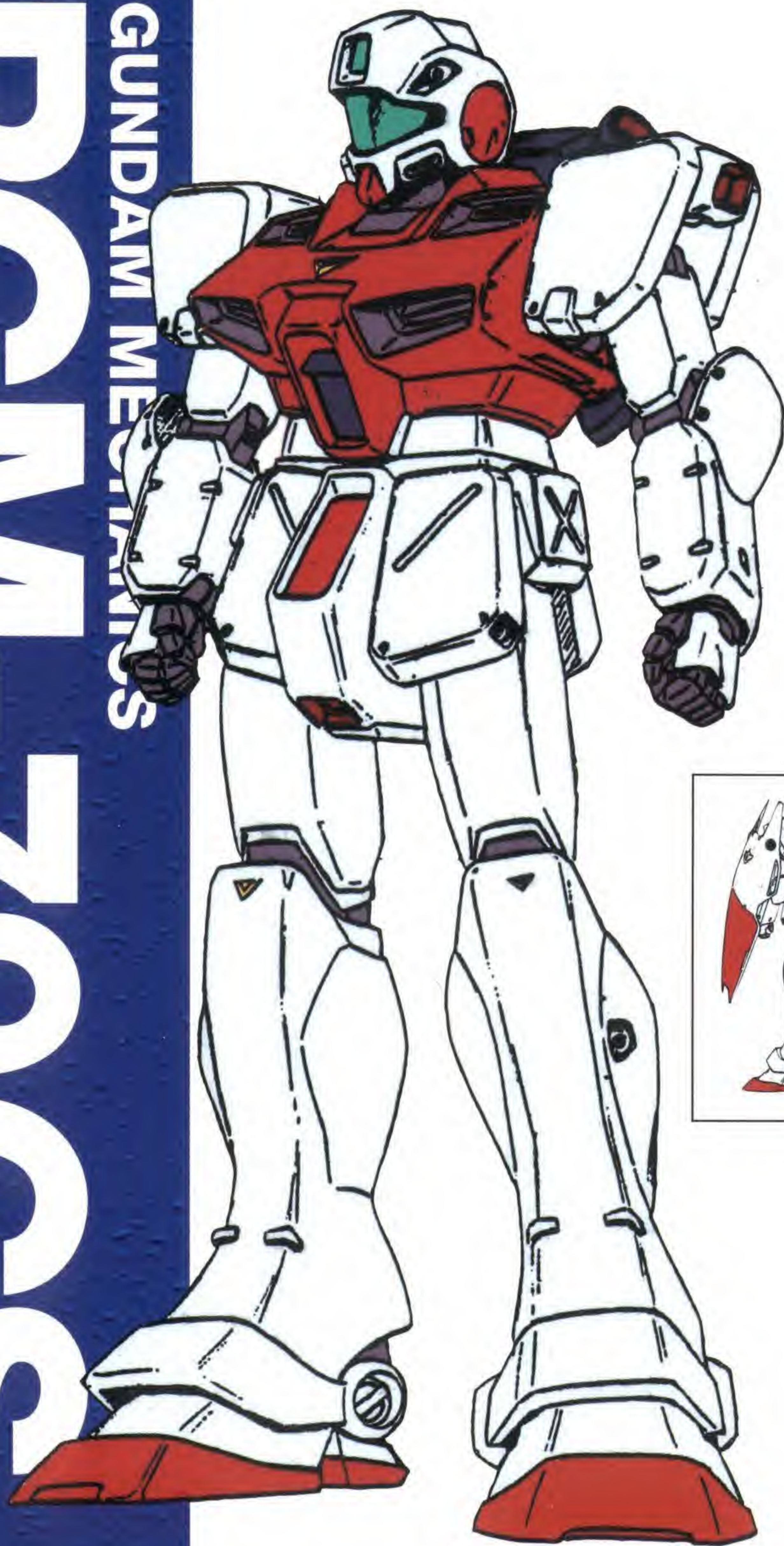
ビーム
スプレーガン



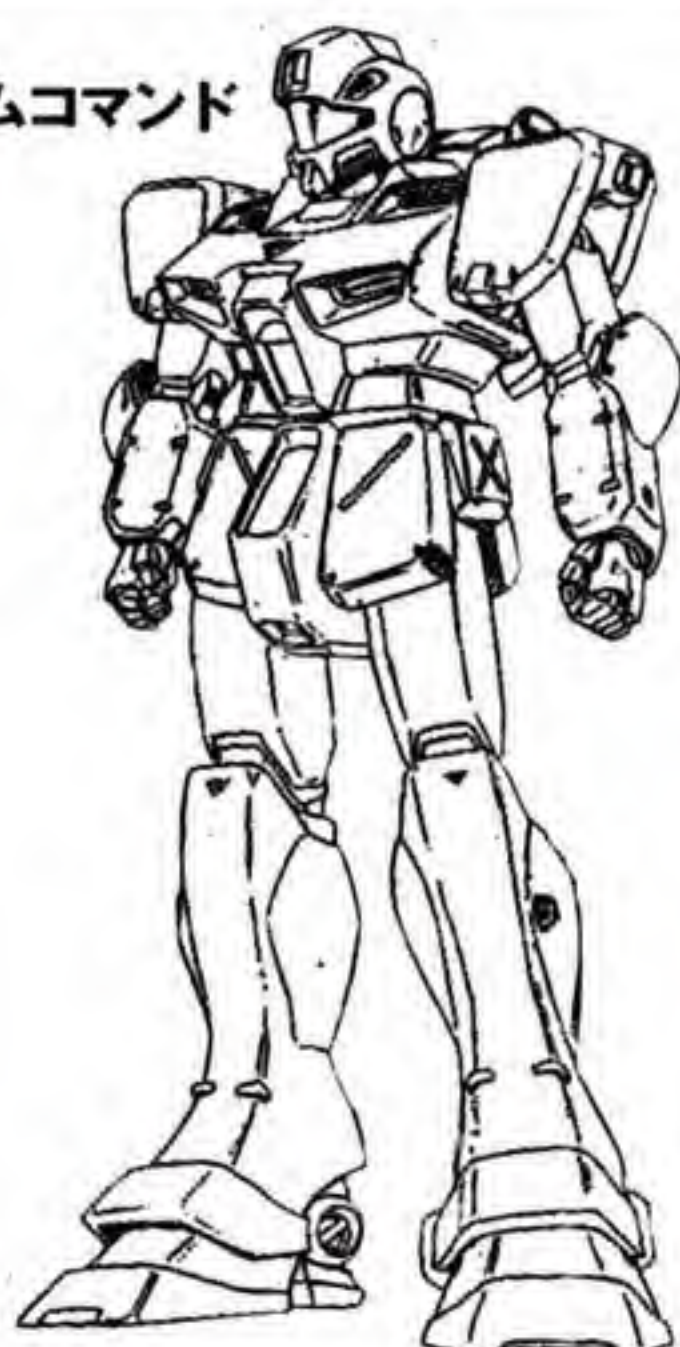
ジムコマンド宇宙戦仕様

RGV-79S

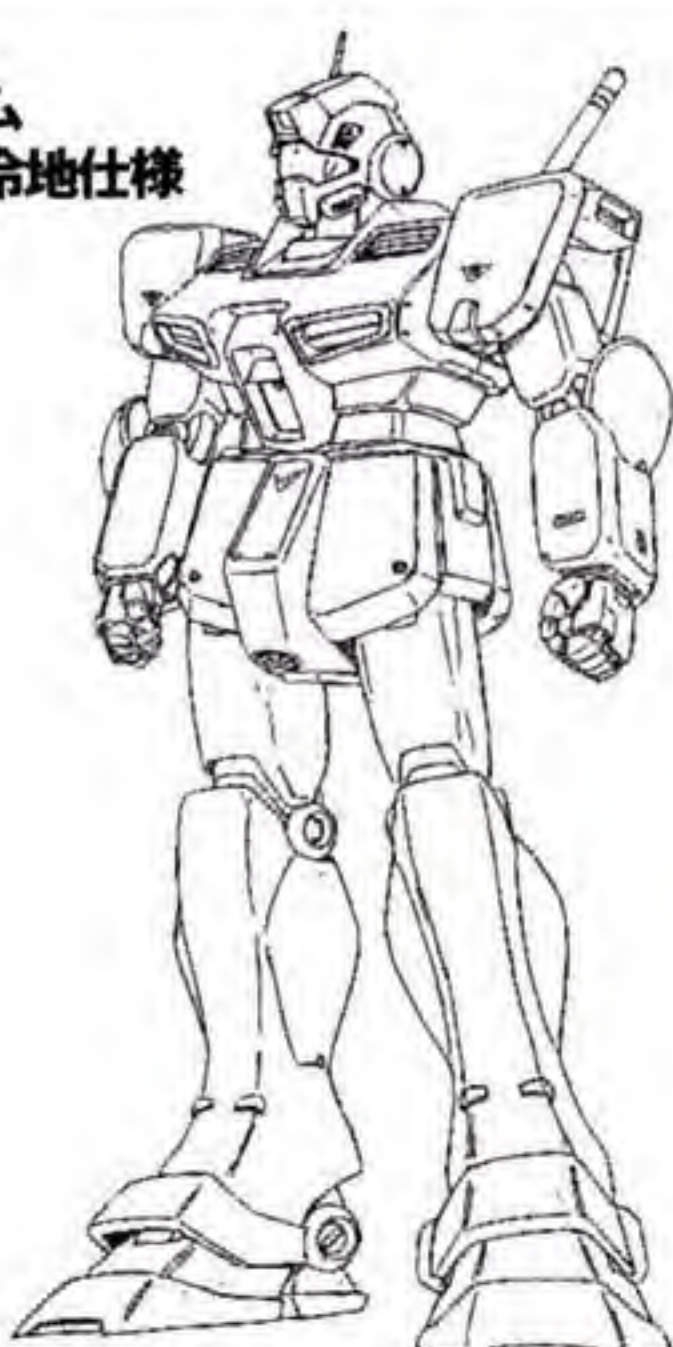
GUNDAM MECHANICS



ジムコマンド



ジム
寒冷地仕様



RGM-79GS

ジムコマンド宇宙戦仕様

機種分類：宇宙戦用量産型MS

製造：連邦軍

全高／頭頂高：18.0／18.0m

本体／全備重量：44.6／76.5 t

ジェネレータ出力：1,390kw

スラスタ総推力：74,000kg

センサー有効半径：6,000m

●ジムコマンドは連邦軍の制式採用MS「RGM-79ジム」の量産改良型である。

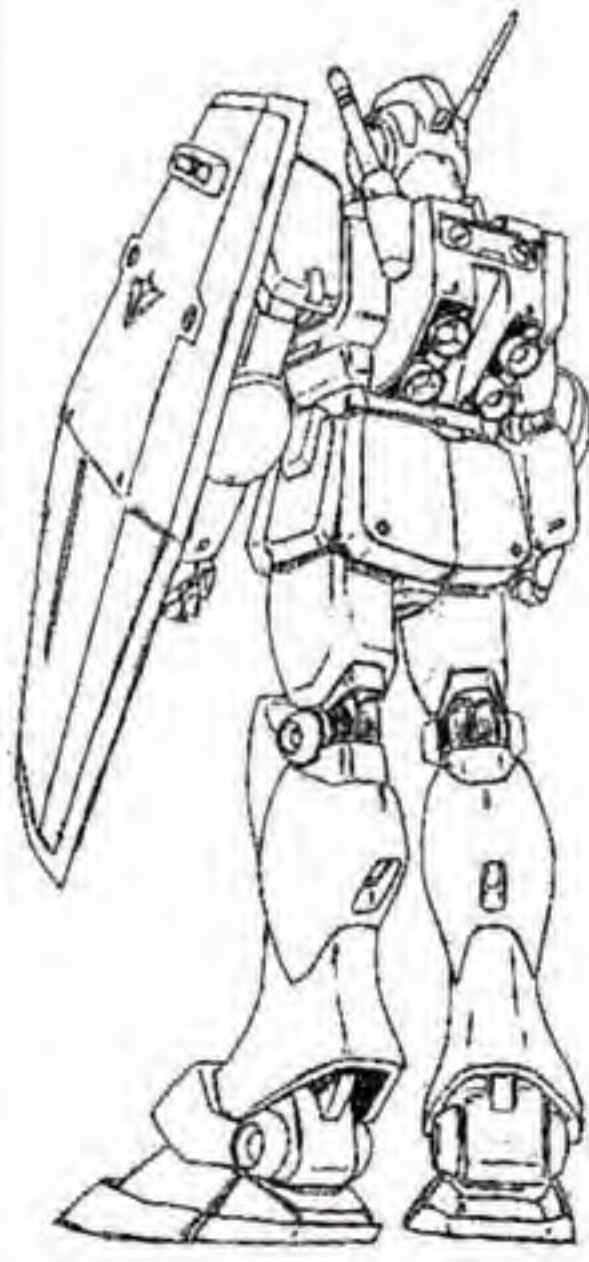
MSの量産で得られたノウハウと、「RGM-79SCジムスナイパーカスタム」など高性能機の改良技術を生かし、ジムを改良して基本性能の向上が図られている。ジムは地上・宇宙共に運用が可能な汎用機であったが、ジムコマンドは運用地によって装備の違う2タイプが作られた。宇宙戦用の「RGM-79GS」は、宇宙用の大出力スラスタのついたバックパックが装備されるなど、ジムとは外見も大きく異なる。また、無重力下での行動に不必要な装備を排除、余剰スペースを姿勢制御バーニアや推進剤のタンクに使用している。姉妹機にコロニー防衛用の「RGM-79G」があり、装甲などのコンポーネントを共有している「RGM-79Dジム寒冷地仕様」がある。ジムコマンドは生産開始時期が遅く、ジムに比べてコストが上がっているため、生産された機数はそれほど多くない。



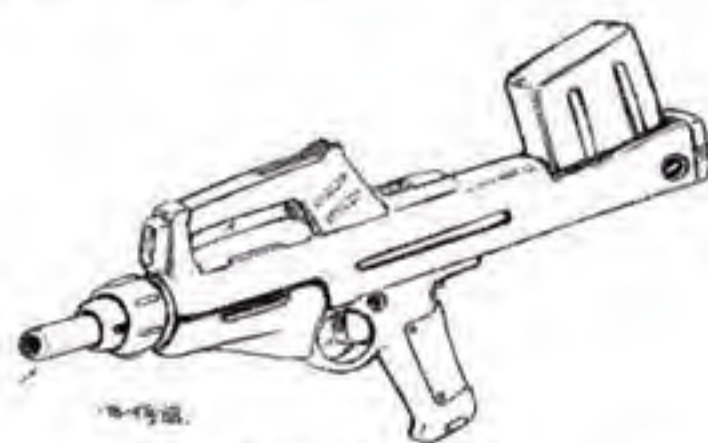
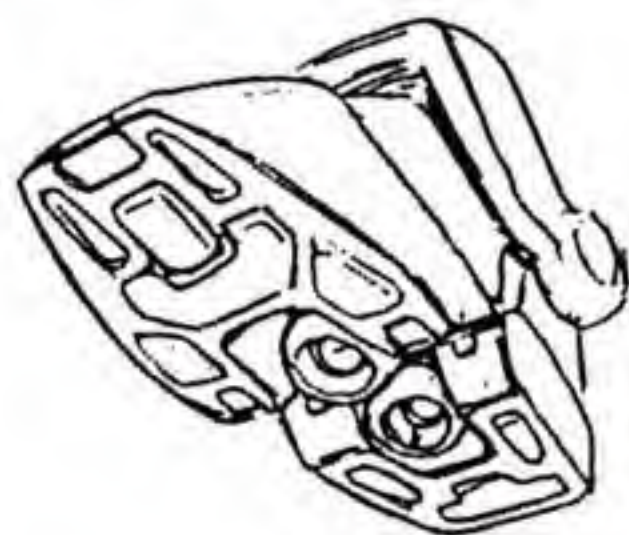
コロニー防衛用



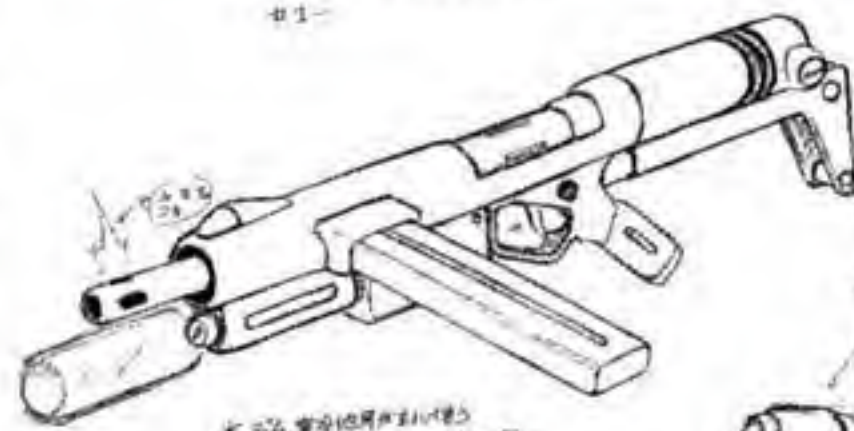
宇宙戦仕様



60mm
バルカン



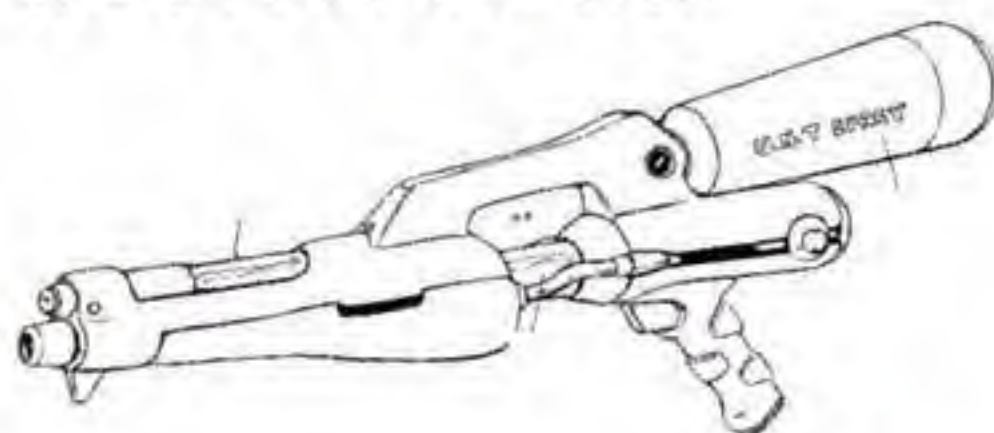
90mmマシンガン



90mmマシンガン
(グレネイドランチャー付き)



ビームサーベル



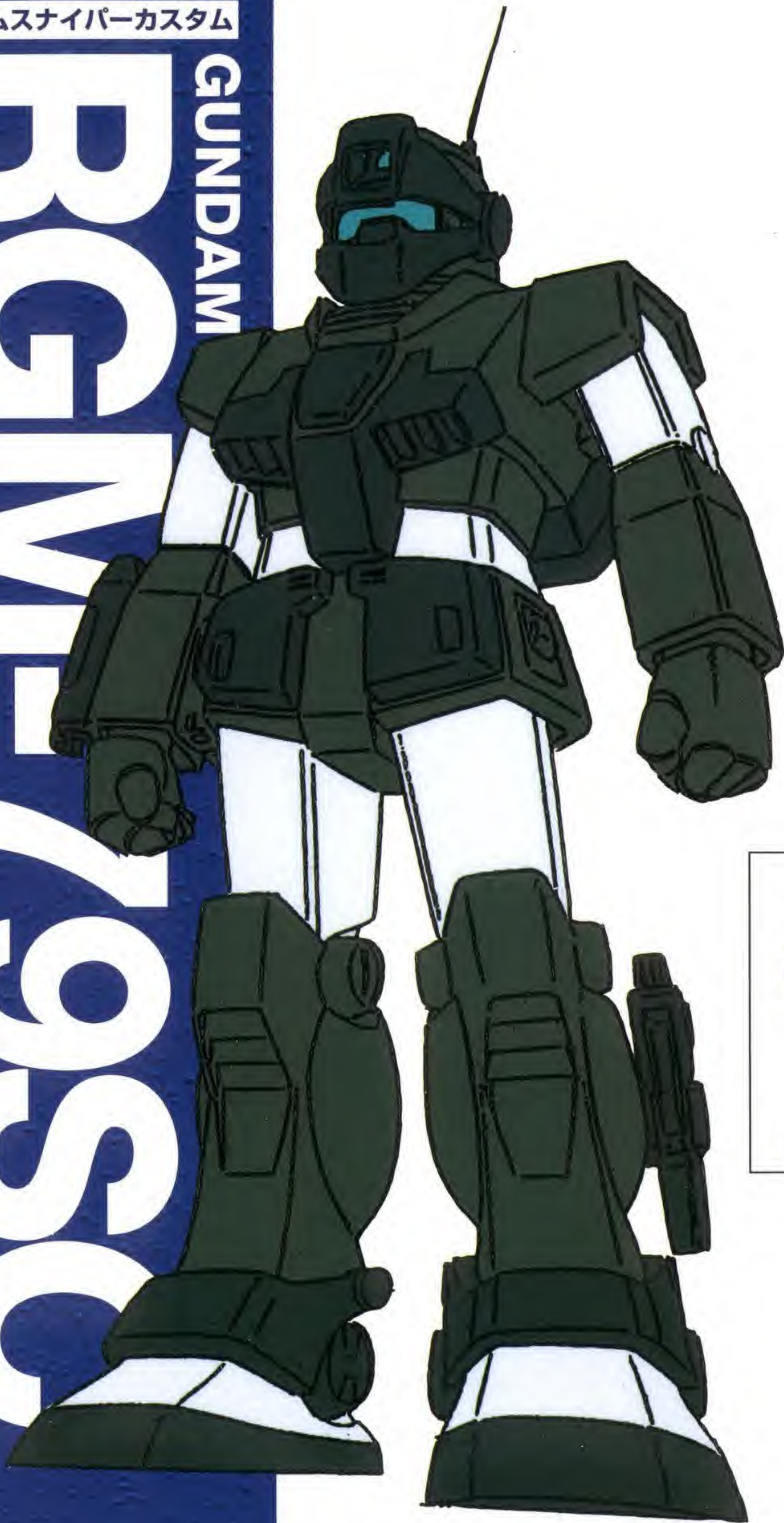
ビームガン

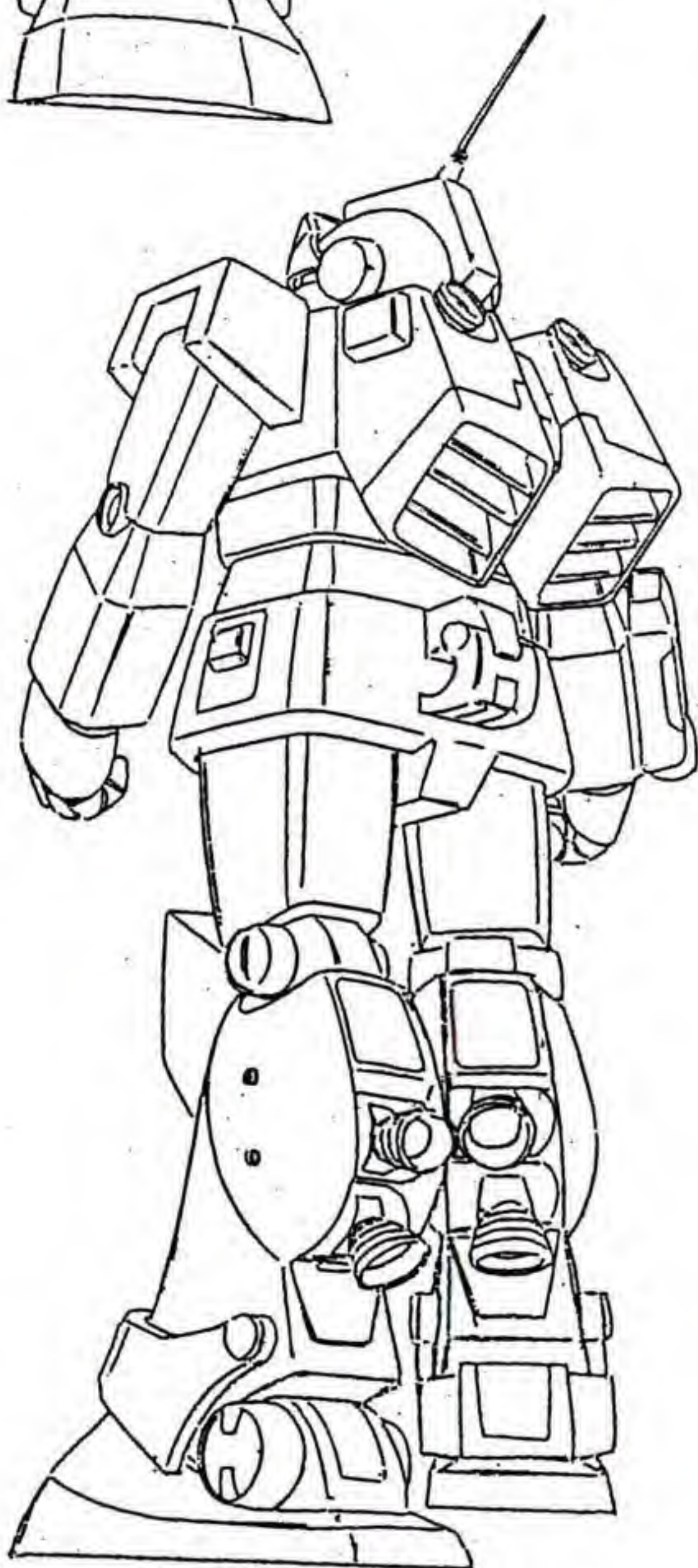
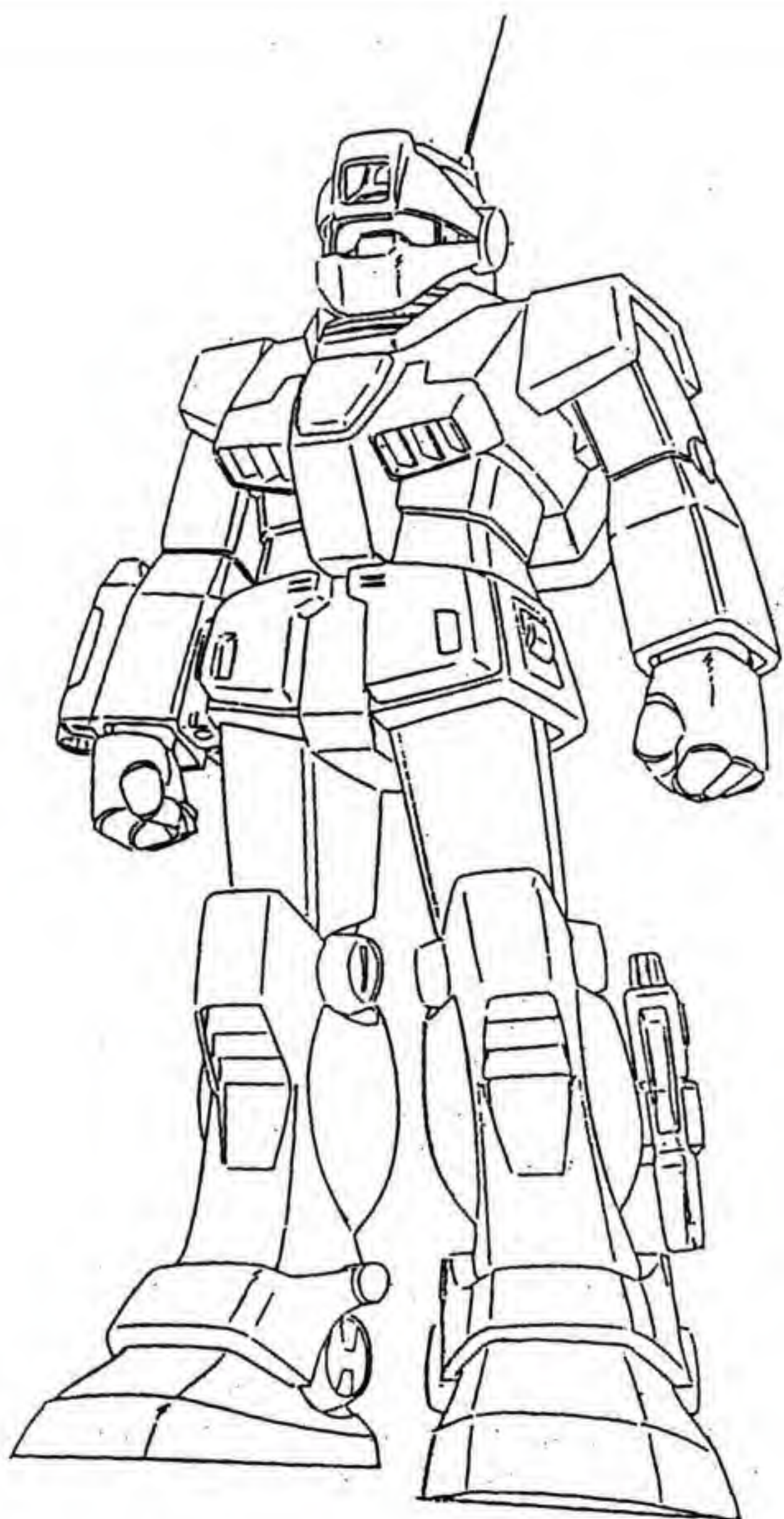


ジムスナイパーカスタム

GUNDAM

Realistic





RGM-79SC

ジムスナイパーカスタム

機種分類：汎用量産型MS

製造：連邦軍

全高／頭頂高：18.5／18.0m

本体／全備重量：47.0／75.3t

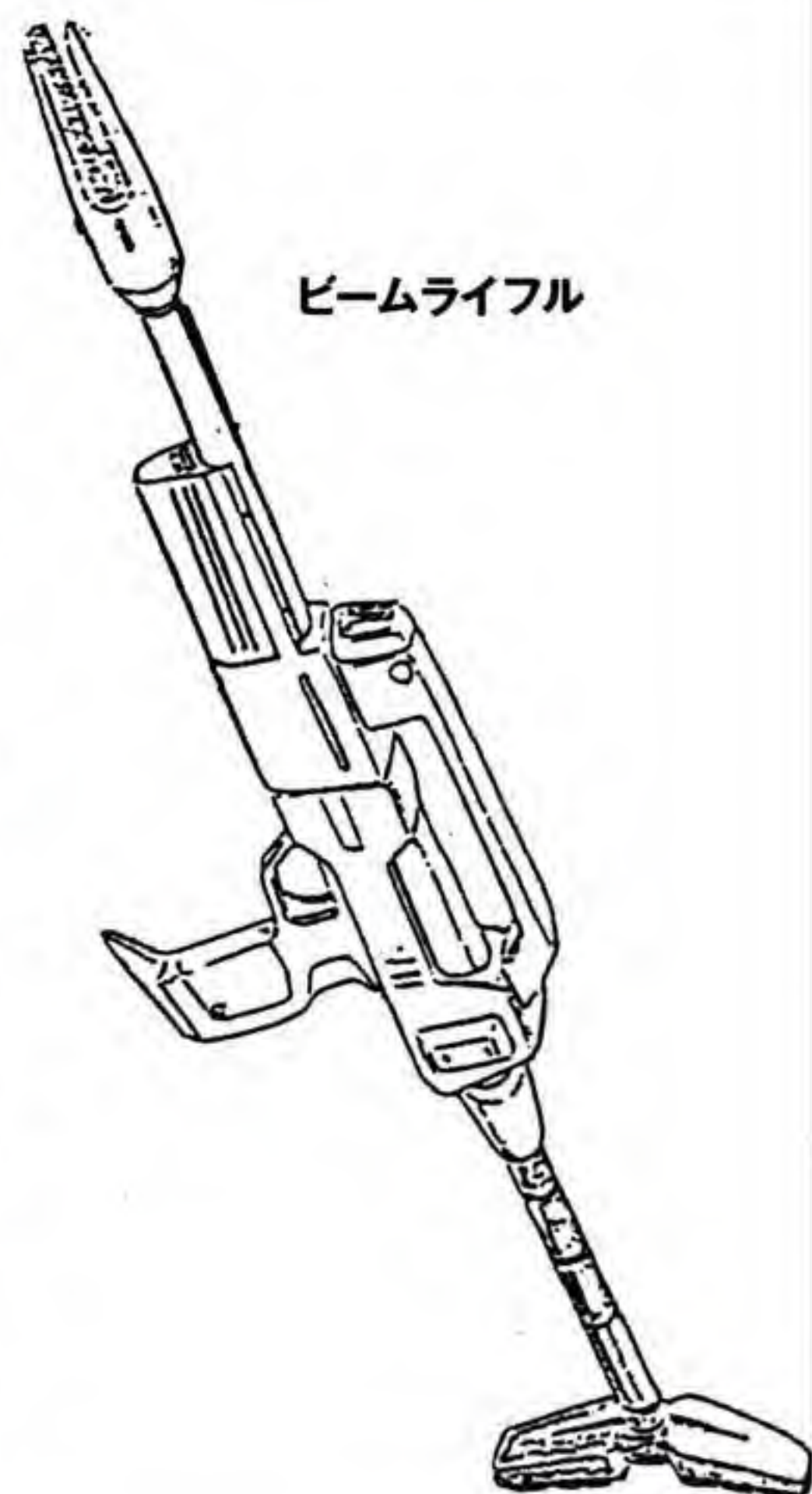
ジェネレータ出力：1,390kw

スラスタ総推力：68,000kg

センサー有効半径：7,300m

●制式採用MSとして量産が決定した「RGM-79ジム」であったが、生産性の向上と低コスト化が行なわれたため、完成した機体のスペックは今一つ見劣りする物だった。操縦の大部分はコンピューターがサポートしてくれるため、MSに不慣れなパイロットでも比較的容易に扱うことができたが、反面「RB-79ボール」で経験を積んだ熟練パイロットや、先行量産型のジムで訓練を受けたパイロットたちにとって、その能力を十分に発揮できる機体ではなかったのである。

そういったベテランパイロットのために、より高性能な機体として小数量産されたのが、「RGM-79SCジムスナイパーカスタム」であった。機体の追従性と機動性が強化され、高出力ジェネレータの搭載によりビームライフルの使用も可能になっている。

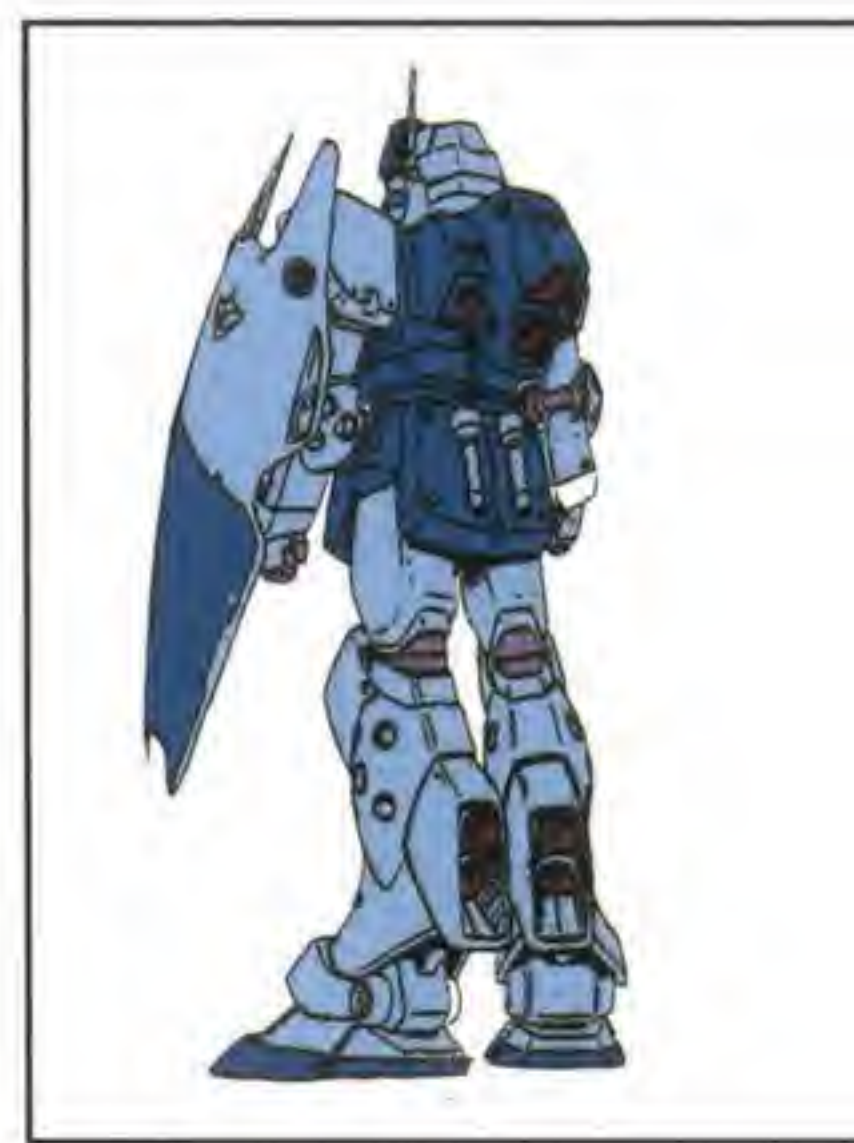
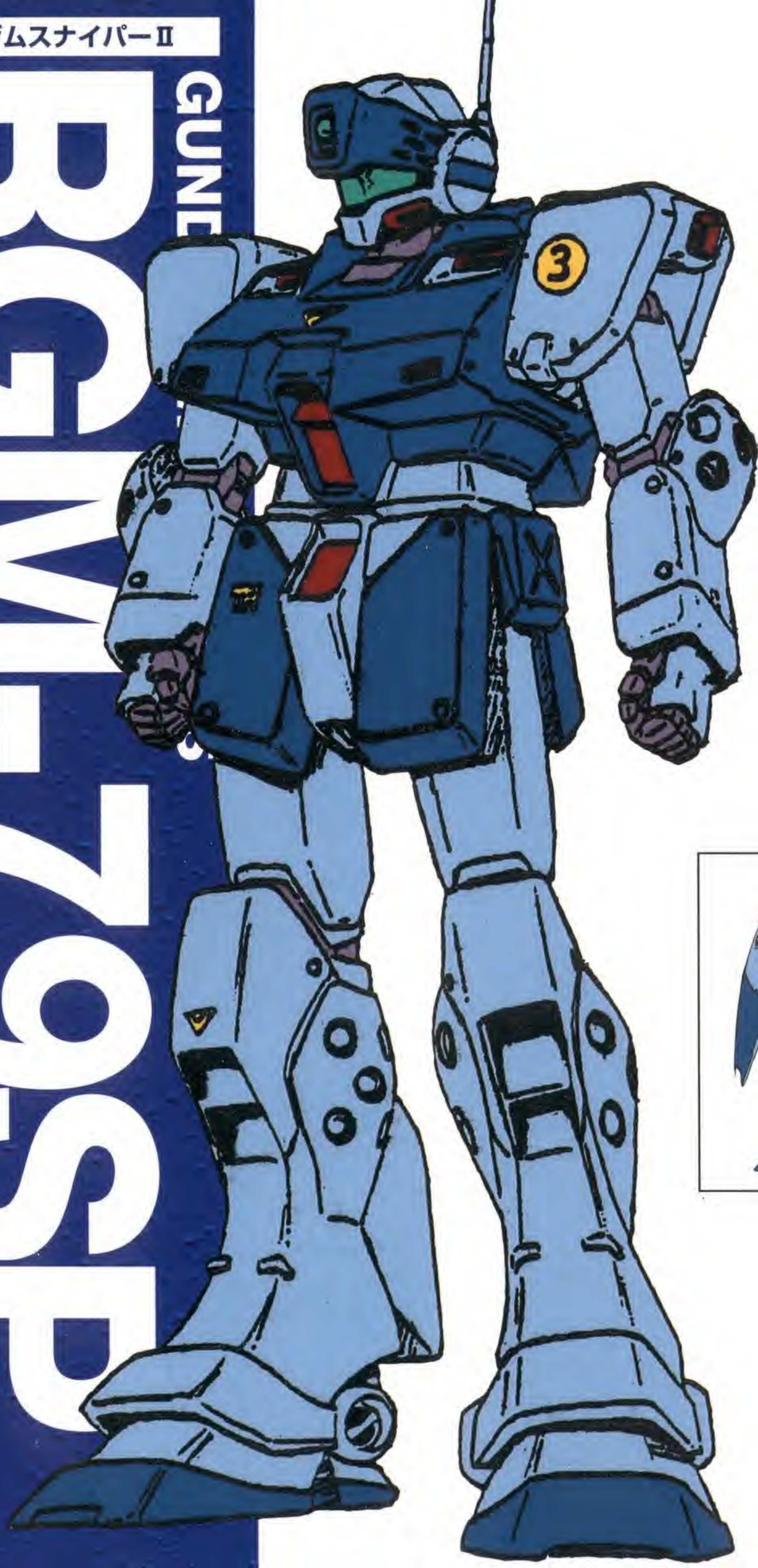


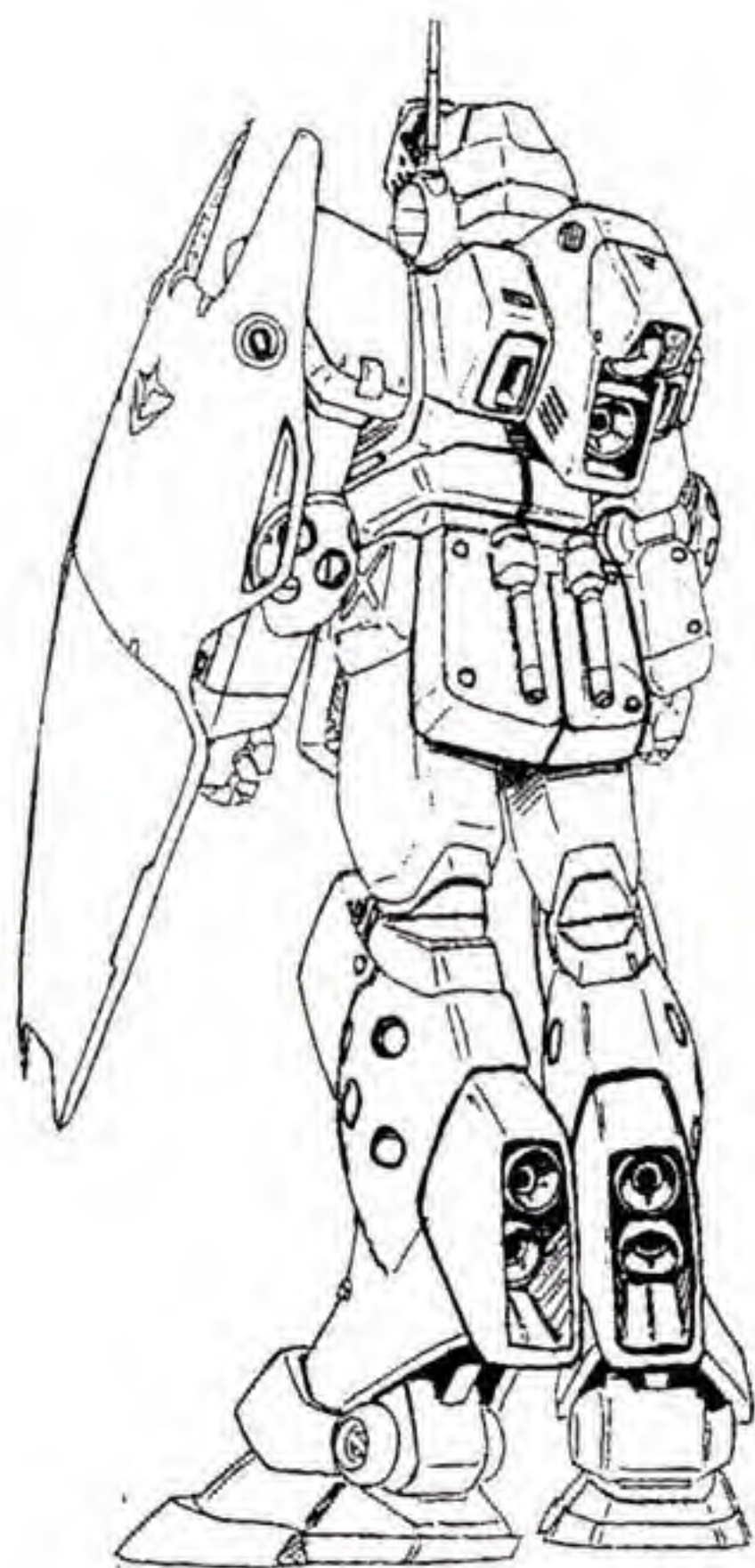
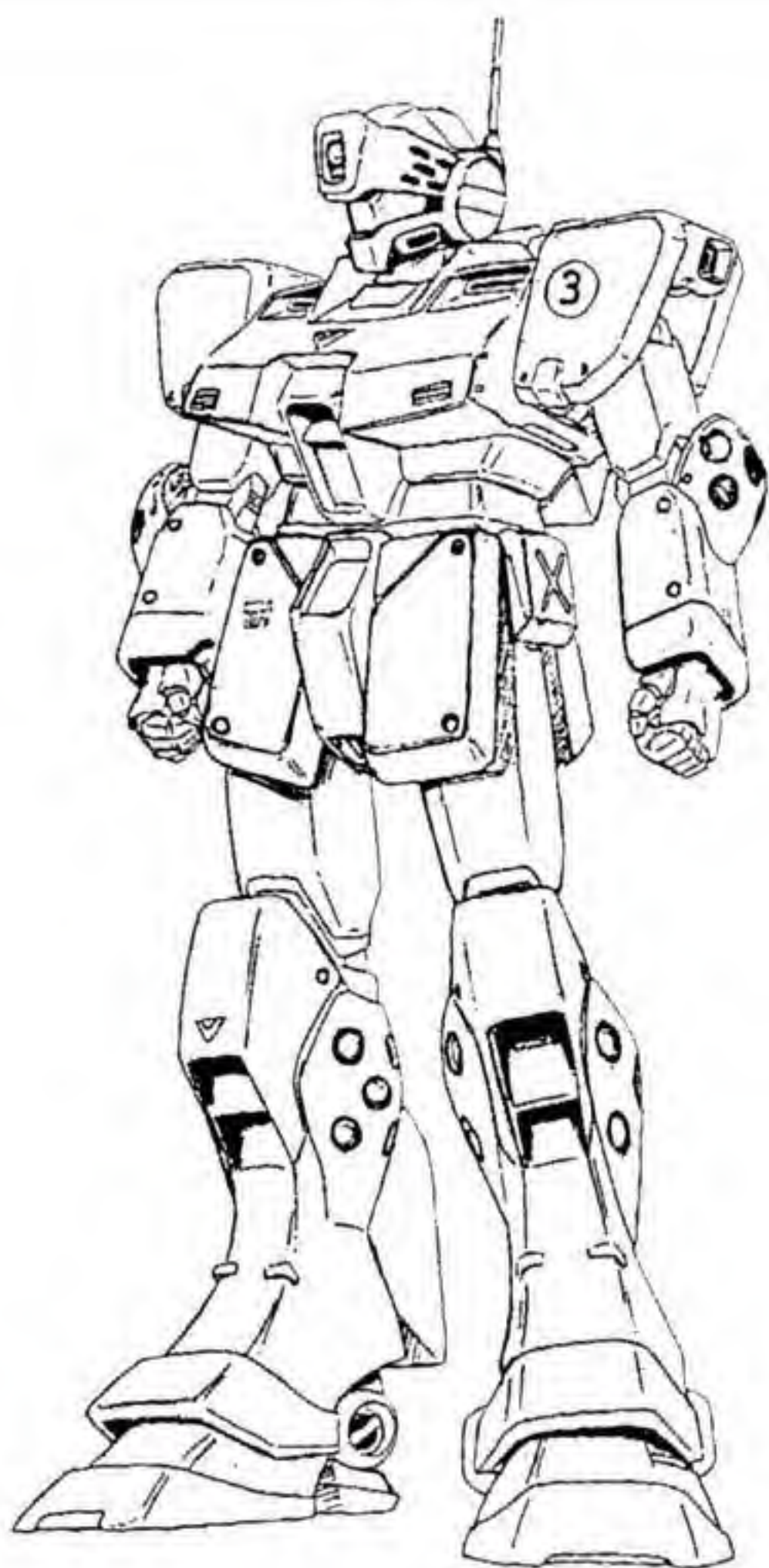
ビームライフル

ジムスナイパーⅡ

GUNPLA

Real Grade





RGM-79SP

ジムスナイパーⅡ

機種分類：汎用量産型MS

製造会社：連邦軍

全高／頭頂高：18.5／18.0m

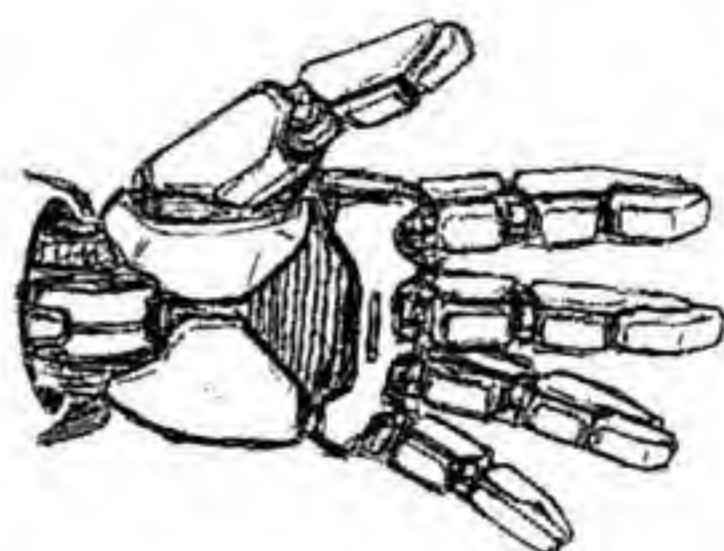
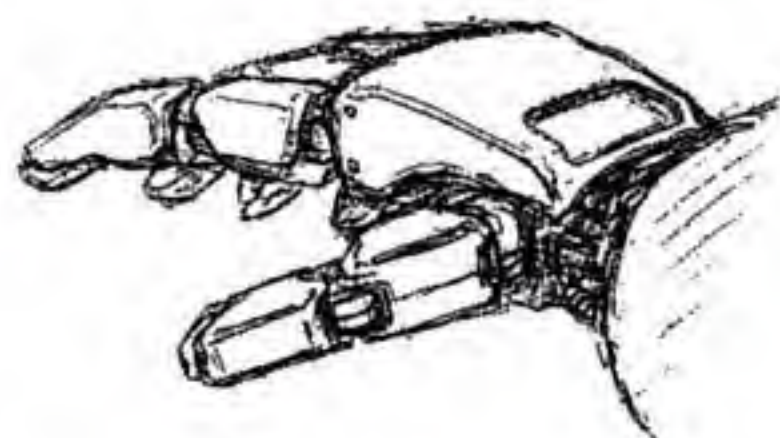
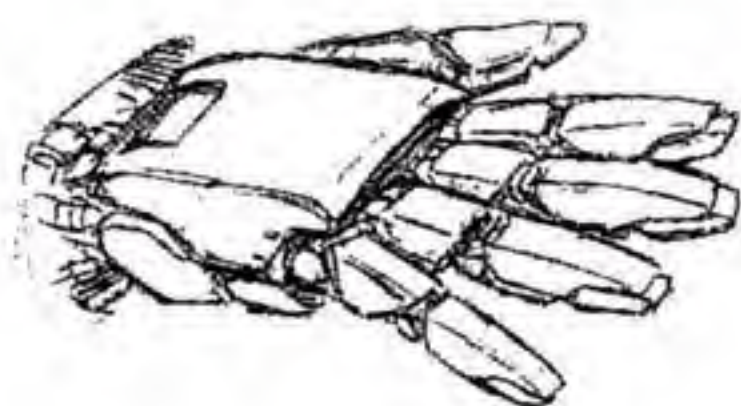
本体／全備重量：45.0／61.0t

ジェネレータ出力：1,390kw

スラスター総推力：102,000kg

センサー有効半径：8,700m

●ジムの性能向上機である「RGM-79SCジムスナイパーカスタム」をさらに改良・強化したのが、この「RGM-79 SPジムスナイパーⅡ」である。高性能化するジオン軍のMSに対抗するため、機体ポテンシャルの限界まで性能が引き上げられている。遠距離狙撃を可能とするため、特徴的な頭部のバイザーには精密射撃用のレーザーセンサーと電子光学式高倍率カメラを装備。装甲材の一部にはルナチタニウム合金を使用し、スラスターも大型で大推力のものに換装されている。ビームライフルも装備可能であり、攻撃力・防御力・機動力のどれにおいてもジム・シリーズ中で最高級の性能を誇る。しかし、生産が大戦末期だったことやその高コストが災いし、生産数は非常に少ない。



90mmマシンガン

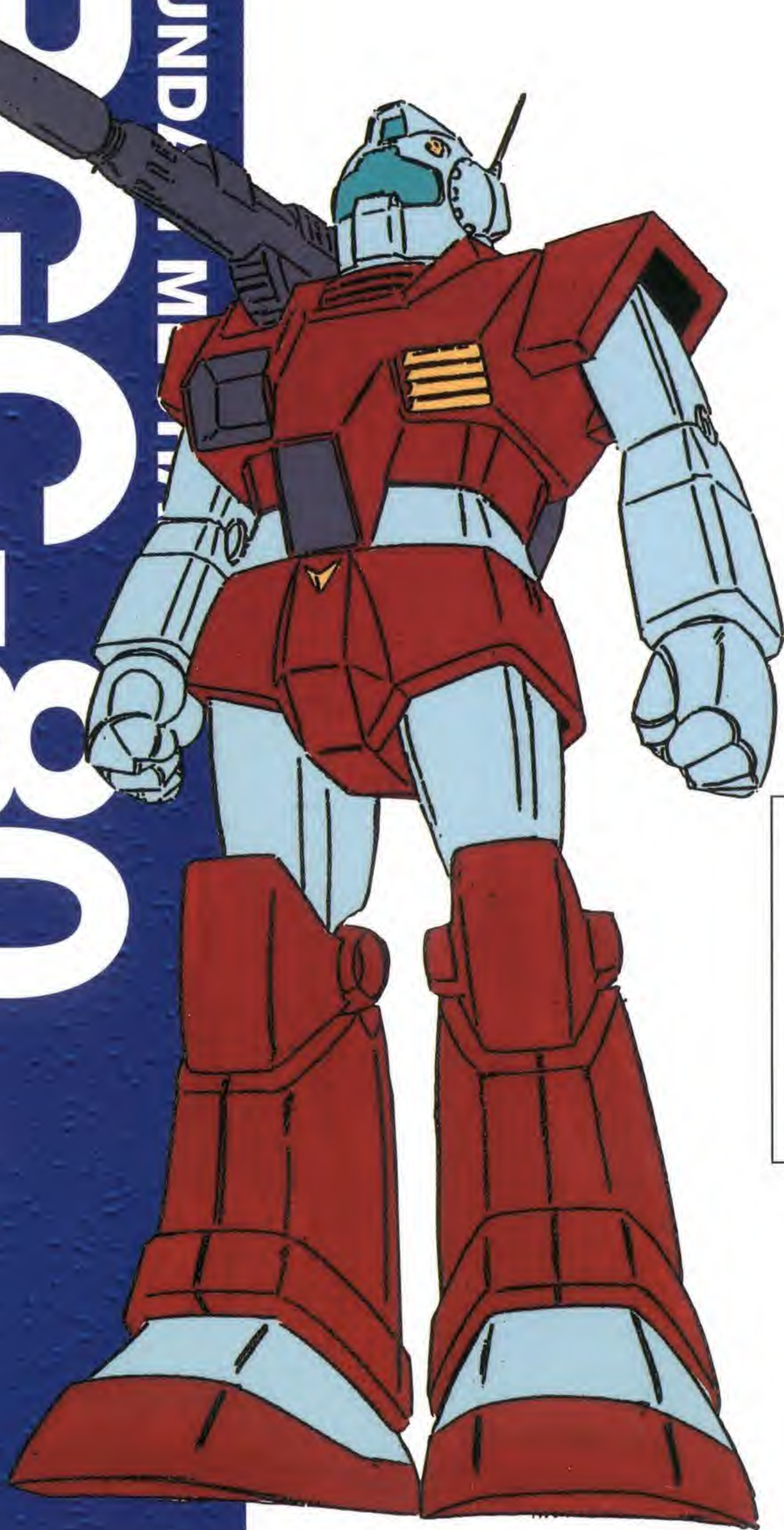


ビームサーベル

ジムキャノン

GUNDAM MECHANICS

RG-80



RGC-80

ジムキャノン

機種分類：中距離支援用量産型MS

製造：連邦軍

全高／頭頂高：18.4／18.0m

本体／全備重量：49.9／65.3 t

ジェネレータ出力：976kw

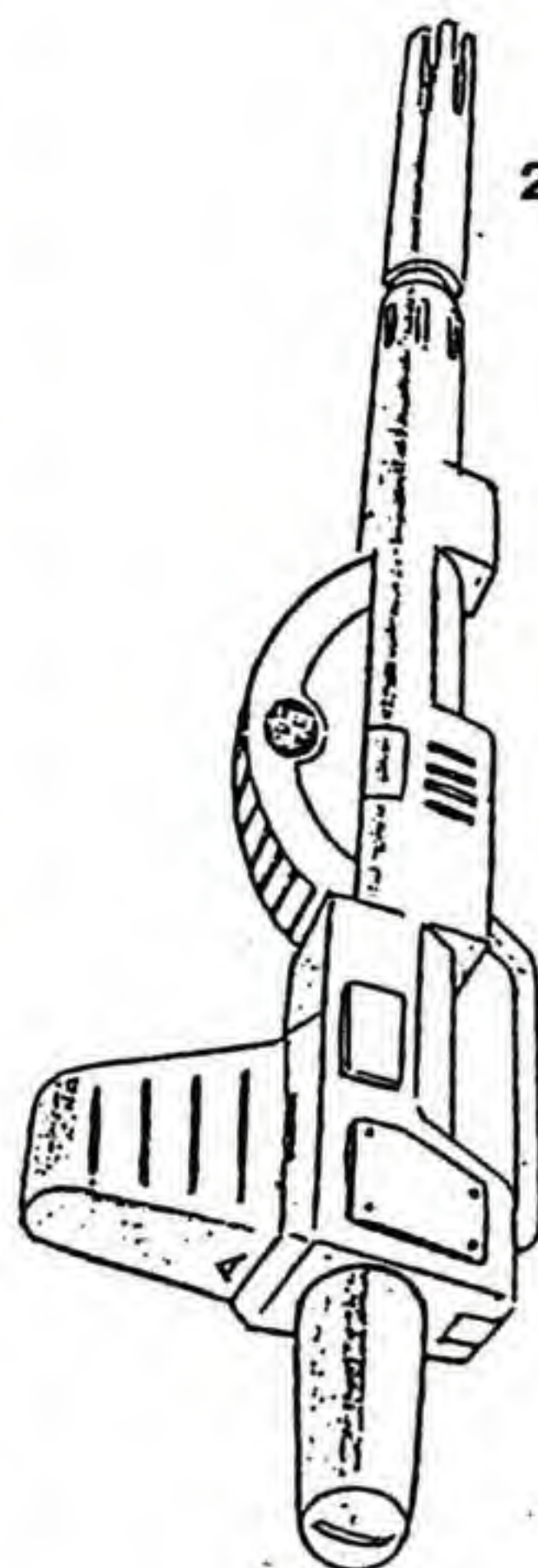
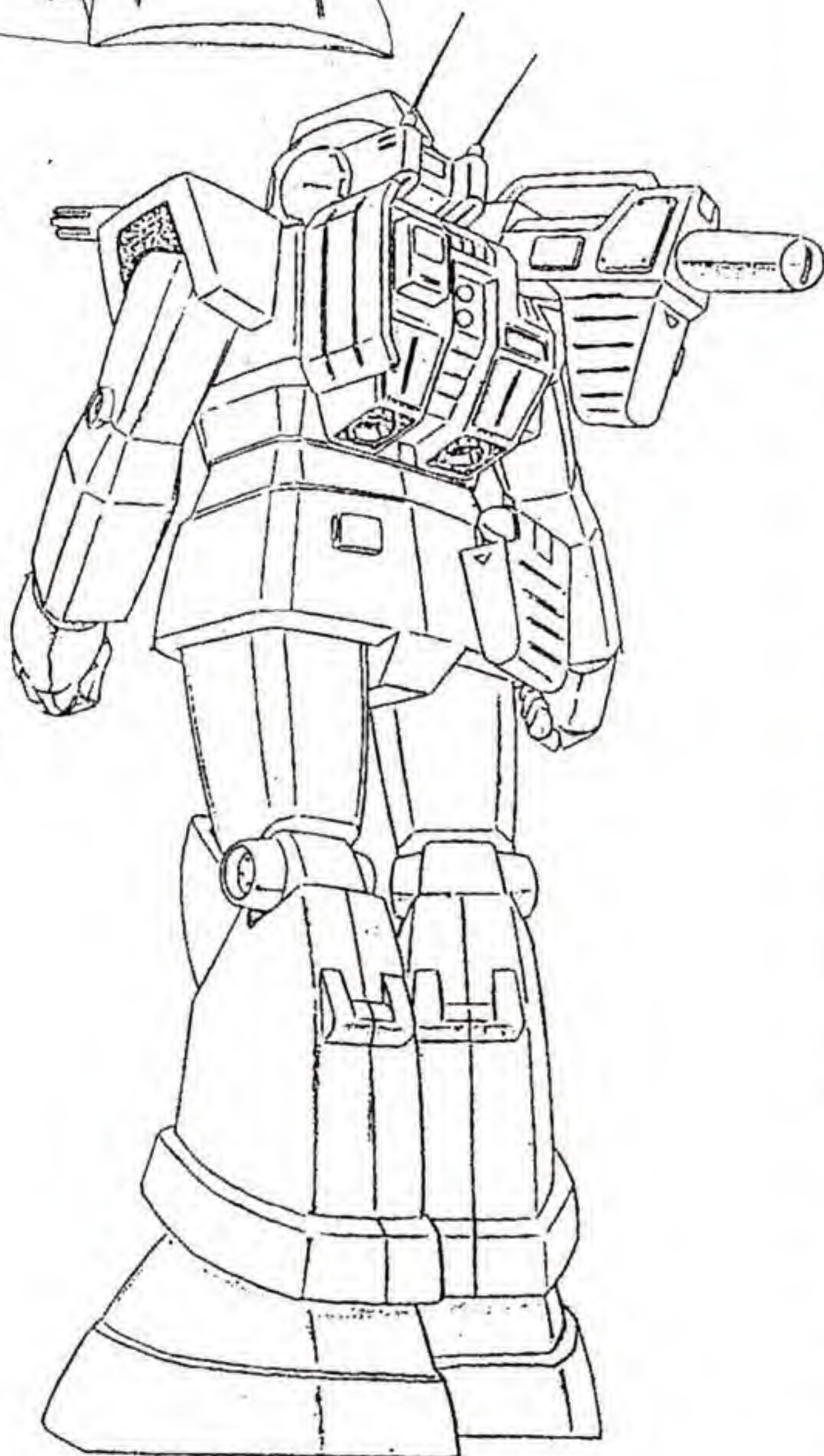
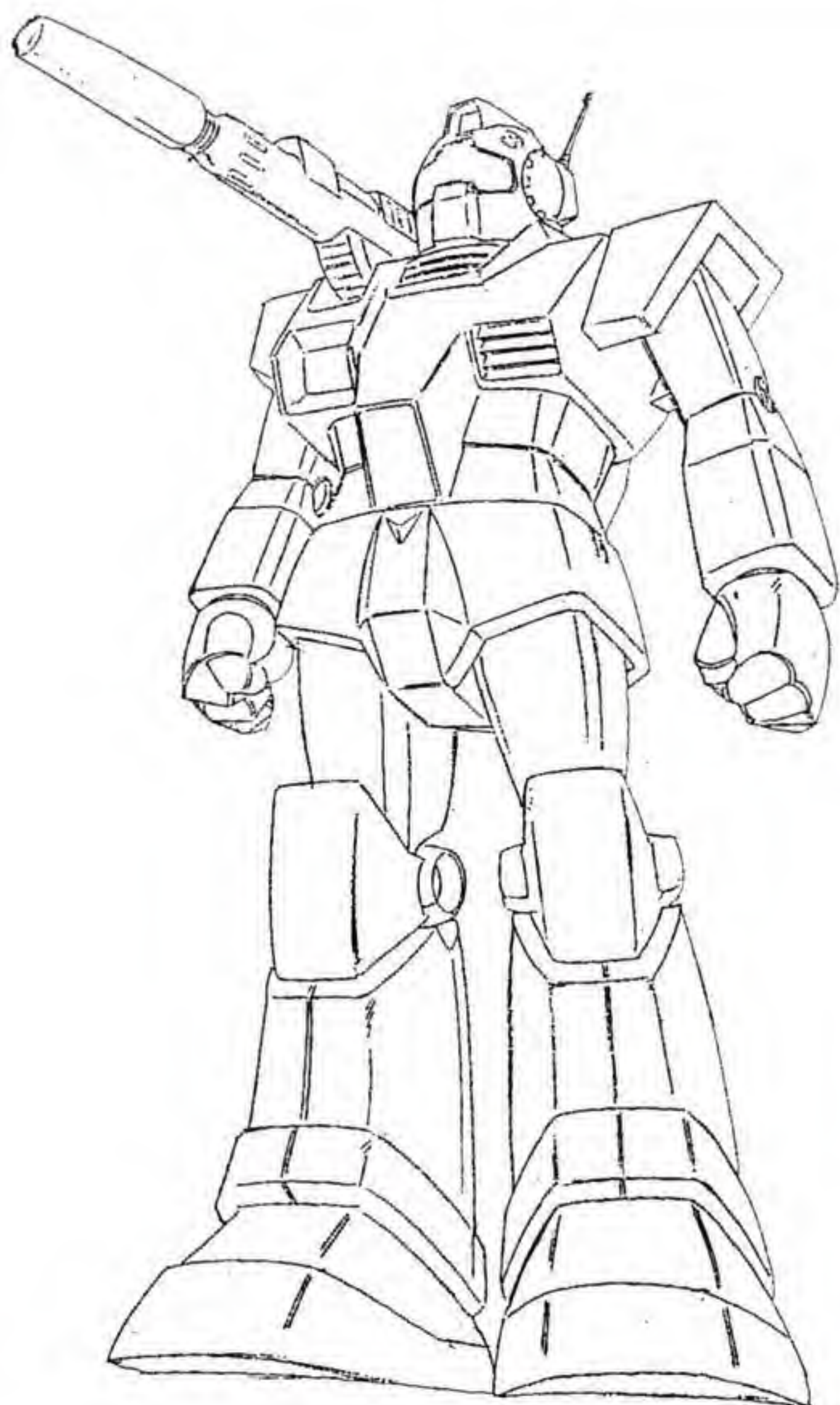
スラスタ総推力：63,500kg

センサー有効半径：6,000m

●高価で生産効率の悪い「RX-77ガンキャノン」の代替機として開発された砲撃戦用の量産型MS。

機体は「RGM-79ジム」をベースに装甲の一部が強化され、右肩には240mmキャノンが1門装備されている。そのほかの武装は基本的にジムと共通だが、中距離での支援攻撃を主任務とするため、ビームサーベルなどの格闘戦用の武装は装備されていない。

大戦末期に完成したジムキャノンは、ヨーロッパ戦線やアフリカ戦線を中心に先行生産型が配備され、ジオン軍残存兵力の掃討作戦では一定の戦果を上げた。しかし、機体バランスに欠陥が発見され量産を見送られたため、活躍の期間は短かった。



240mmキャノン

ザクI

GUNDAM

MS-06b



MS-05B

ザクI

機種分類：汎用量産型MS

製造会社：ジオニック社

全高／頭頂高：17.5／17.5m

本体／全備重量：50.3／65.0 t

ジェネレータ出力：899kw

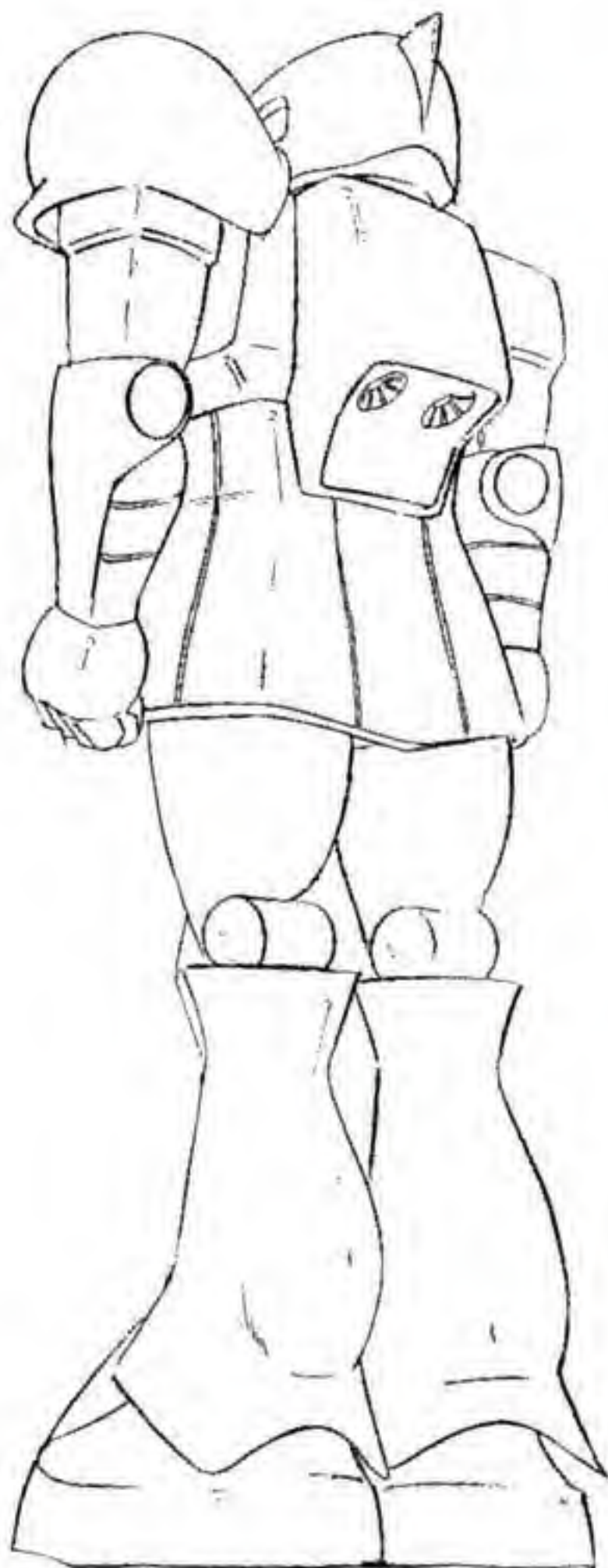
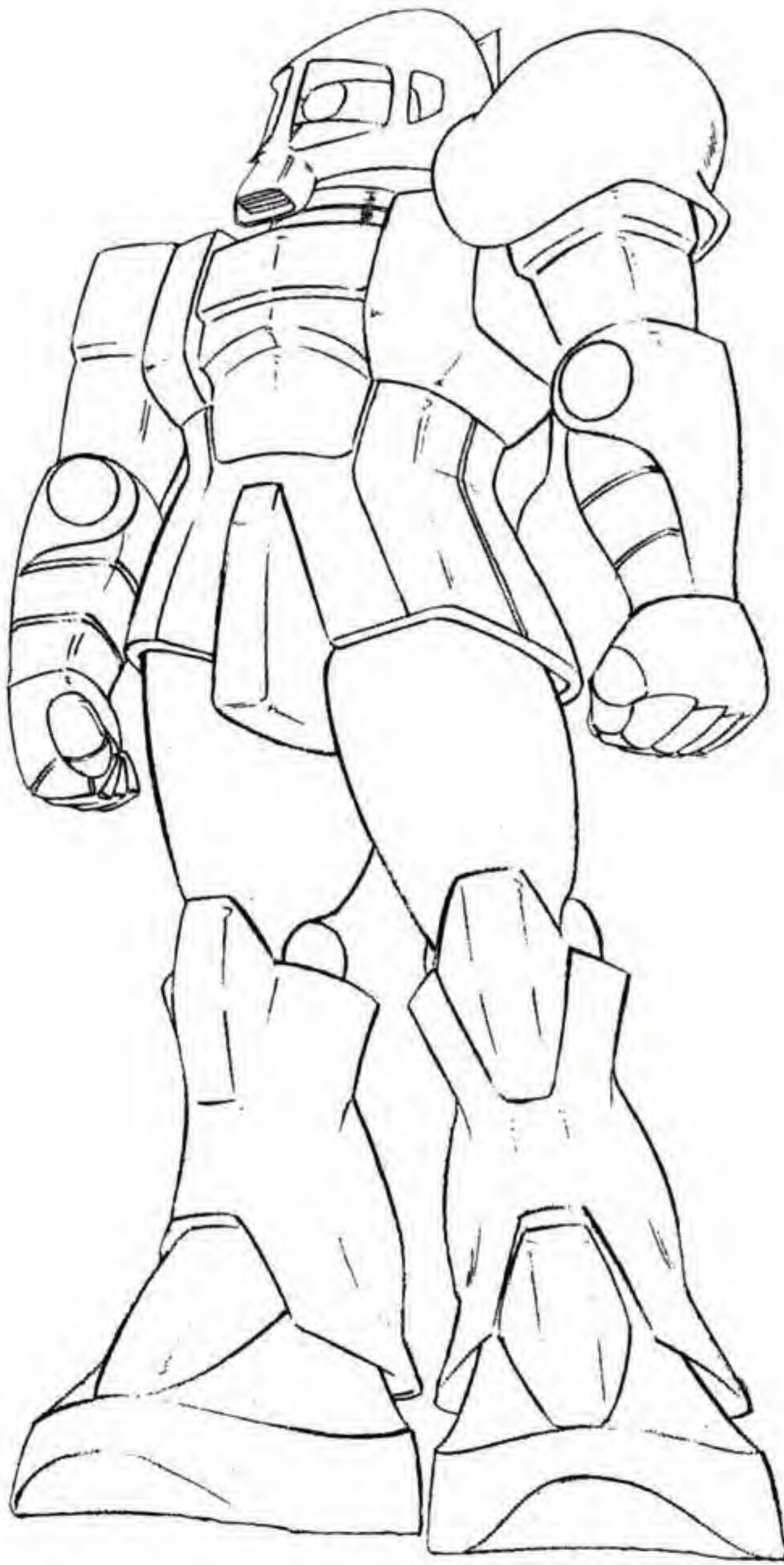
スラスター総推力：40,700kg

センサー有効半径：2,900m

●ジオン公国で最初に完成した実戦型MS。一年戦争時、傑作機と言われた「MS-06ザクII」の原型となった。

動力伝達系や推進剤搭載量など問題も多いが、小型熱核反応炉を搭載した人型機動兵器を史上初めて実用化したジオニック社の功績は大きい。この「MS-05」の生産は0075年よりジオン本国で極秘裏に進められ、ジオン軍は同年11月には教育機動大隊を編成、MSパイロットの育成が開始された。

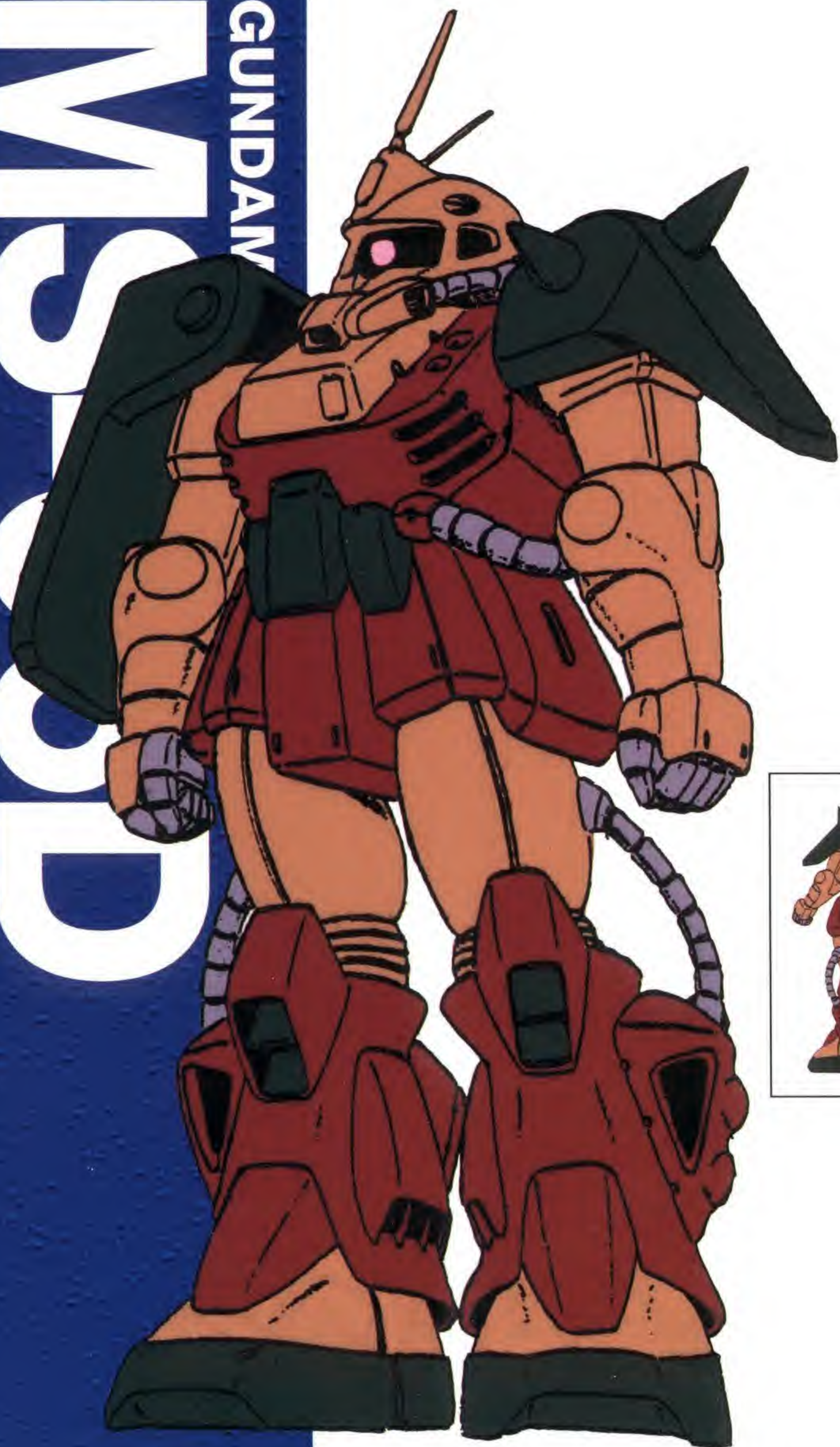
一年戦争開戦時には、「MS-06CザクII」とともに多数の機体が作戦に参加しているが、主力機はすでに「MS-06」に移っており、「MS-05」はすでに一世代前の旧式機となっていた。その後、新型機が配備されるにつれ、「MS-05」は後方部隊や補給部隊に回されるようになっていった。

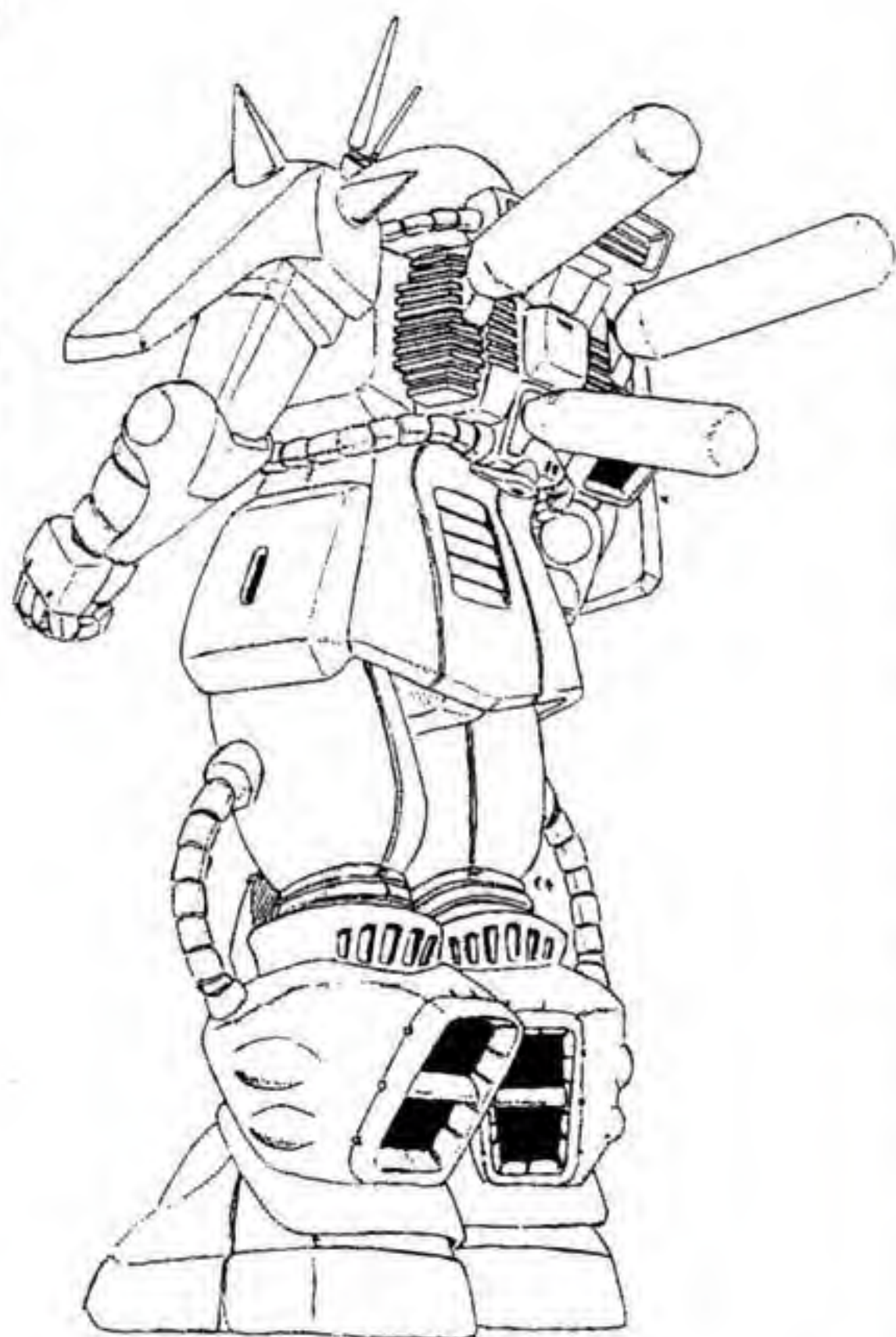
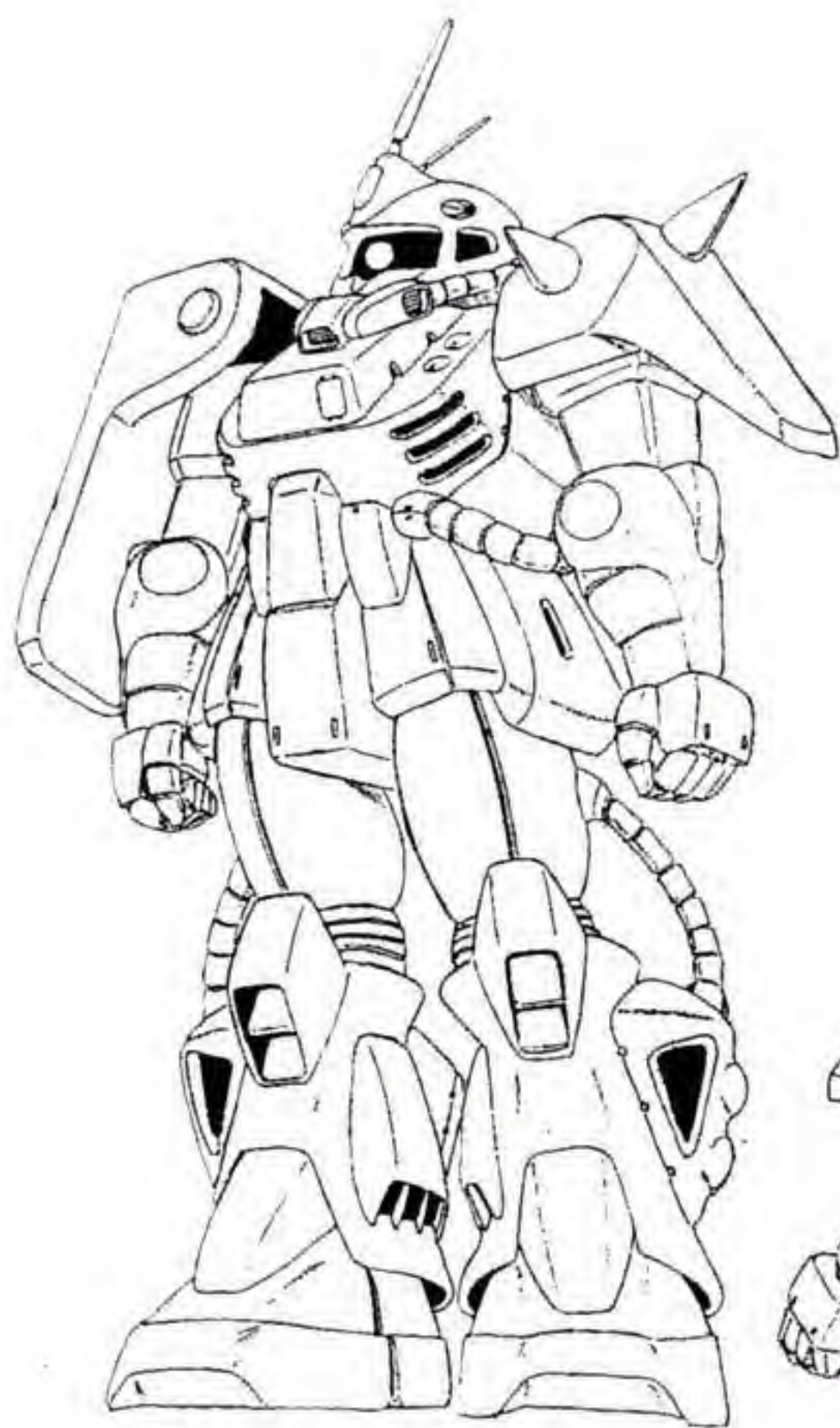


ディザートザク

GUNDAM

MS





MS-06D

ディザートザク

機種分類：砂漠用生産型MS

製造：ジオニック社

全高／頭頂高：18.2／17.5m

本体／全備重量：61.3／79.4 t

ジェネレータ出力：976kw

スラスター総推力：42,900kg

●ザクⅡの局地戦仕様機。

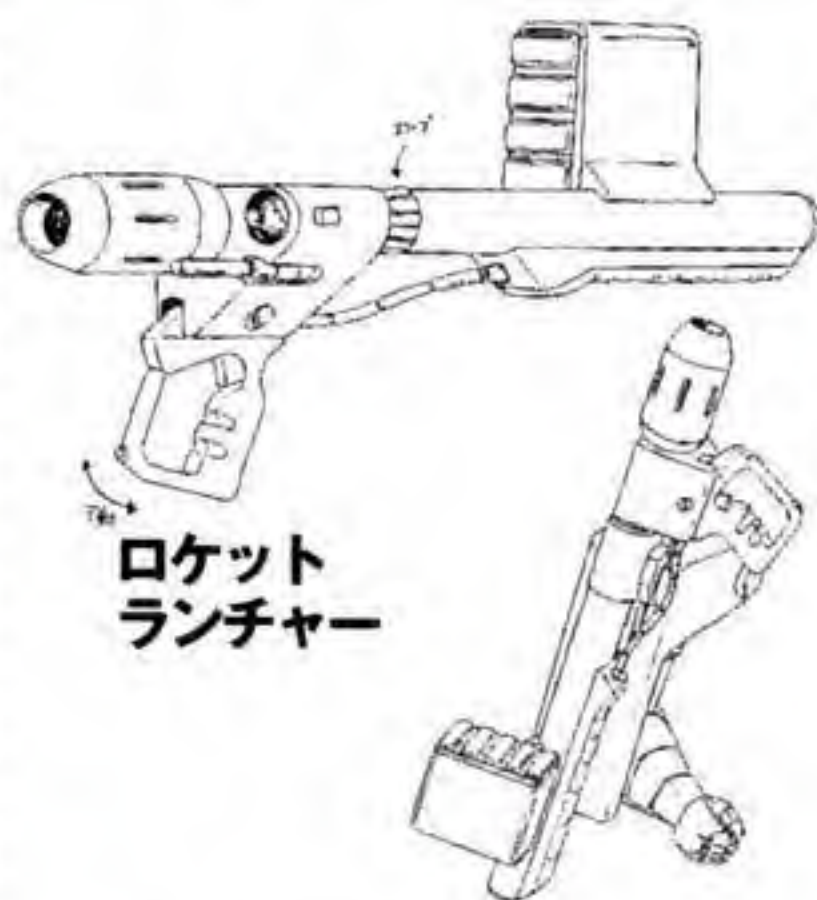
地球侵攻作戦を敢行したことにより、ジオン軍の戦線が地上へと拡大した。これにより、陸戦用・局地戦用MSの重要度は高まり、中でも前線部隊からの熱帯・砂漠戦用タイプへの要望は強かった。

「MS-06Dザクデザートタイプ」は、砂漠地域で運用するため、まず装甲の強化と機体各所の防塵処理が行なわれた。また、動力システムの冷却も従来の空冷式では不十分なため、水冷式等が検討された。

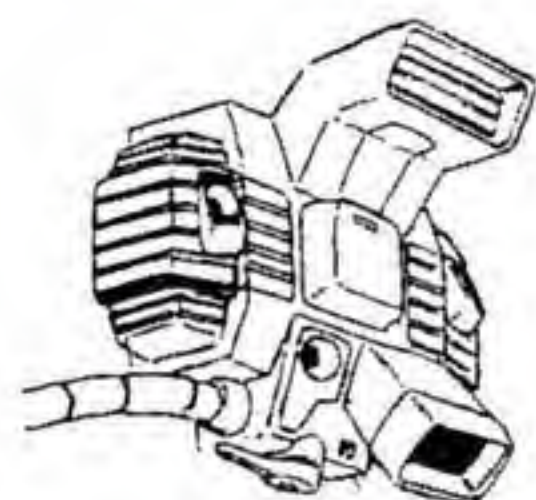
ロールアウトしたD型は、通常のザクに比べて角ばった印象の機体となった。配備はアフリカ戦線を中心に行なわれ、「MS-09ドム」が行き渡らない地域では、その代役を果たした。「MS-06D」は大戦中に約70機ほどが生産され、戦後もアフリカ各所に潜伏したジオン残党により使用された。0088年の「第1次ネオジオン抗争」時にも、小改造を受けたD型は「ディザートザク」と呼ばれ、運用されていたのである。



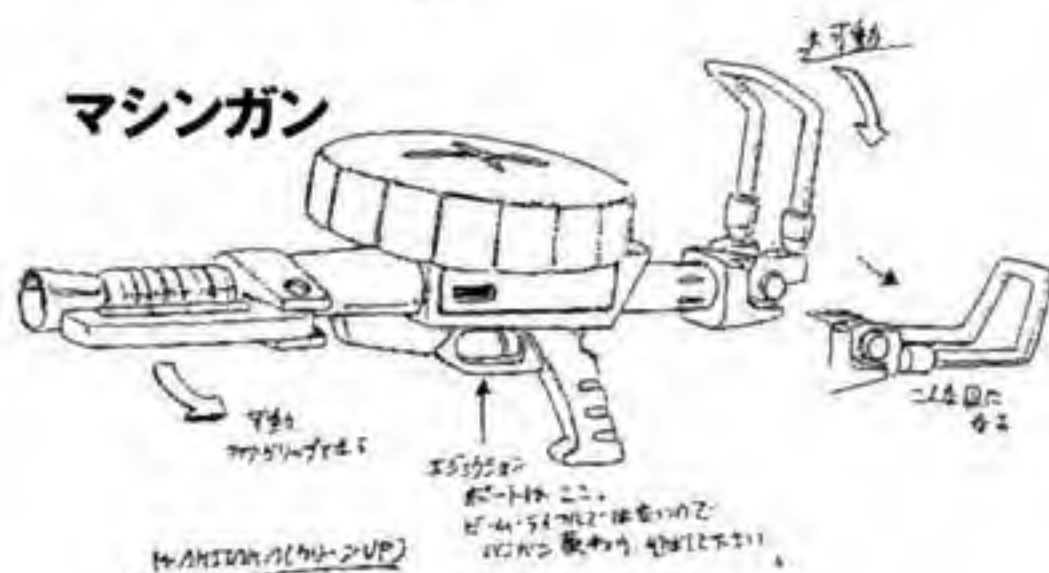
シールド



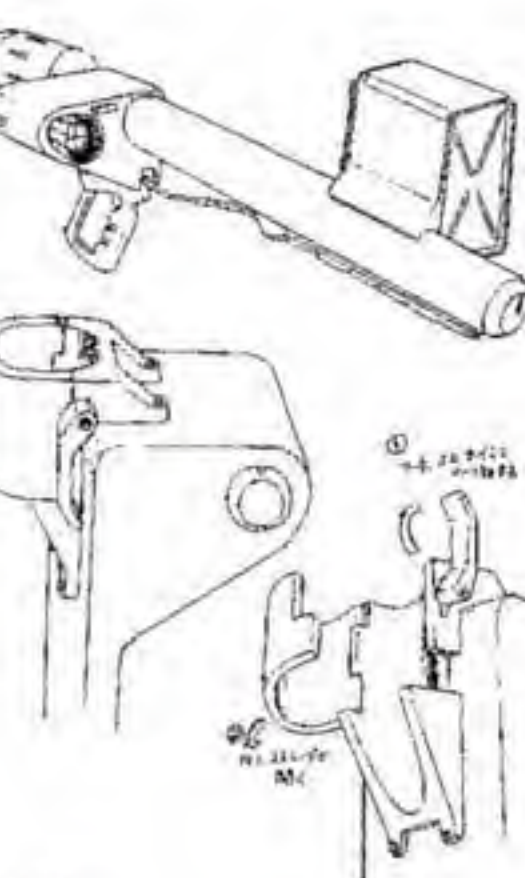
ロケットランチャー



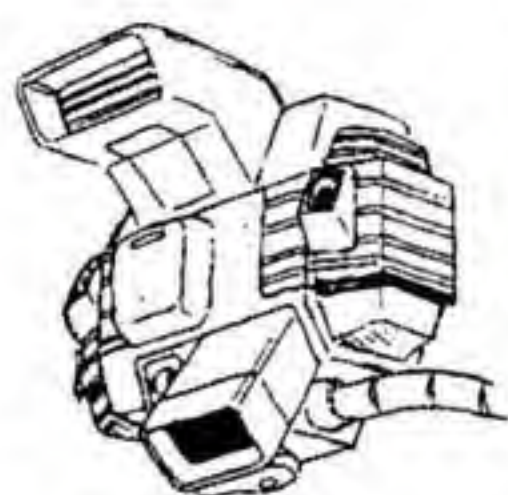
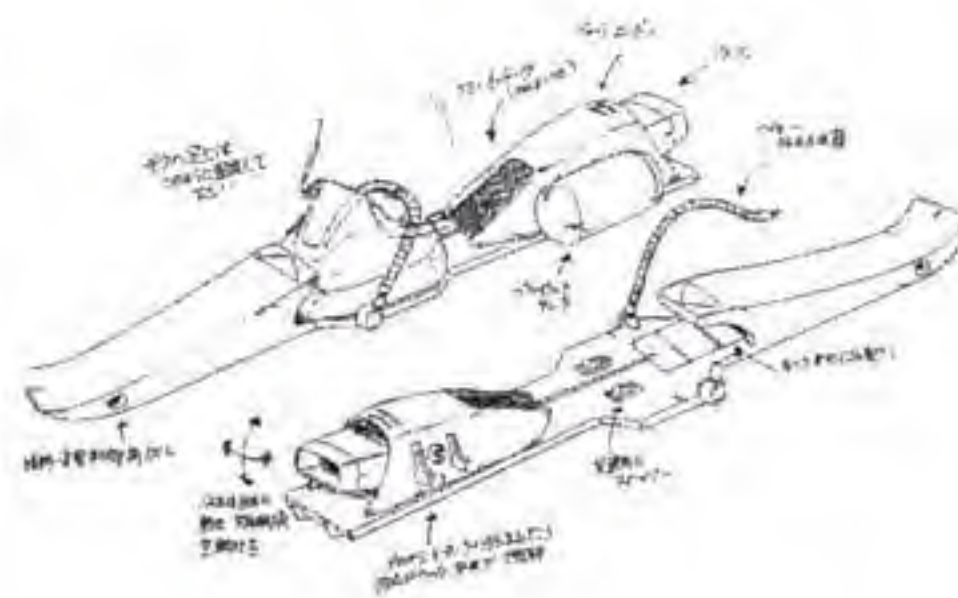
マシンガン



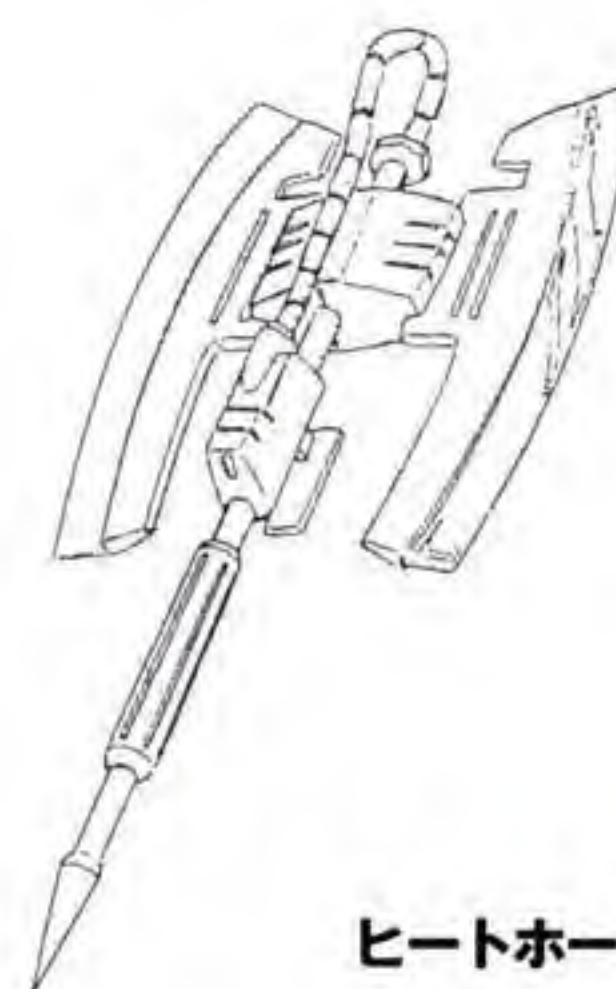
クラッカー



ジェットスキー

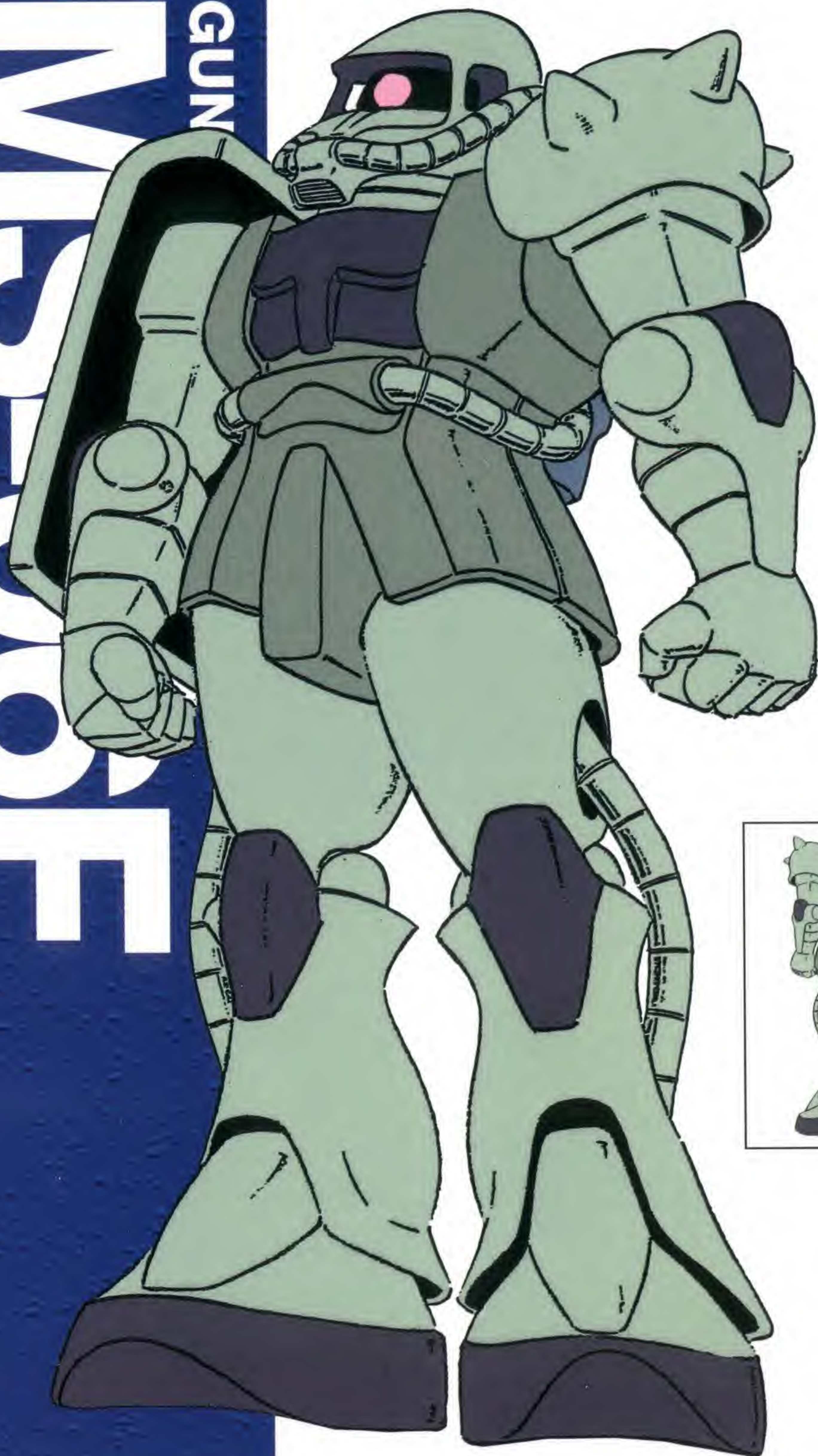


ヒートホーク



ザクⅡ

GUN



MS-06F

ザクⅡ

機種分類：汎用量産型MS

製造会社：ジオニック社

全高 頭頂高：17.5 17.5m

本体 全備重量：58.1 73.3 t

ジェネレータ出力：951kw

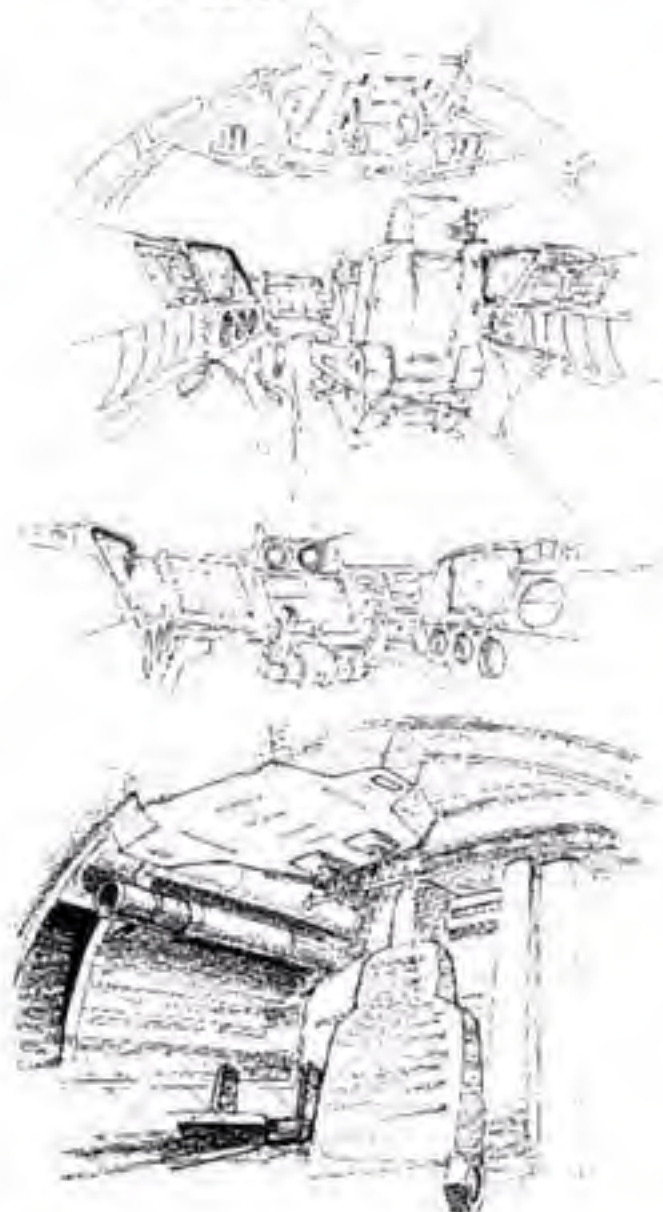
スラスタ総推力：43,000kg

センサー有効半径：3,200m

●「MS-06ザクⅡ」シリーズは、ジオン軍を代表するMSで、汎用性、拡張性、生産性をあわせ持つ非常に完成度の高い機体である。一年戦争時、両軍を通しての生産機数も、ザクタイプが一番多い。

このF型は、大戦時に量産された最もベーシックなタイプの機体で、宇宙・地上ともに運用が可能である。F型以前は、対核（放射能）用の装備が施された「C型」が量産されていたが、南極条約締結により核兵器の使用が禁止されたため、以後の量産は対核装備を排除したF型に移行された。120mmマシンガン、280mmバズーカ、ヒートホークなどさまざまな武装が用意されており、任務内容によってそれらの装備を使い分けることのできる高い汎用性を有している。その後、多くの新型機が配備されるにつれ旧式化していったものの、高い信頼性を持つF型は終戦まで多くの兵士に支持され続けた。

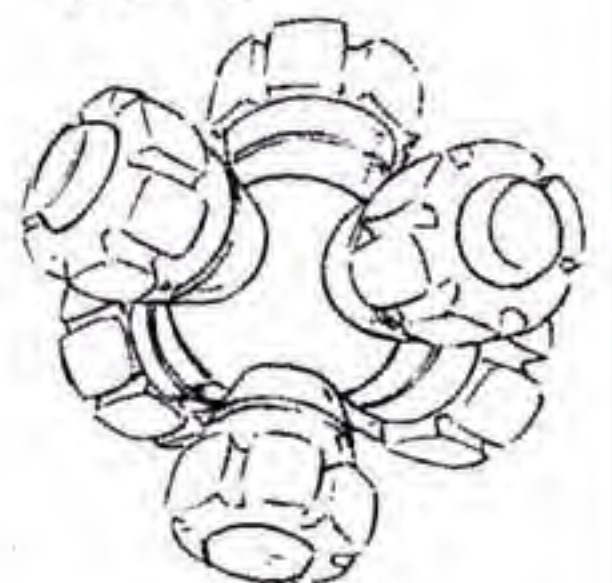
コクピット



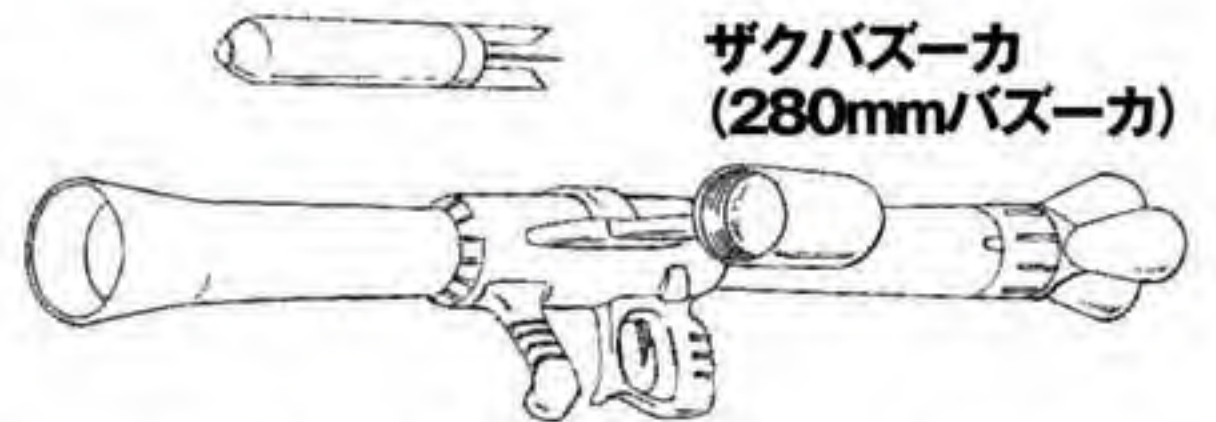
フット
ミサイル



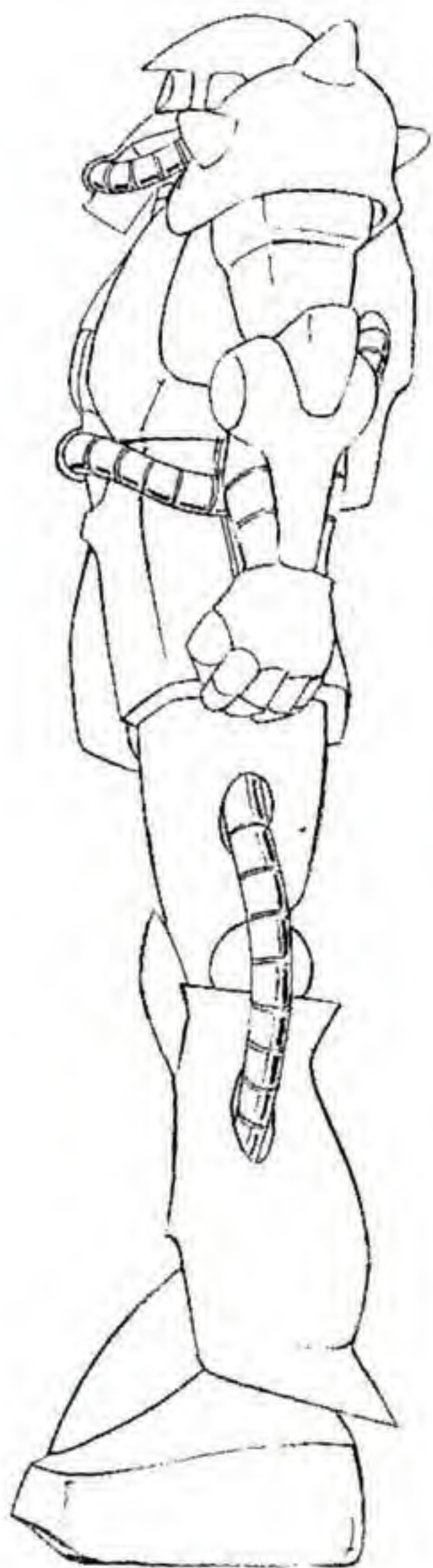
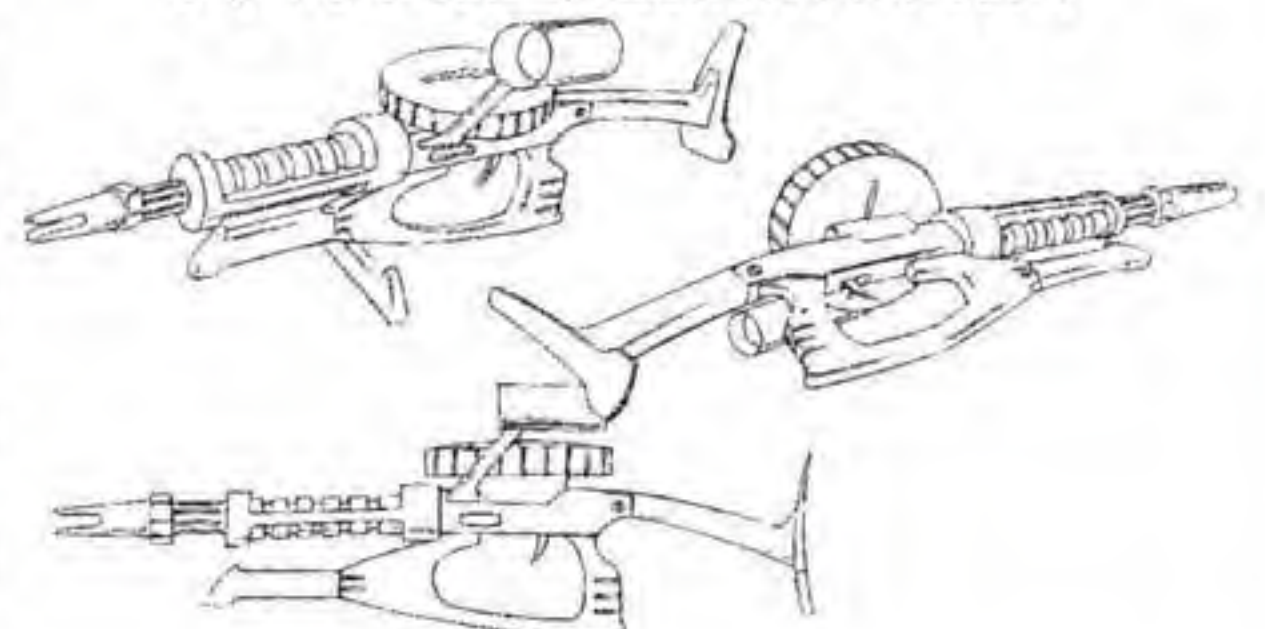
クラッカー



ザクバズーカ
(280mmバズーカ)

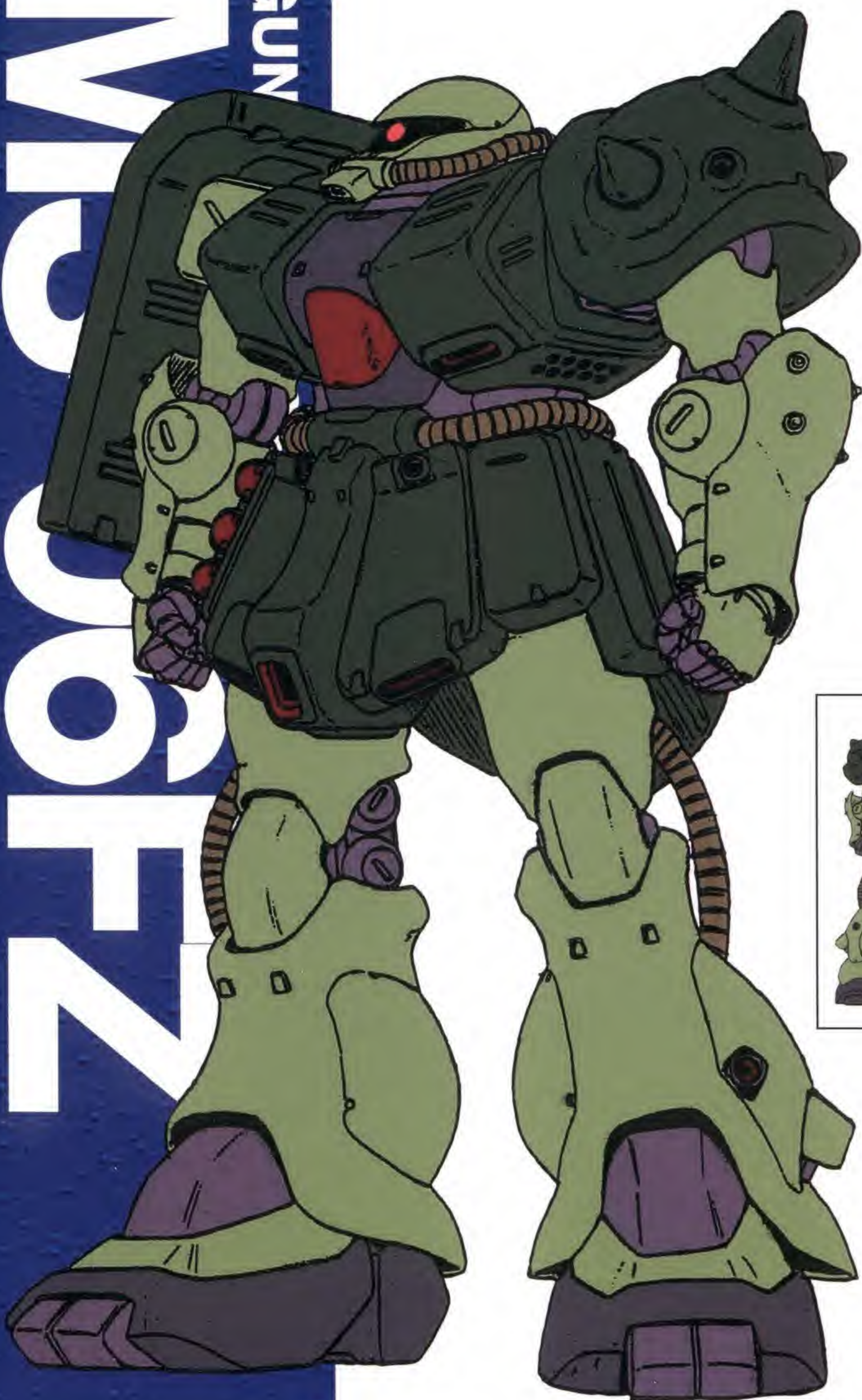


ザクマシンガン (120mmマシンガン)



ザクⅡ改

GUN



MS-06FZ

ザクⅡ改

機種分類：汎用量産型MS

製造会社：ジオニック社

全高／頭頂高：18.0／17.5m

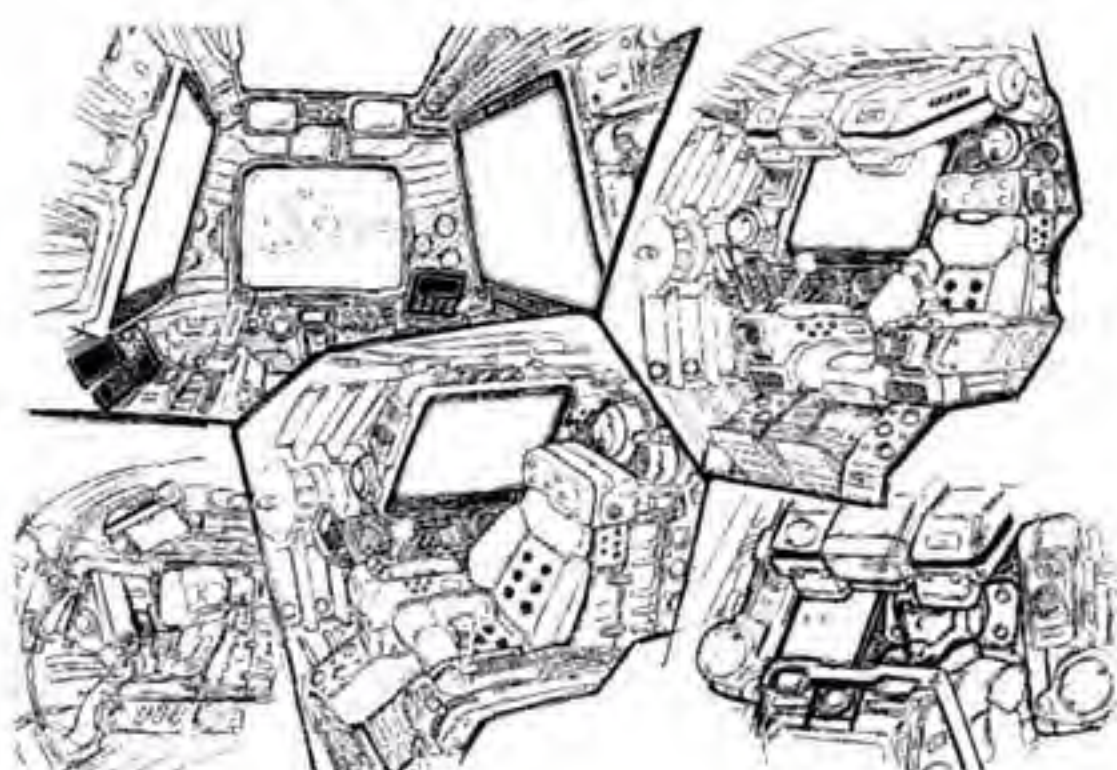
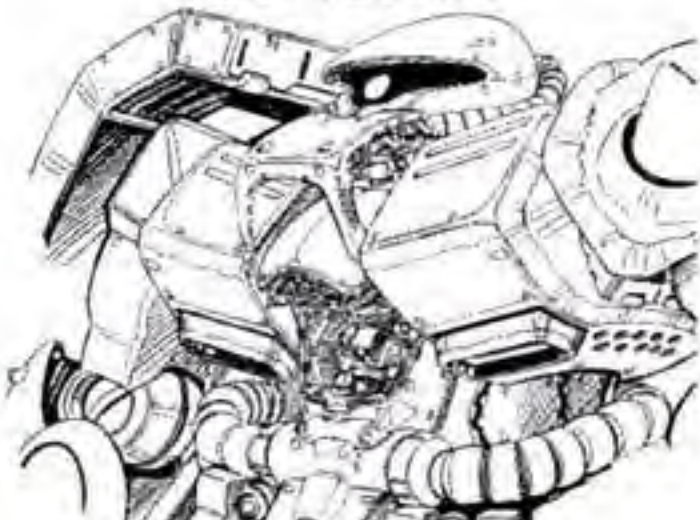
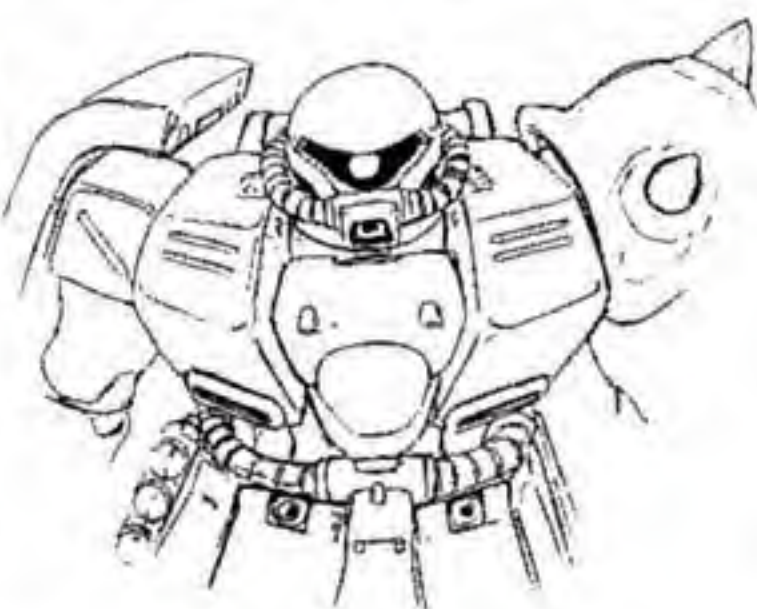
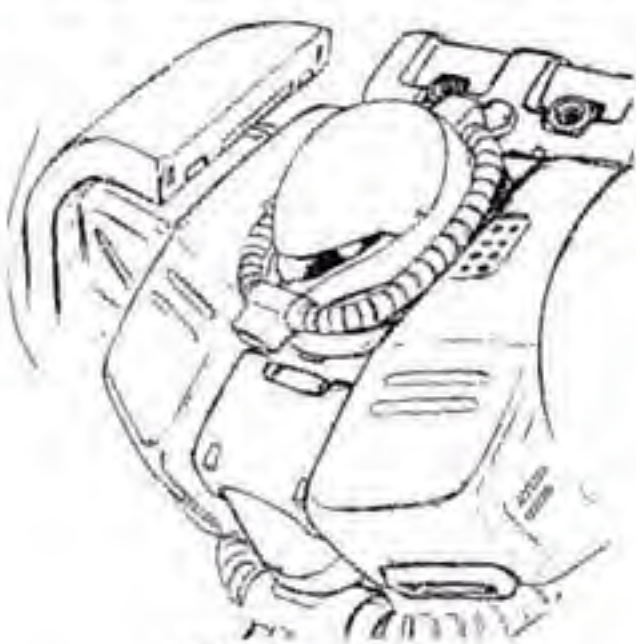
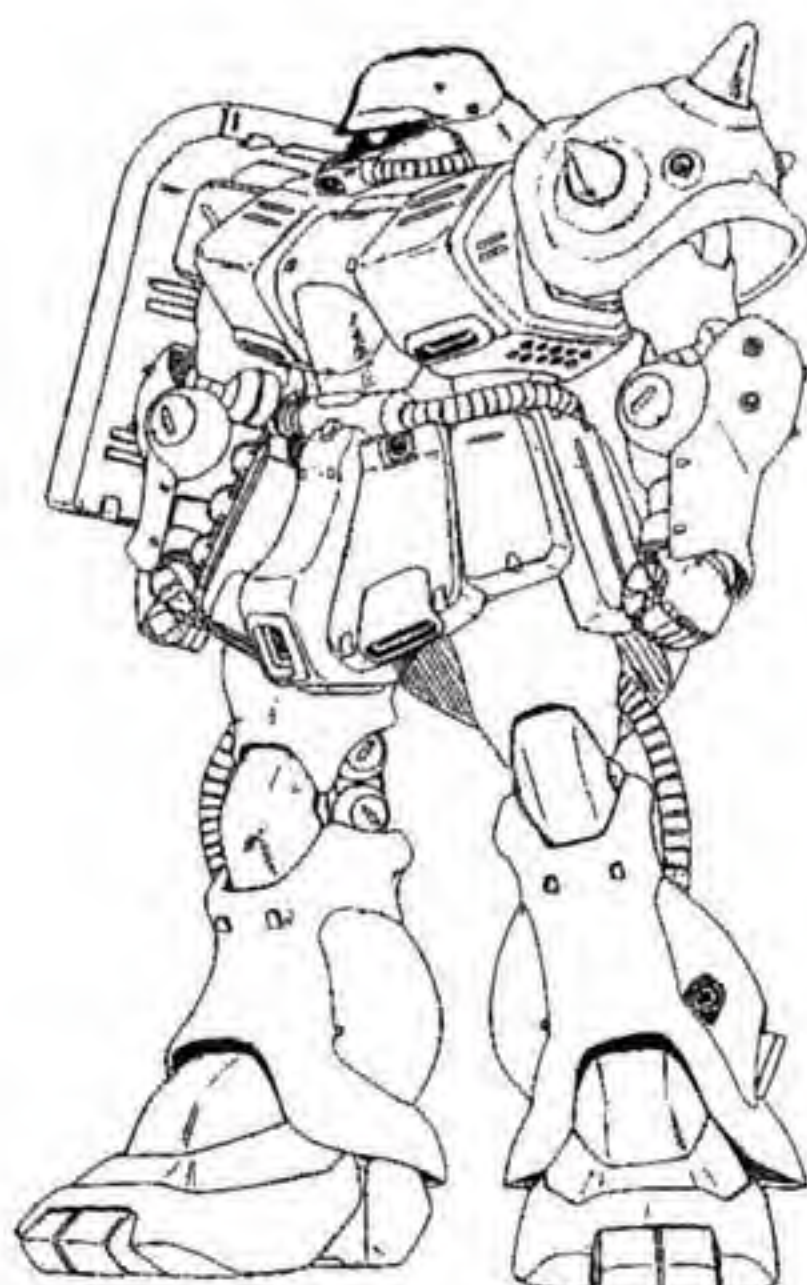
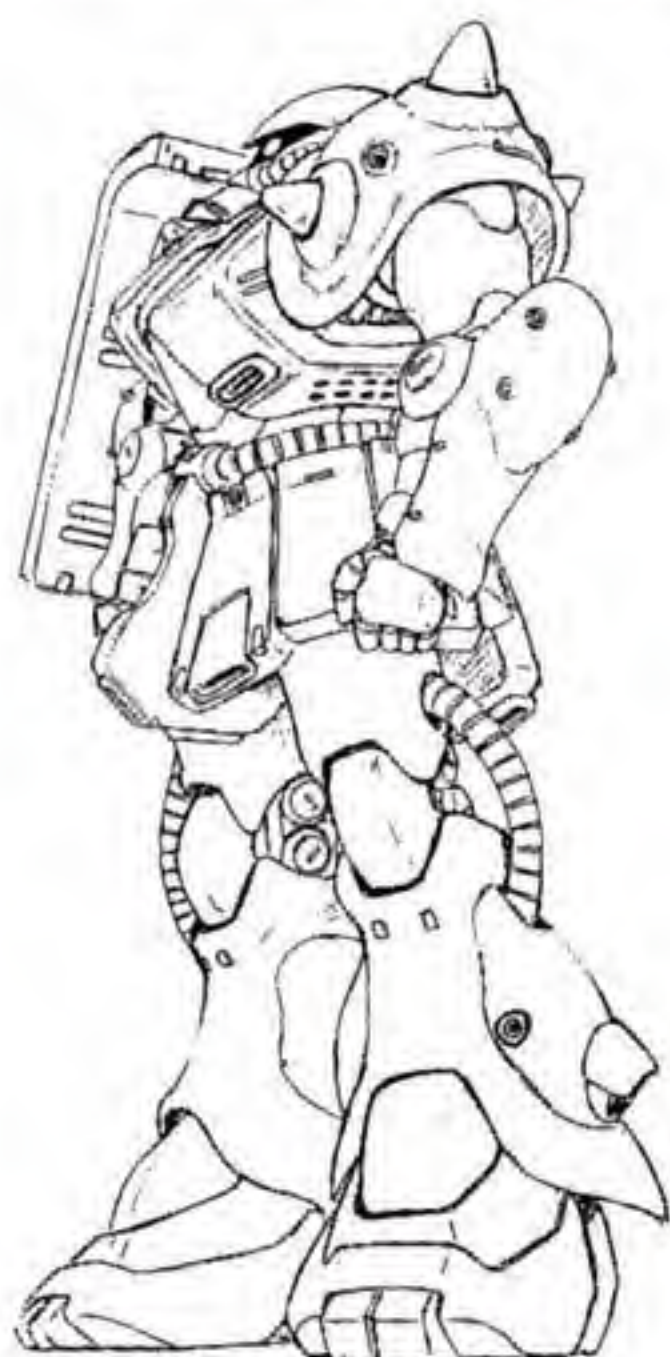
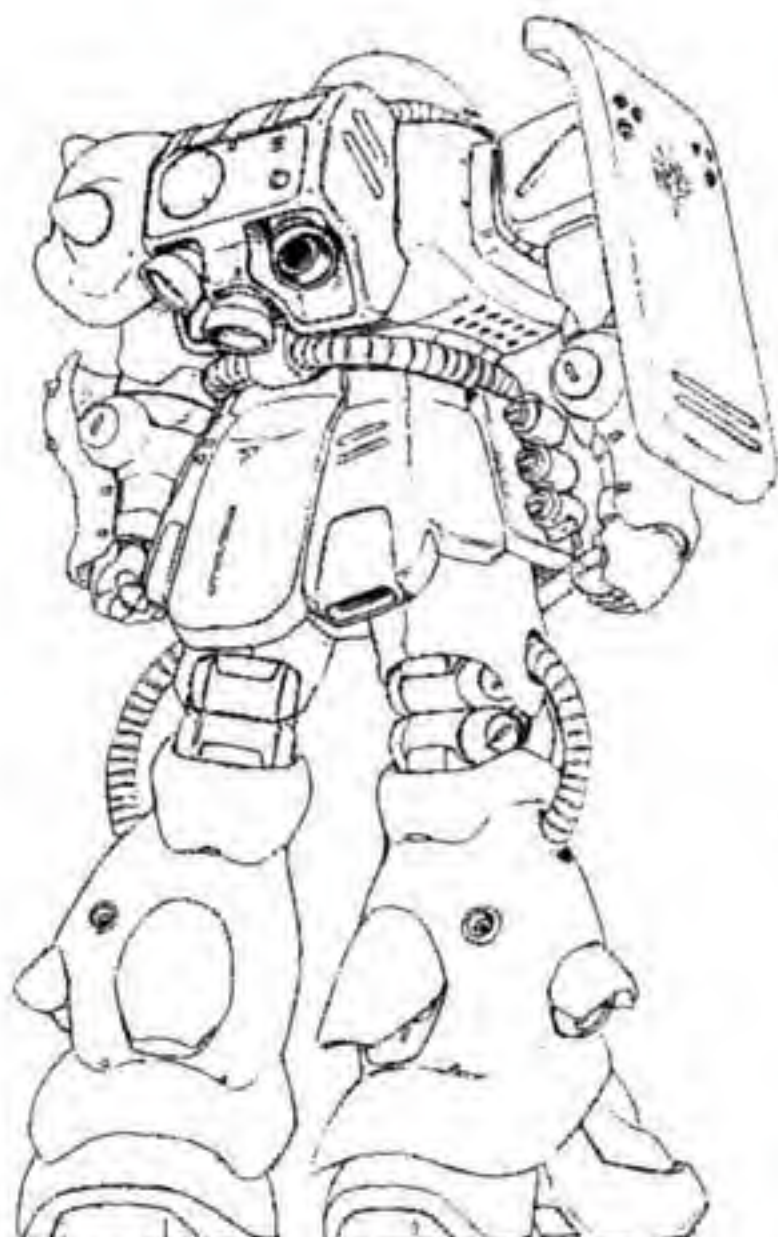
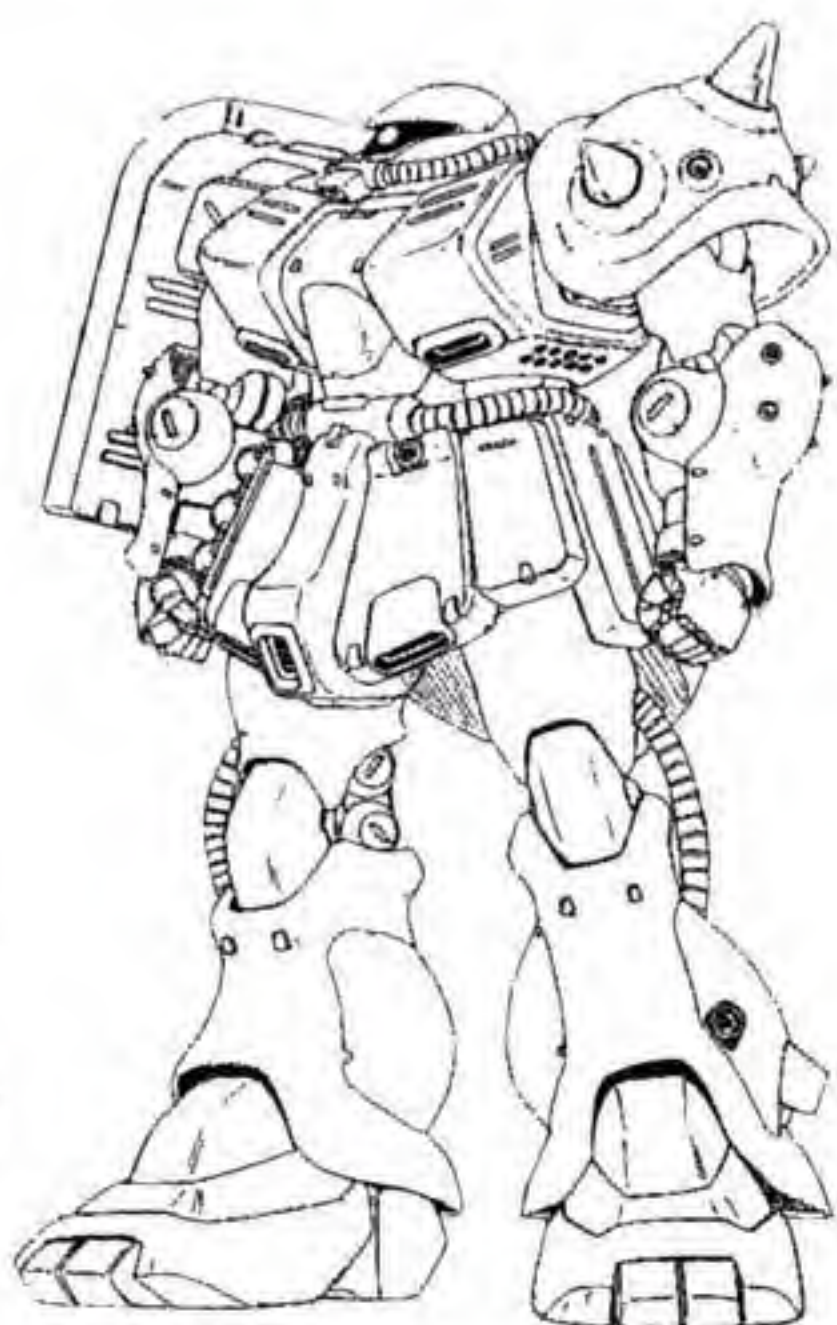
本体／全備重量：56.2／74.5 t

ジェネレータ出力：976kw

スラスタ総推力：79,500kg

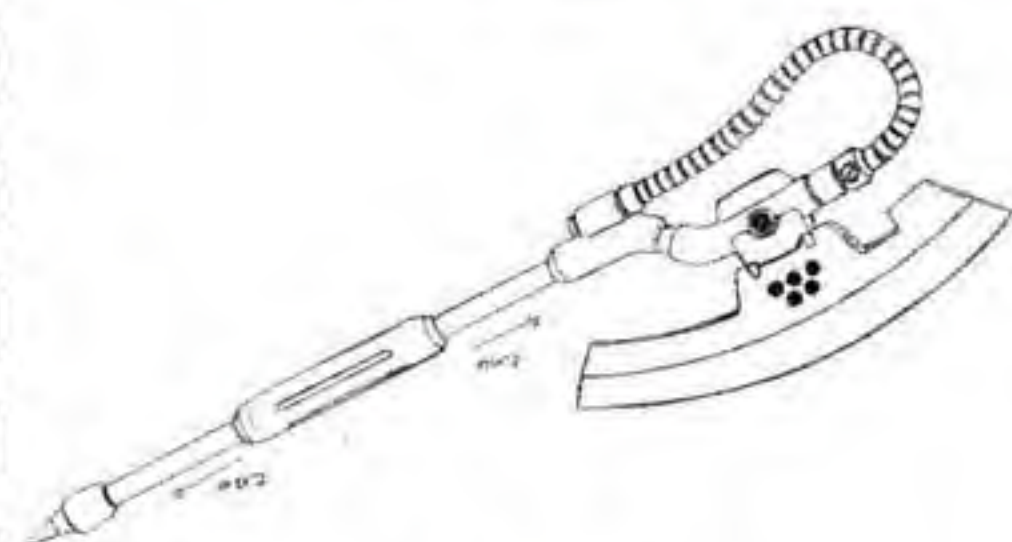
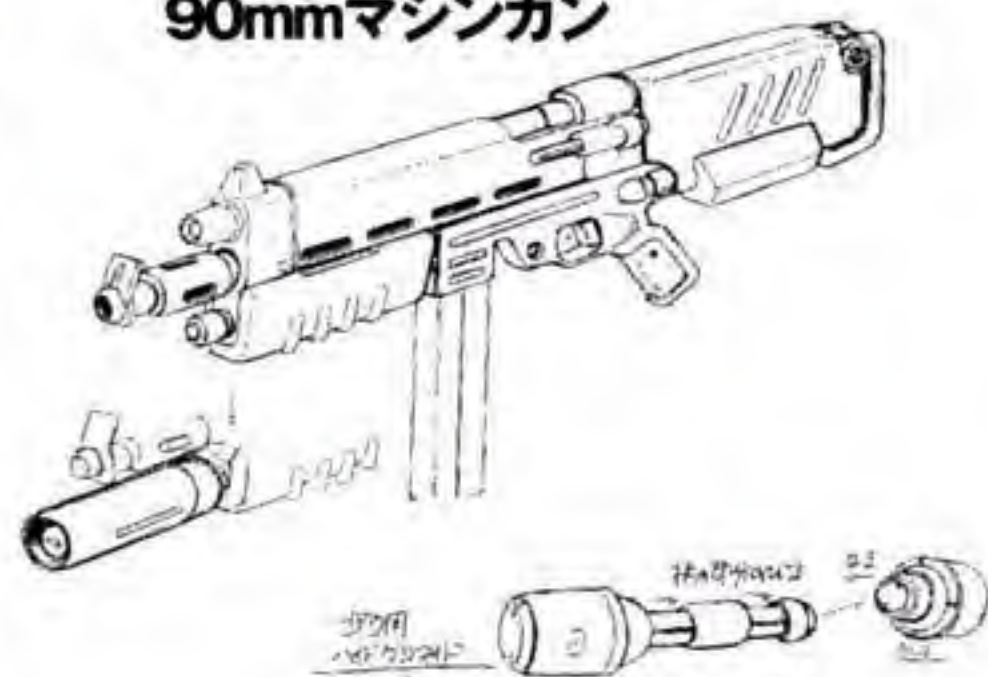
センサー有効半径：3,200m

●「MS-06FZザクⅡ改」は、ジオン軍のMS生産改善プラン「統合整備計画」に沿って名機である「MS-06FザクⅡ」を改修して作られた機体である。新型機種と部品を共有することにより、生産性と信頼性は高いが新機種に比べて性能面で見劣りのする「MS-06F」の性能向上を図っている。FZ型は、コクピットシステムの改修やスラスタ類の増強により運動性能はF型より向上した。反面、スラスタの大型化にともない推進剤の消費量が増えたのに推進剤の総量は増えなかったため、戦闘可能時間は半分に落ちてしまっている。



コクピット

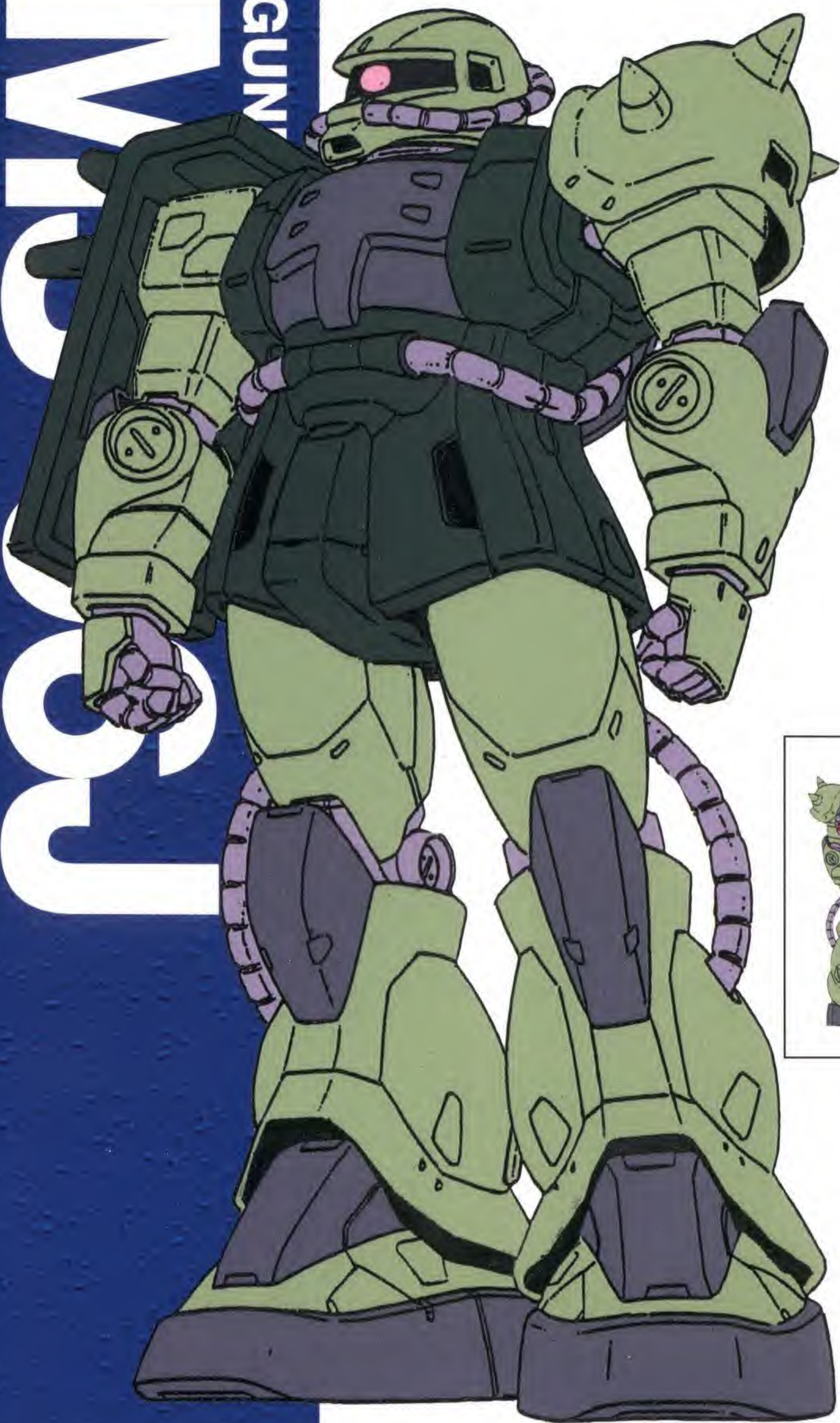
90mmマシンガン



ヒートホーク

ザクⅡ陸戦型

GUN



MS-06J

ザクⅡ陸戦型

機種分類：陸戦用量産型MS

製造会社：ジオニック社

全高／頭頂高：17.5／17.5m

本体／全備重量：56.2／70.3t

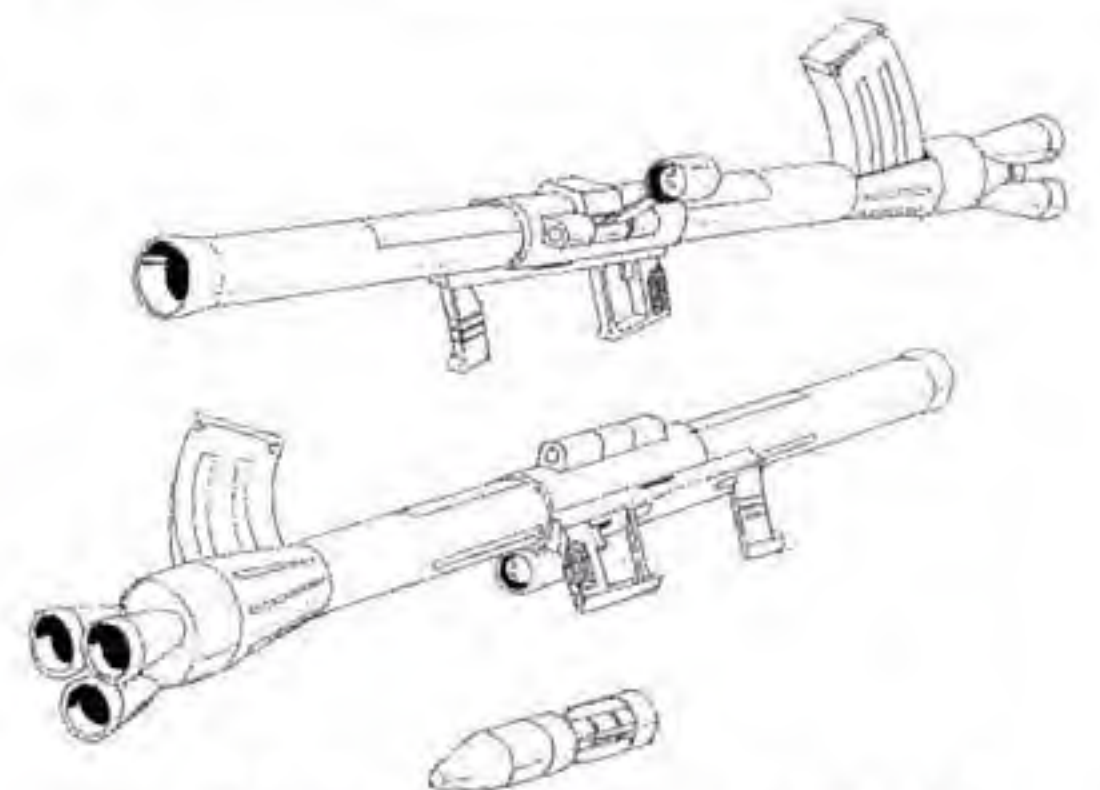
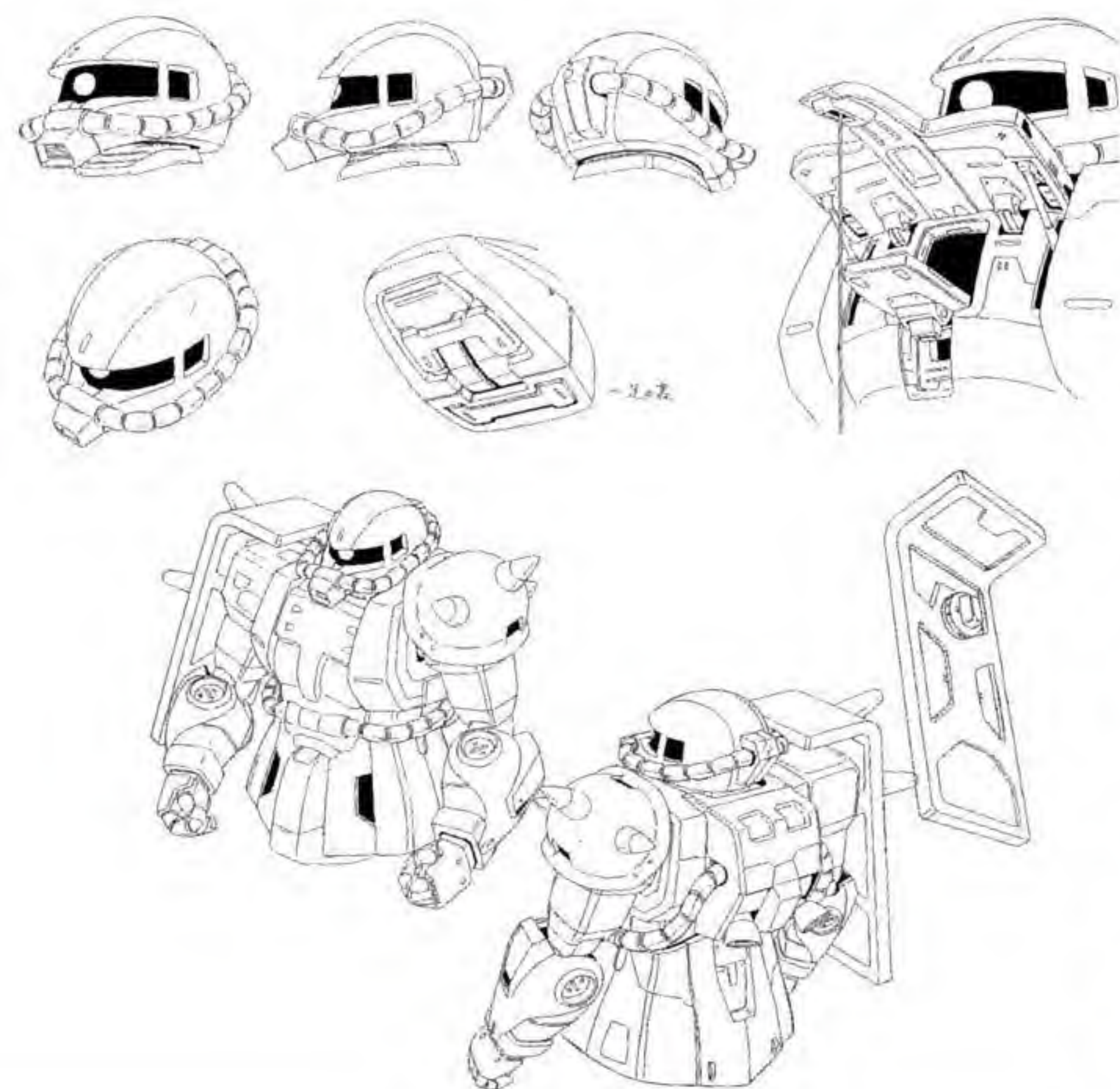
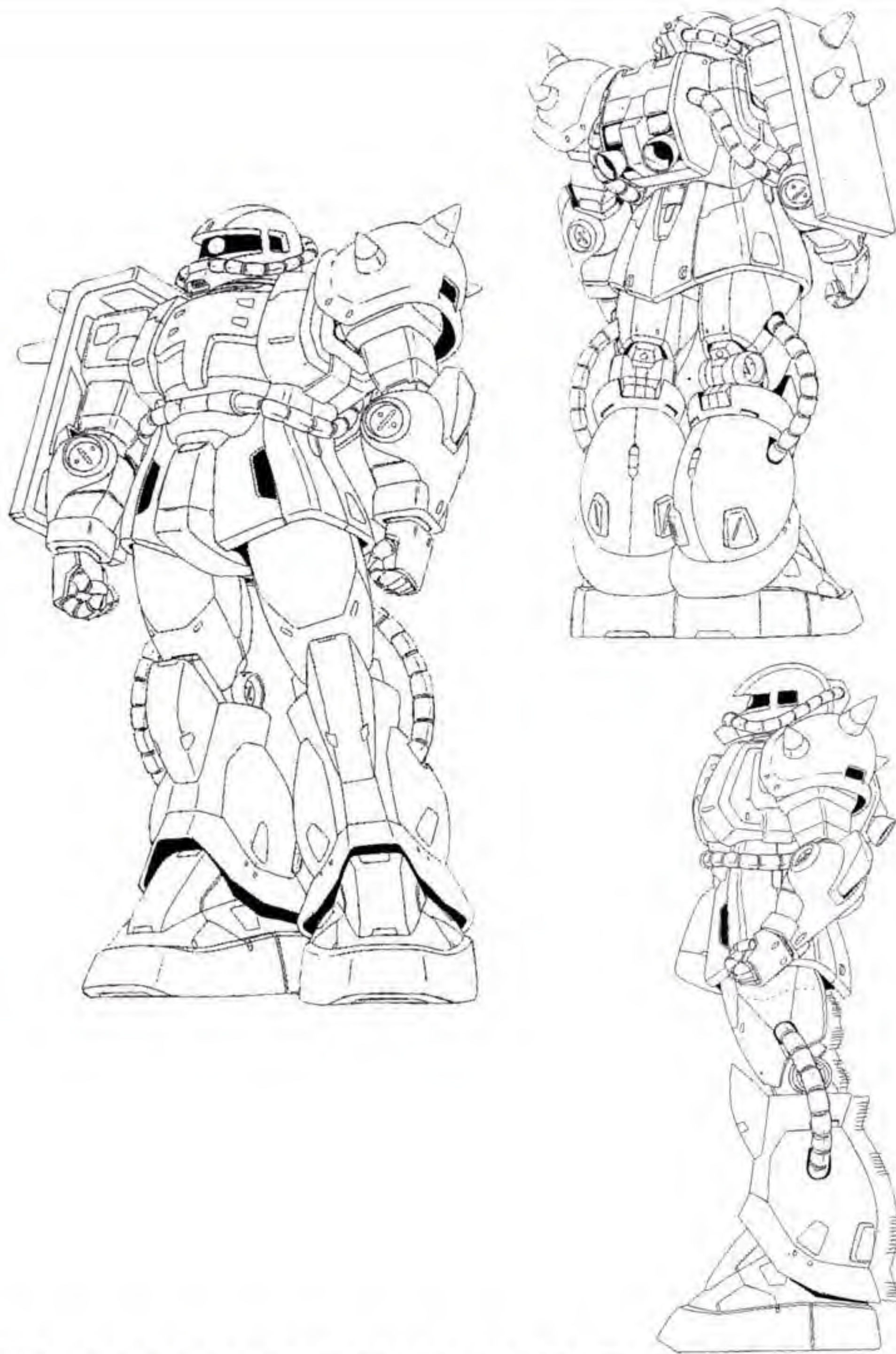
ジェネレータ出力：976kw

スラスタ総推力：45,400kg

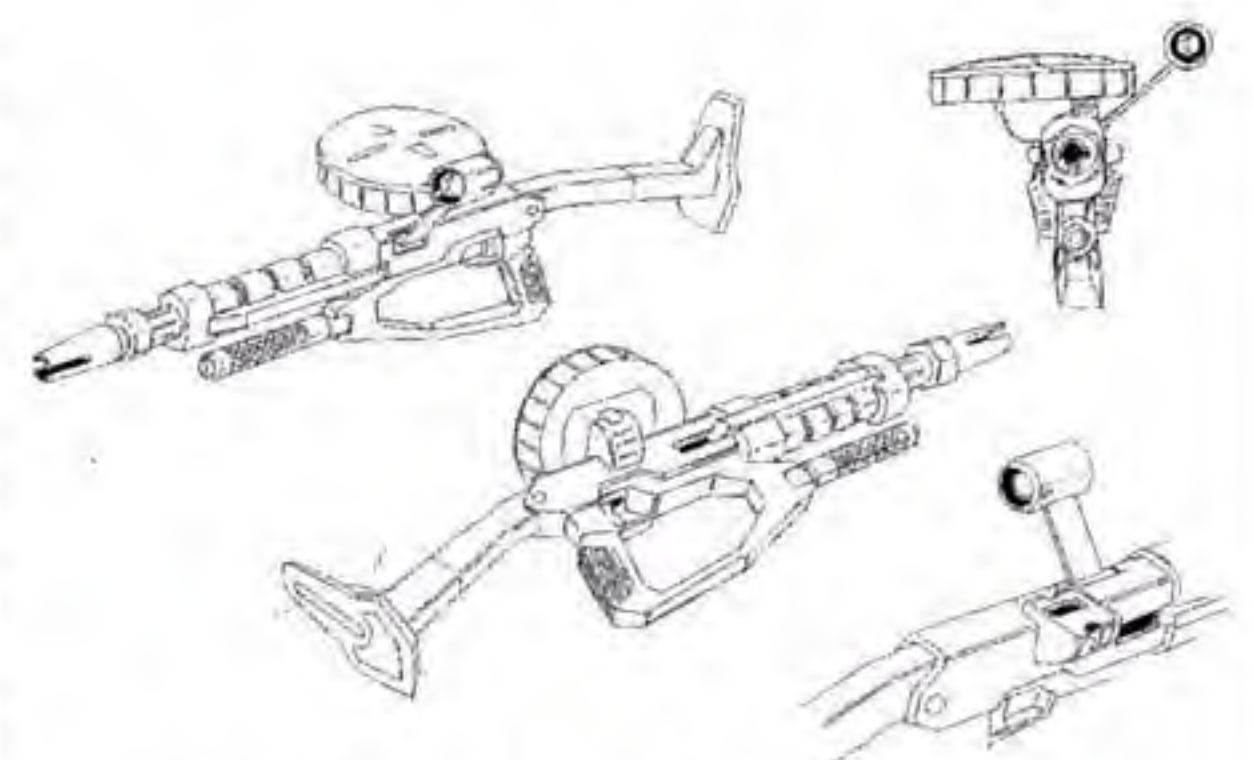
センサー有効半径：3,200m

●資源、国力で劣るジオン公国が、地球連邦政府に対し独立戦争を挑むためには新兵器「モビルスーツ」の絶対数を確保する必要があった。このためMSの量産に当たり、第一に考えられたのが生産性である。この「MS-06J」は、将来的な地上戦用機の必要性を考え、主力汎用MS「MS-06C（のちのF）」に最小限の改良を加えるだけで製作可能な陸戦用MSとして開発された。

機体の大部分のパーツはC型と共通で、地上の重力下ではデッドウェイトとなるスラスタ類を削減、脚部サスペンションの強化や、ジェネレータの冷却システムを空冷式に変えるなどの改良が加えられている。地球降下作戦後、J型の量産は占領した地上の生産施設に移され、地上のさまざまな戦場で使用された。



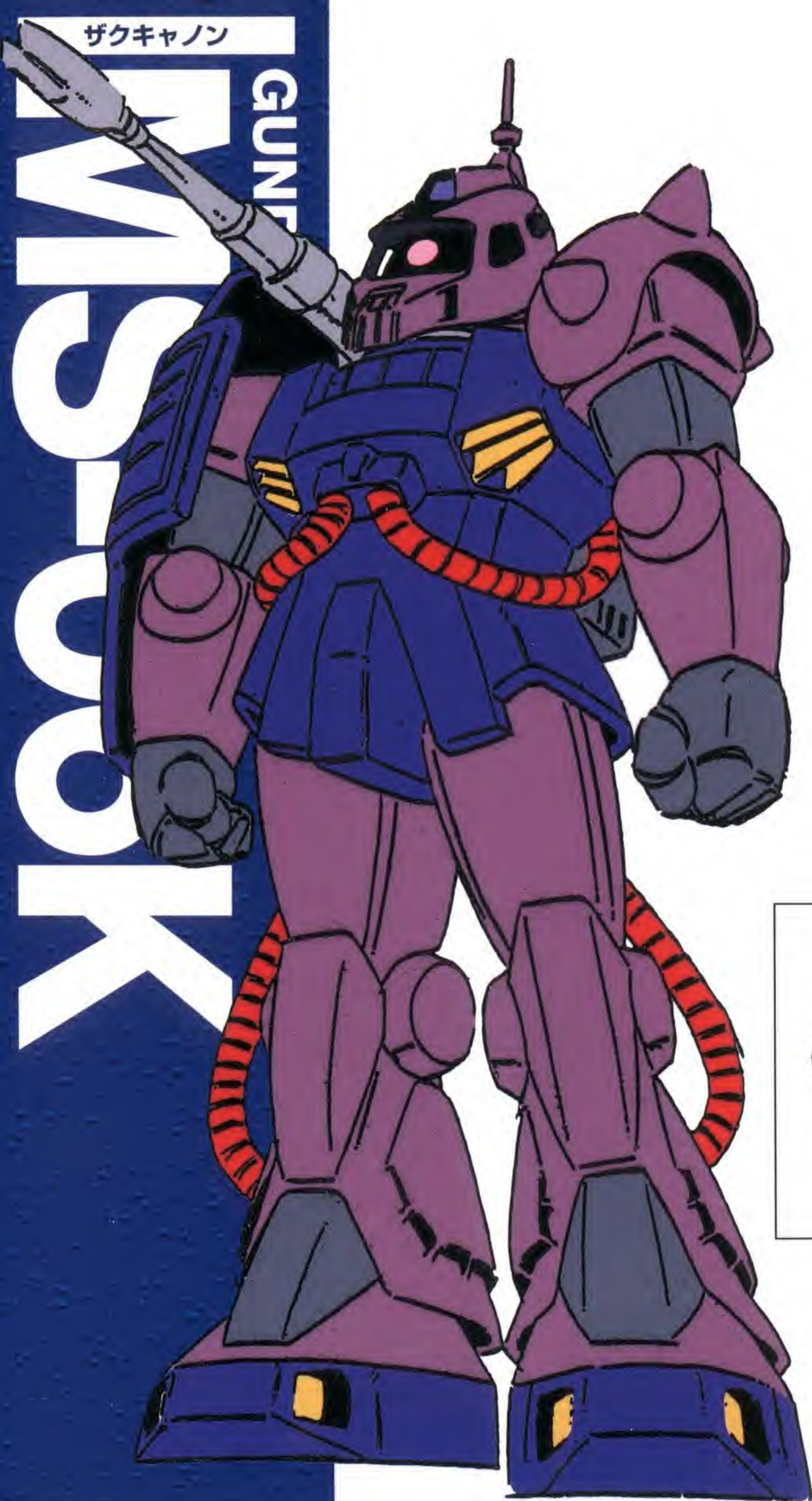
ザクバズーカ(280mmバズーカ)

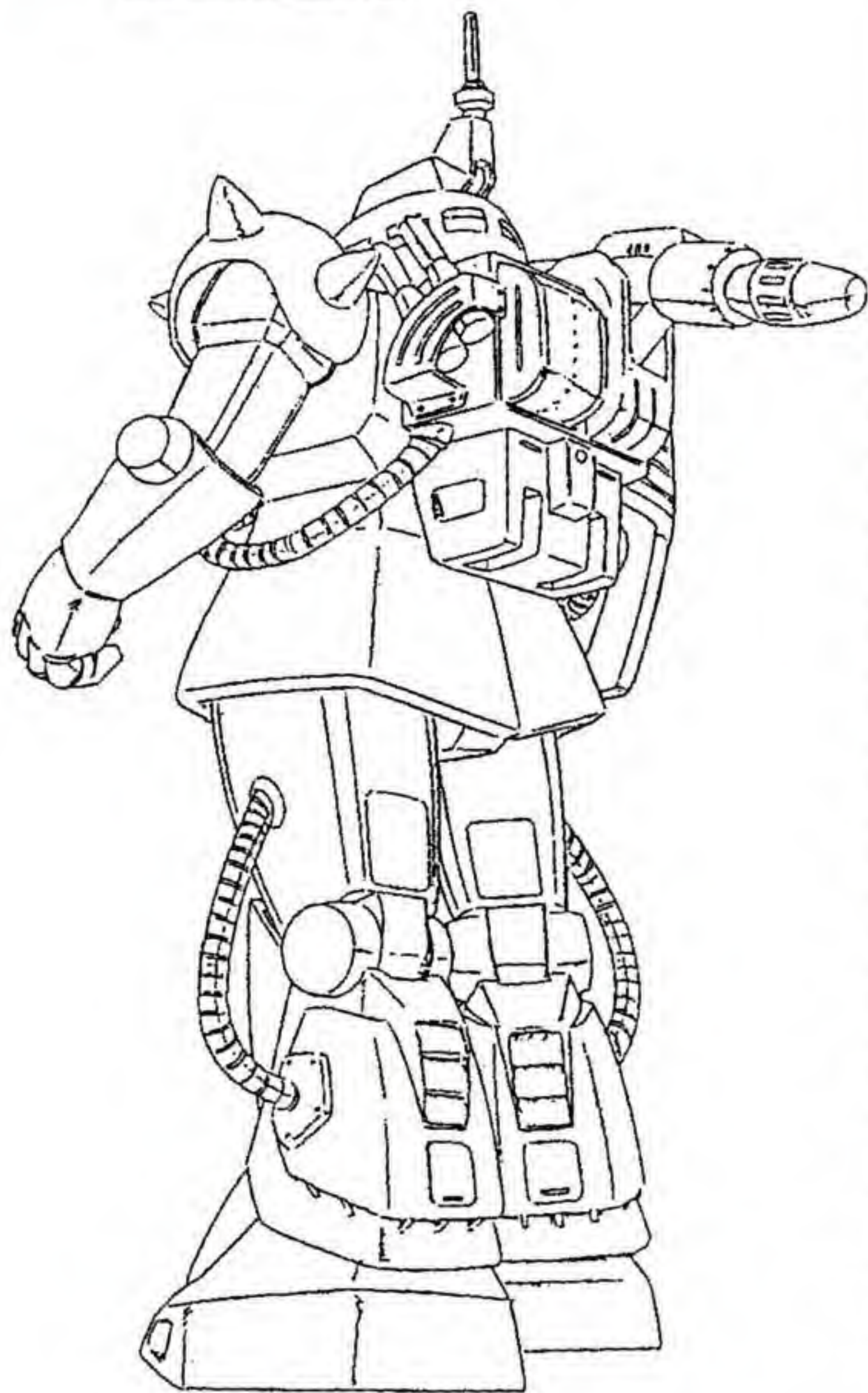
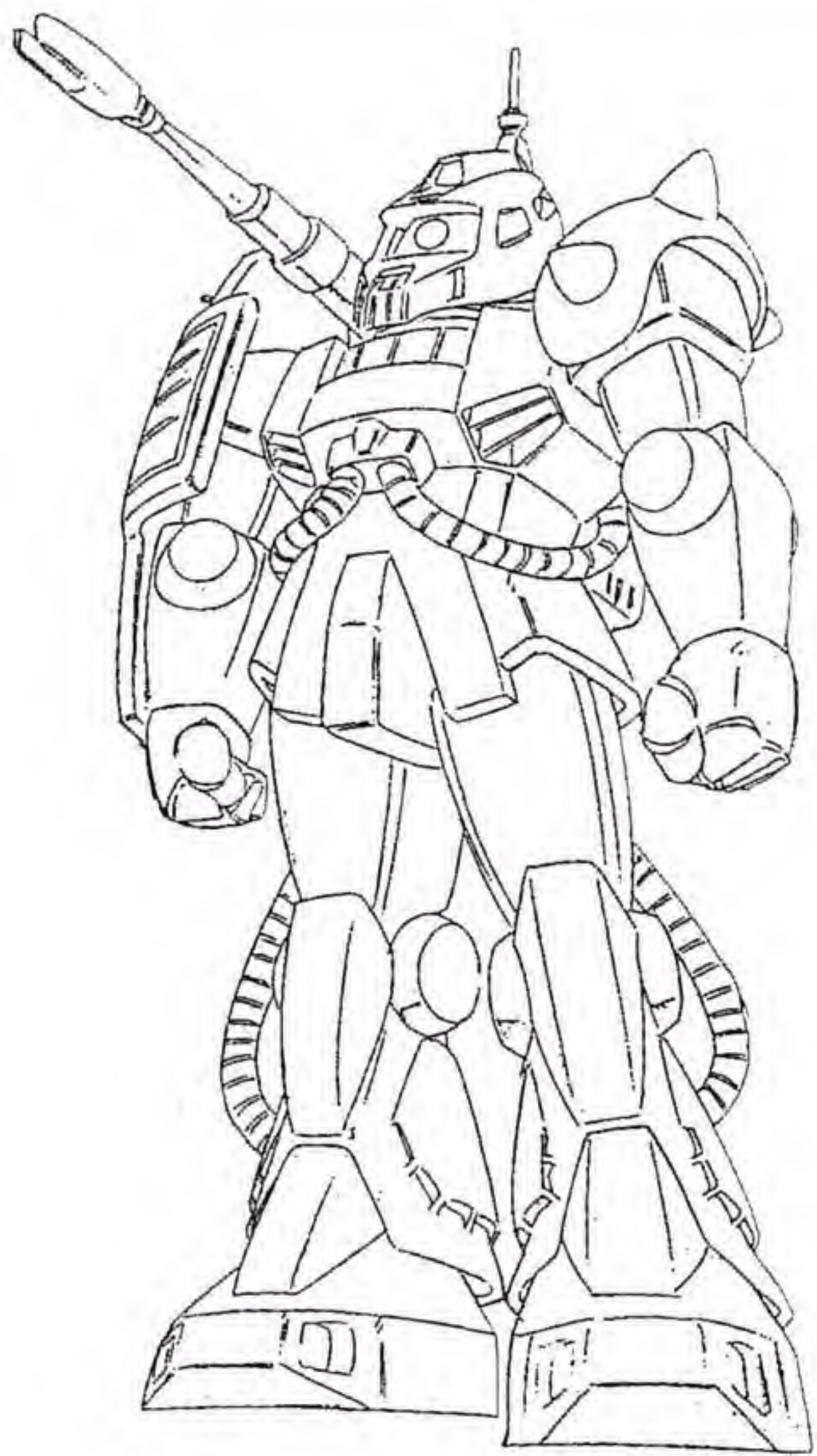


ザクマシンガン(120mmマシンガン)

ザクキャノン

GUNPLA





MS-06K

ザクキャノン

機種分類：砲撃戦用量産型MS

製造会社：ジオニック社

全高／頭頂高：18.4／17.7m

本体／全備重量：59.1／83.2t

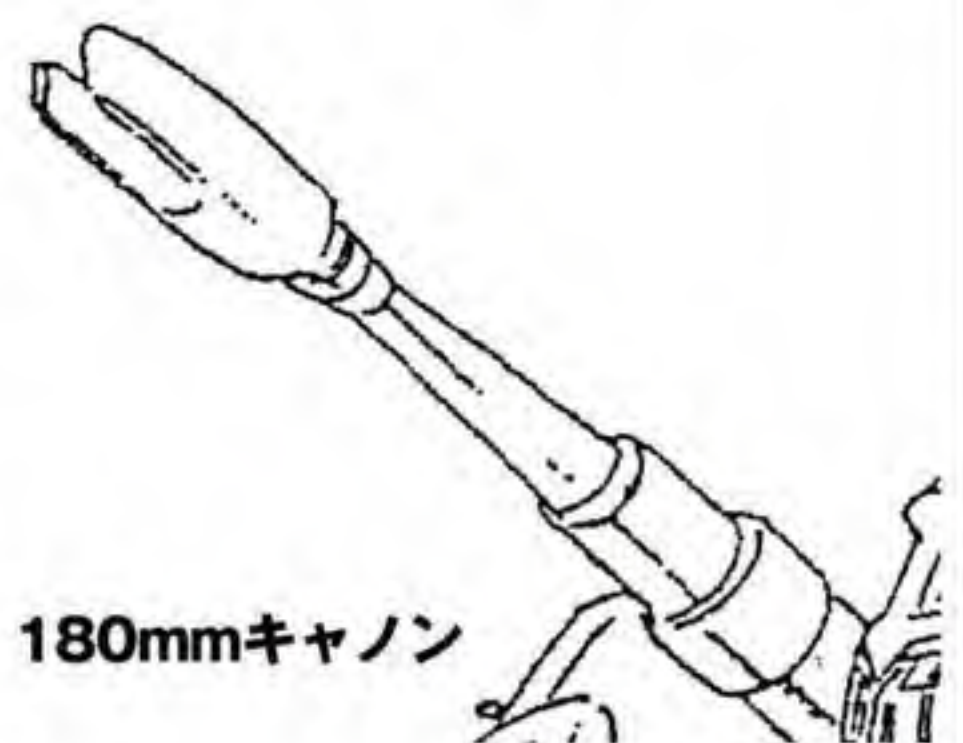
ジェネレータ出力：976kw

スラスター総推力：41,000kg

●ジオン軍が地球侵攻を想定し、一年戦争以前から研究開発を進めていた地上用MSのうちの1つ。型式番号からもわかるとおりザクをベースに再設計された機体で、地上部隊の対空防御用として対空キャノン砲をバックパックに装備している。試作機のテストはサイド3コロニー内で行なわれ、本格的な生産は一年戦争勃発後、占領したカリフォルニア基地で開始された。ザクからの主な改良点としてモノアイの全周化、固定武装の180mmキャノンなどが挙げられる。当初は対空防御用として運用されていたが、180mmキャノンが対MS用の支援砲撃にも有効なことが判明し、その後は対空防御用としてよりも砲撃戦用MSとしての運用が中心となった。



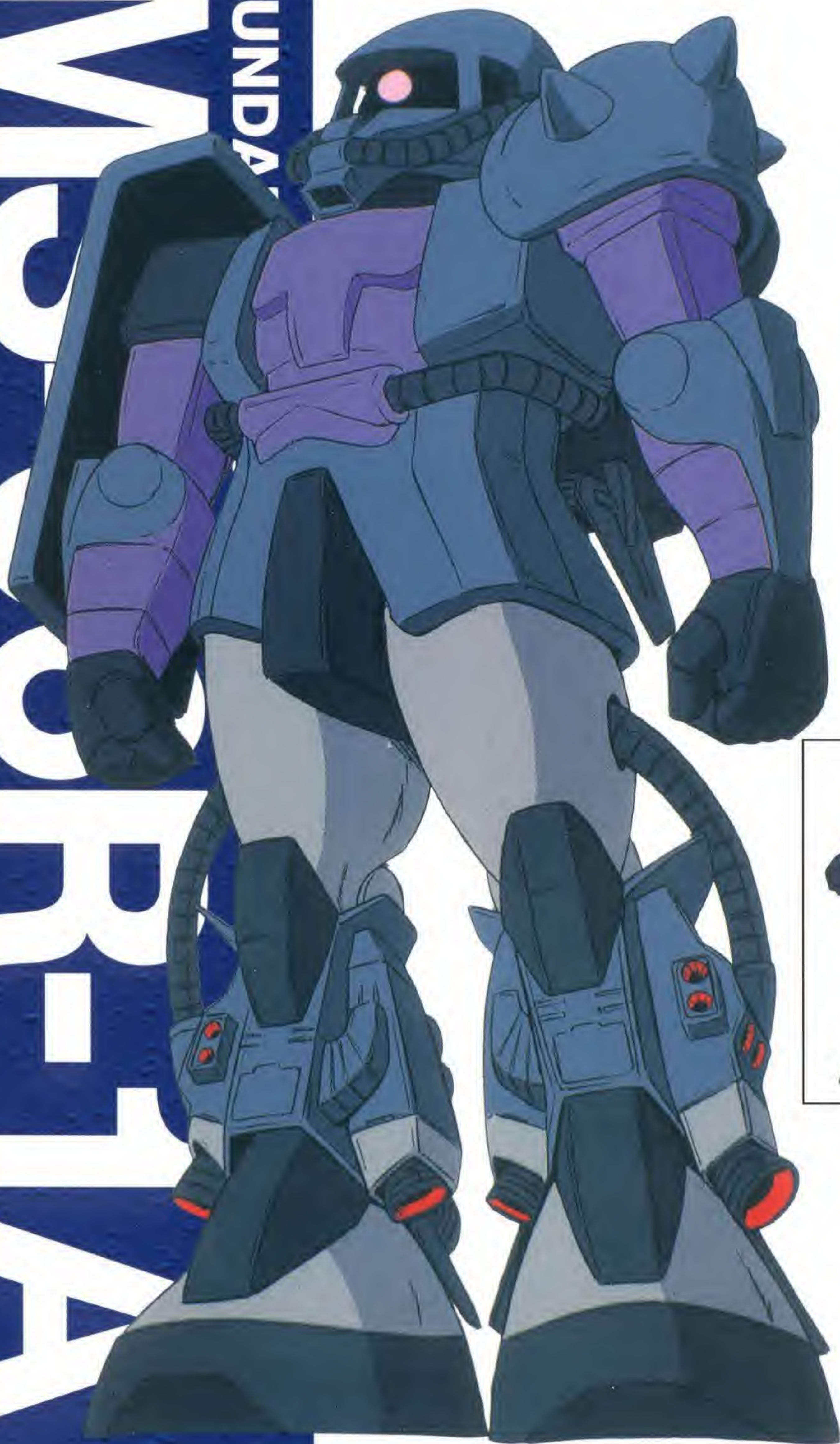
指揮官機頭部

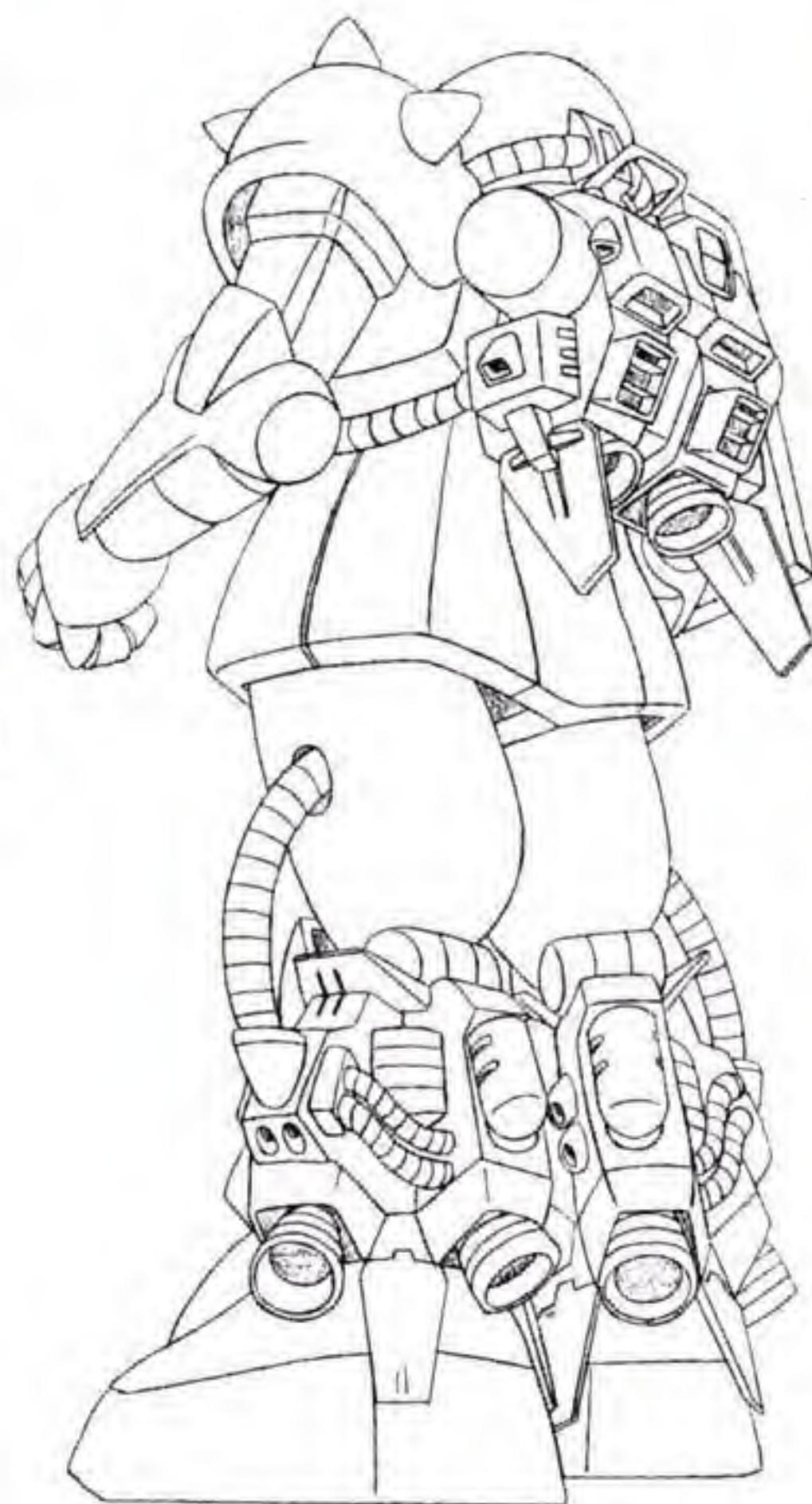


180mmキャノン

ザク高機動型

GUNDAM





MS-06R-1A

ザク高機動型

機種分類：宇宙戦用量産型MS

製造会社：ジオニック社

全高／頭頂高：17.5／17.5m

本体／全備重量：61.8／76.8 t

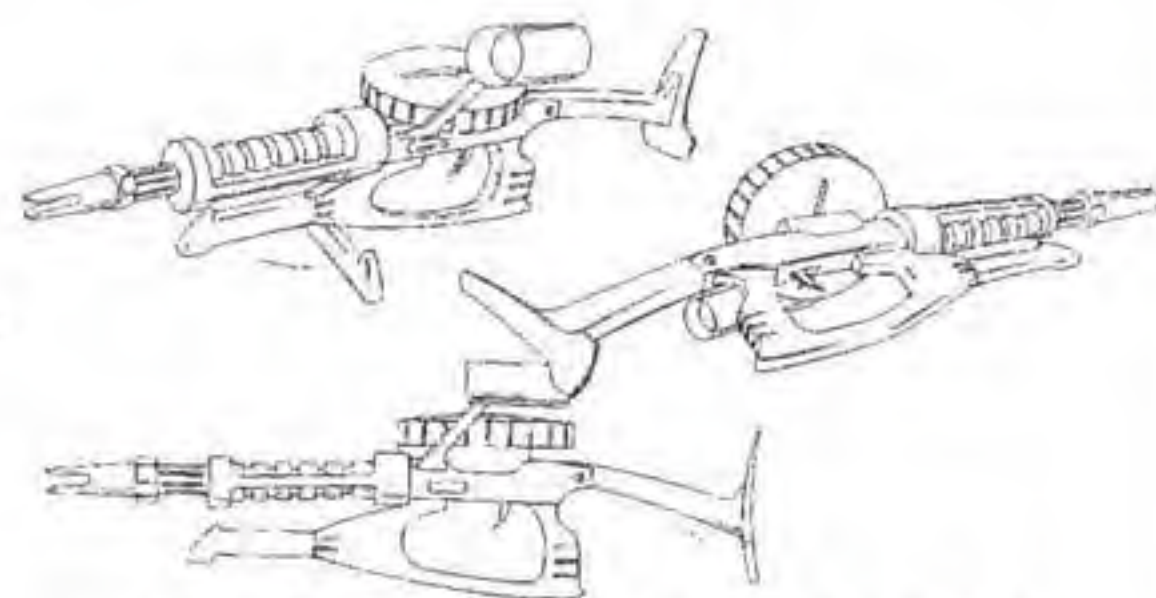
ジェネレータ出力：1,012kw

スラスタ総推力：52,000kg

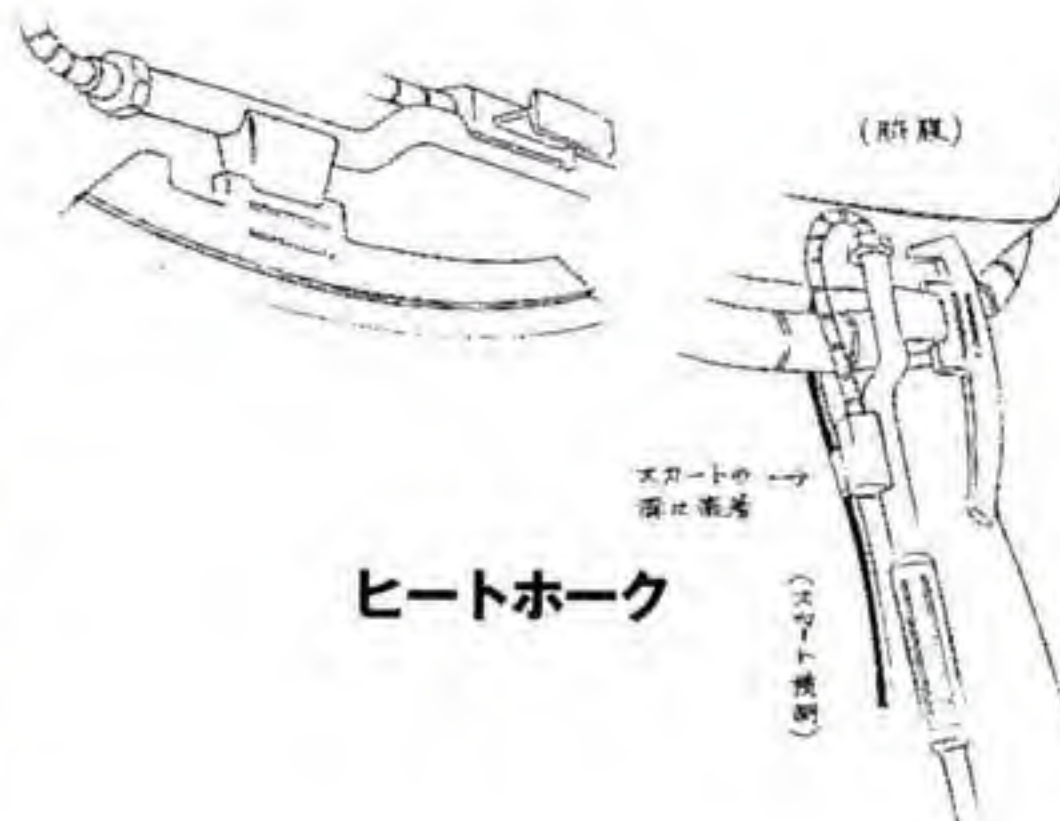
センサー有効半径：3,200m

●一年戦争開戦後、地球降下作戦によって地上の生産拠点を占領したことにより、ジオン軍の生産能力には余裕が生まれた。そこで、かねてから開発が進められていた宇宙用高機動機「MS-06R」の量産が行なわれることになった。

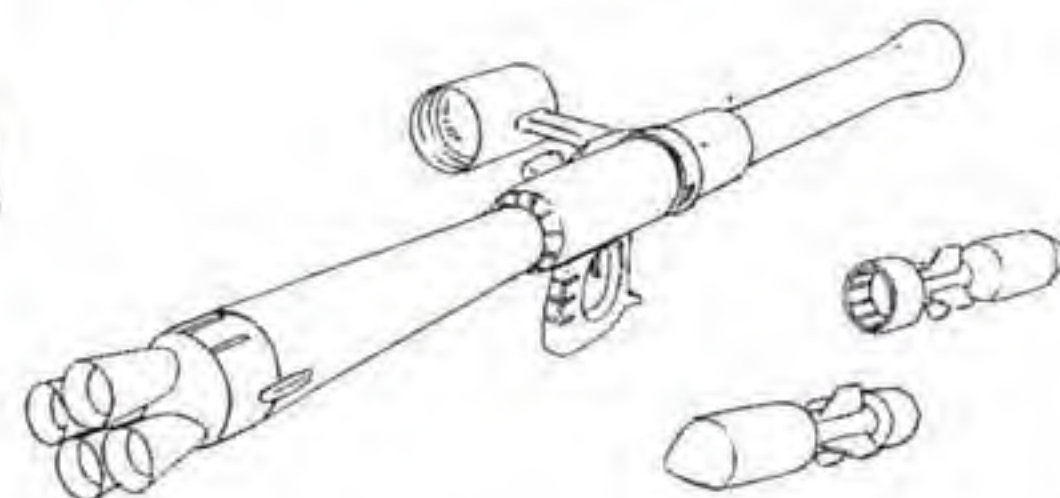
R型は、「MS-06C」をベースに脚部にスラスタを増設、バックパックも大型で推力の大きなものに交換した機体である。完成したR型は非常に高性能で、優先的にエースパイロットに回されたため、その戦果は目覚ましいものがあった。量産のほとんどは、月面のグラナダ基地内にあるMS工場で行なわれ、当初の「R-1」モデルから、のちに脚部燃料タンクをカートリッジ化するなど整備性を向上させた「R-1A」モデルに生産を切り換えながら、最終的に80機程度が生産された。



ザクマシンガン (120mmマシンガン)



ヒートホーク

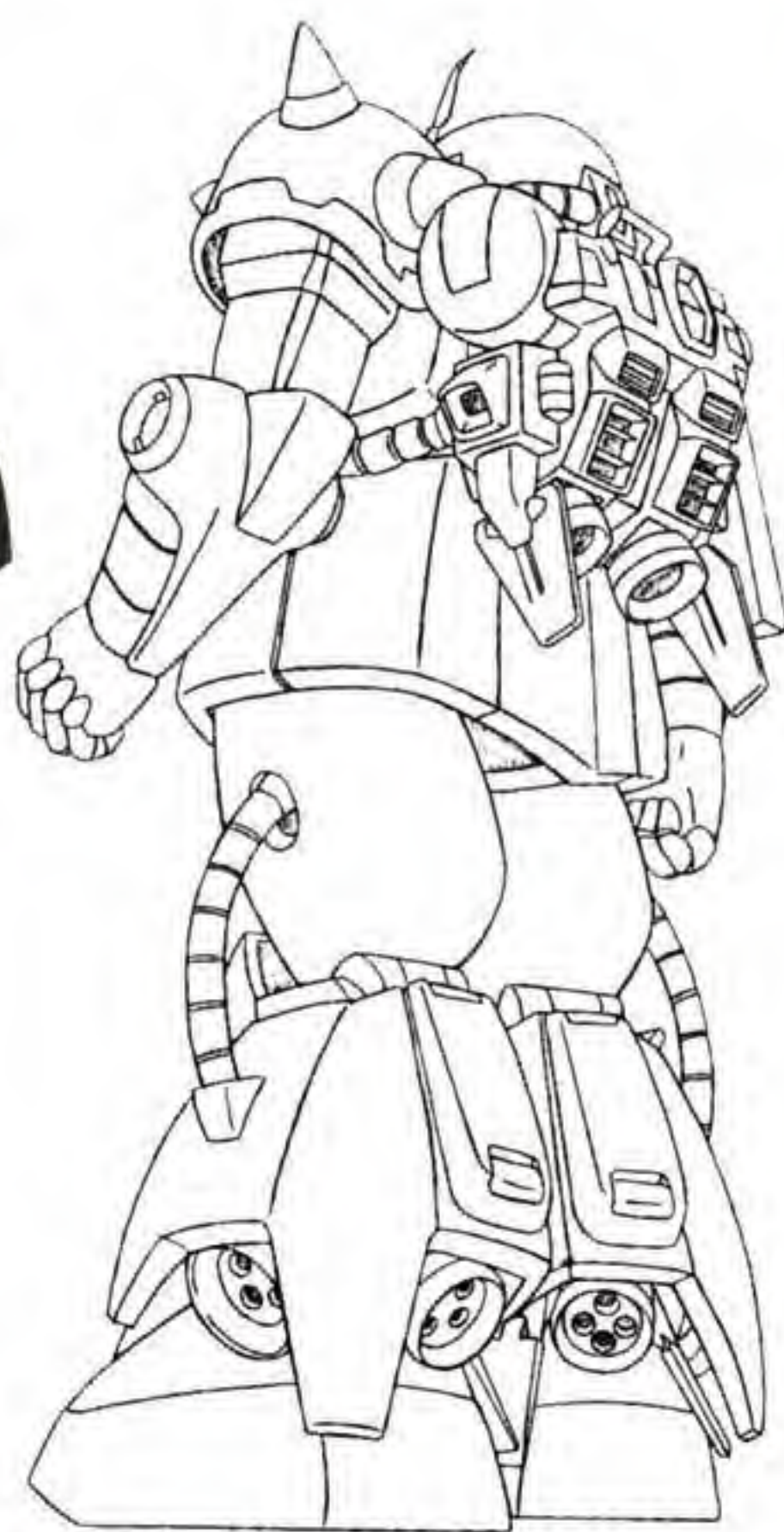


ザクバズーカ (280mmバズーカ)

ザク高機動型

GUUNDAM





MS-06R-2

ザク高機動型

機種分類：宇宙戦用試作型MS

製造会社：ジオニック社

全高／頭頂高：18.0／17.5m

本体／全備重量：49.5／75.0 t

ジェネレータ出力：1,340kw

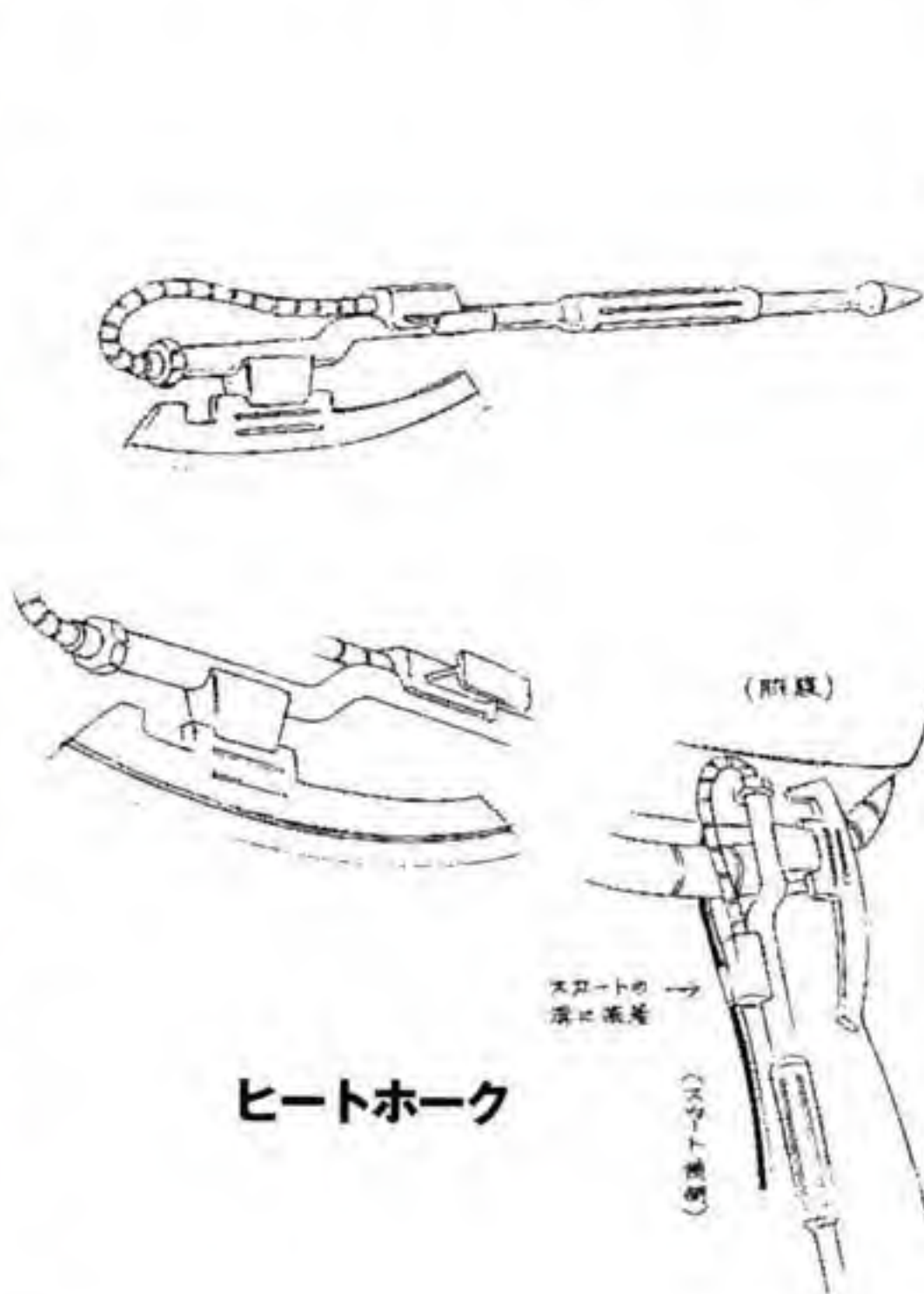
スラスター総推力：60,000kg

センサー有効半径：5,600m

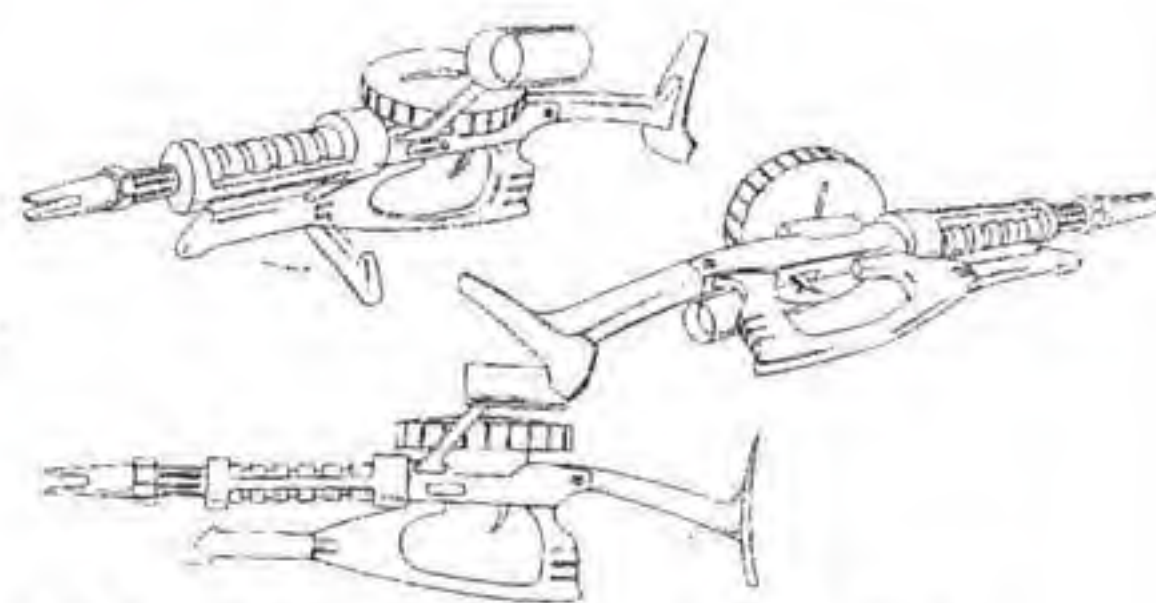
●一年戦争が開戦して数か月、ジオン軍首脳は最終的な戦いは宇宙で行なわれると判断、そのための主力宇宙戦用MSを必要としていた。そのため、開発が遅れていた次期主力MS「MS-11(のちの14)」の代わりにジオニック社が開発したのが「MS-06R-2ザク高機動型」である。「MS-06R-1」をベースに開発された本機は、外見こそさして変わらないが中身はまったくの別物となっていた。

R-1型とR-2型の違いはジェネレータの換装、プロペラントの増加、装甲材質や機体構造の見直しなど、多岐にわたっている。「MS-06R-2」の機体を構成するパーツの大部分は開発中の「MS-11」から流用されているため、のちには「ザクの皮をかぶったゲルググ」と呼ばれたのも無理はなかった。

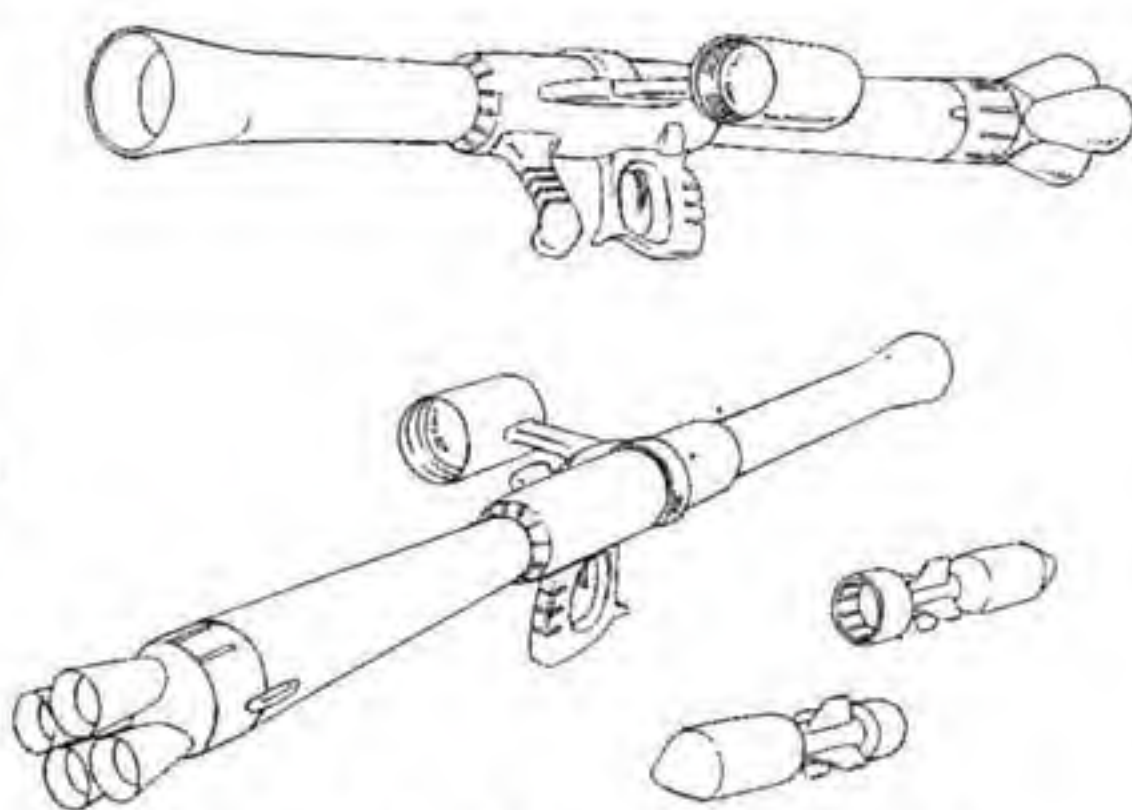
出来上がったR-2型は高性能だったが、「MS-09R」との比較評価試験に敗れたため、4機が試作されたのみである。



ヒートホーク



ザクマシンガン(120mmマシンガン)

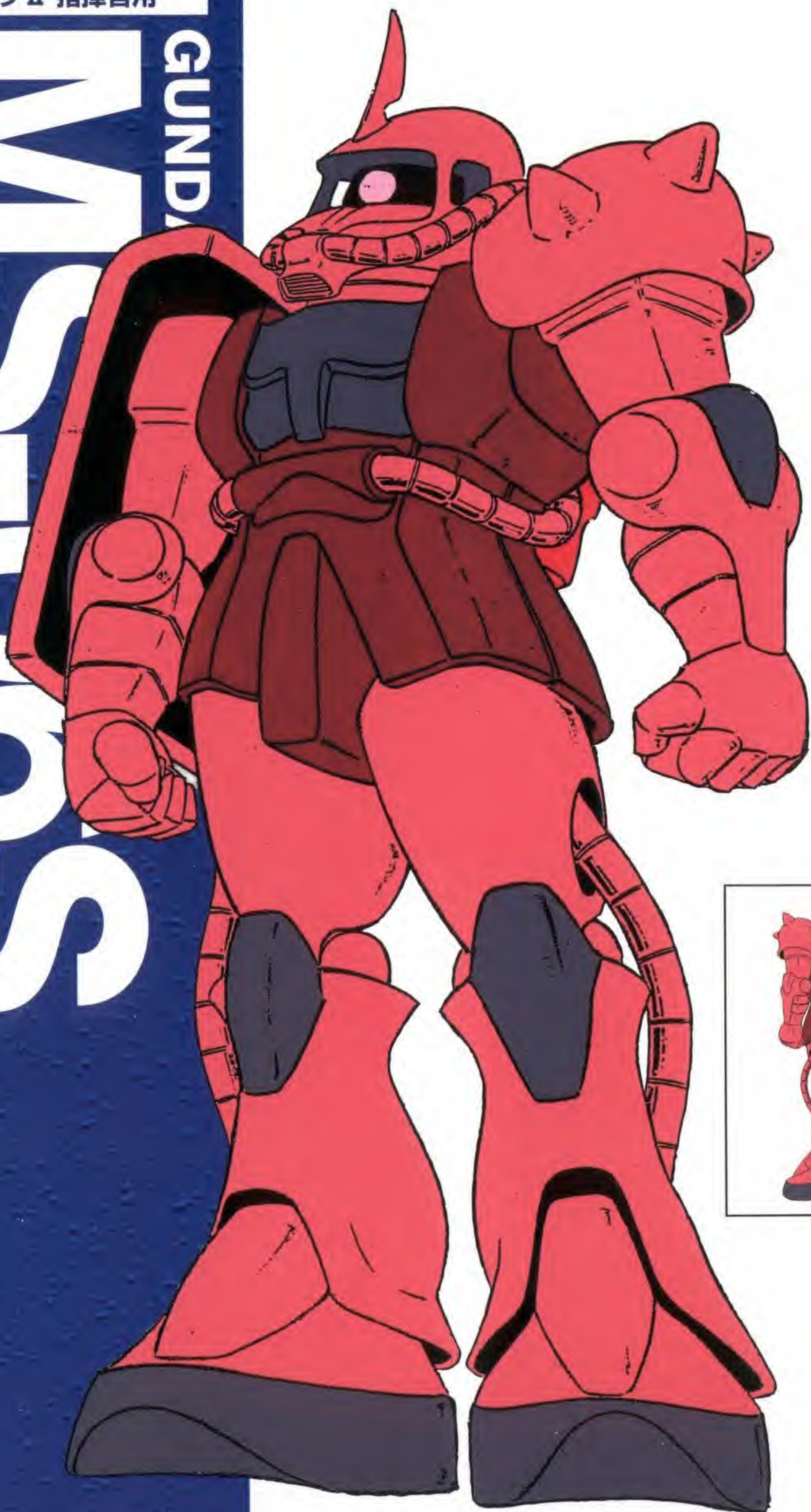


ザクバズーカ(280mmバズーカ)

ザクⅡ 指揮官用

GUUNDAM

MS-06S



MS-06S

ザクⅡ 指揮官用

機種分類：指揮官用高性能機

製造会社：ジオニック社

全高／頭頂高：18.0／17.5m

本体／全備重量：56.2／75.2t

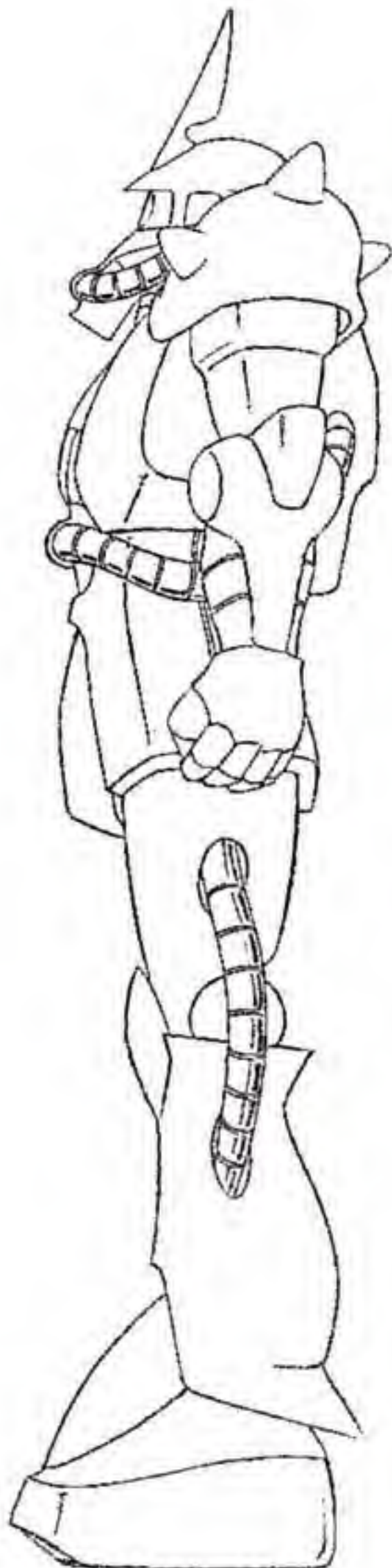
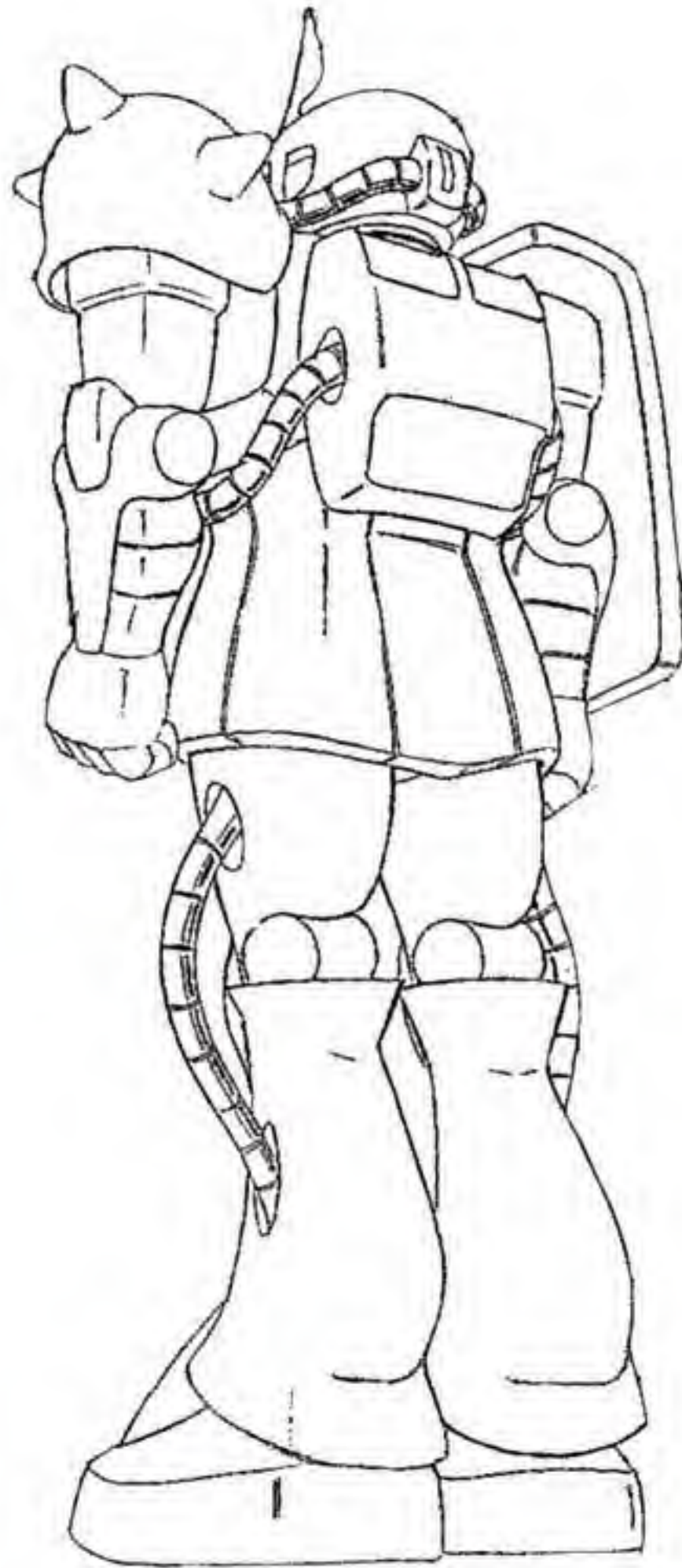
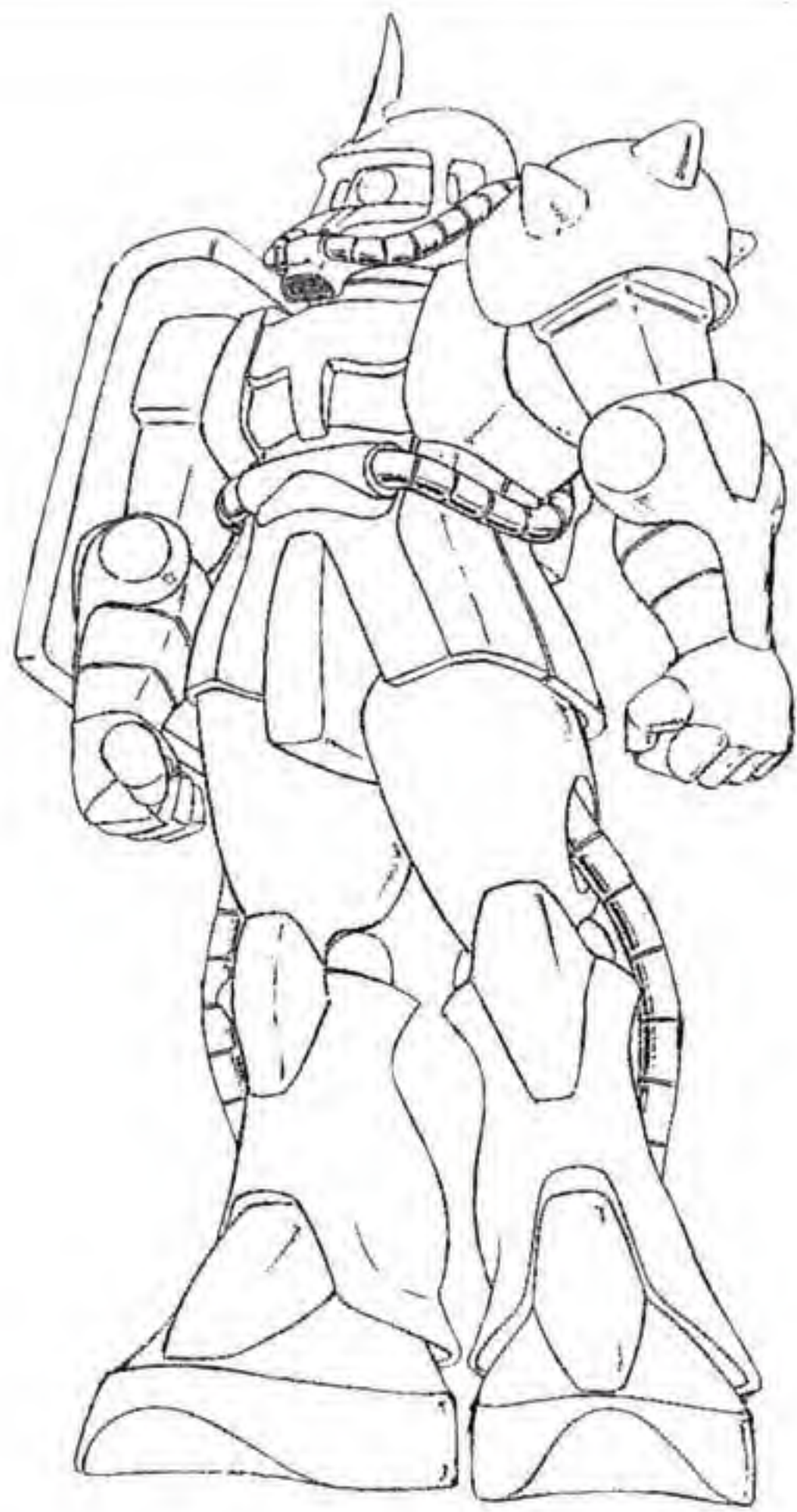
ジェネレータ出力：976kw

スラスタ総推力：51,600kg

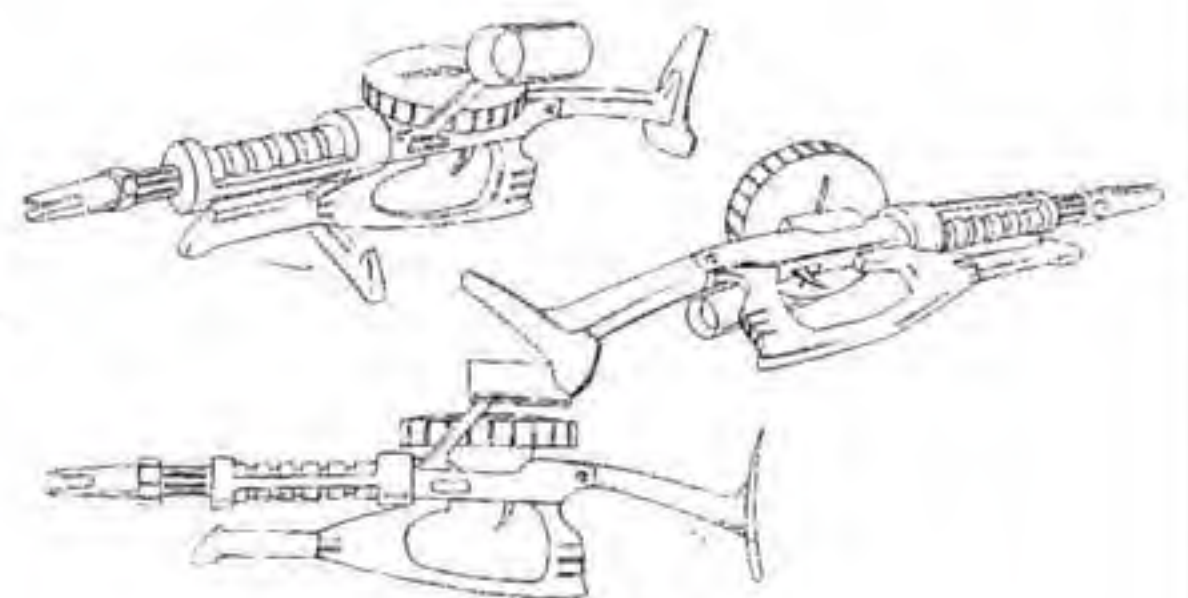
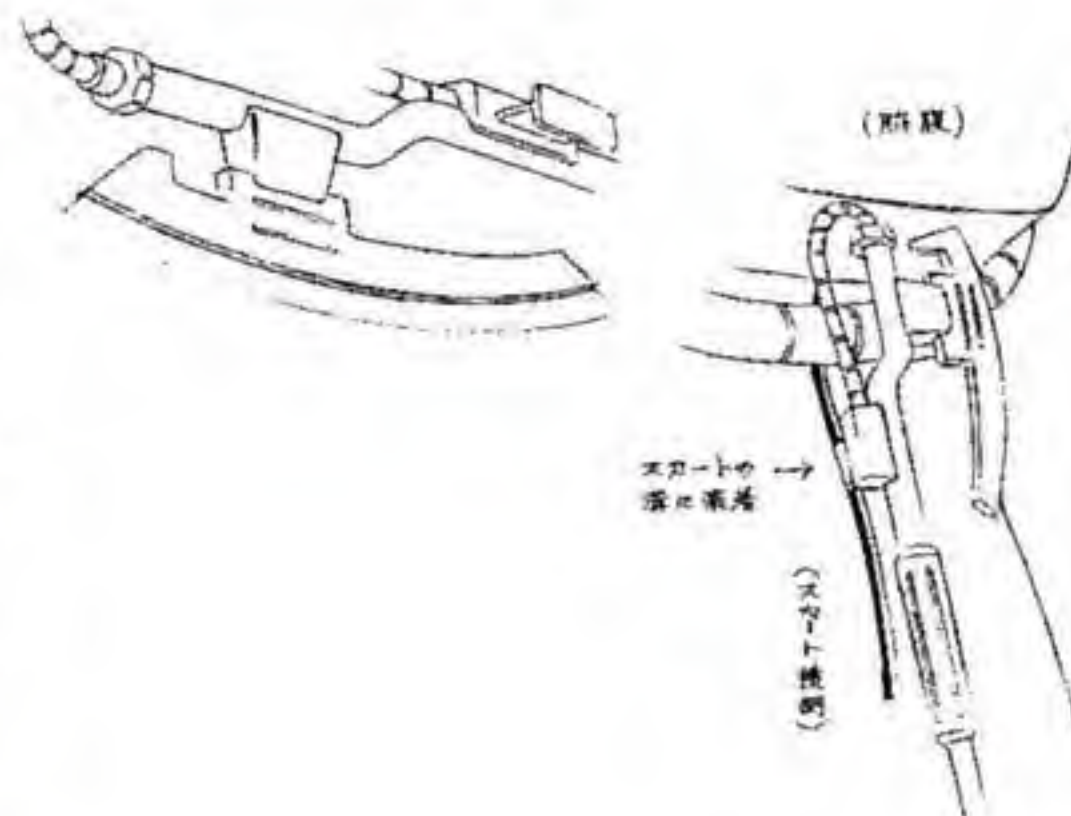
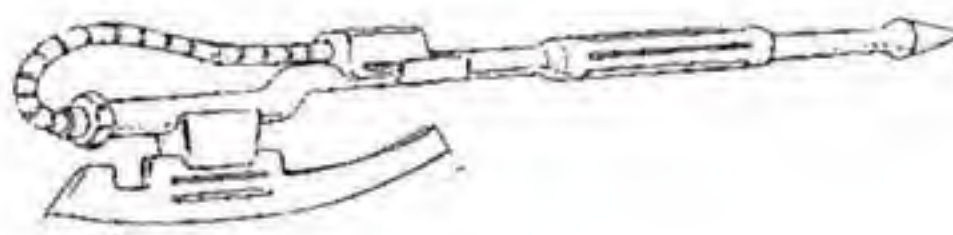
センサー有効半径：3,200m

●本来MS-06シリーズでは、汎用タイプのC型（のちにF型）を発展させ宇宙用高機動機の「R型」を開発・量産する予定だった。しかし、開戦前の時点では生産性が重視され、改良個所が多く生産効率の悪いR型は量産が見送られた。一方で従来機ではベテランパイロットたちの能力を十分に生かすことができず、前線では高性能機を求める声が高まっていた。

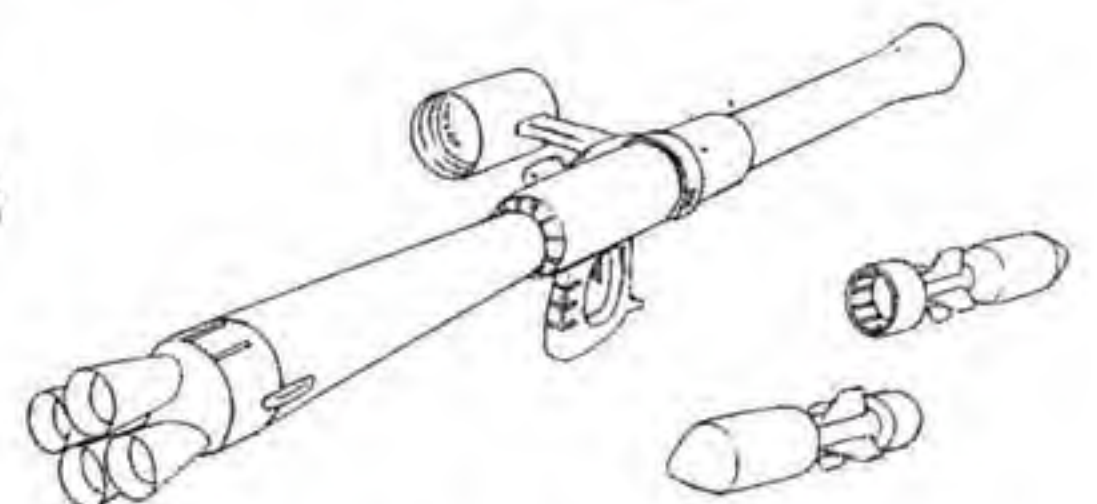
これらの問題を解決すべく開発されたのが「MS-06S」である。主に指揮官クラス用として部隊配備されたS型は、C型の宇宙用高性能チューン機として開発された。つまり、C型の持つ機体ポテンシャルから最大限の性能を引き出したのである。だが、そのために高性能だが非常に扱いにくい機体となっている。



ヒートホーク



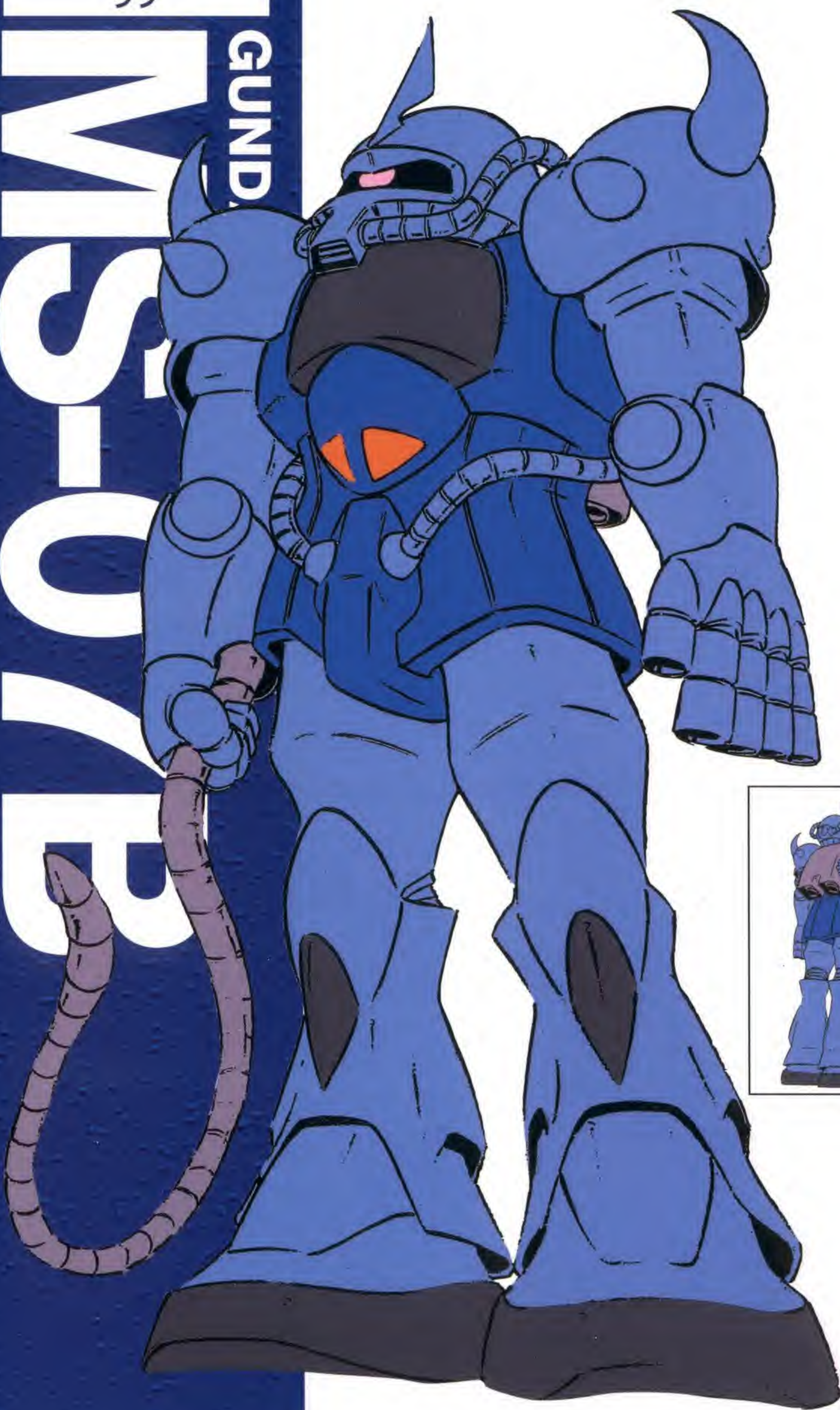
ザクマシンガン
(120mmマシンガン)



ザクバズーカ
(280mmバズーカ)

グフ

GUNDAM



MS-07B

グフ

機種分類：陸戦用量産型MS

製造会社：ジオニック社

全高／頭頂高：18.7／18.2m

本体／全備重量：58.5／75.4 t

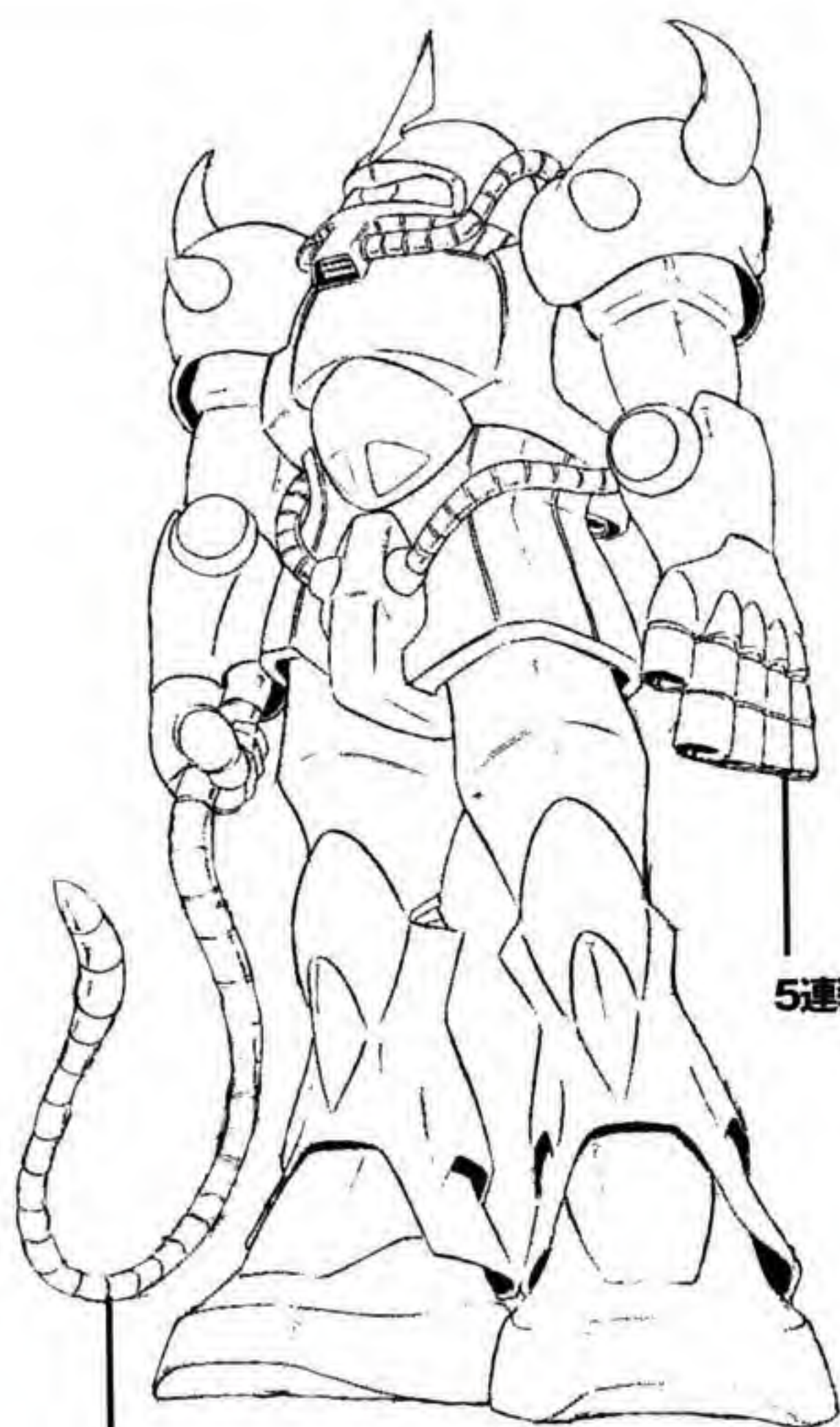
ジェネレータ出力：1,034kw

スラスター総推力：40,700kg

センサー有効半径：3,600m

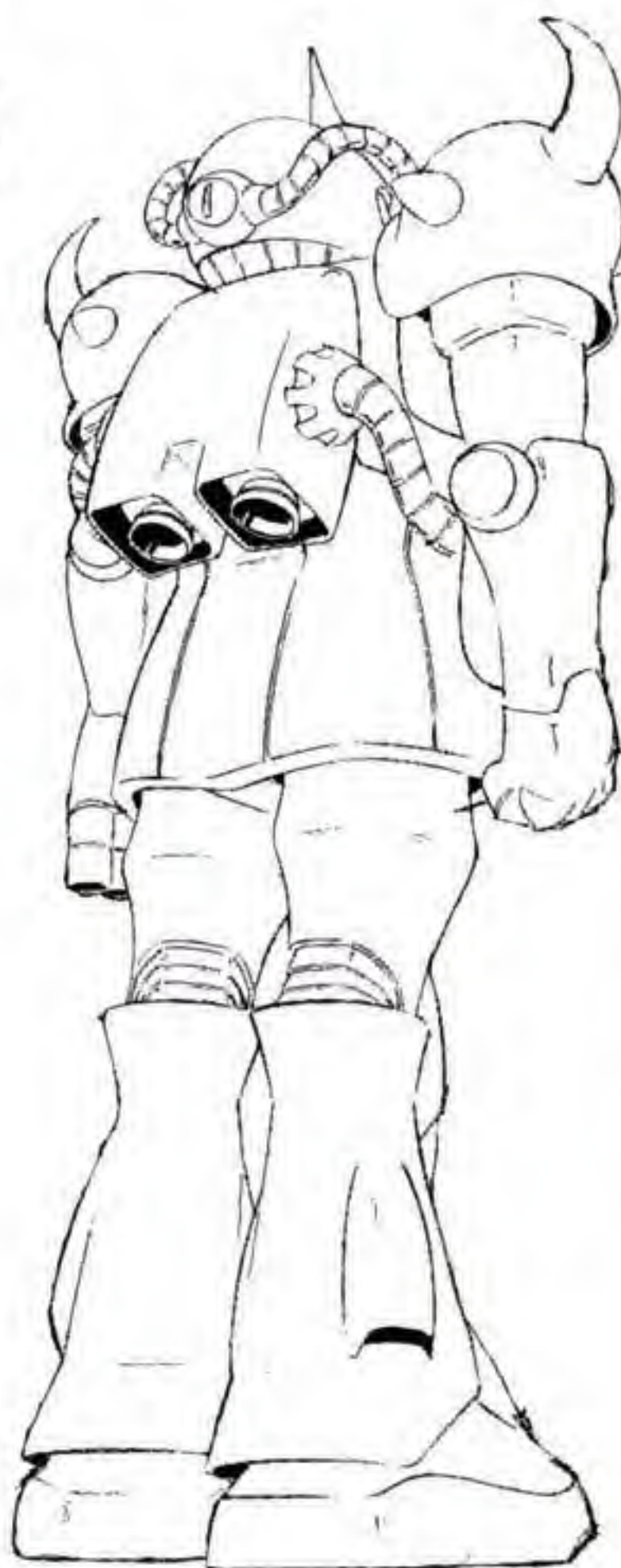
●陸戦用MSの「MS-06J」は、あくまでザクⅡの陸戦型改良機として開発されたため、問題点も少なくなかった。ジオニック社では「J型」の生産と平行して、問題点を解決した新たな陸戦用MSの開発を進めていた。開戦まもない0079年初頭、完成した試作機は「MS-07グフ」として制式採用される。

この機体は「MS-06J」で問題となっていた、コクピット周りの装甲強化や、機体の運動性の向上、近接戦闘用兵器の固定武装化などが行なわれた。対MS戦を想定し右手に装備されたヒートロッドと呼ばれる兵器は一種のムチで、高圧電流を流すことによって敵MSのパイロットおよび電子機器にダメージを与える。汎用性の低い特異な機体だったため、生産機数はそれほど多くない。

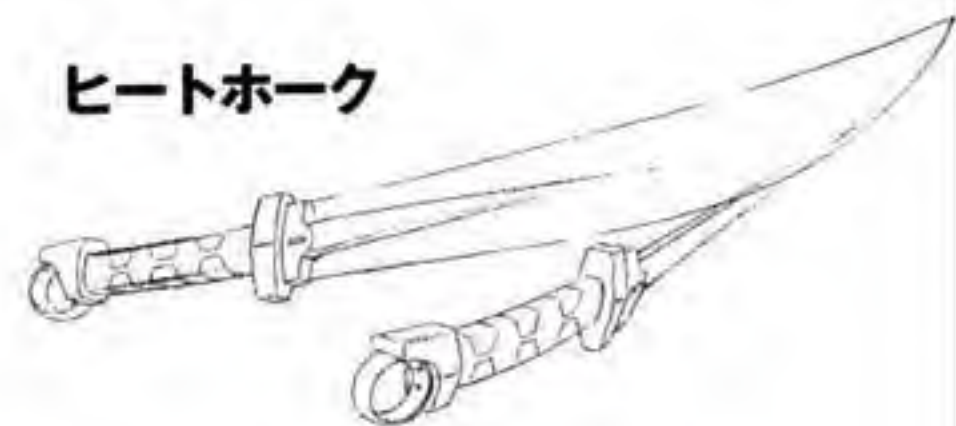


5連装75mmマシンガン

ヒートロッド



ヒートホーク

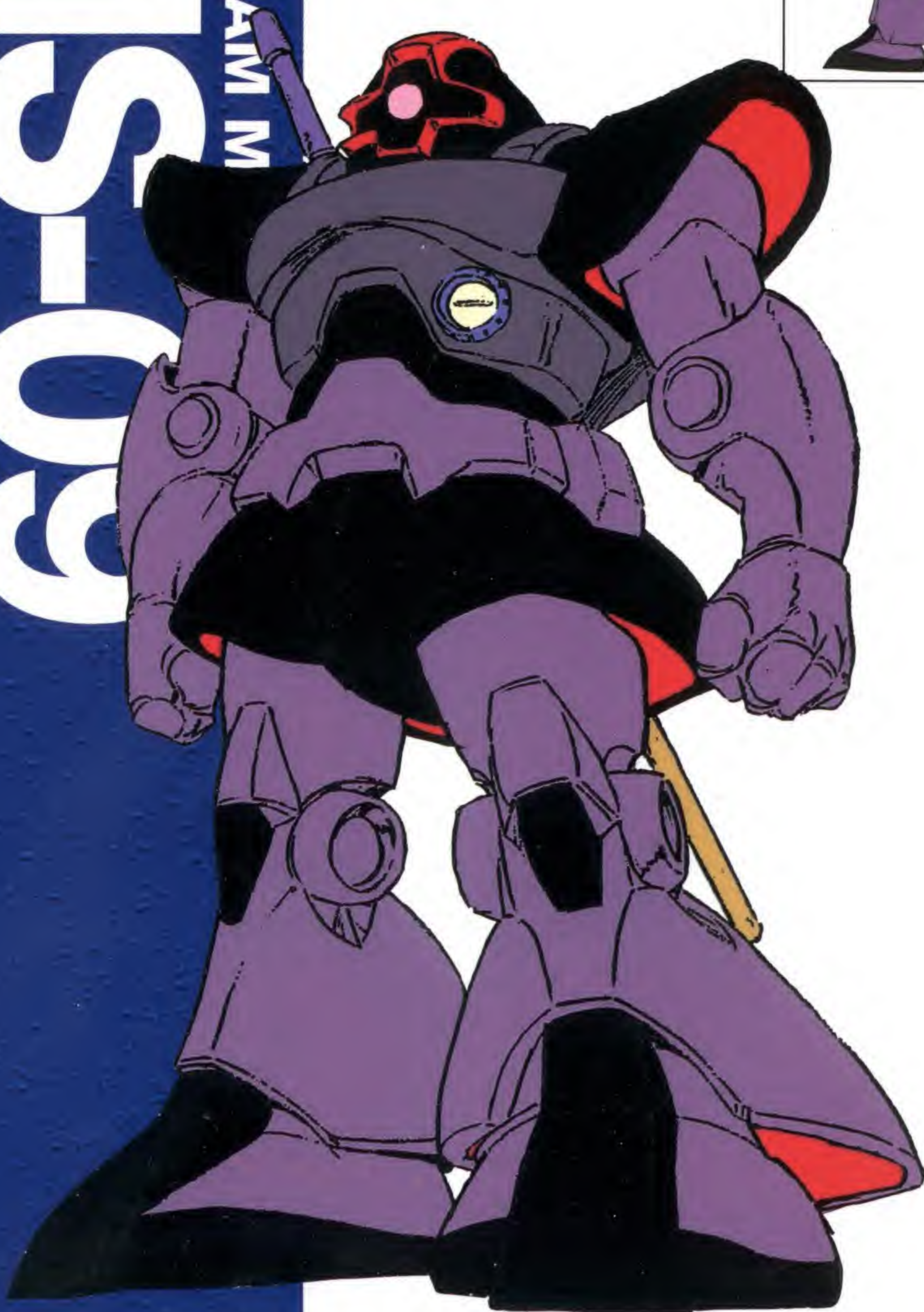


シールド

ドム

GUNDAM M

MS-00



MS-09

ドム

機種分類：陸戦用量産型MS

製造会社：ツィマッド社

全高／頭頂高：18.6／18.6m

本体／全備重量：62.6／81.8t

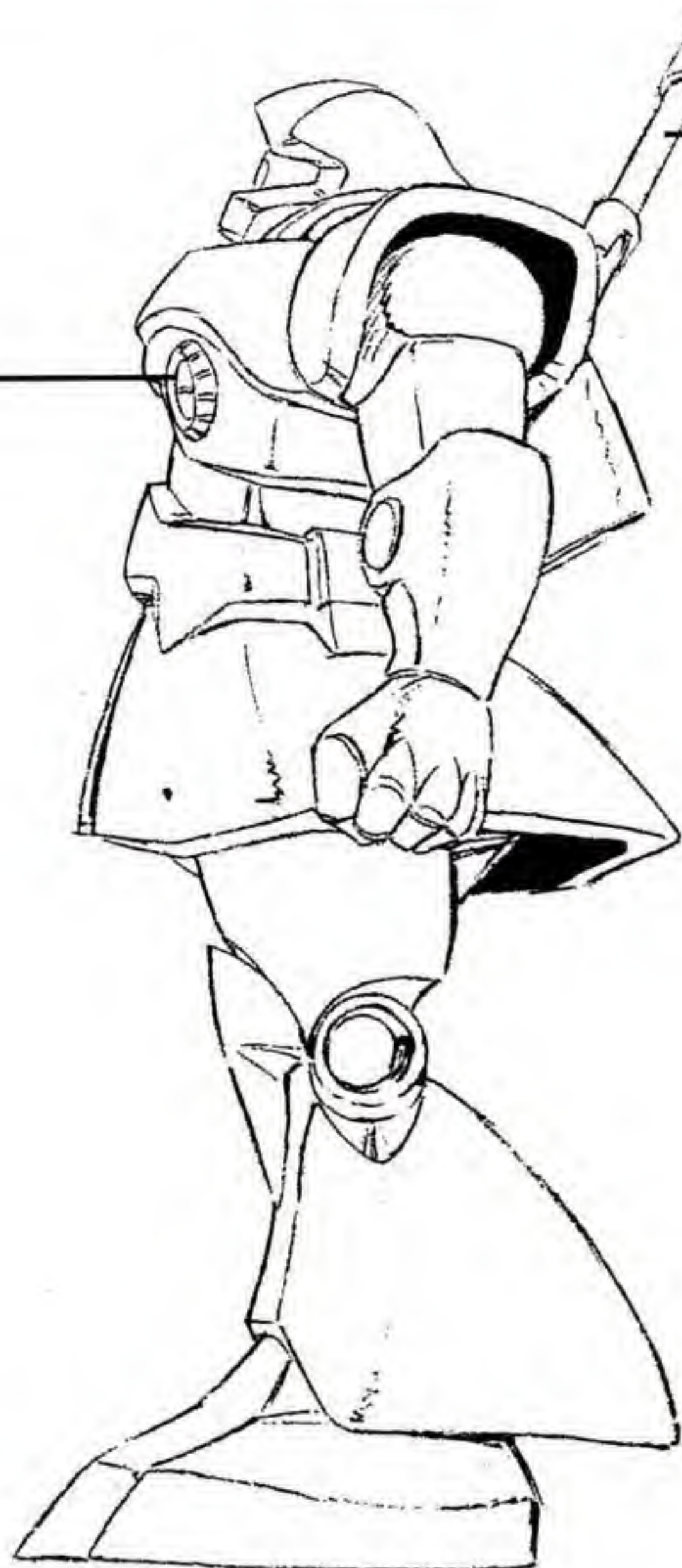
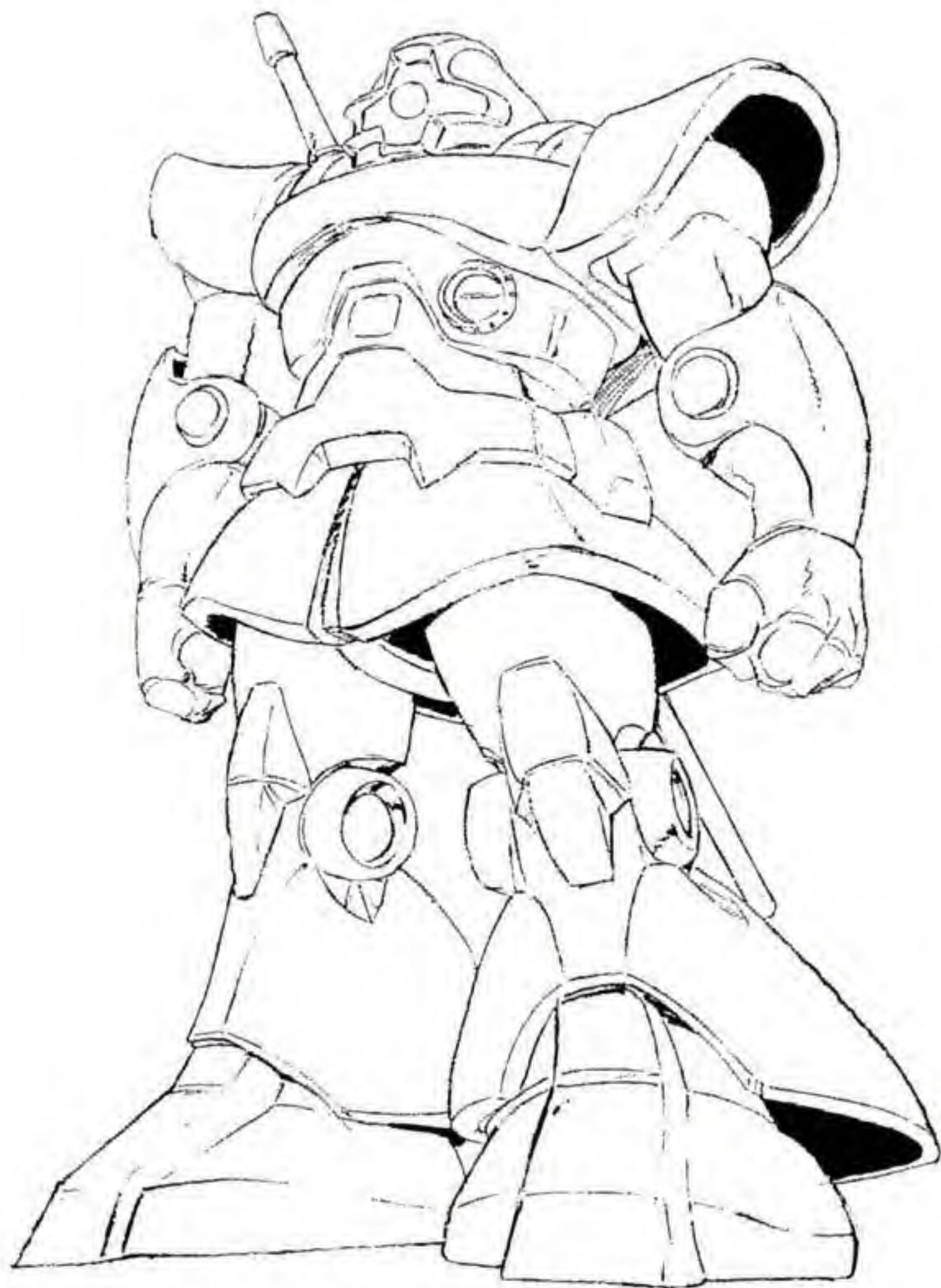
ジェネレータ出力：1,269kw

スラスタ総推力：58,200kg

センサー有効半径：5,400m

●MSの製造メーカーとしてはジオン公国最大手のジオニック社、そのライバル会社のツィマッド社が開発した陸戦用MSが「MS-09ドム」である。

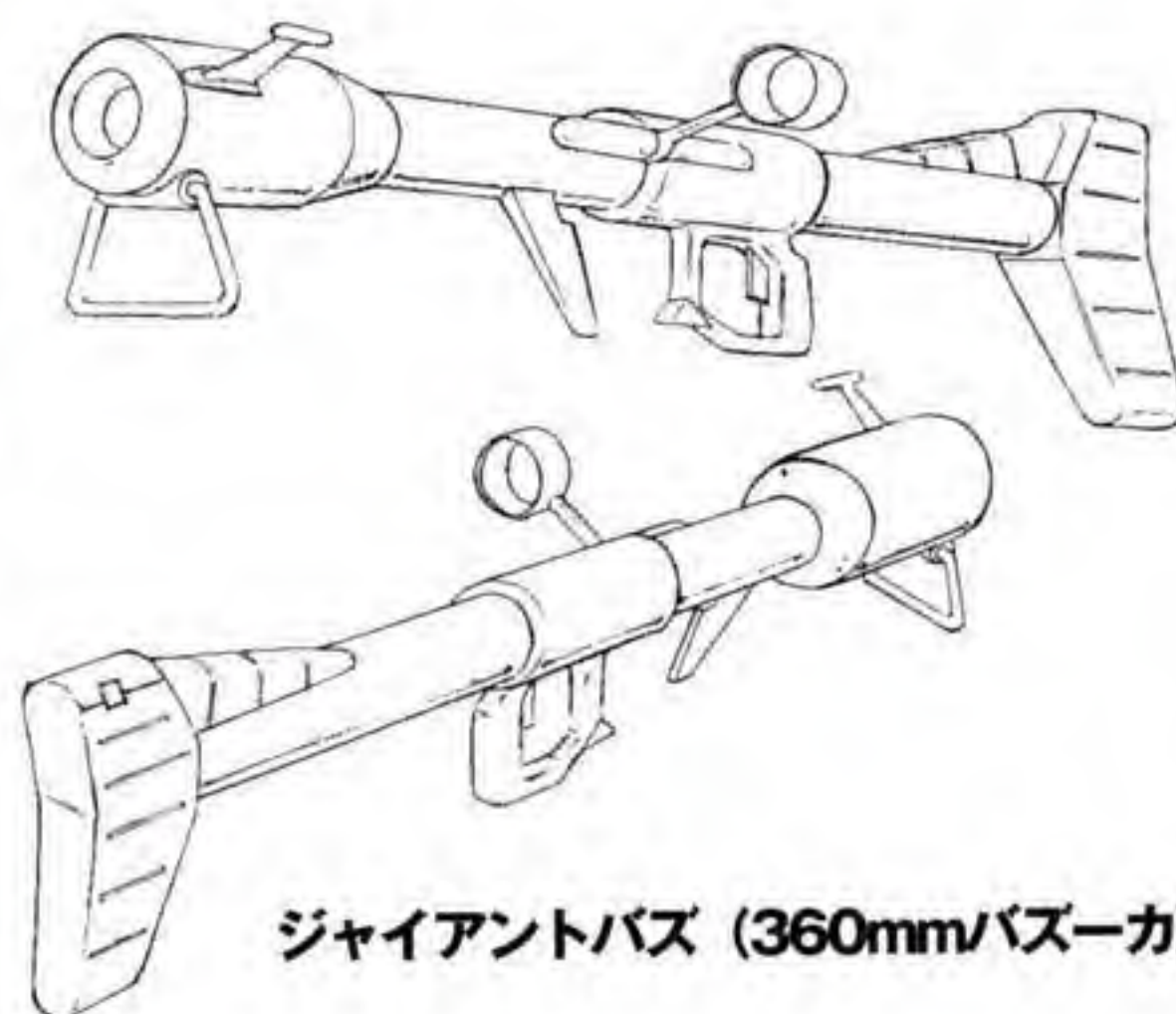
のコンセプトは画期的なもので、移動速度が遅いというのが陸戦用MSの欠点だったが、ツィマッド社はMSの脚部に「熱核ジェットエンジン」を搭載し、そのジェット噴射によりホバー走行を行なうという画期的なコンセプトでその欠点を解消したのである。このコンセプトを実現するにあたって最大の問題となったのは熱核ジェットエンジンの小型化で、これが困難を極めたため、量産開始は大戦中期にずれこんだのである。戦線に投入されたドムは、ホバー走行により戦場を疾走し、厚い装甲と強力な破壊力を持つジャイアントバズーカによって陸戦用MSの主力機となり、アフリカ、ヨーロッパ戦線を中心に配備が行なわれた。



ヒートサーベル

拡散ビーム

コクピット

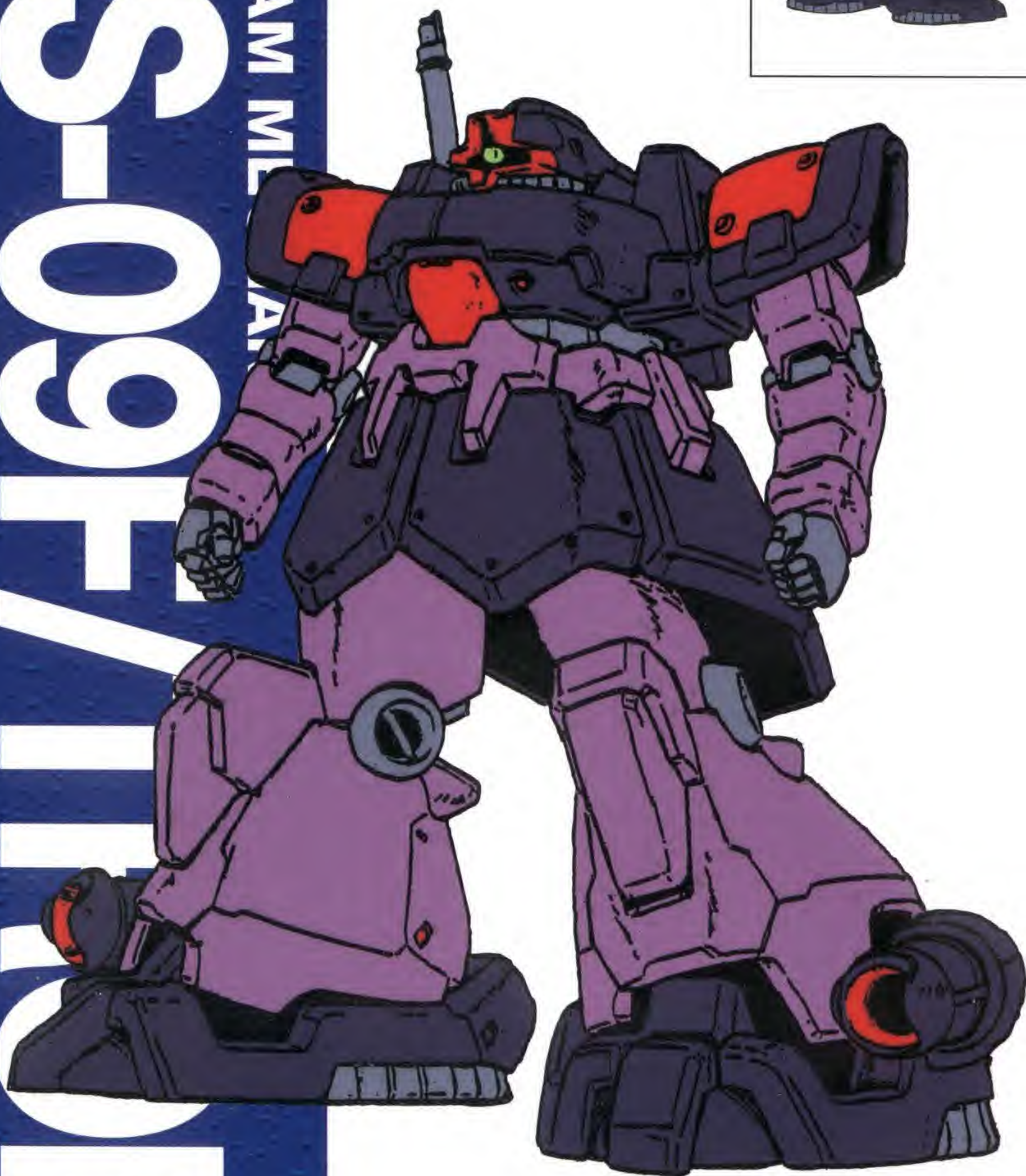


ジャイアントバズ (360mm/バズーカ)

ドム・トロープ

GUNDAM MEL

MS-09T/1P



MS-09F/TROP

ドム・トローパーン

機種分類：局地戦用量産型MS

製造会社：ツィマッド社

全高：18.5m

本体／全備重量：44.8／79.0 t

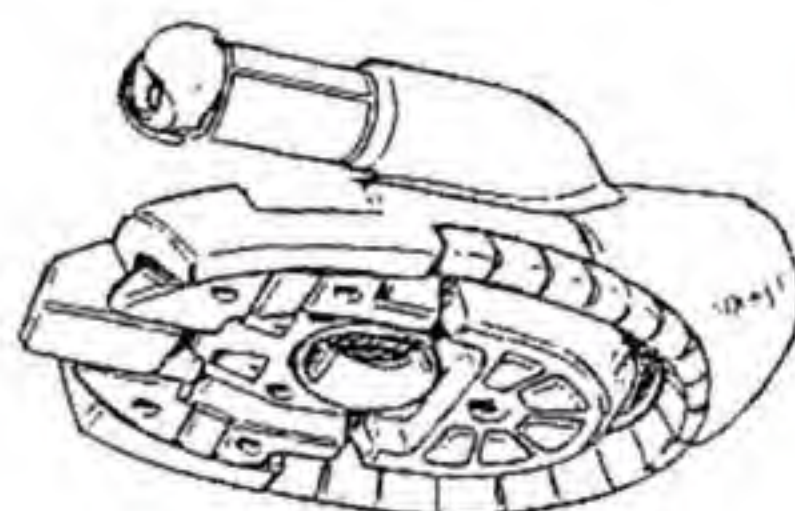
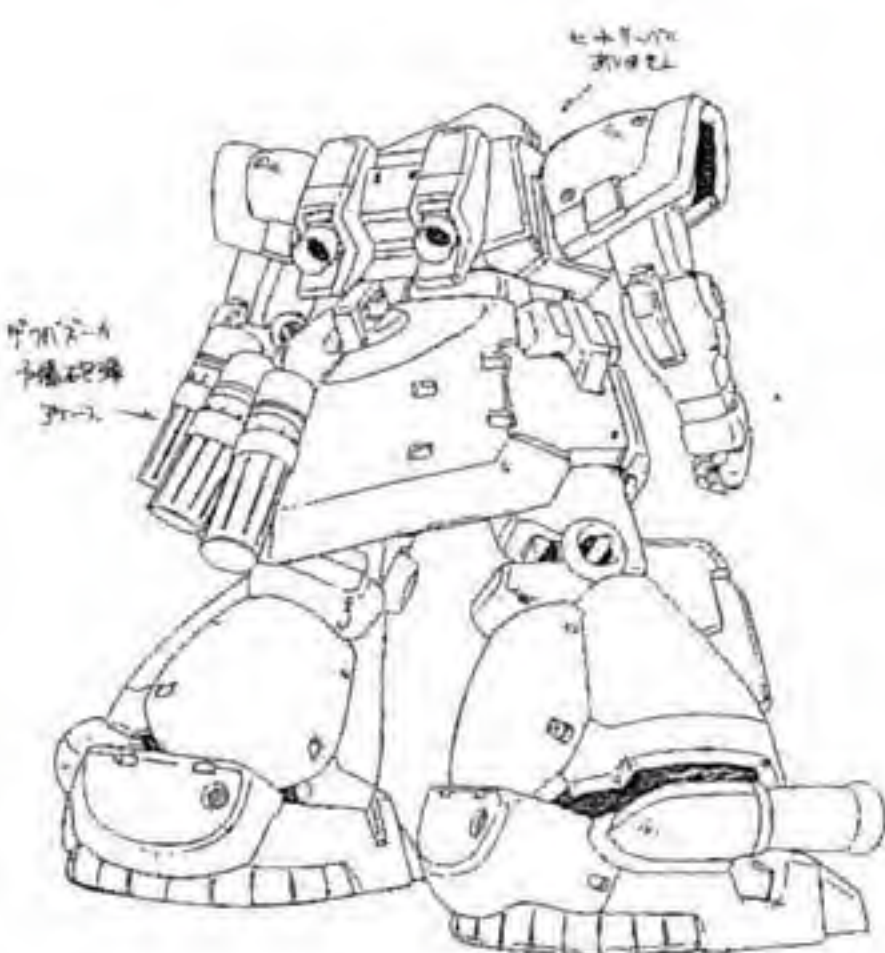
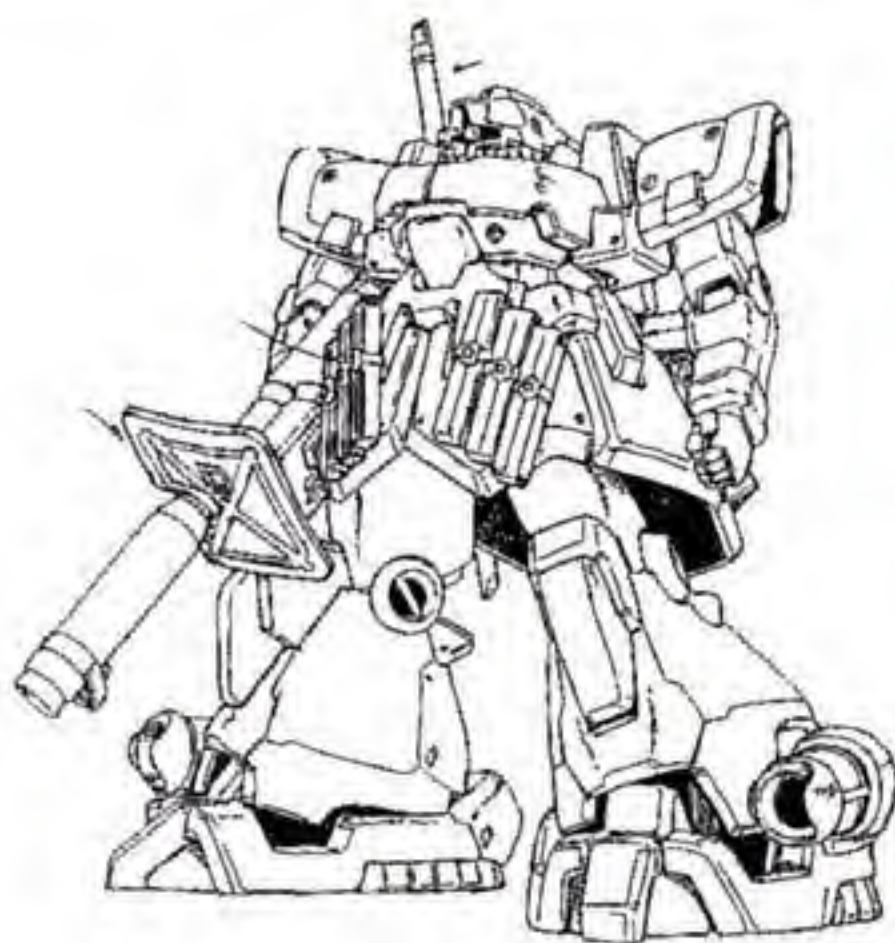
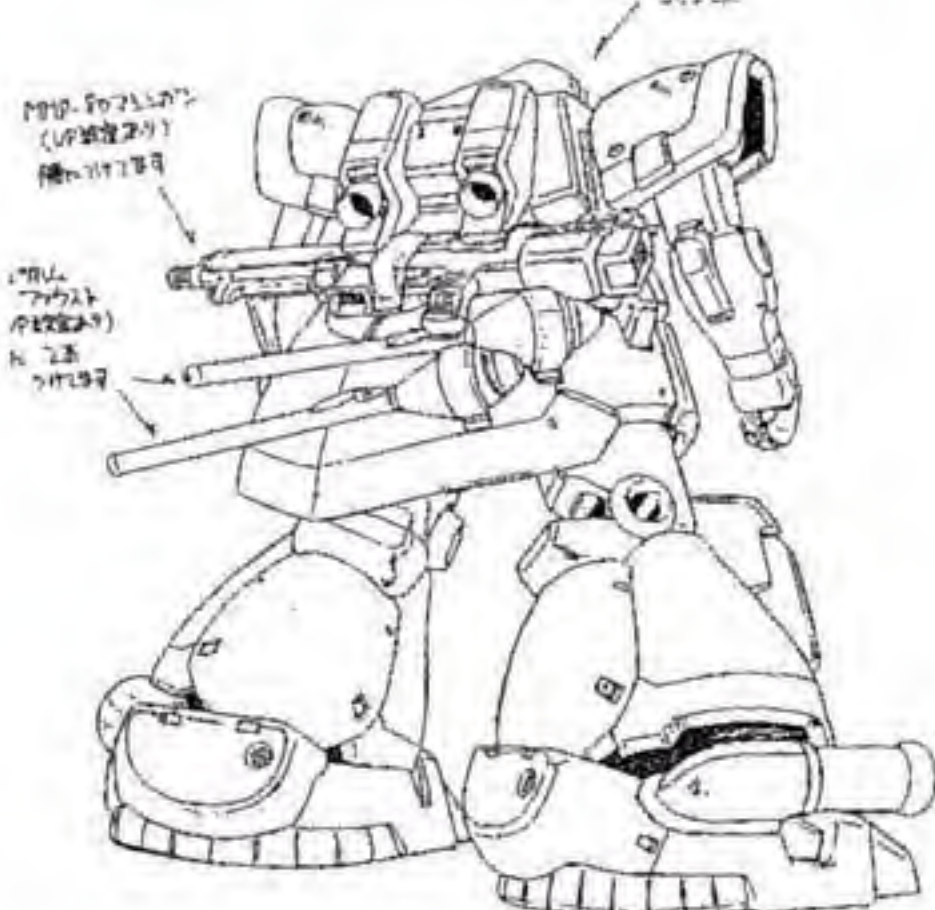
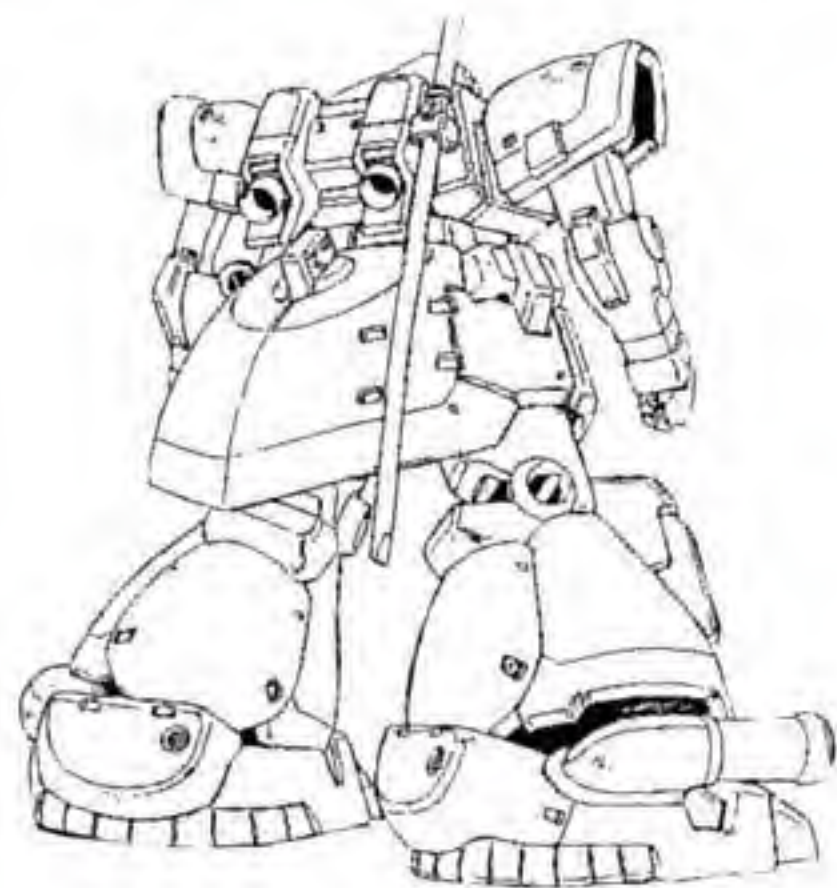
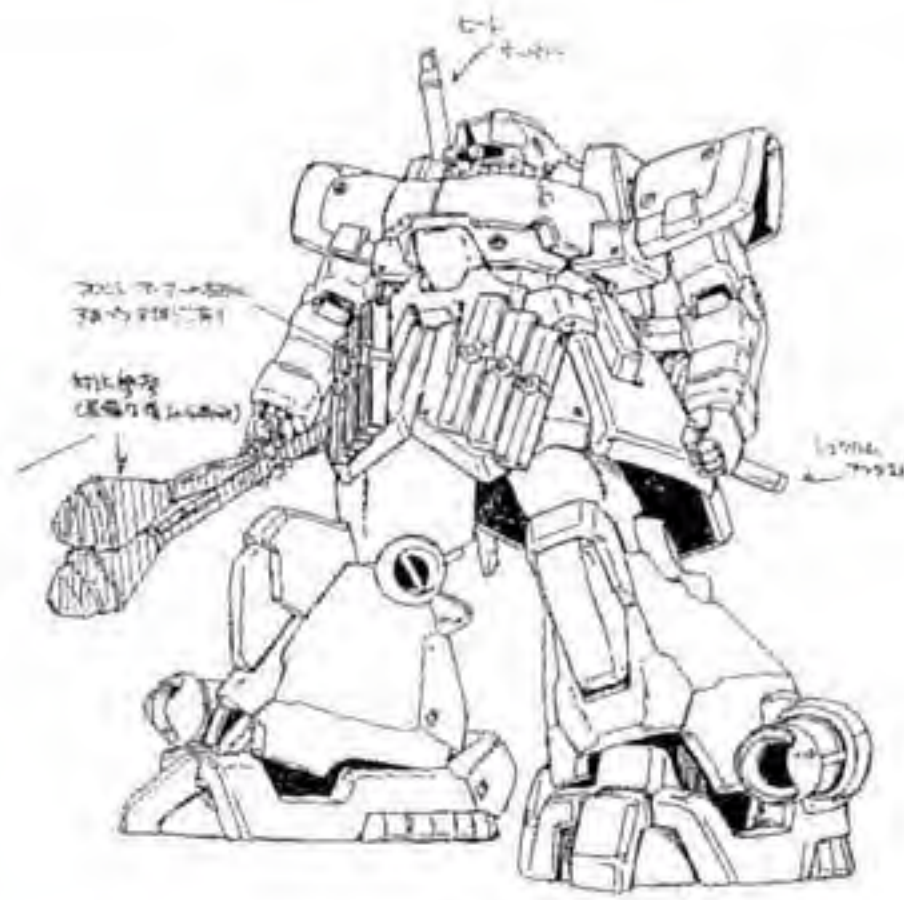
ジェネレータ出力：1,199kw

スラスター総推力：47,200kg

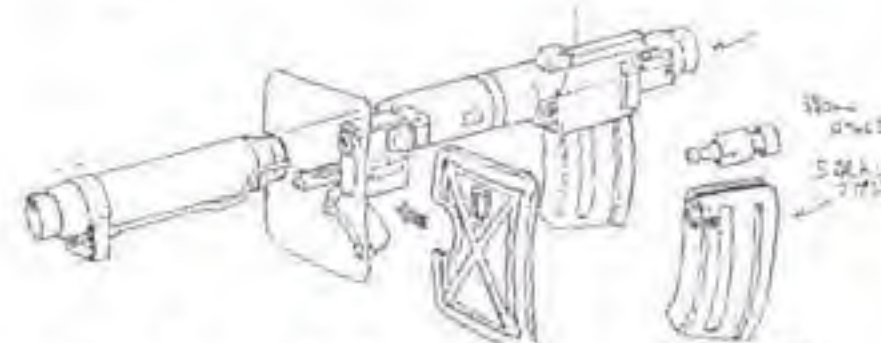
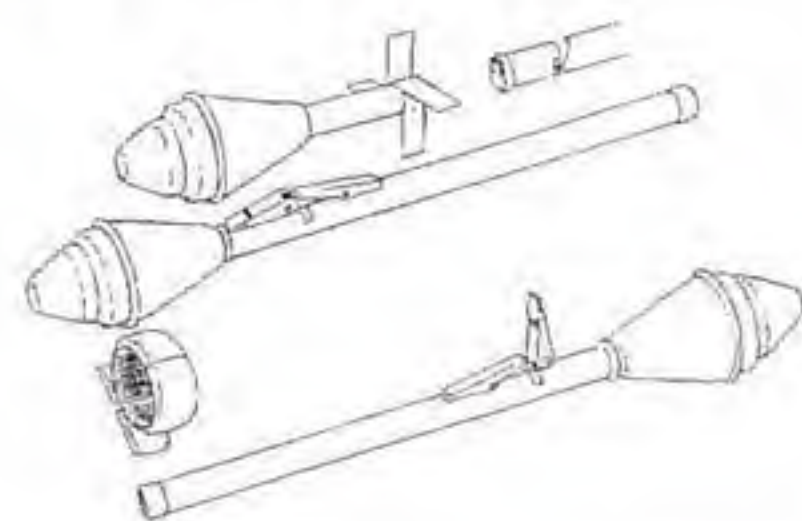
●「MS-09ドム」の局地戦仕様として開発されたタイプ。

陸戦用に開発されたドムだが、アフリカを始めとした砂漠地帯・酷暑地帯では機体の消耗や故障が激しいことが予想され、局地戦用機の開発が同時に進められていた。「ドム・トローパーン」もこの局地戦用機開発プログラムに従って完成した。「トローパーン」とはドイツ語で「トロピカル＝熱帯」を意味する言葉である。

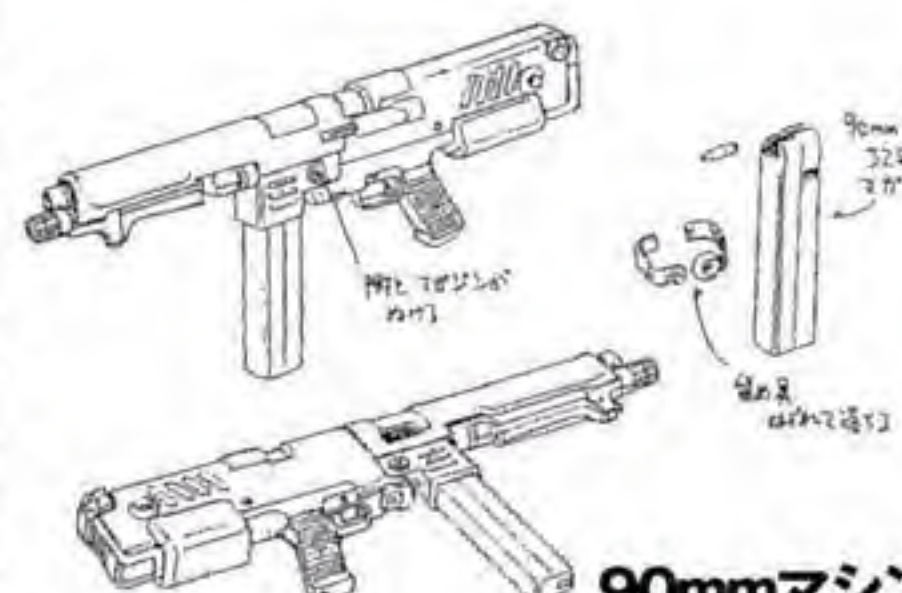
機体各所に防塵フィルターや冷却装置が装備されているほか、整備を簡略化するため各装甲はブロック化されており、装甲内に入り込む砂の排除を容易にしている。脚部の熱核ジェットエンジンの吸気口には、大型の防塵フィルターが取り付けられエンジン内部に砂が入り込むのを防いでいる。



シュツルム・ファウスト



ラケーテン・バズ

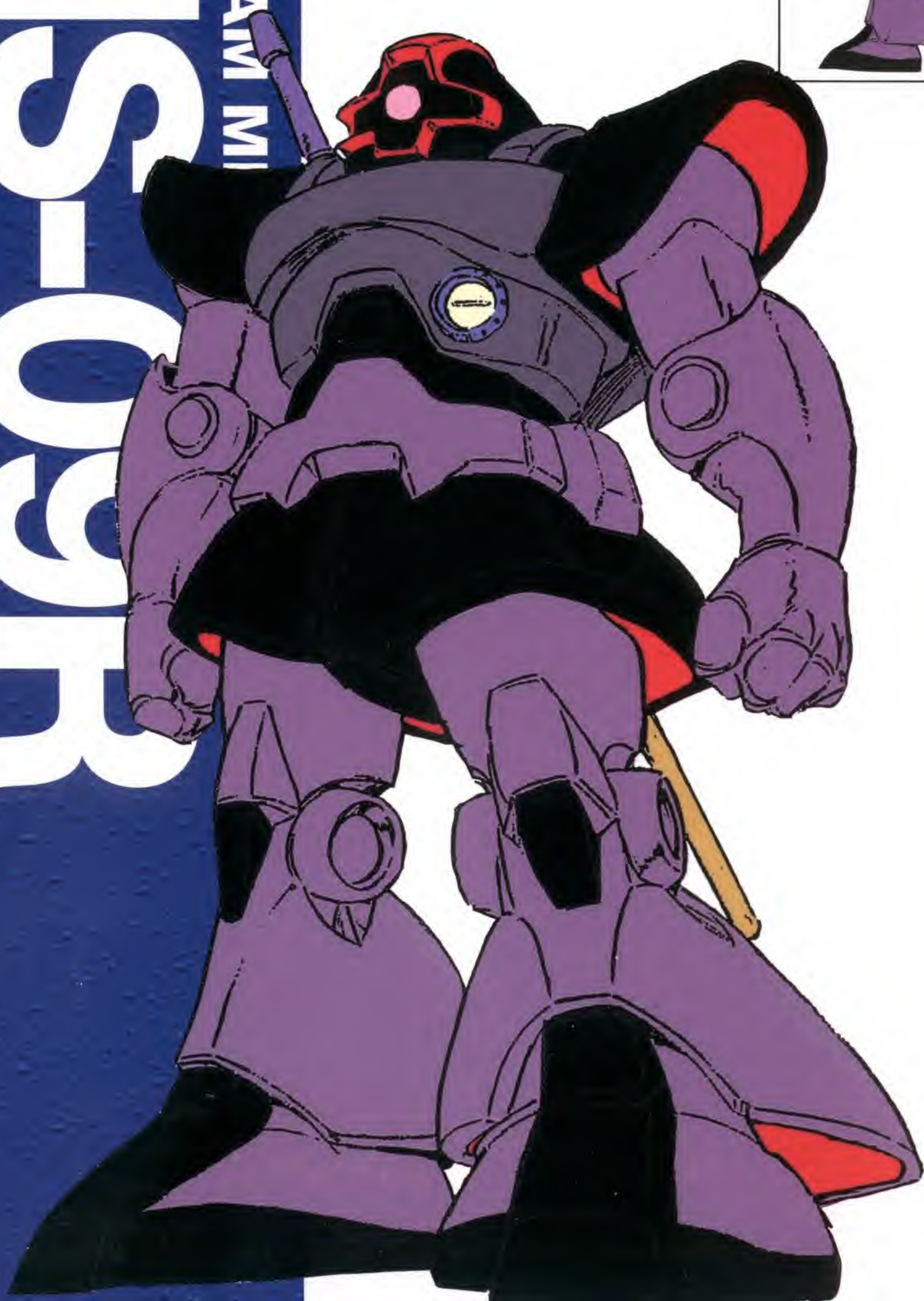


90mmマシンガン

リックドム

GUNDAM MI

MS-06R



MS-09R

リックダム

機種分類：宇宙戦用量産型MS

製造会社：ツィマッド社

全高／頭頂高：18.6／18.6m

本体／全備重量：43.8／78.6 t

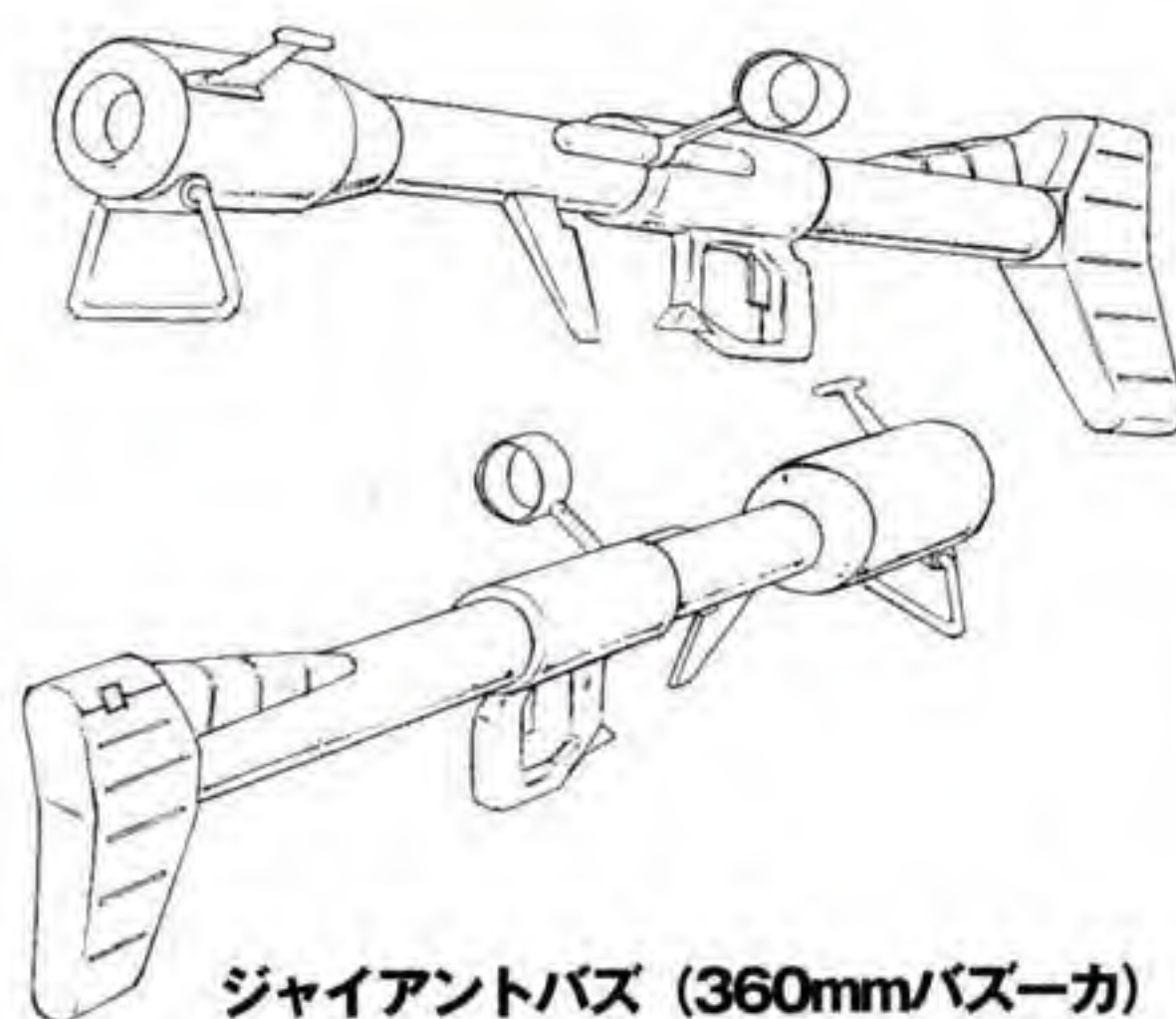
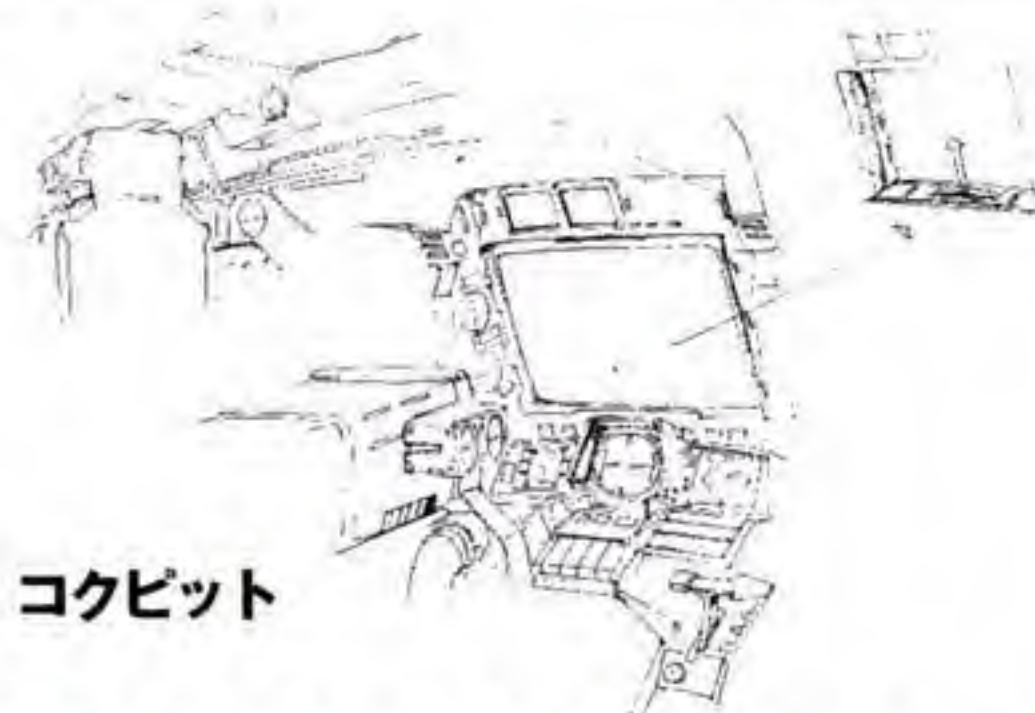
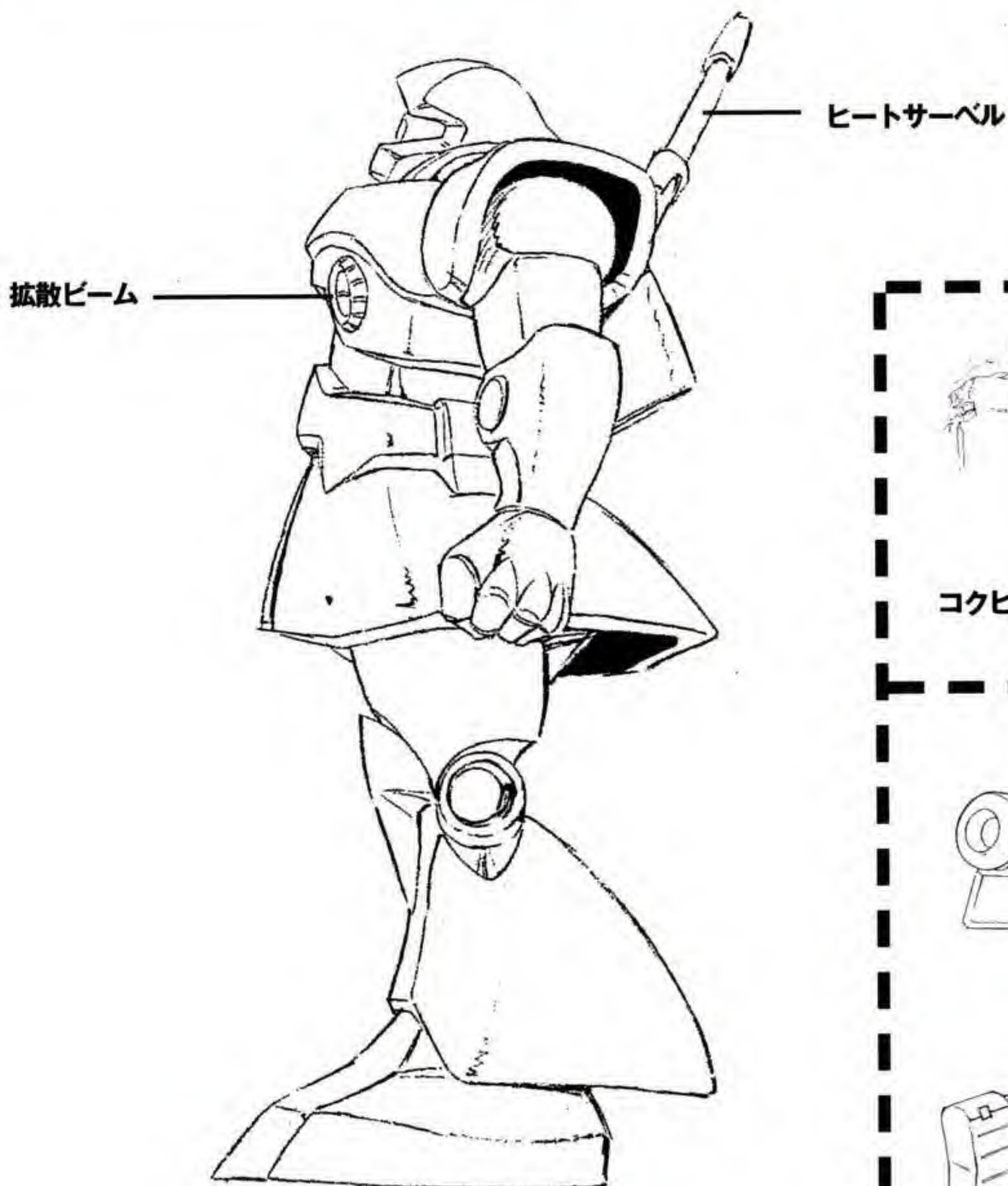
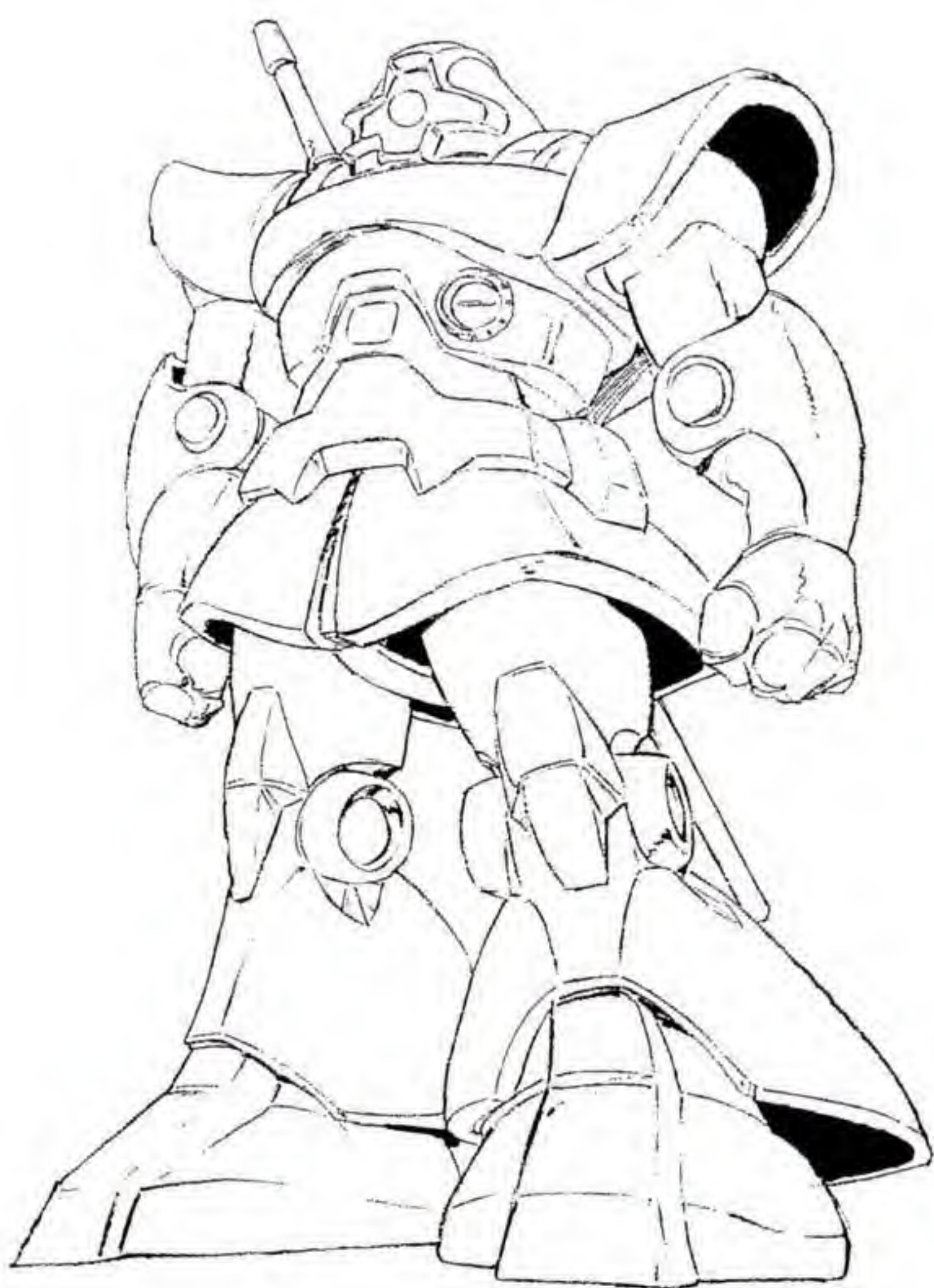
ジェネレータ出力：1,199kw

スラスタ総推力：53,000kg

センサー有効半径：5,400m

●「MS-09Rリックダム」は、開発が遅れていた次期主力MSの穴を埋めるため、暫定的に採用された宇宙戦用MSである。陸戦用MSとして高い性能を持つ「MS-09ダム」の脚部の熱核ジェットエンジンを熱核ロケットエンジンに換装し、ほかのさまざまな個所も宇宙戦闘に適した改良が施されている。

完成した試作機とジオニック社の「MS-06R-2」の比較評価試験が行われた結果、機動性／アビオニクスでは今一歩及ばないものの、生産性や機体の扱いやすさ、総合性といった点が評価され、リックダムの採用が決定した。こうして一時期ではあるが、宇宙・地上ともにザクシリーズに代わってダムシリーズが主力機として君臨したのである。

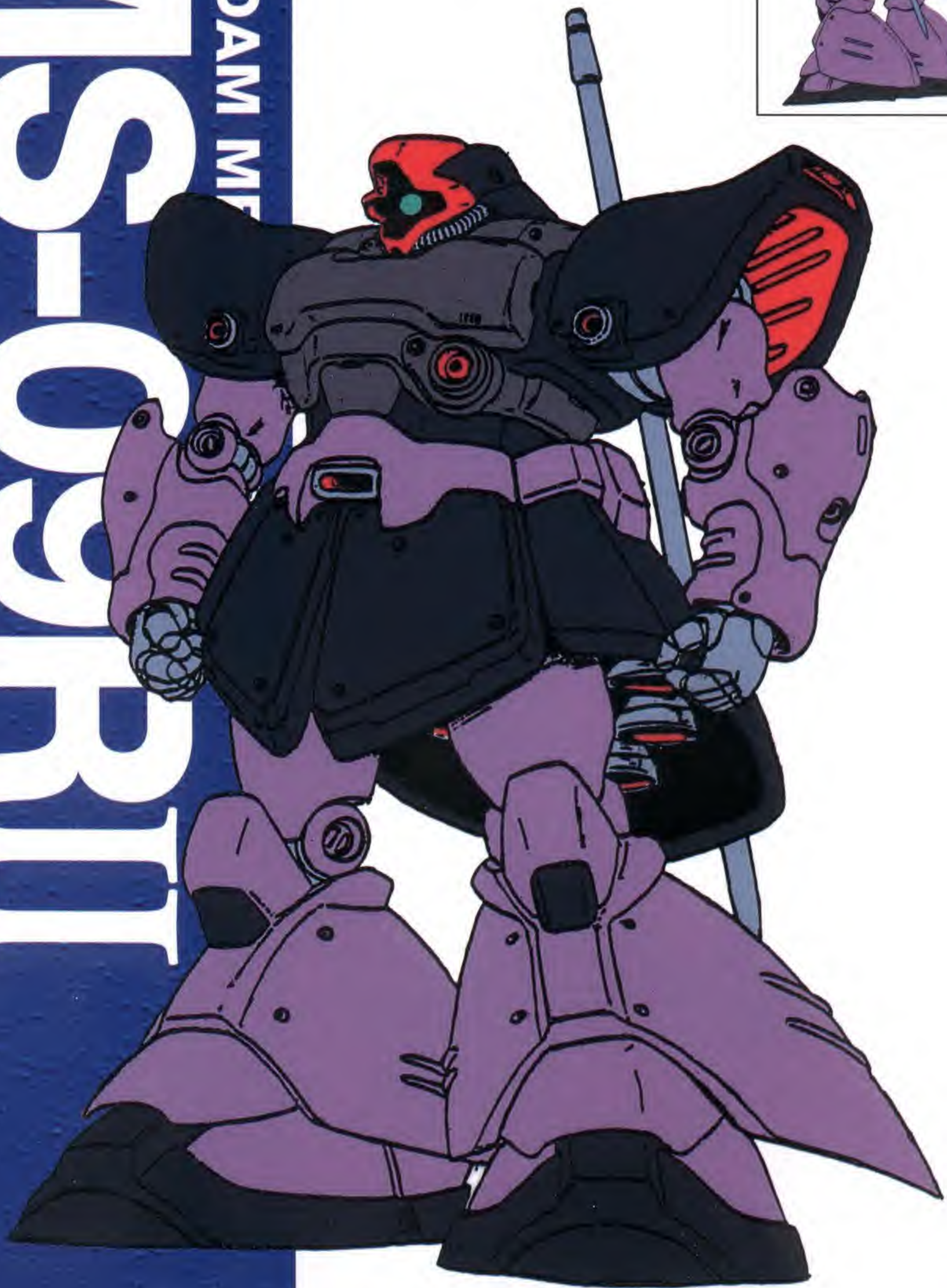


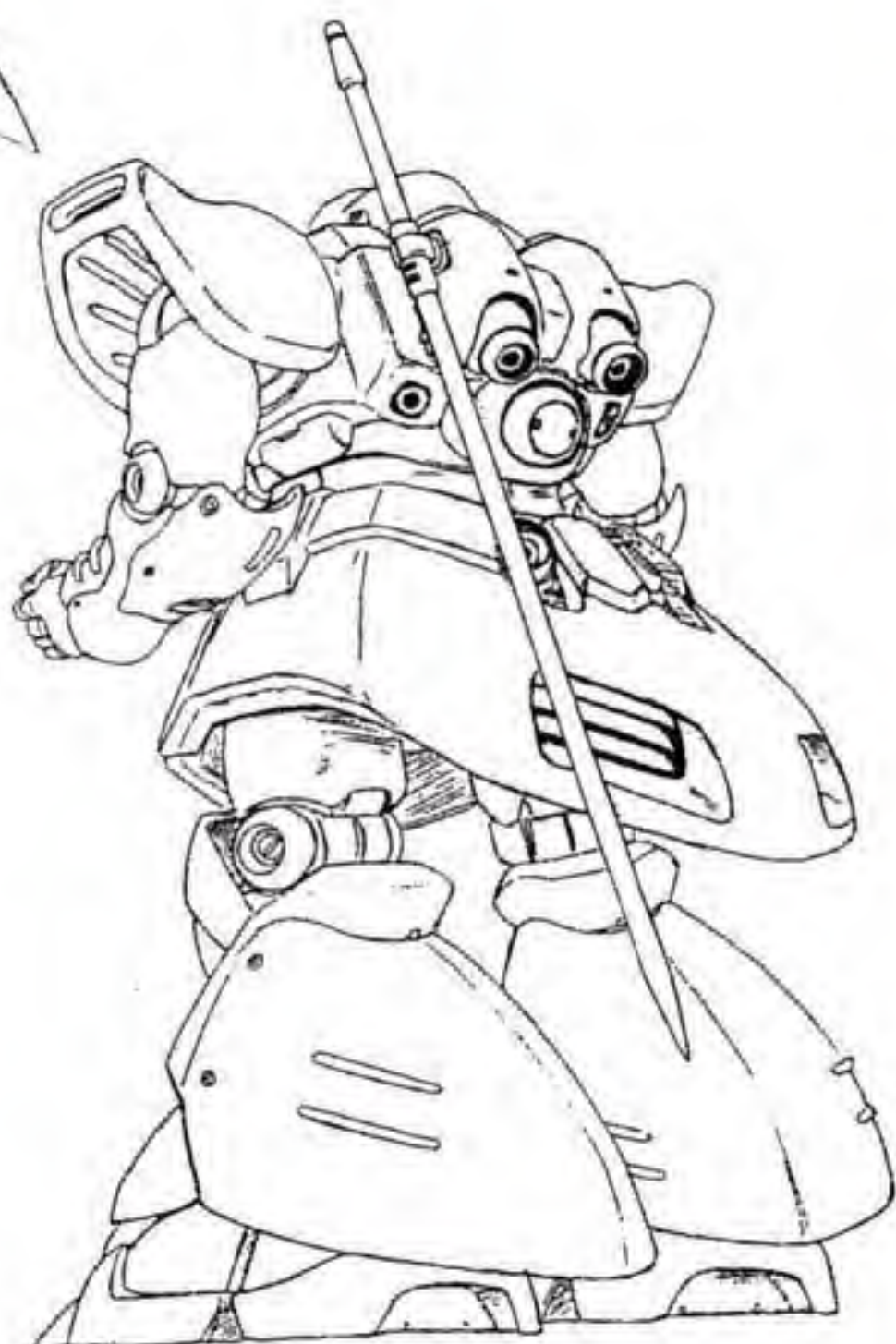
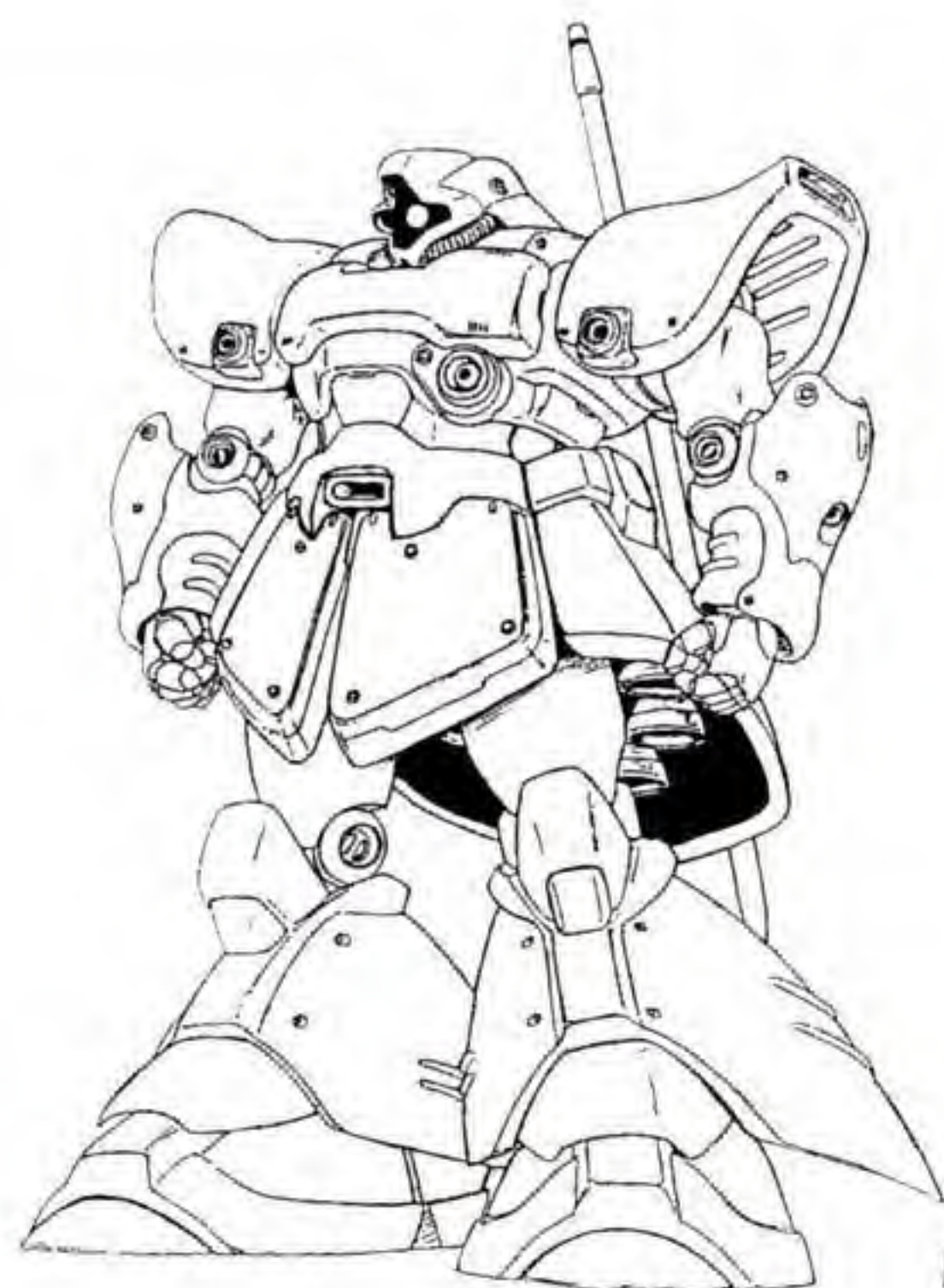
ジャイアントバズ (360mmバズーカ)

リックダムⅡ

GUNDAM MIF

MS-01





MS-09R II

リックドム II

機種分類：宇宙戦用量産型MS

製造会社：ツィマッド社

全高／頭頂高：18.6／18.6m

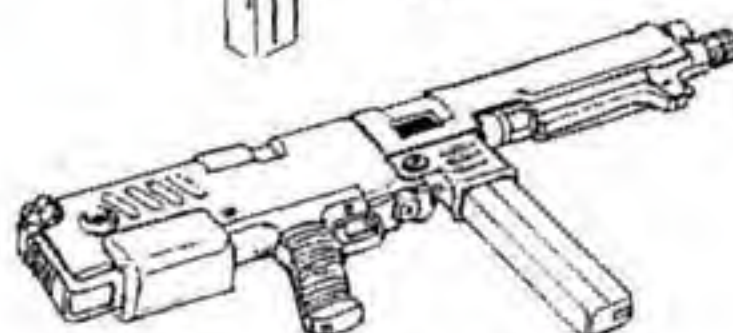
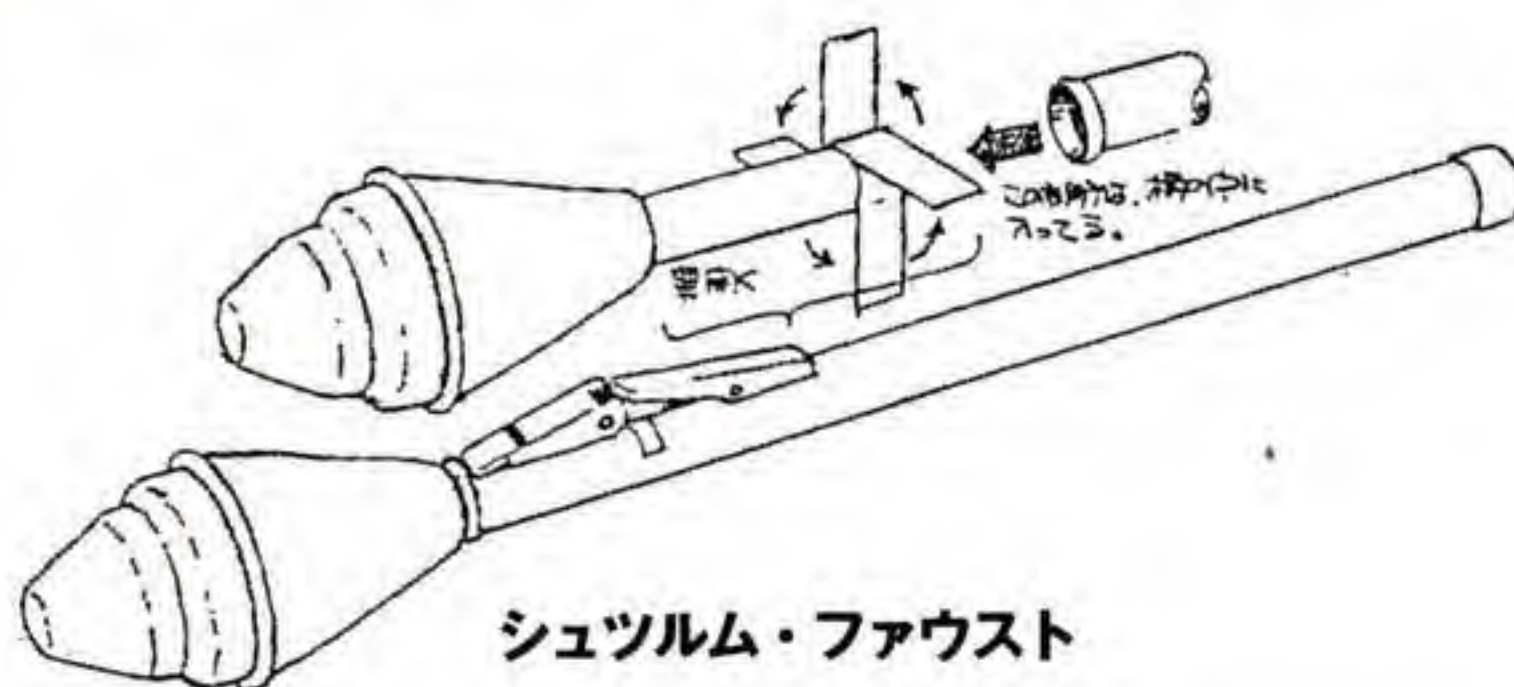
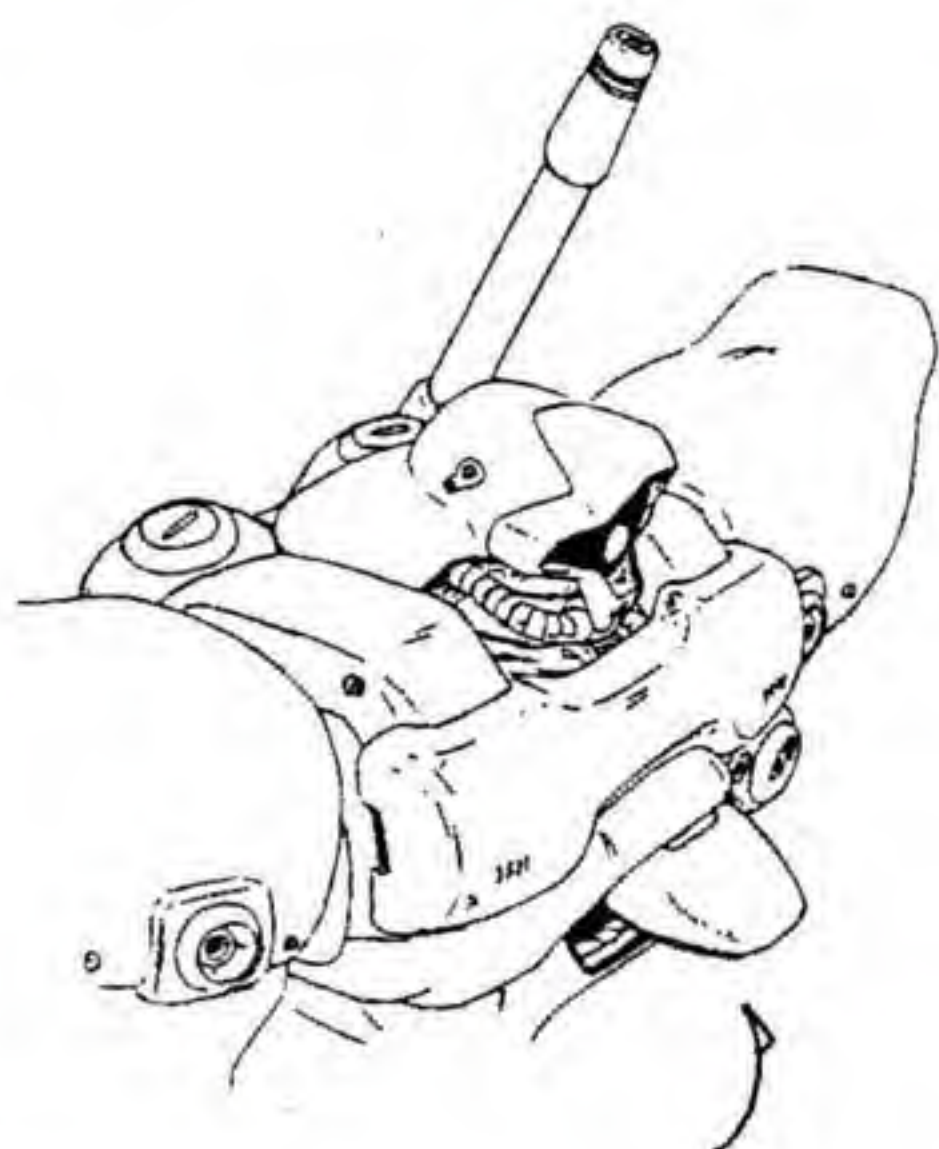
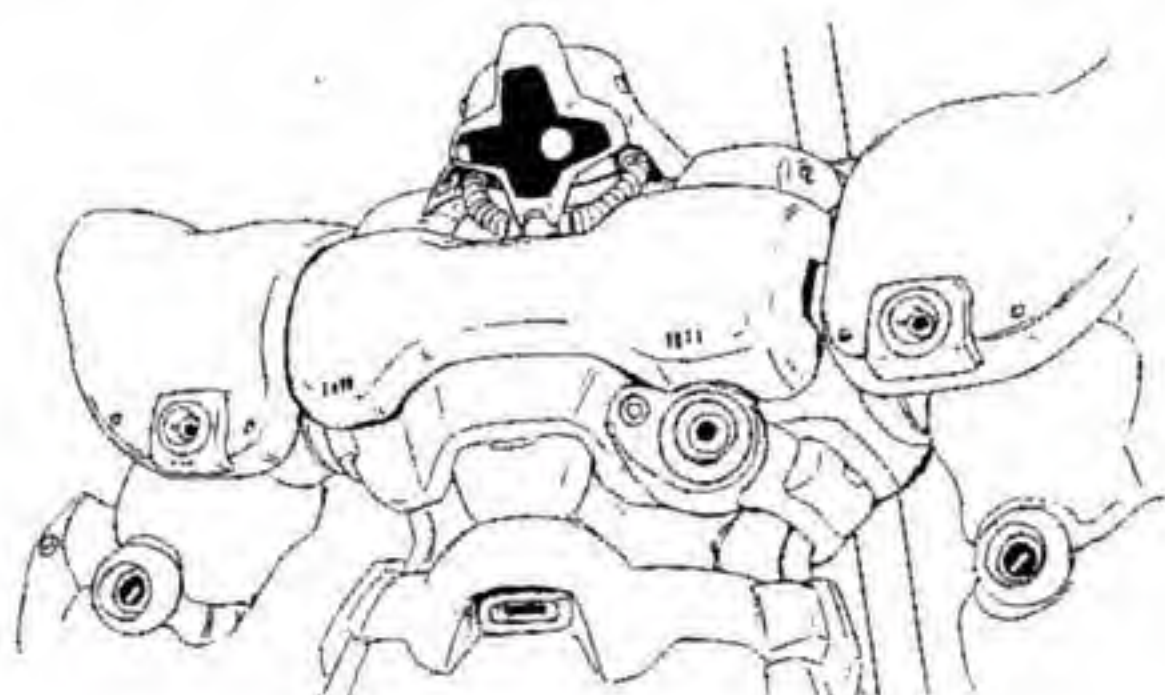
本体／全備重量：45.6／79.9t

ジェネレータ出力：1,219kw

スラスター総推力：110,000kg

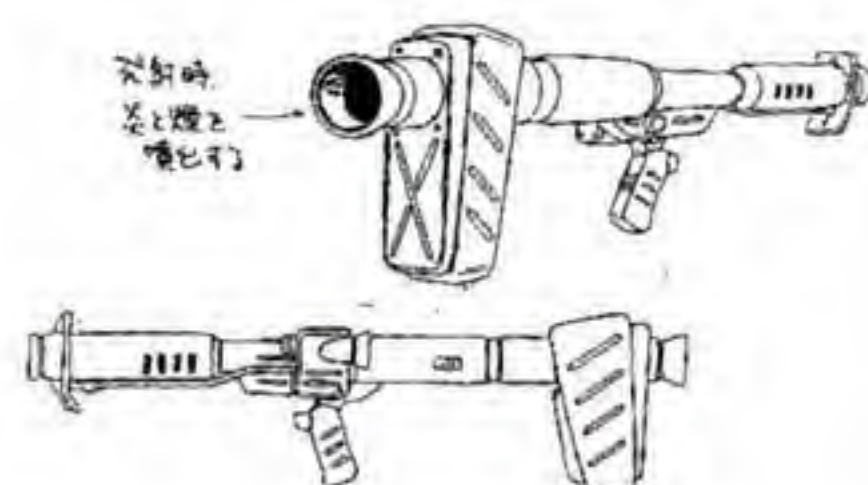
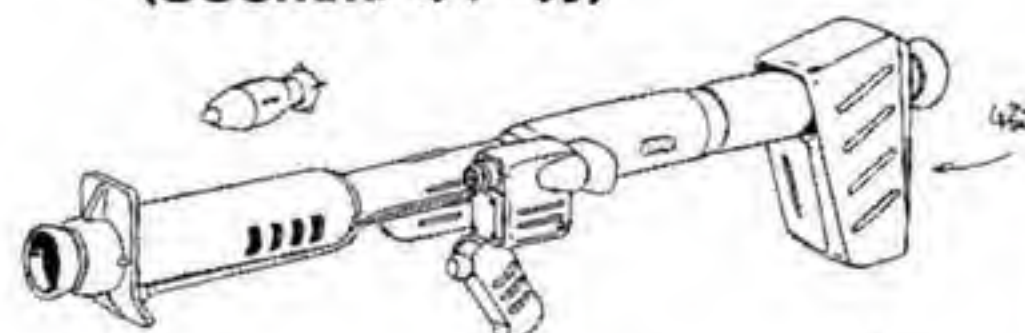
センサー有効半径：5,400m

●熱核ジェットホバーによる高速移動という新しいコンセプトで、地上の局地戦用MSとして成功を収めた「MS-09ドム」。ジオン軍はMS-09のトータルバランスの高さに目を付け、熱核ジェットエンジンを熱核ロケットエンジンに換装することにより、宇宙戦用の「MS-09Rリックドム」を産み出した。この「MS-09R」が予想以上の戦果を上げたため、ジオン軍はMS-09Rのさらなる性能の向上を目指して大幅な改良を行なった。この改良は、他機種とのパーツの共用や生産性の向上を目的とした、MS生産改善プラン「統合整備計画」にのっとり行なわれた。R II型にはジェネレータ、スラスターのチューンナップおよび姿勢制御バーニアの増設による機動性の向上や、プロペラントタンクの装備による行動時間の延長などといった改良がなされている。しかし、生産が戦争末期だったため実戦参加した機体は少ない。



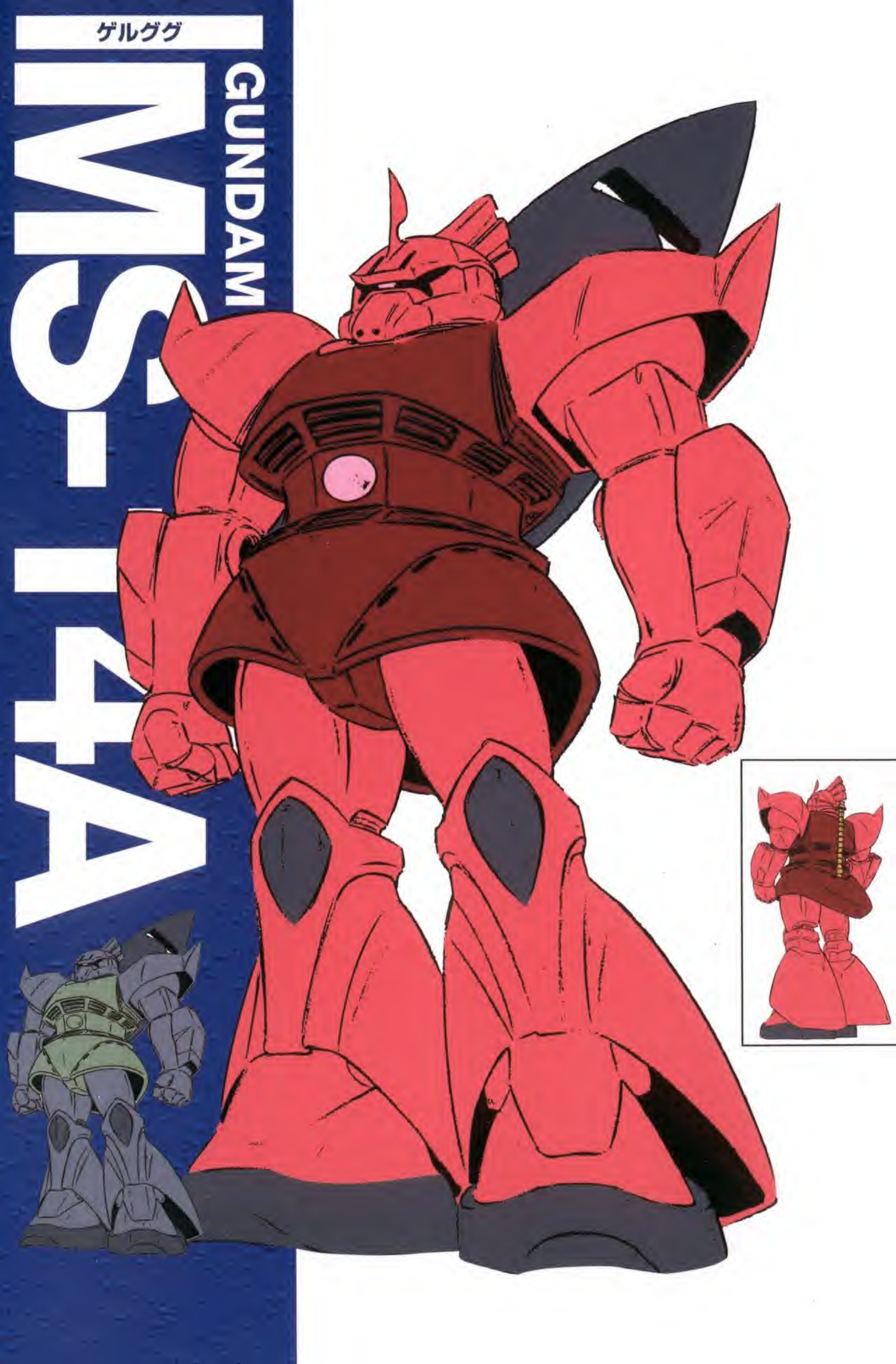
90mmマシンガン

ジャイアントバズーカ
(360mmバズーカ)



ゲルググ

GUNDAM



MS-14A

ゲルググ

機種分類：汎用量産型MS

製造会社：ジオニック社

全高／頭頂高：19.2／19.2m

本体／全備重量：42.1／73.3t

ジェネレータ出力：1,440kw

スラスタ総推力：61,500kg

センサー有効半径：6,300m

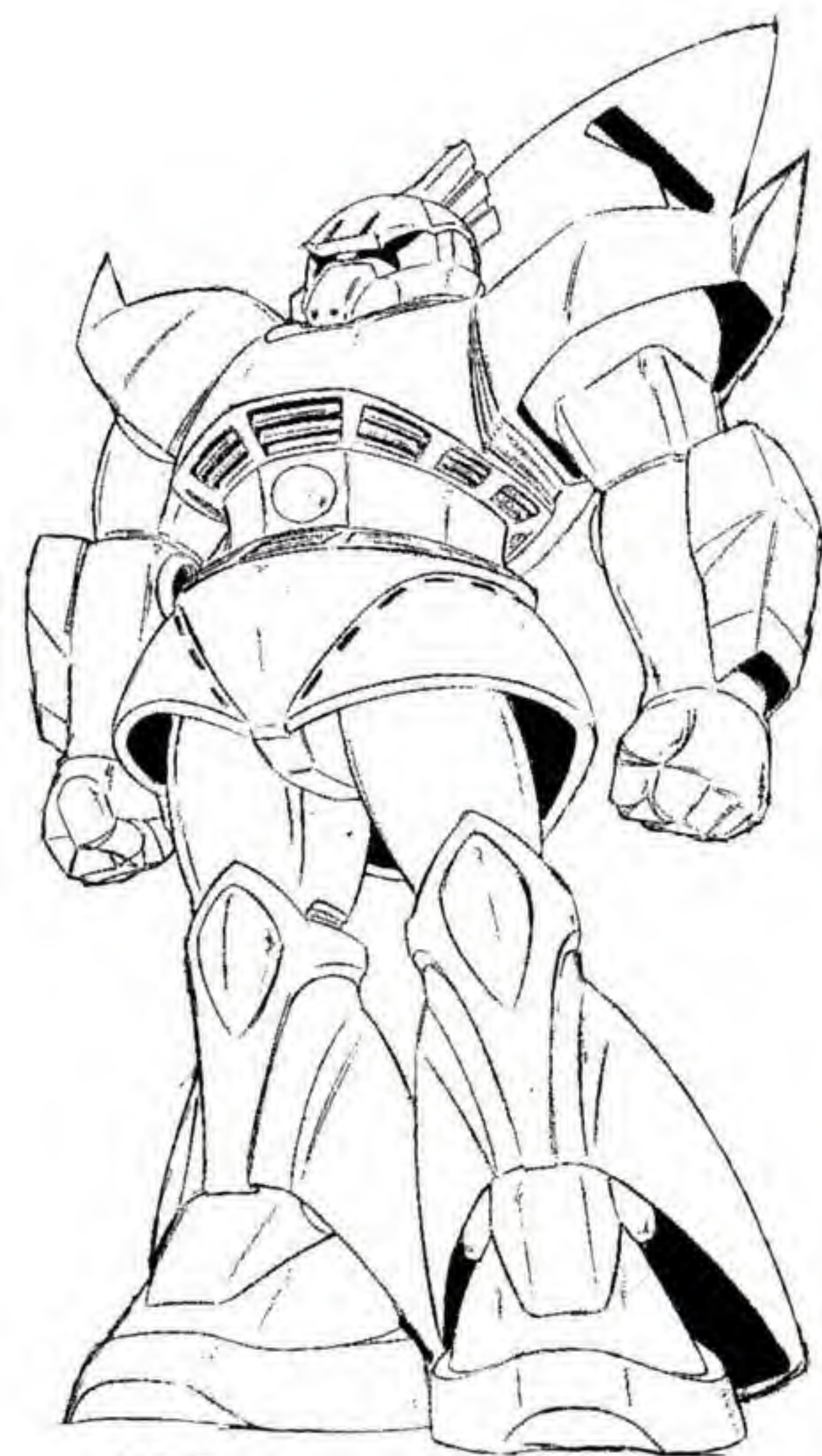
●「MS-14Aゲルググ」は、のちの戦略家たちが『ゲルググがもう数か月早く実戦配備されていれば、戦局は変わっていただろう』と言うほどの高性能機である。

「MS-14A」は腰部スカート内と脚部にスラスタを持ち、ほかを圧倒する機動性と推力を誇り、ジオン軍の量産MSとしては初めて、ビームライフルを標準装備している。

ゲルググの性能は、連邦軍の量産MS「RGM-79ジム」をはるかに上回るもので、ジオニック社はMS開発の本家として、その底力を見せつけたのである。しかし、ビームライフルの実用化が遅れ、大戦末期になってようやく量産が開始された。結局、量産開始が遅かったため、「MS-14A」はあまり活躍することなく終戦を迎えてしまった。

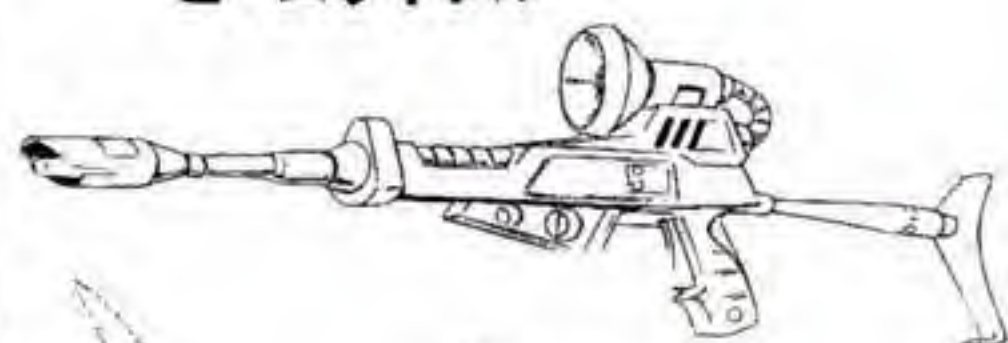


指揮官用

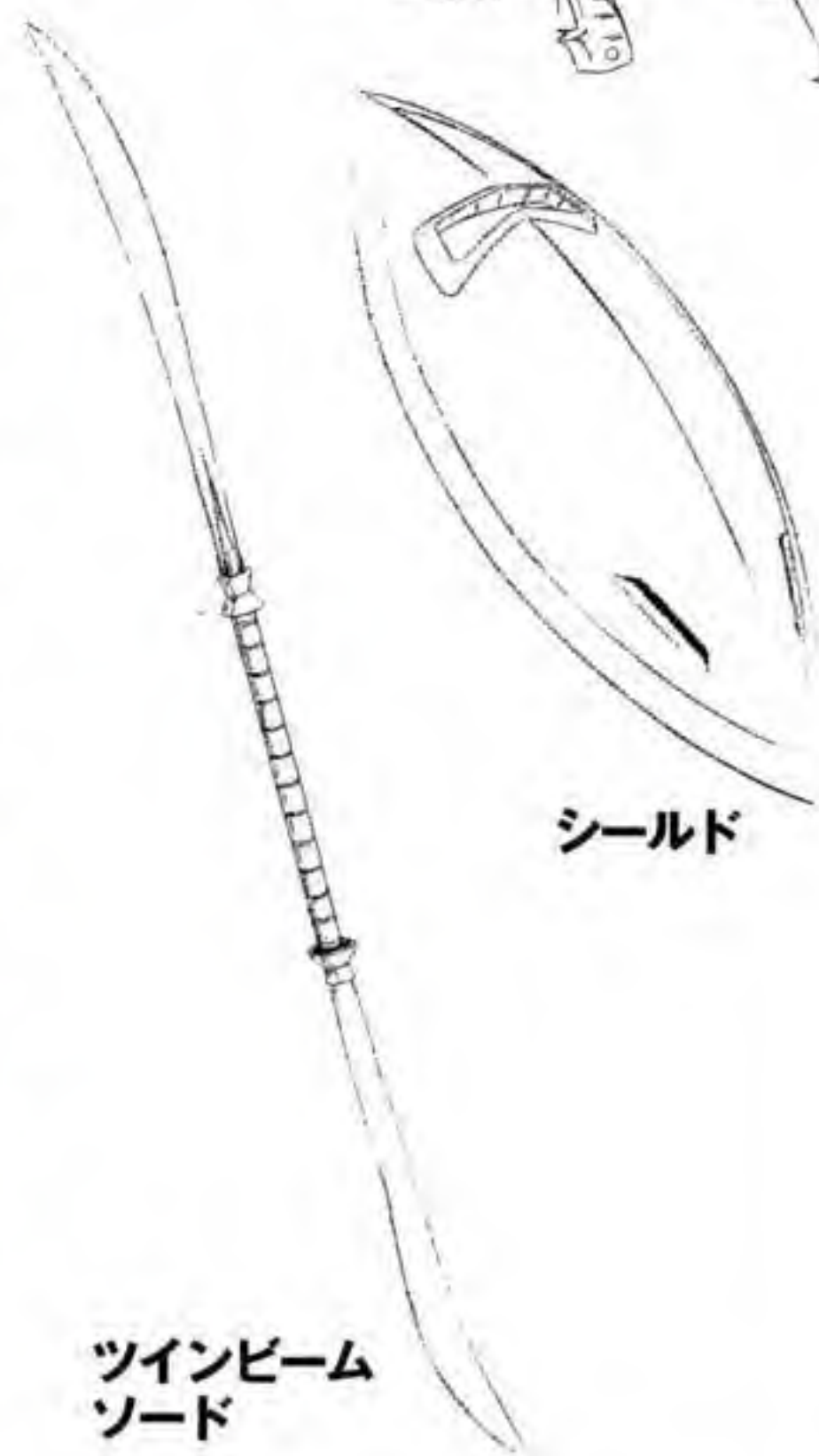


一般兵用

ビームライフル



シールド



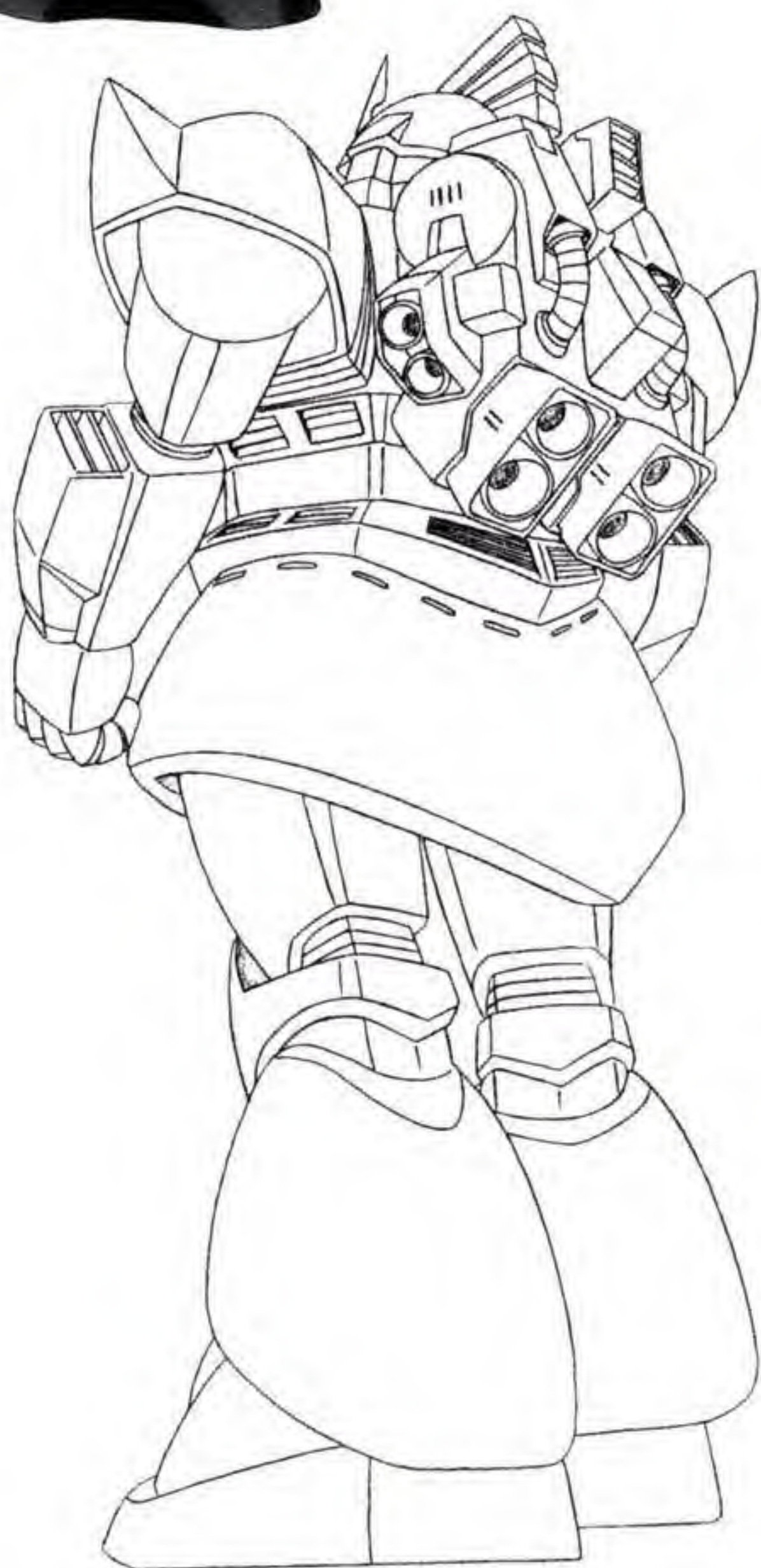
ツインビーム
ソード

ゲルググ高機動型

GUUND

MS-15





MS-14B

ゲルググ高機動型

機種分類：宇宙戦用量産型MS

製造会社：ジオニック社

全高／頭頂高：19.6／19.2m

本体／全備重量：53.5／76.8 t

ジェネレータ出力：1,440kw

スラスタ総推力：79,900kg

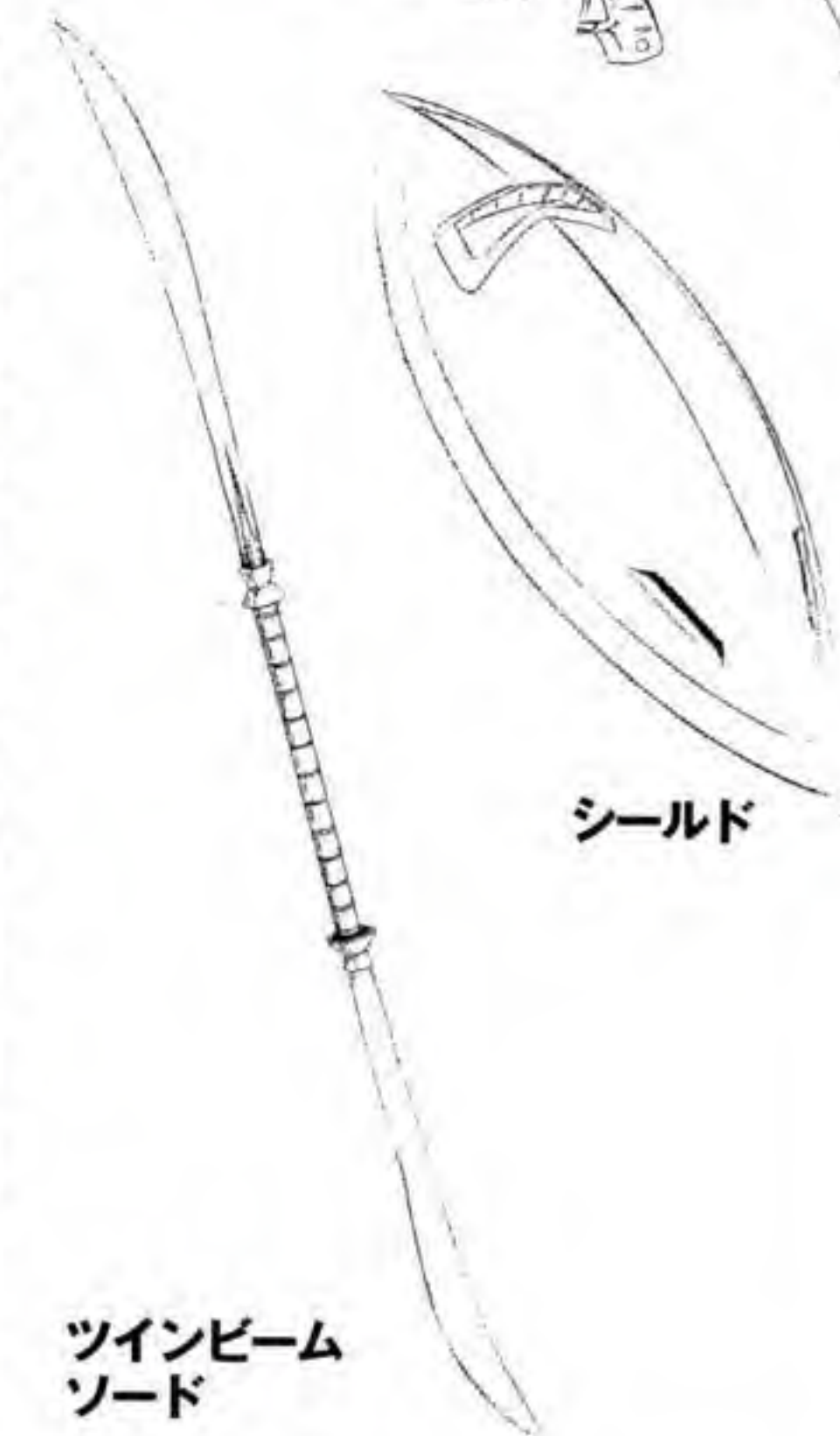
センサー有効半径：6,300m

●ゲルググは設計当初から機体各部の徹底的なユニット化が行なわれた。これは生産ラインの分業化と、生産段階でのオプション追加による仕様変更を容易にするための配慮である。これにより「MS-14A」の生産ラインを大きく変更することなく、B型やC型の機体生産が可能になった。この「MS-14B」は、「MS-14A」の背部をパネルごとバックパックに換装したもので、「ゲルググ高機動型」と呼ばれる。膨大な初期加速が必要とされる一撃離脱作戦などに使用され、エースパイロットを中心に配備された先行量産型のYMS-14の中にもこのB型仕様の機体は多かった。多くのトップエースが搭乗していたことも手伝い、B型はエースパイロット用の機体というイメージが強い。

ビームライフル



シールド

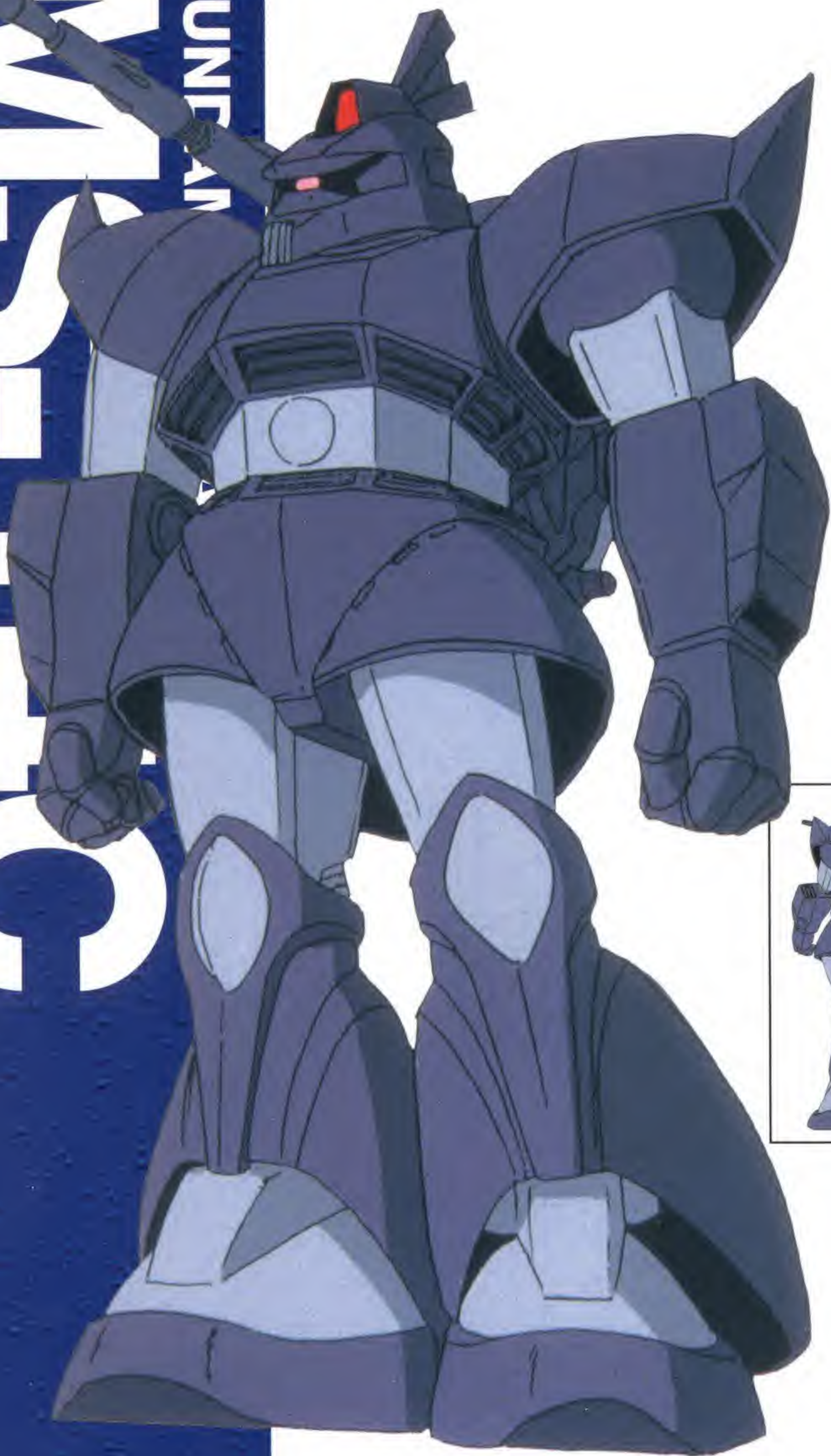


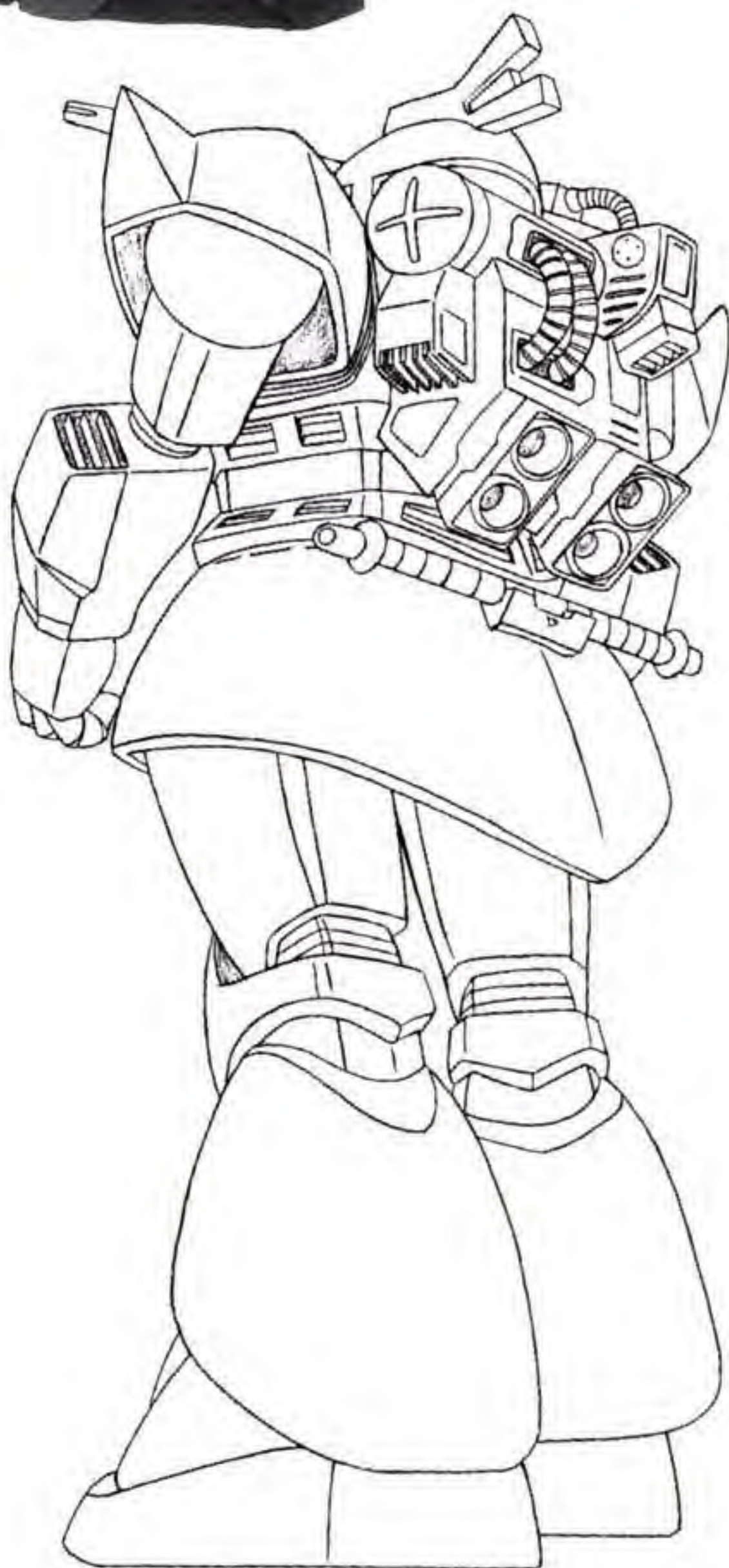
ツインビーム
ソード

ゲルググキャノン

GUNFAM

MS-15C





MS-14C

ゲルググキャノン

機種分類：砲撃戦用量産型MS

製造会社：ジオニック社

全高／頭頂高：19.5／19.3m

本体／全備重量：55.8／79.8 t

ジェネレータ出力：1,440kw

スラスタ総推力：73,900kg

センサー有効半径：6,300m

●ビームライフルの標準装備が前提とされていたゲルググだが、機体の開発に比べビームライフルの開発は難航、先行量産型の「YMS-14」の完成時には、ビームライフルはまだ試作の段階であった。開発の遅れたビームライフルの完成を待たず、バックパック方式のビームキャノン装備した機体が「MS-14C」である。C型はキャノン砲を装備するにあたり、頭部ユニットの再設計を行ない、専用の照準器を追加している。キャノン砲はパイロットの操縦系とは独立しており、半自動で索敵・射撃を行なうことができた。右腕部のオプションポートには近距離戦用に小型の3連ミサイルランチャーが装備され、逆の腕にはランチャーのカウンターウェイトとしてバックラーシールドを装着している。

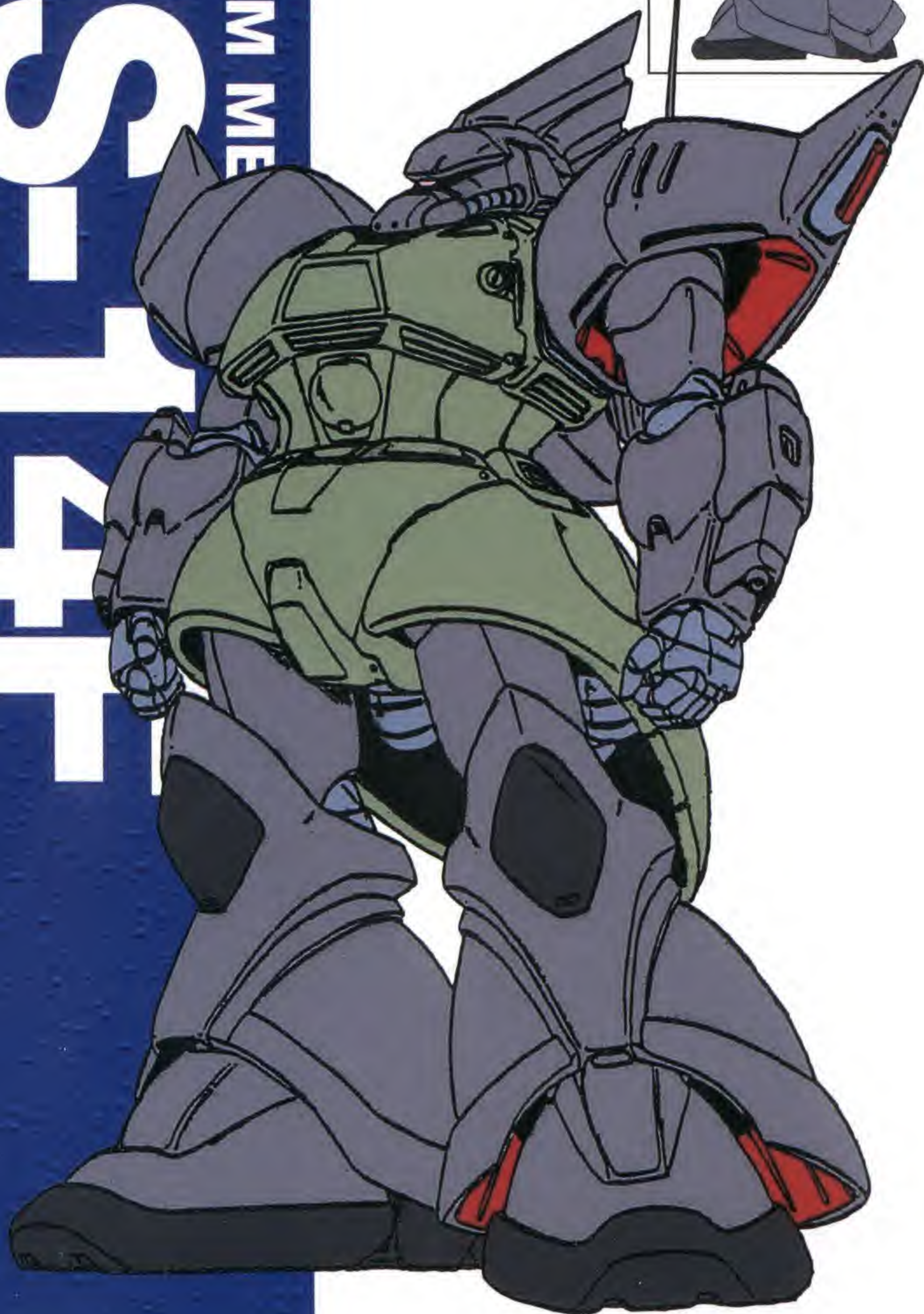


ビームキャノン

ゲルググF

GUNDAM ME

MS-15



MS-14F

ゲルググマリーネ

機種分類：汎用量産型MS

製造：ジオニック社

全高：19.2m

本体／全備重量：45.1／81.3t

ジェネレータ出力：1,440kw

スラスター総推力：55,000kg

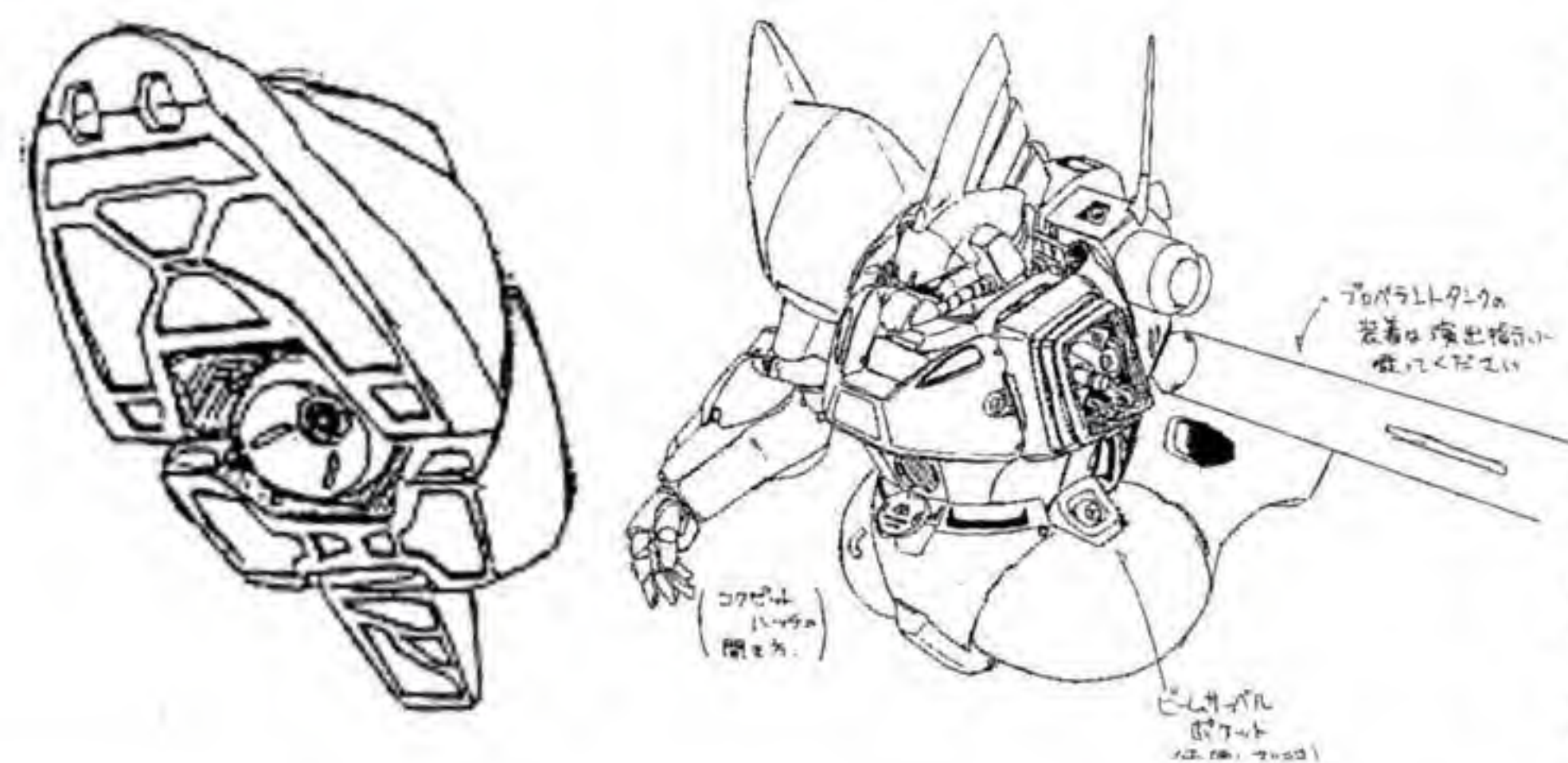
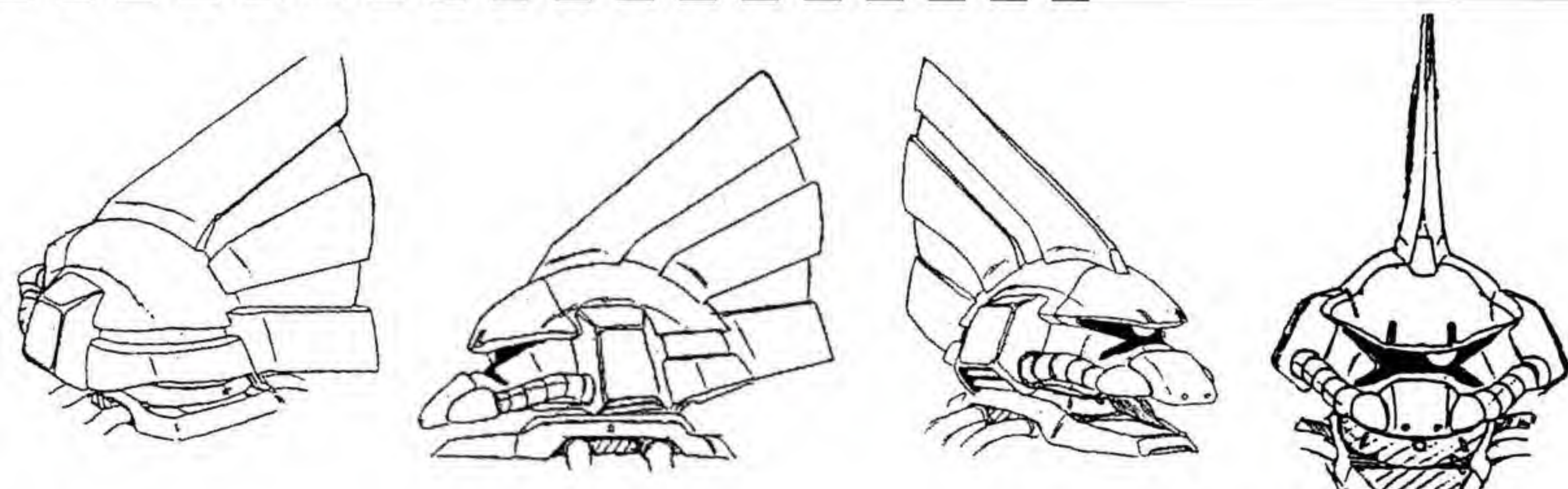
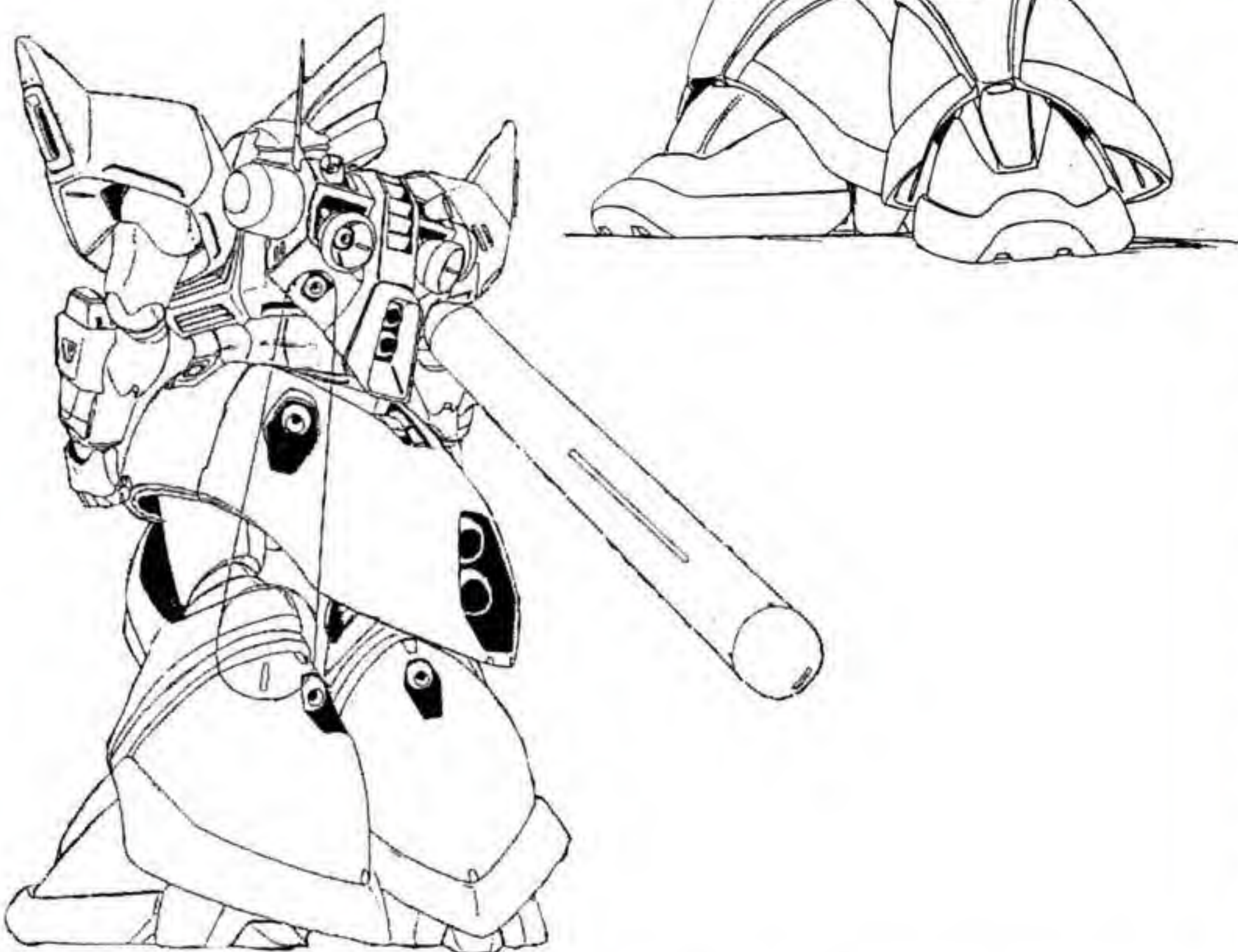
センサー有効半径：6,300m

●ジオン軍の最終量産機、「MS-14ゲルググ」の海兵隊仕様がこの「MS-14Fゲルググマリーネ」である。

F型は海兵隊用にカスタム・調整された機体で、スラスターの推力が強化され、それにもないプロペラントタンクが増設された。スペック的には「MS-14JG」と「MS-14B」の間に位置する機体となっている。武装はツインビームソードが、使い勝手のよいビームサーベルに変えられているほか、両腕部に110mm速射砲が装備されている。また、コスト削減のため、シールドなどはザクの肩部シールドを手持ちで改造したものが使われている。

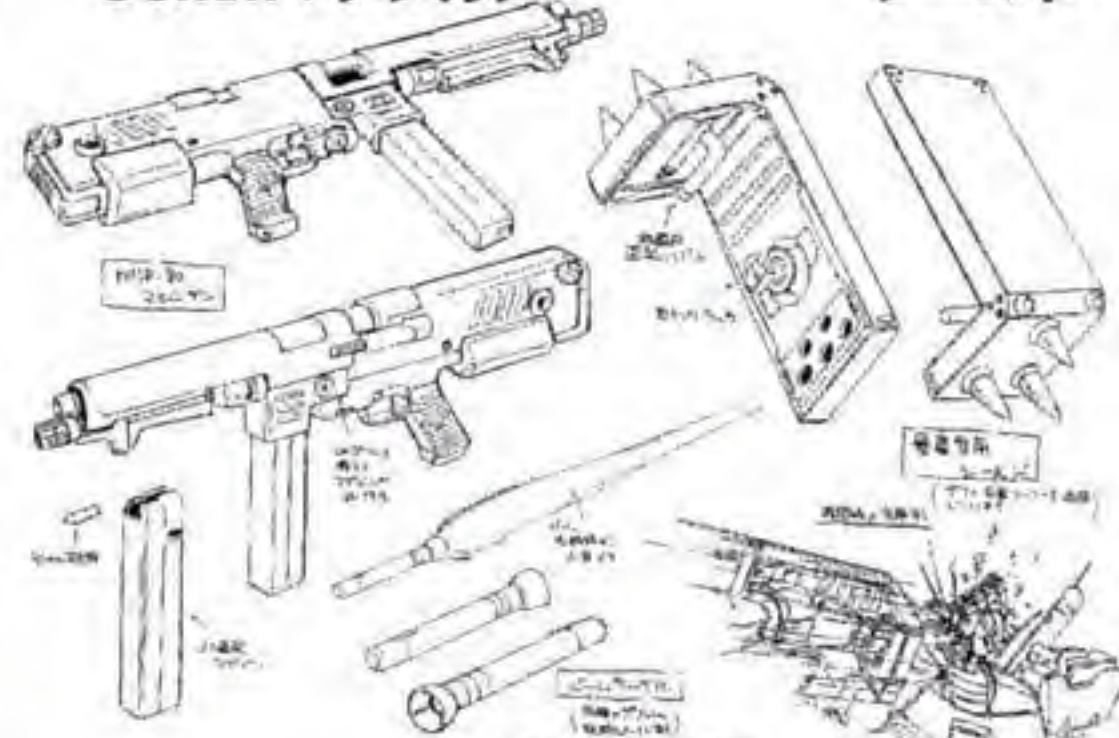
「MS-14JG」と比べてコストパフォーマンスに優れていたため、かなりの数が生産されている。

110mm速射砲



90mmマシンガン

シールド

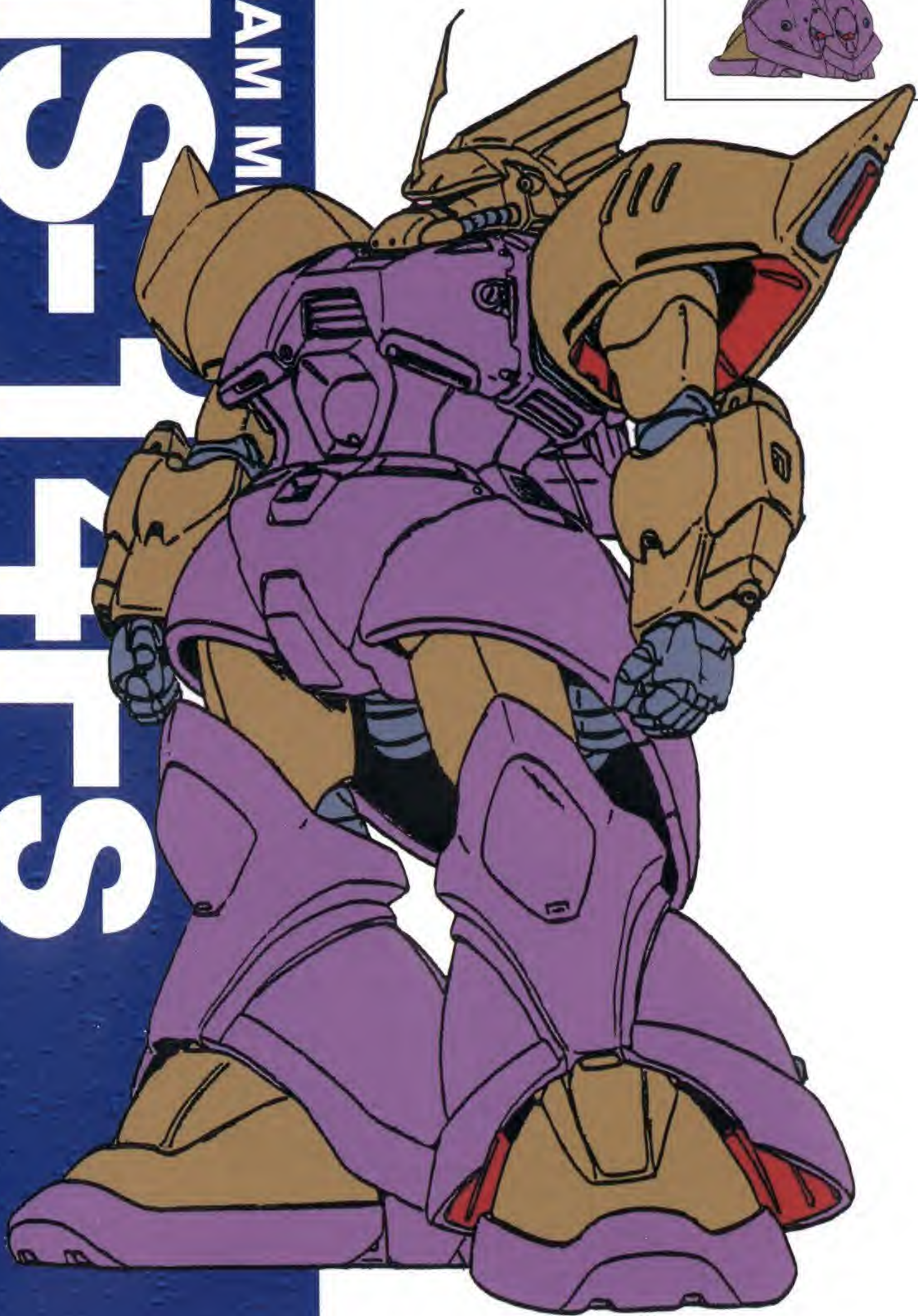


ビームサーベル

ゲルググマリーネ指揮官型

GUNDAM M

MS-15



MS-14Fs

ゲルググマリーネ指揮官型

機種分類：指揮官用高性能機

製造：ジオニック社

全高：19.2m

本体／全備重量：40.5／80.0 t

ジェネレータ出力：1,490kw

スラスタ総推力：89,500kg

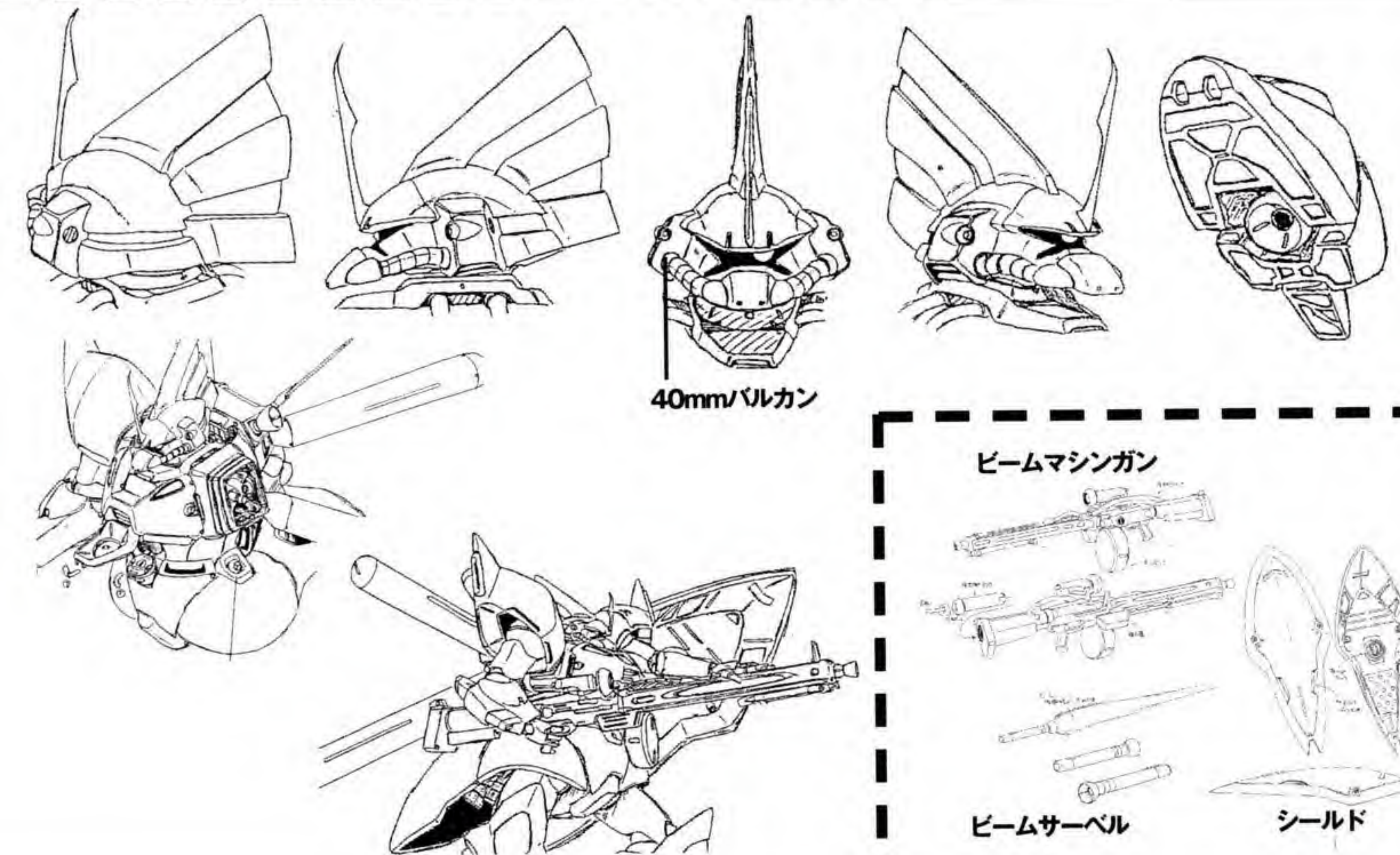
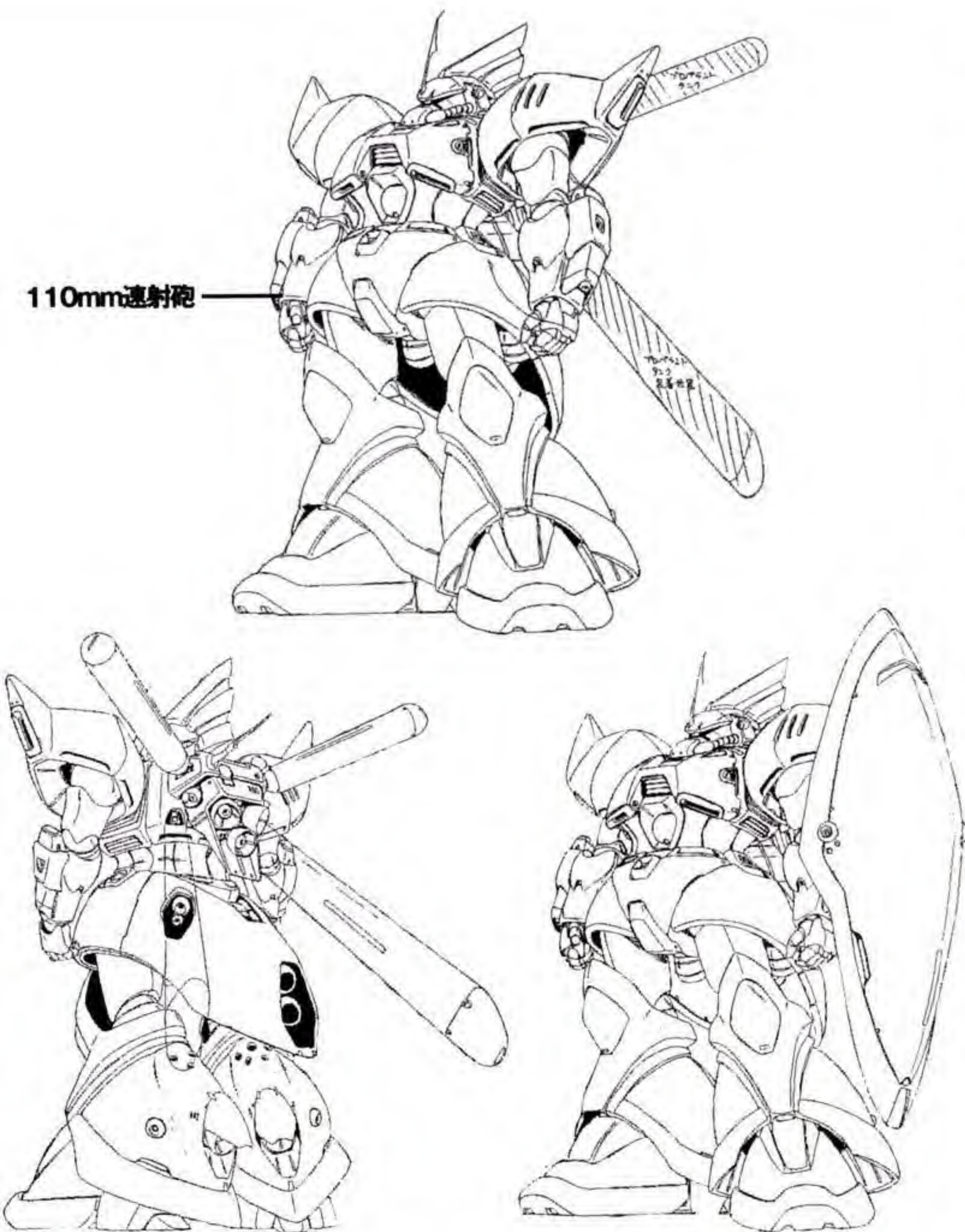
センサー有効半径：6300m

●「MS-14ゲルググ」の海兵隊仕様である「MS-14Fゲルググマリーネ」の指揮官用。

F型には通常の量産型と、Fs型と呼ばれる指揮官用の機体が存在し、その仕様は細部で異なる。指揮官用のFs型は通常型に比べてジェネレータ出力がわずかに高く、スラスタ総推力も高くなっている。そしてそれに伴って胸部の冷却装置が改良された。また、頭部には指揮官であることを意味するロッドアンテナが、頭部には40mmバルカンがオプションで装備され、シールドも専用のものが用意されている。

優秀な機体ではあるが、F型と比べて格段と生産性が落ちるため、生産機数は少ない。

110mm連射砲



ビームマシンガン

ビームサーベル

シールド

ゲルググJ(イエーガー)

GUNDAM M

MS-15



MS-14JG

ゲルググJ(イエーガー)

機種分類：汎用量産MS

製造会社：ジオニック社

全高／頭頂高：19.2／19.2m

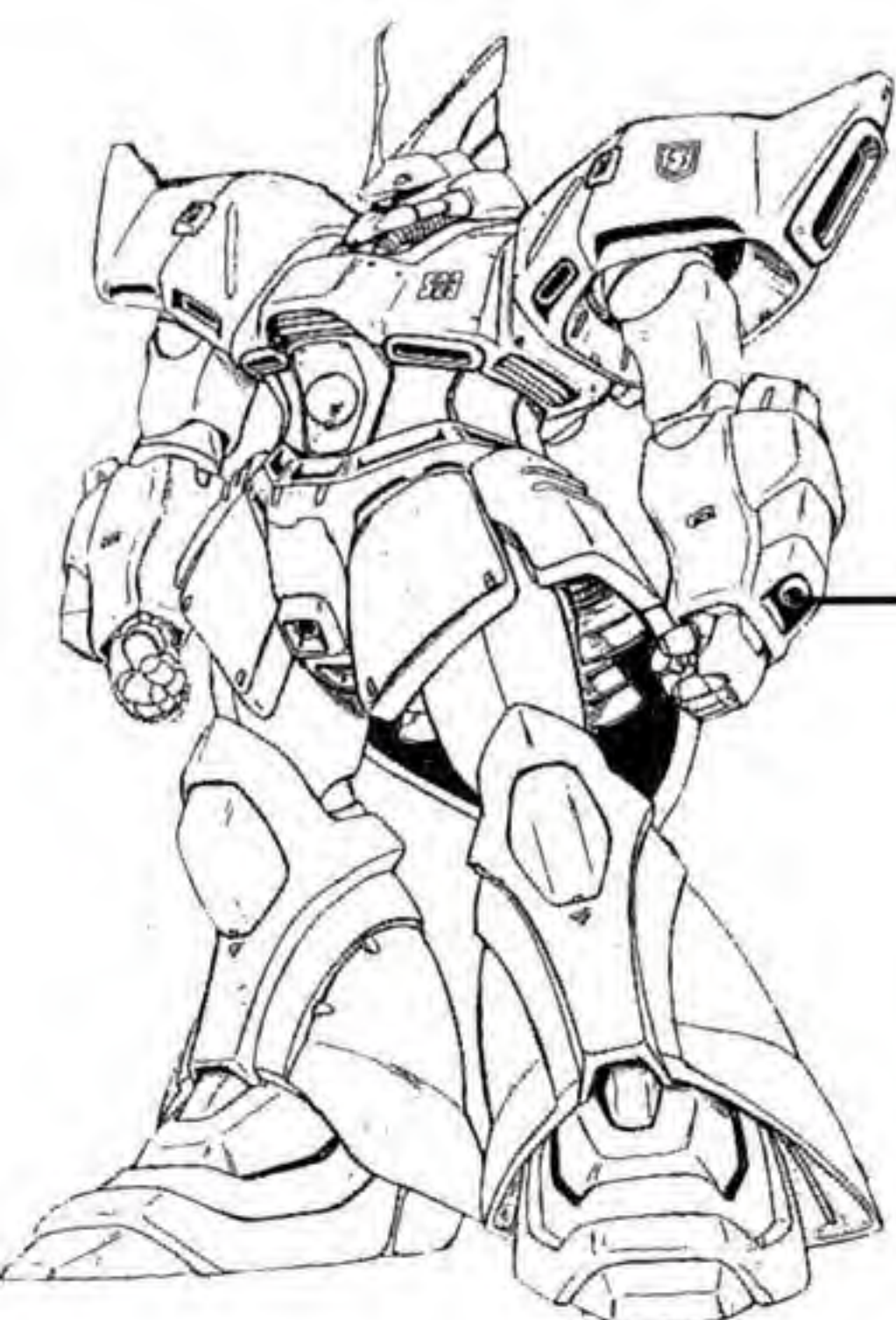
本体／全備重量：40.5／80.3t

ジェネレータ出力：1,490kw

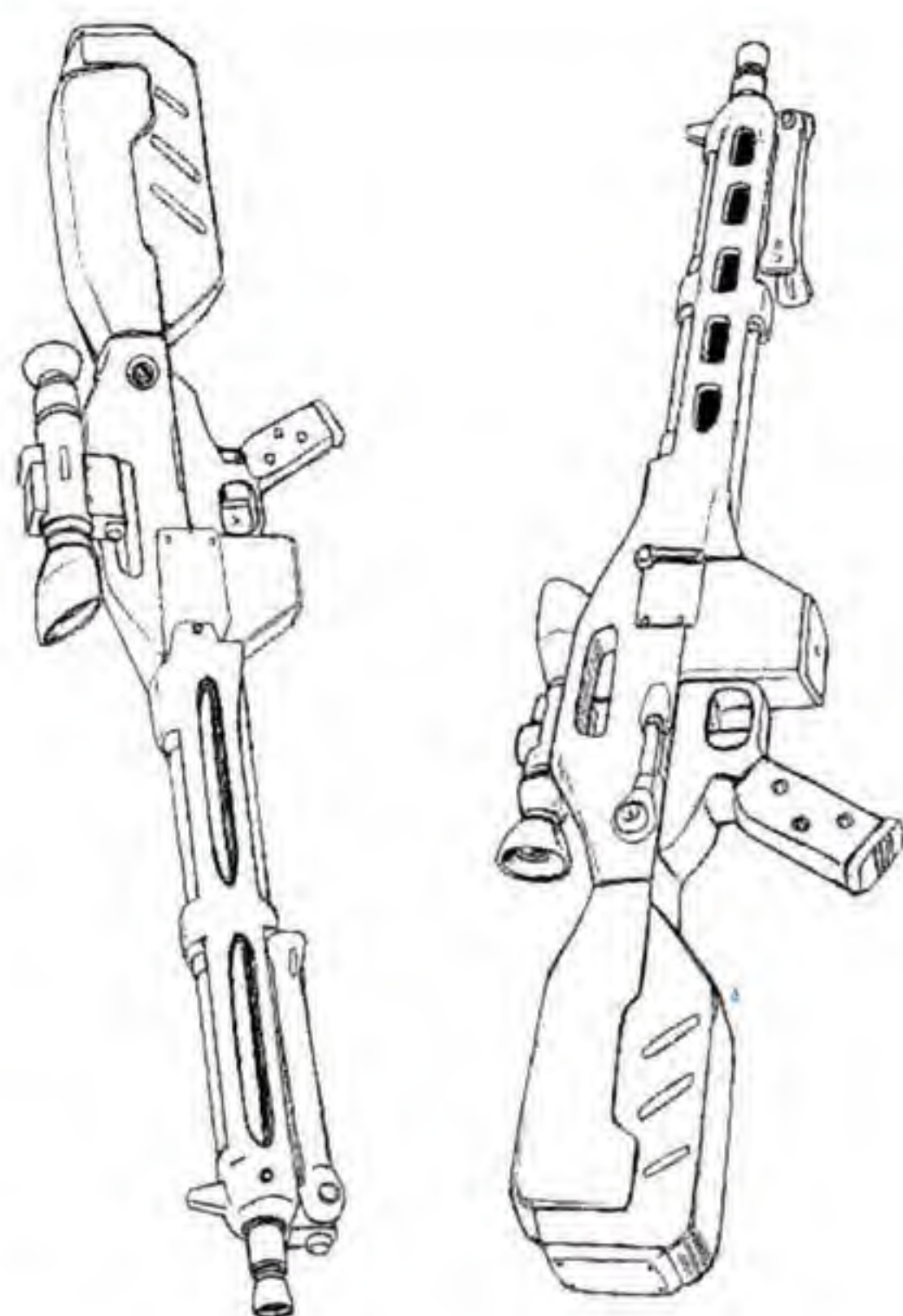
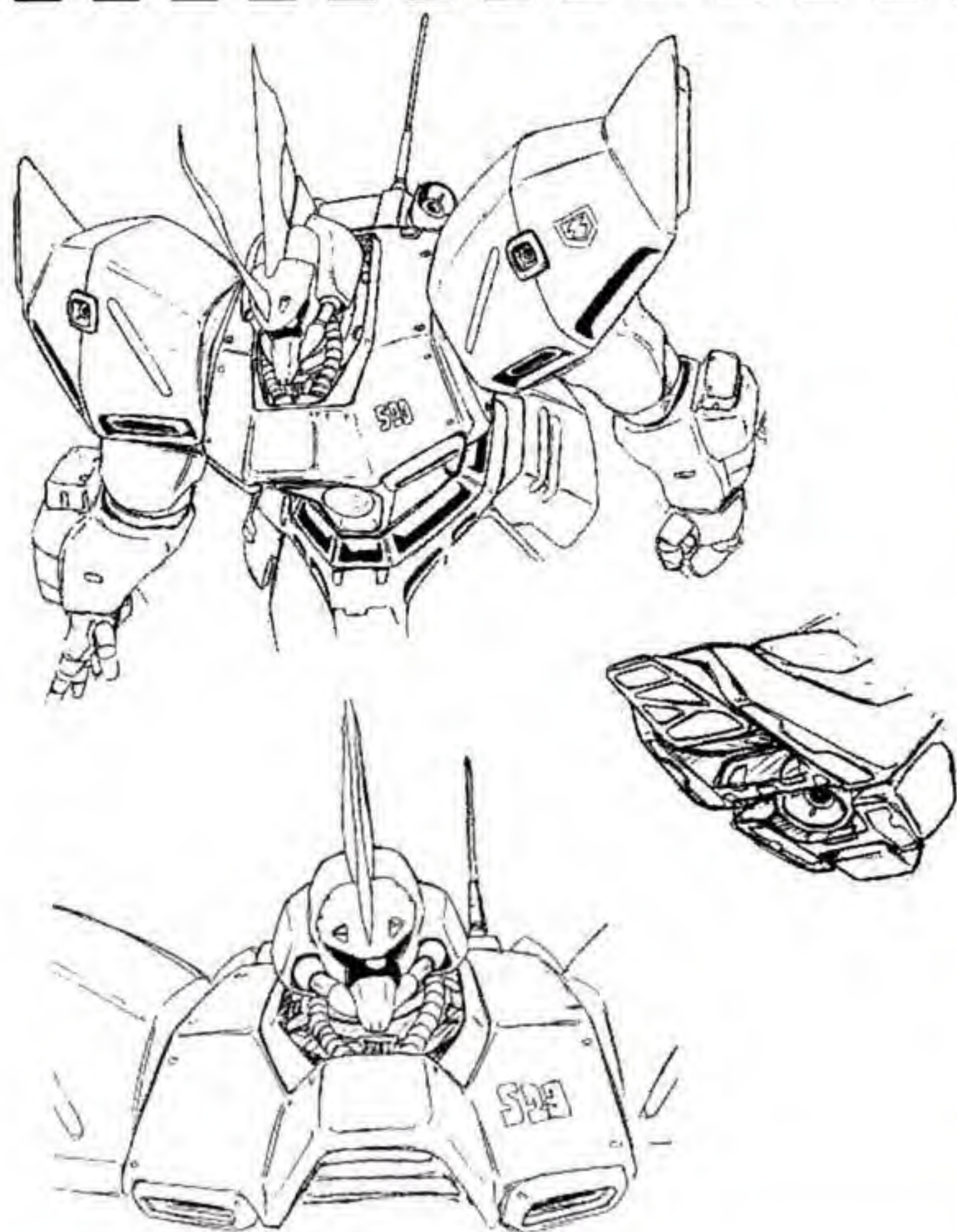
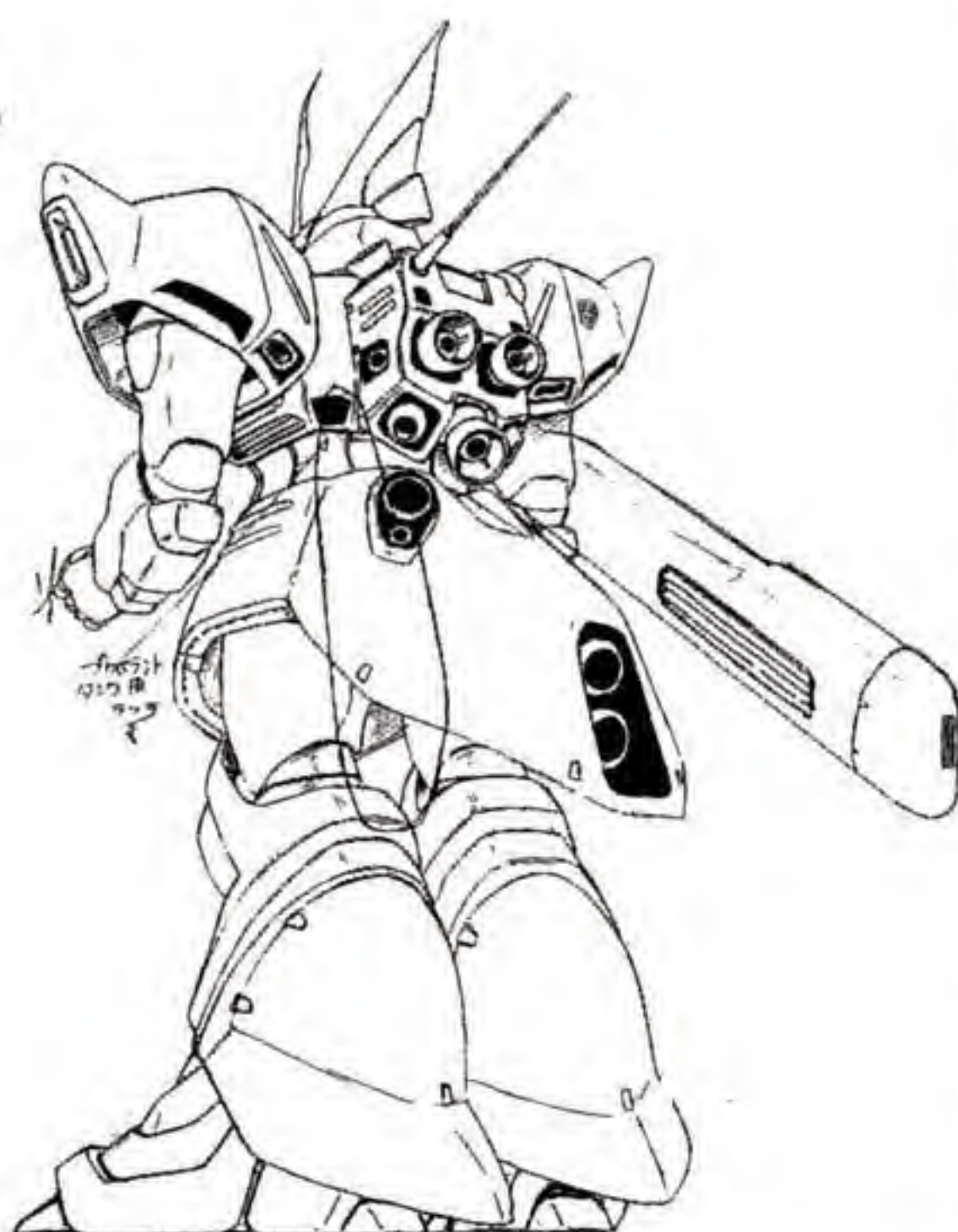
スラスター総推力：178,500kg

センサー有効半径：6,300m

●多用化したMSの生産ラインを再編成し、できる限り他機種とのパーツ、生産ラインの共用を可能にするために実施されたジオン軍のMS生産改善プラン「統合整備計画」。「MS-14JGゲルググJ(イエーガー)」は、この統合整備計画に沿って開発・生産されたMSである。先行して量産が進められていた他のMS-14シリーズとは、外観・構造ともに少なからず相違点が見られ、スペック的にも1ランク上の仕上がりとなっている。特にスラスター推力は大幅に増強され、総推力値は他のMSの追従を許さないものとなっている。ビームライフルも射撃精度が高い最新型のものを装備しており、別名「ゲルググ狙撃型」と呼ばれることもあった。MS-14シリーズの中でももっとも後期の生産型のため、生産機数はきわめて少ない。



110mm速射砲

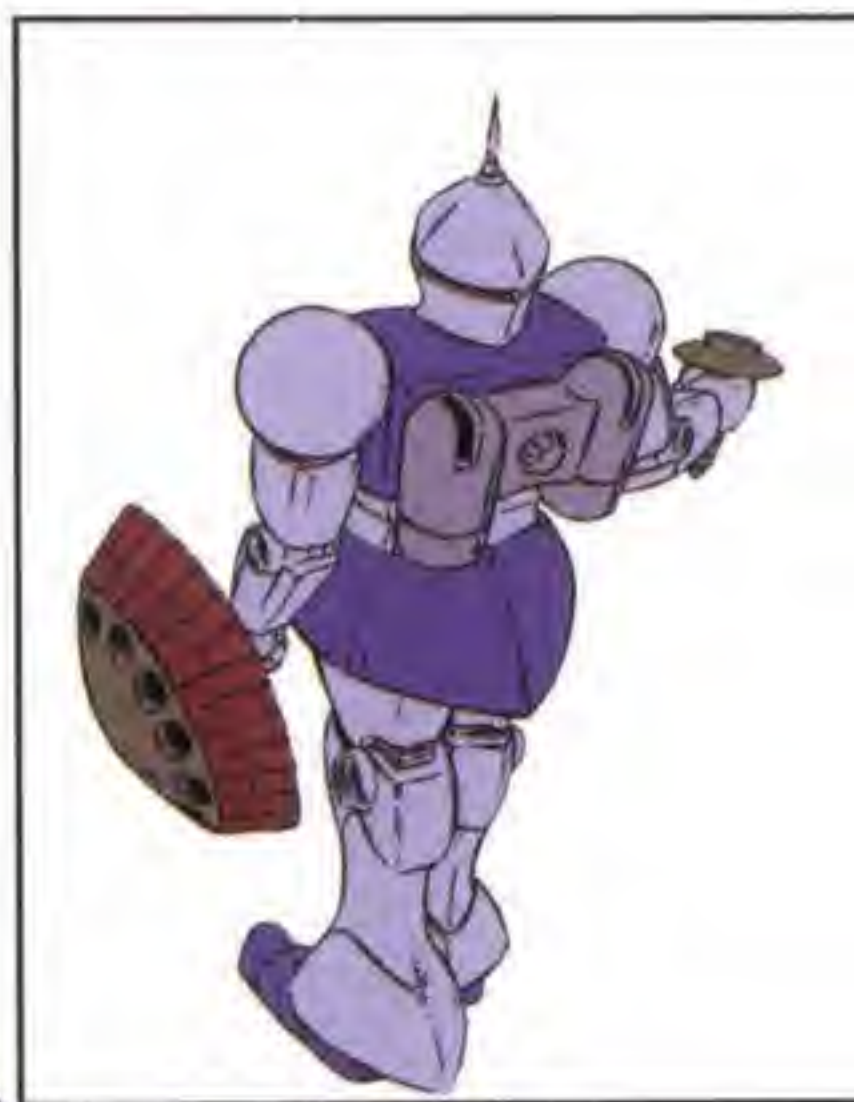
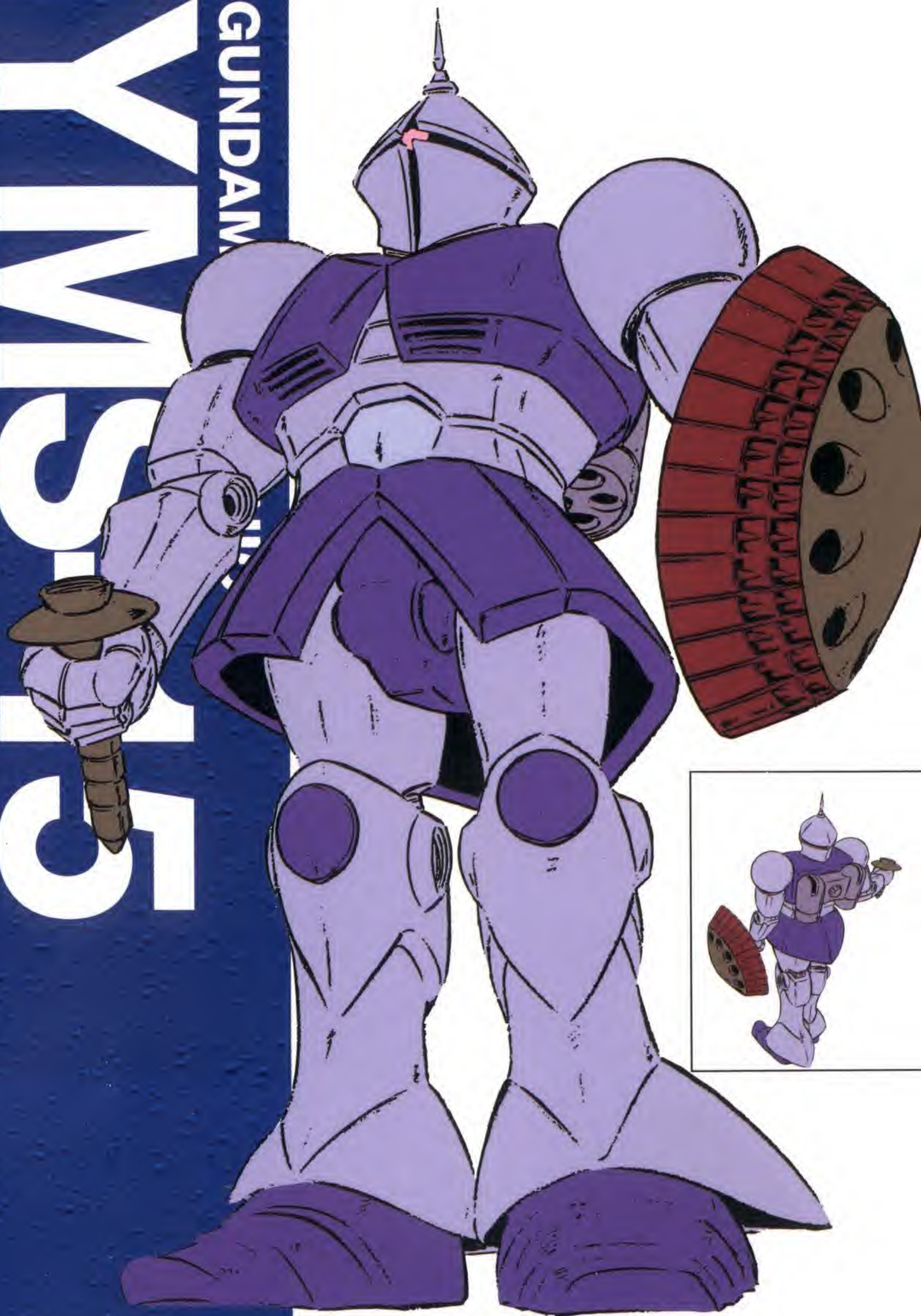


ビームライフル

ギャン

GUNDAM

SLASH



YMS-15

ギャン

機種分類：汎用試作型MS

製造会社：ツィマッド社

全高／頭頂高：19.9／19.9m

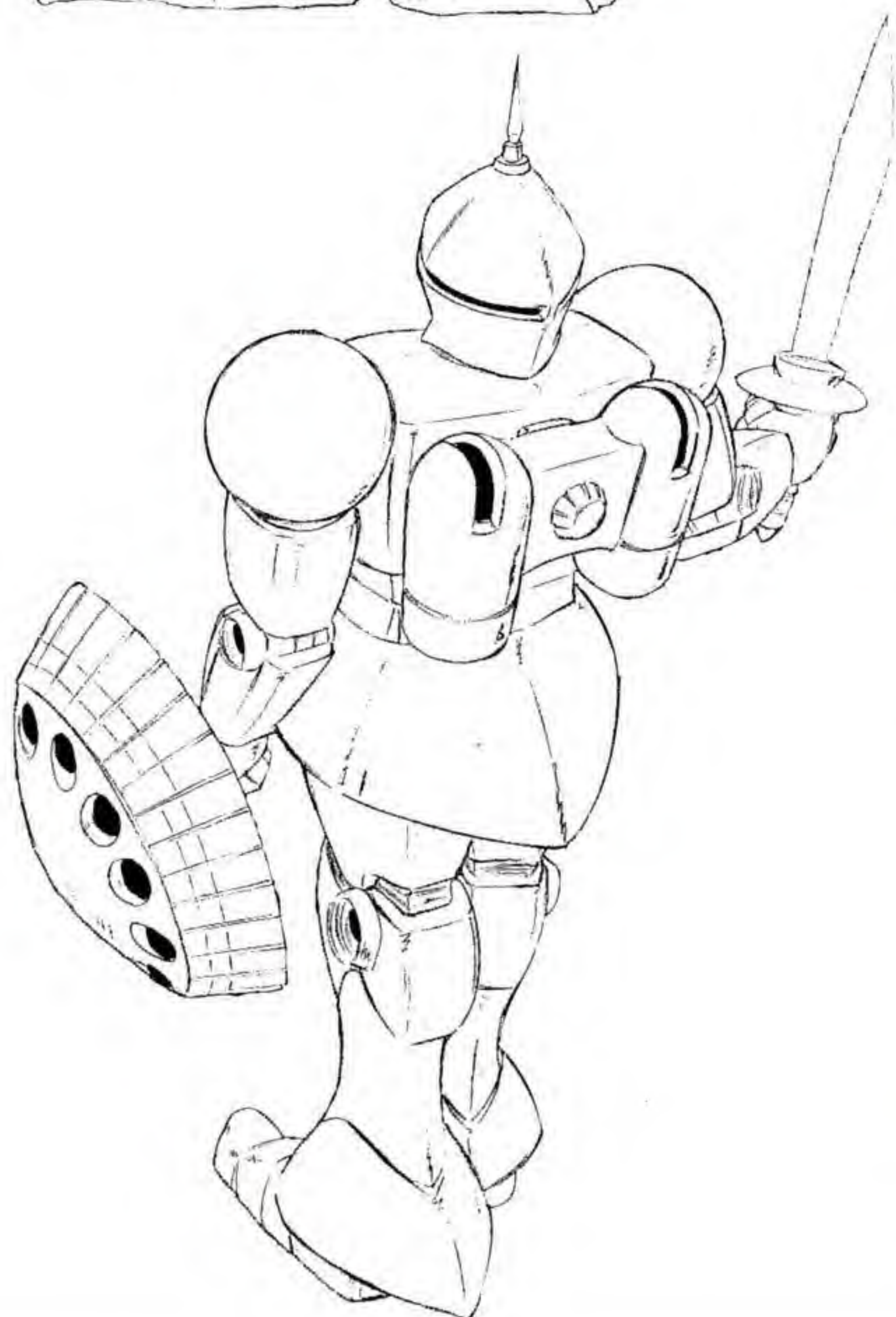
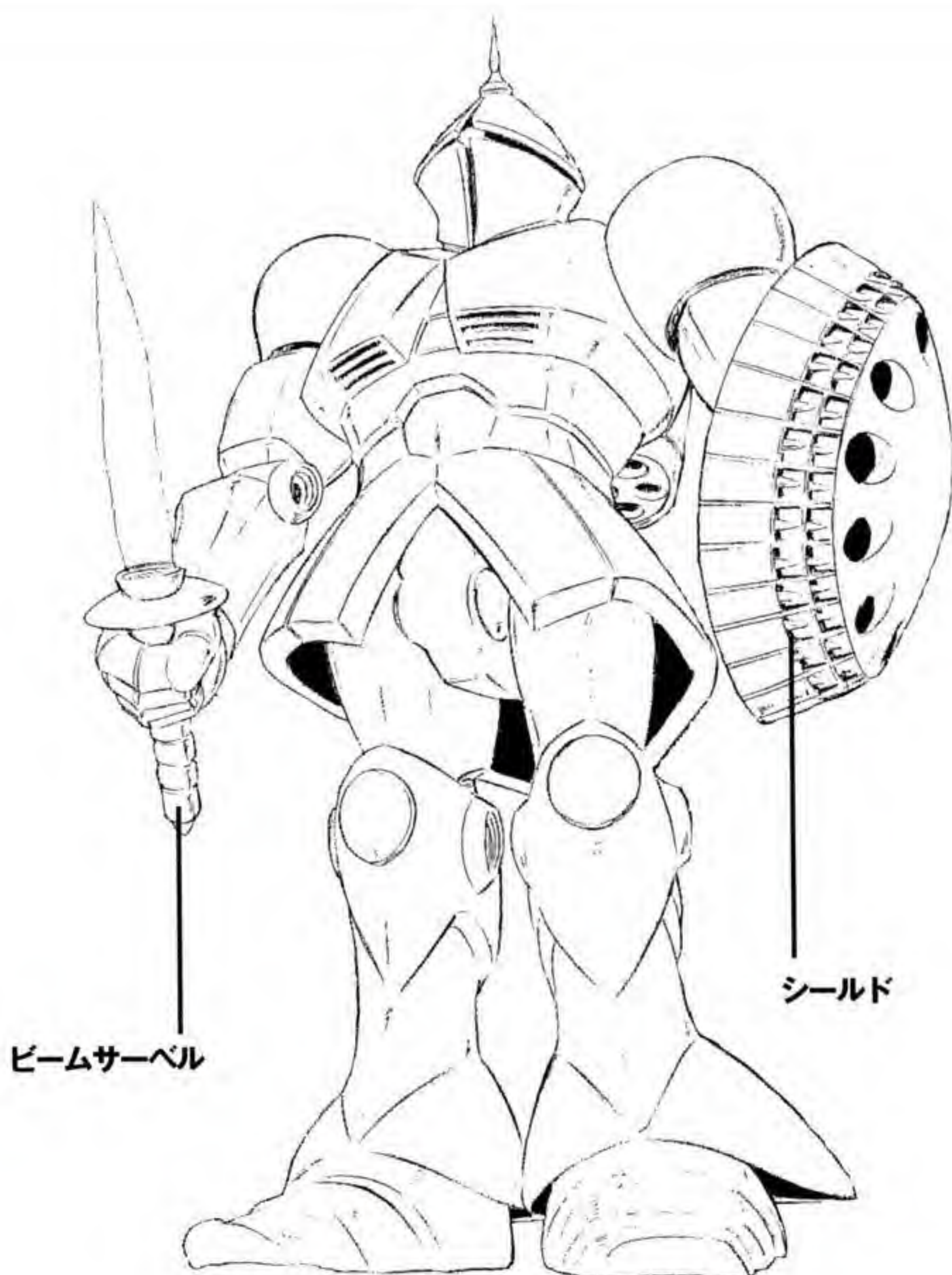
本体／全備重量：52.7／68.6 t

ジェネレータ出力：1,360kw

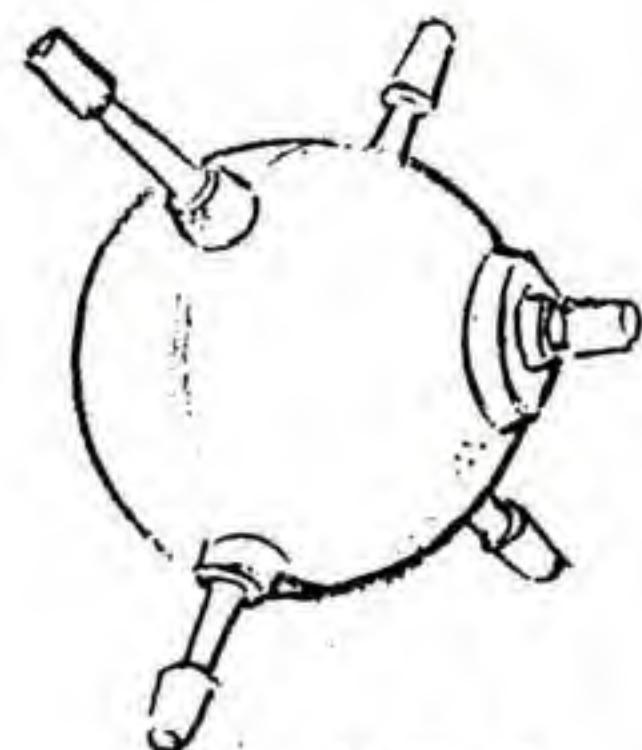
スラスタ総推力：56,200kg

センサー有効半径：4,400m

●「YMS-15ギャン」はジオン軍の次期主力MS候補として、「YMS-14ゲルググ」とほぼ同時期に開発が行なわれた汎用MSである。機体開発を行なったのは、「MS-09ドム」の開発・生産を請け負ったツィマッド社である。同社では初の汎用MSとして開発が進められた「YMS-15」は、対MS戦を想定して特に格闘戦能力に主眼が置かれた。武装はミサイルやハインドボンブ（機雷）を内蔵した大型シールドとビームサーベルで、のちにはビームライフルの装備も検討されていた。非常に操作性に優れ、扱いの容易なMSではあったが、次期主力MSにはビームライフルが装備された「MS-14」が選ばれたため、型式番号から試作機を意味する“Y”の文字が外されることはなかった。



シールドミサイル

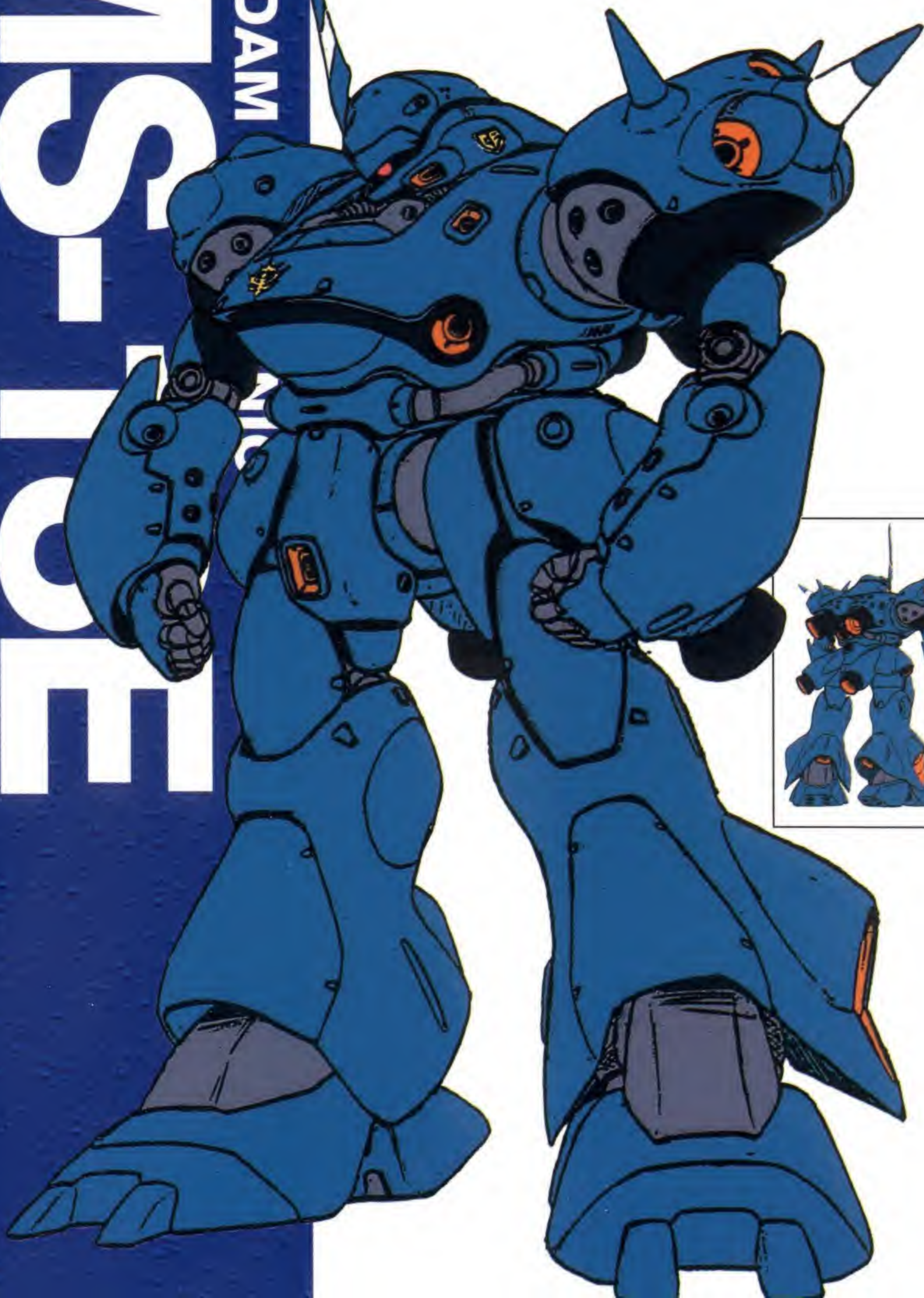


ハイドボンブ

ケンプファー

GUNDAM

MS-1000



MS-18E

ケンプファー

機種分類：強襲用試作型重MS

全高／頭頂高：18.2／17.7m

本体／全備重量：43.5／78.5 t

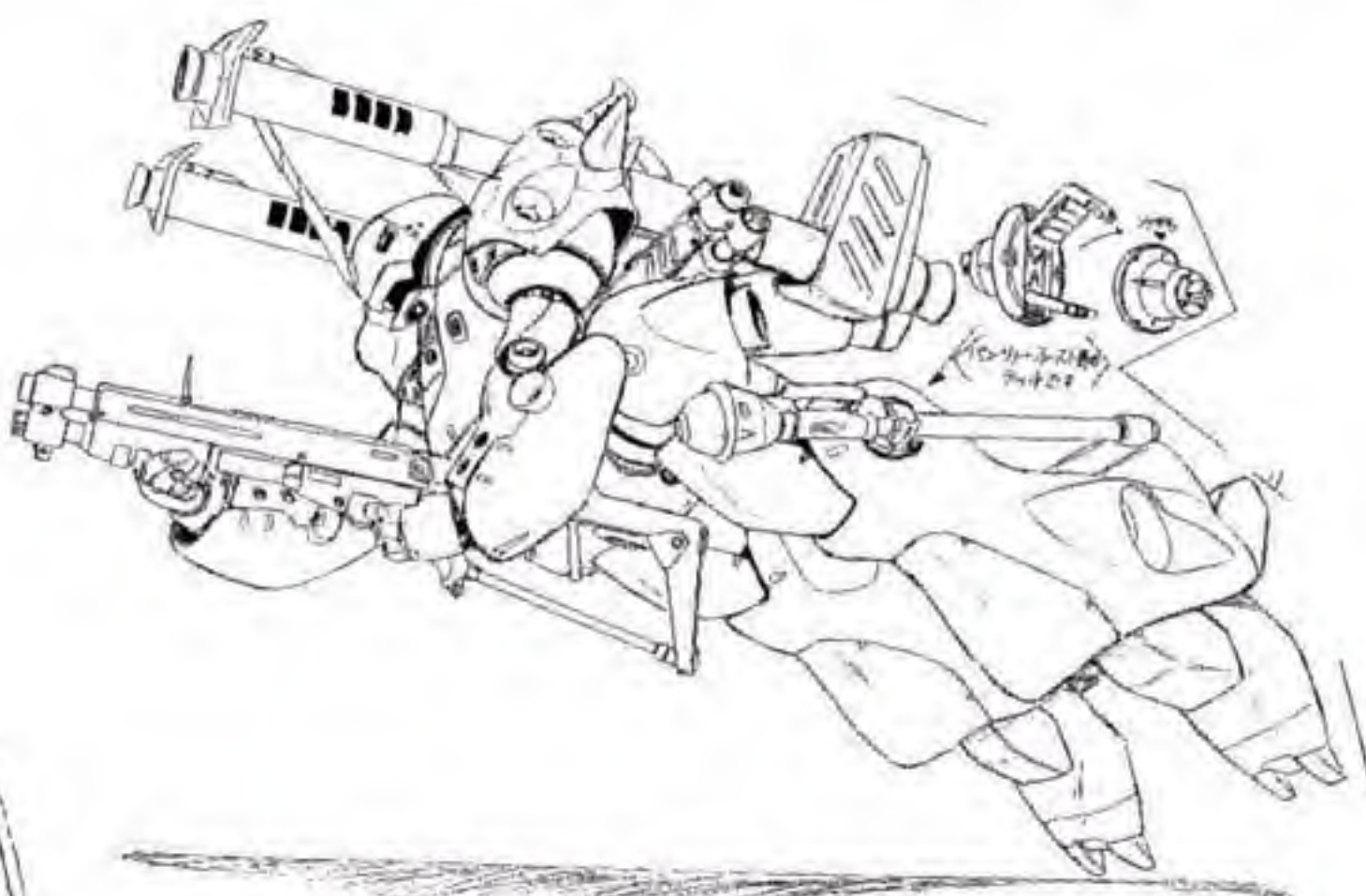
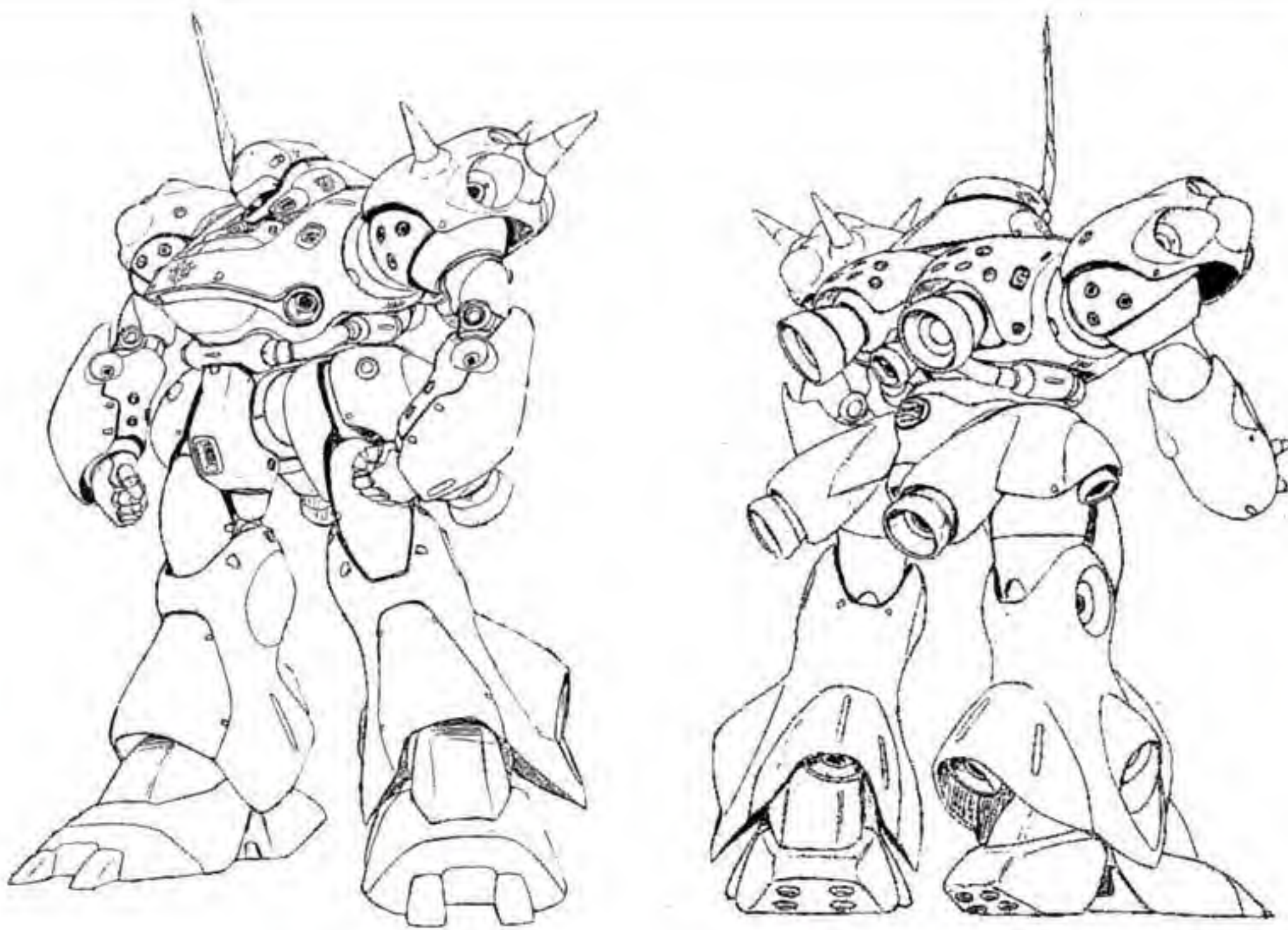
ジェネレータ出力：1,550kw

スラスター総推力：158,000kg

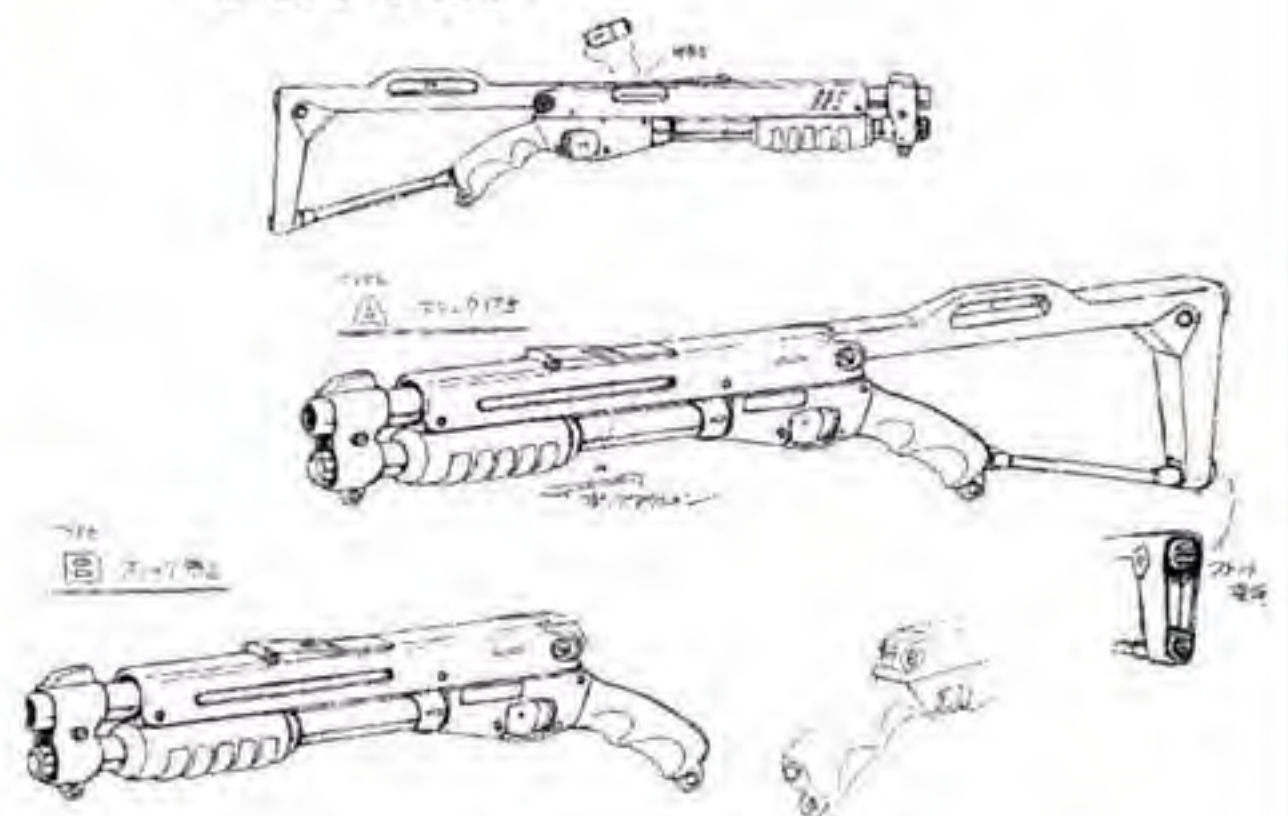
センサー有効半径：6,100m

●「MS-18E」は、一年戦争最後期に開発された機体の1つである。機体名称の「ケンプファー」は独語で“闘士”という意味で、その名前どおりこれまでの汎用機とは異なる強襲用MSとして開発された。

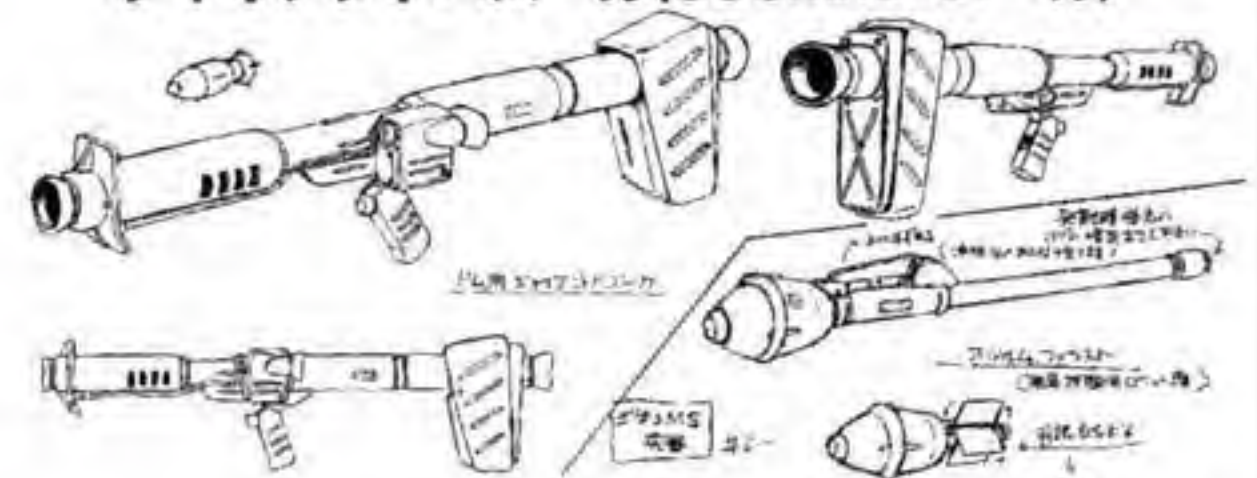
全身に配置された姿勢制御バーニアと、大推力のスラスターにより得られる高機動性を生かし、攻撃ポイントに急速接近、多数装備した火器による一斉攻撃を加え、即座に戦場から離れる。この一撃離脱戦法は有効な作戦であったが、推進剤を激しく消費するため、「MS-18E」には、他のMSに比べ戦闘持続時間が短いという欠点があった。「MS-18E」は優れた機体であったが、開発が完了してすぐに終戦を迎えたことにより脚光を浴びる事はなかった。



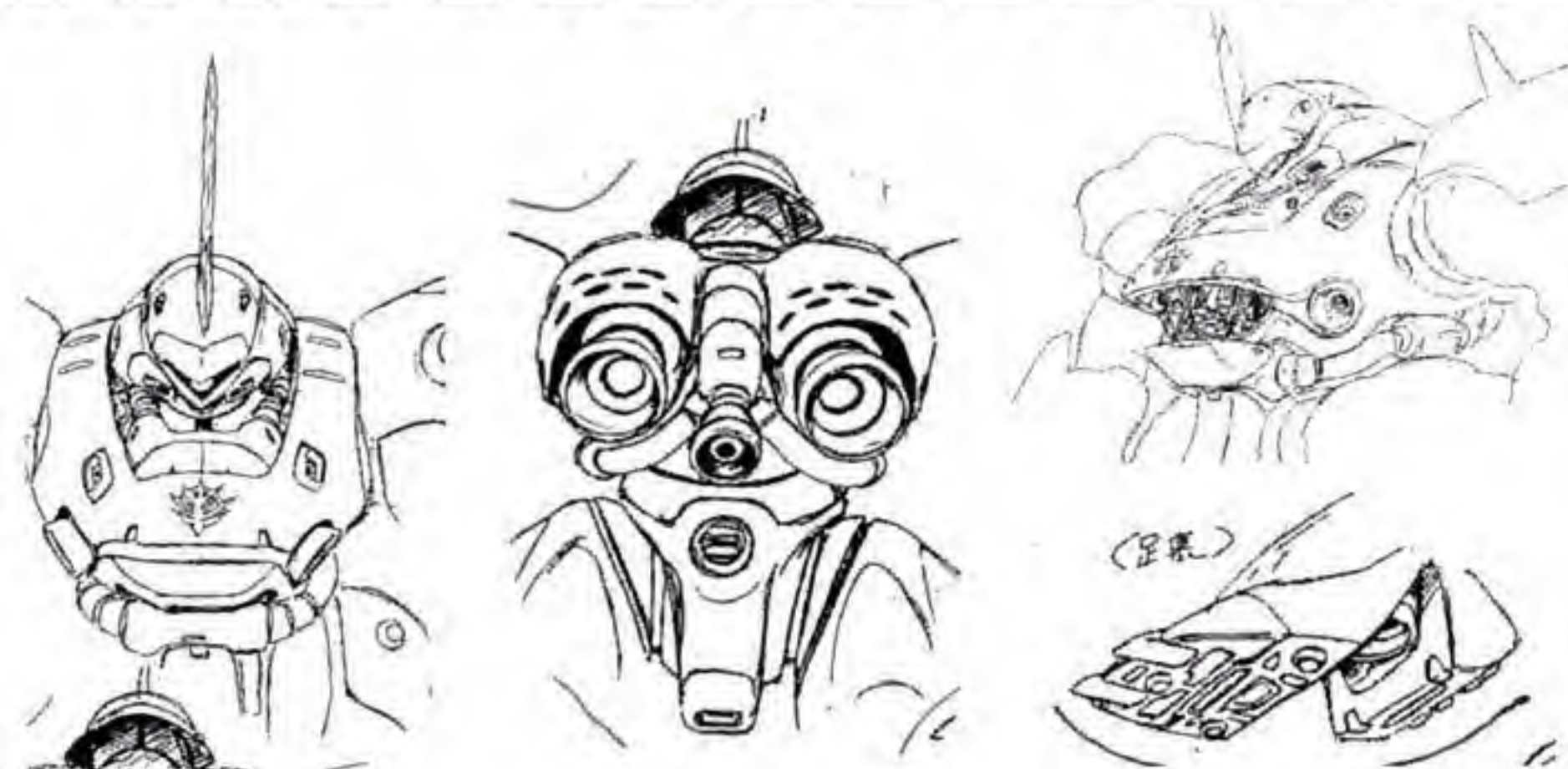
ショットガン



ジャイアントバズーカ(360mmバズーカ)

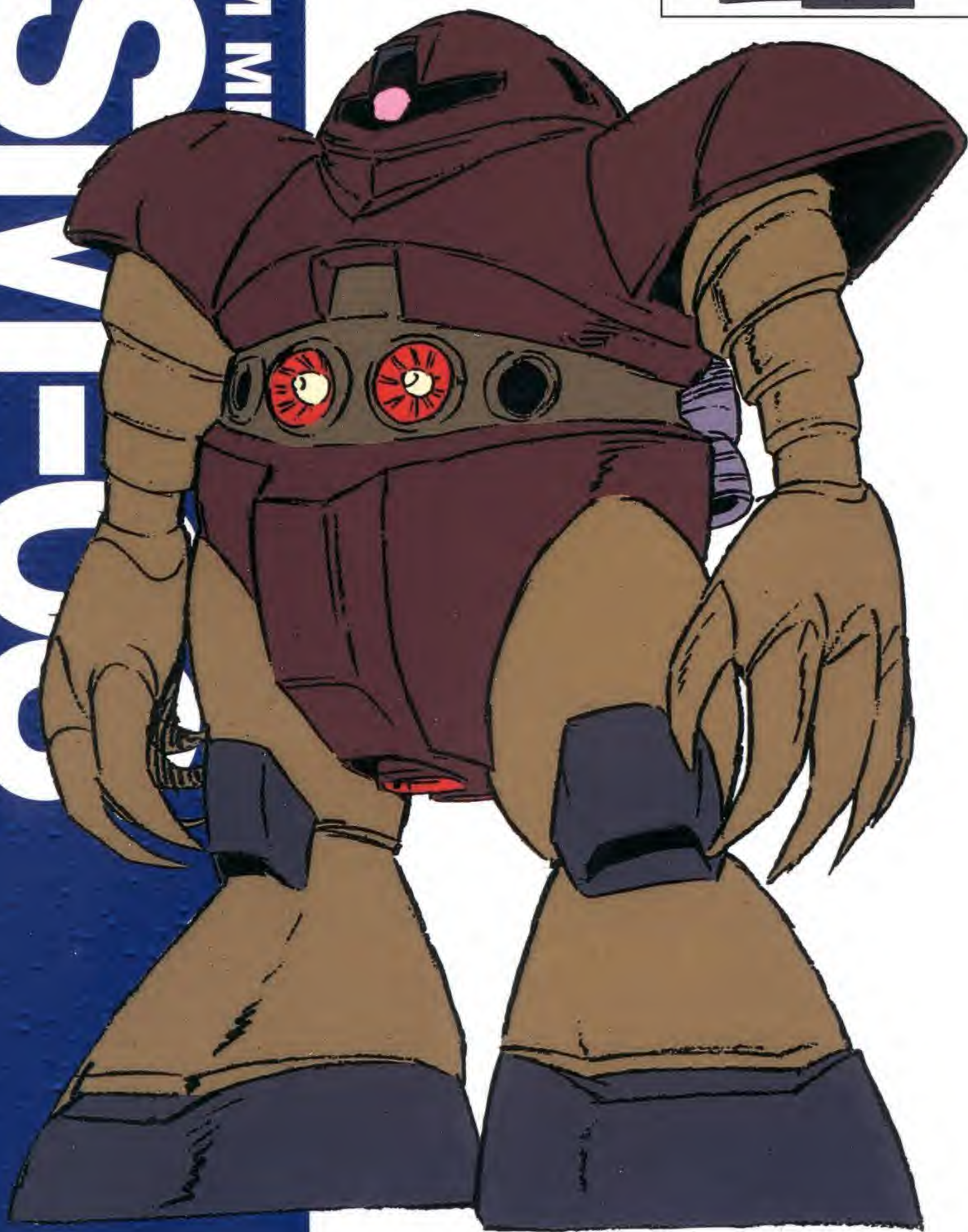


シュツルム・ファウ



ゴッグ

MS
GUNDAM MI



MSM-03 ゴッグ

機種分類：水陸両用量産型MS

製造会社：ツィマッド社

全高／頭頂高：18.3／18.3m

本体／全備重量：82.4／159.4 t

ジェネレータ出力：1,740kw

スラスタ総推力：121,000kg

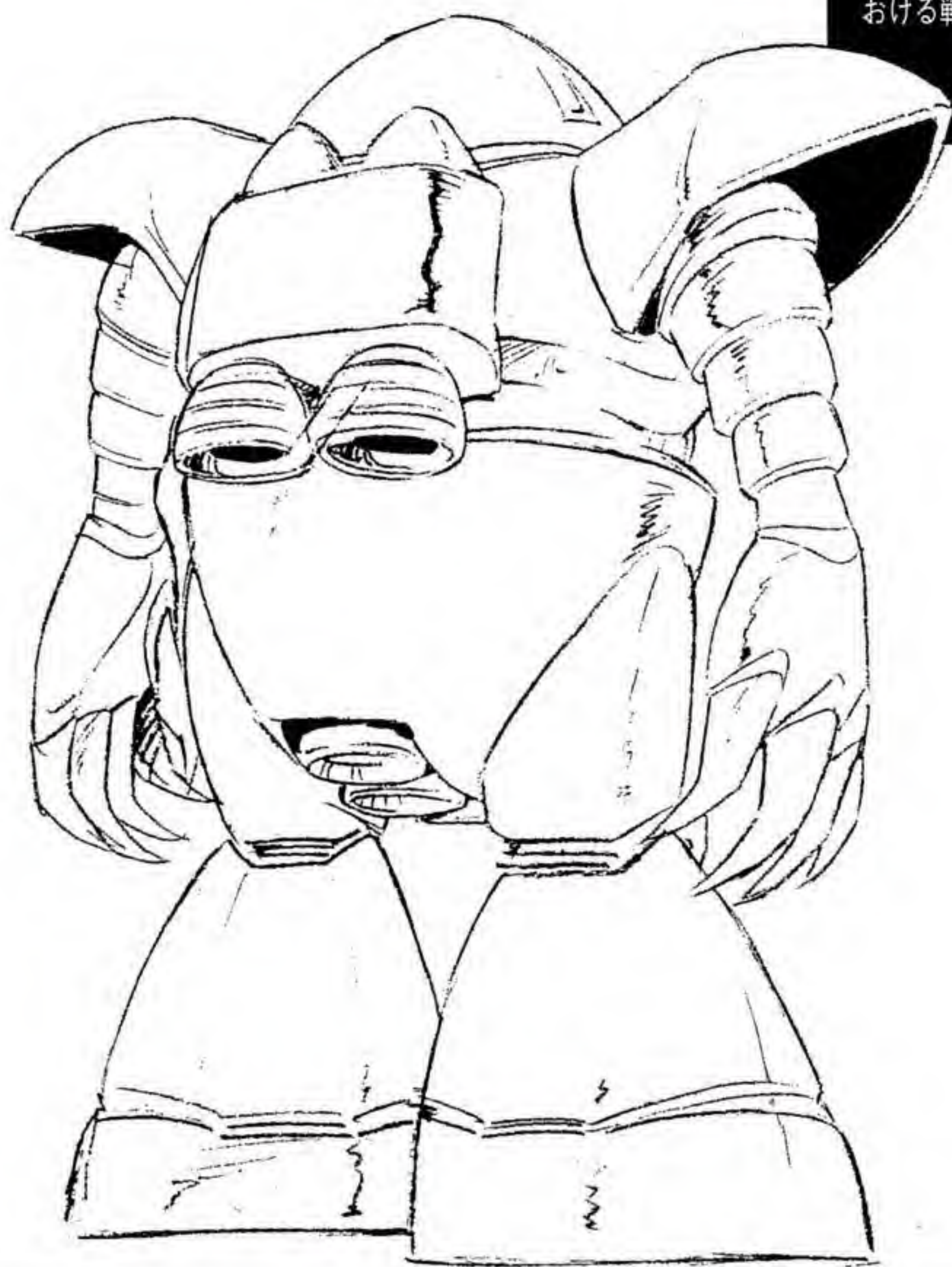
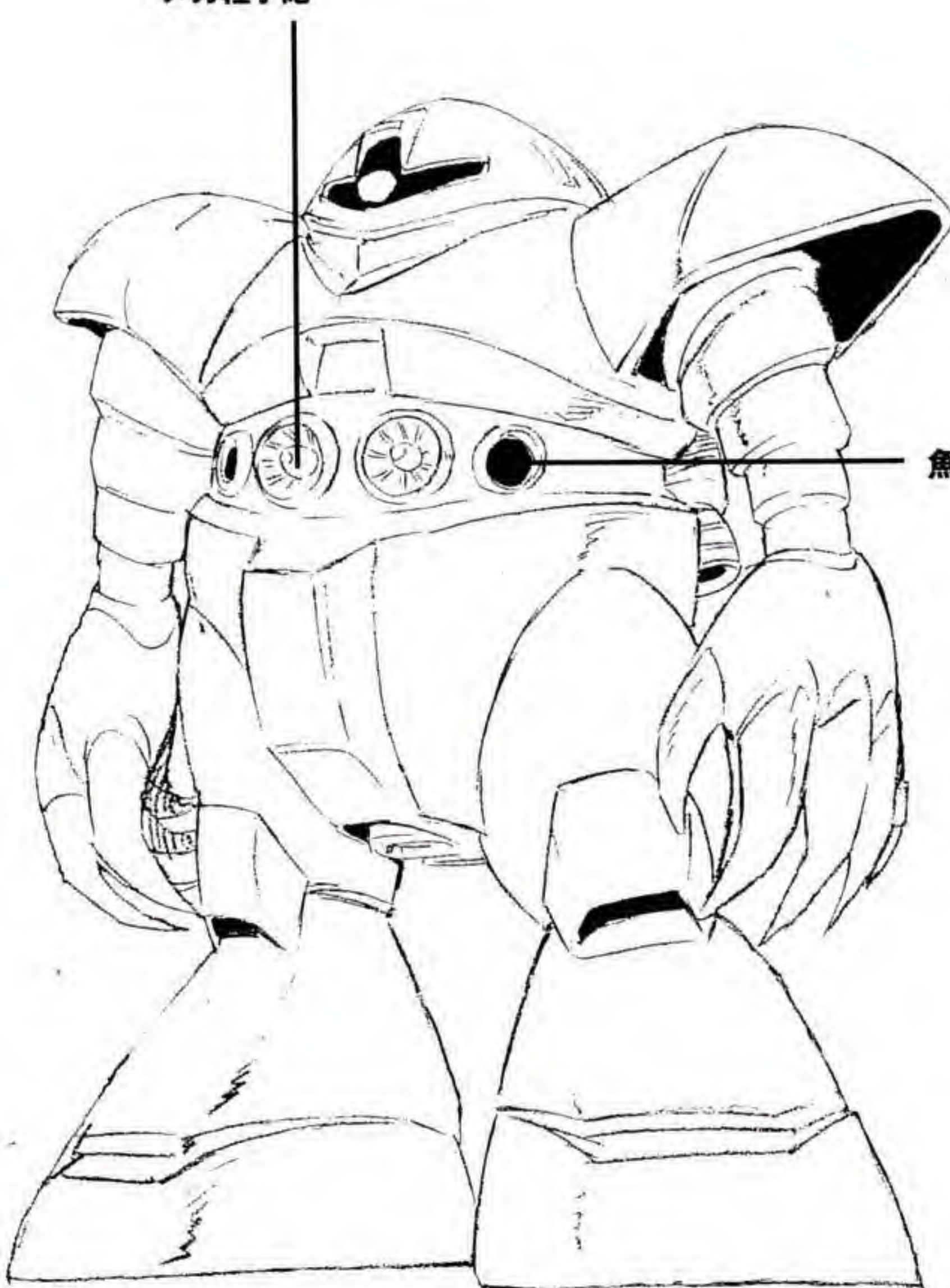
●地表の70％を占めるのは海である。地球侵略を考えた場合、この海の攻略を避けて通ることはできない。だがコロニー国家であるジオン公国にとって、広大な海洋というものは未知の存在であった。このため、水陸両用MSの設計・開発はコンピューターのシミュレーションによって行なわれ、そのデータを元に実際の機体が製作された。

この「MSM-03ゴッグ」を始めとする水陸両用MSは、海水を熱核反応炉の冷却に使用できるため、ジェネレータは大型で高出力な物を搭載することができ、MSでは初めてメガ粒子砲（エネルギーCAPは使用されていない）を装備している。

「MSM-03」は水中移動時に両腕を肩に収納し、熱核水流ジェット推進によって高速航行が可能であった。また、頭部から放射されるフリーゼーヤードと呼ばれるゲル状の対潜兵器無力化物質と厚い装甲のため、上陸作戦における戦果は大きなものがあった。

メガ粒子砲

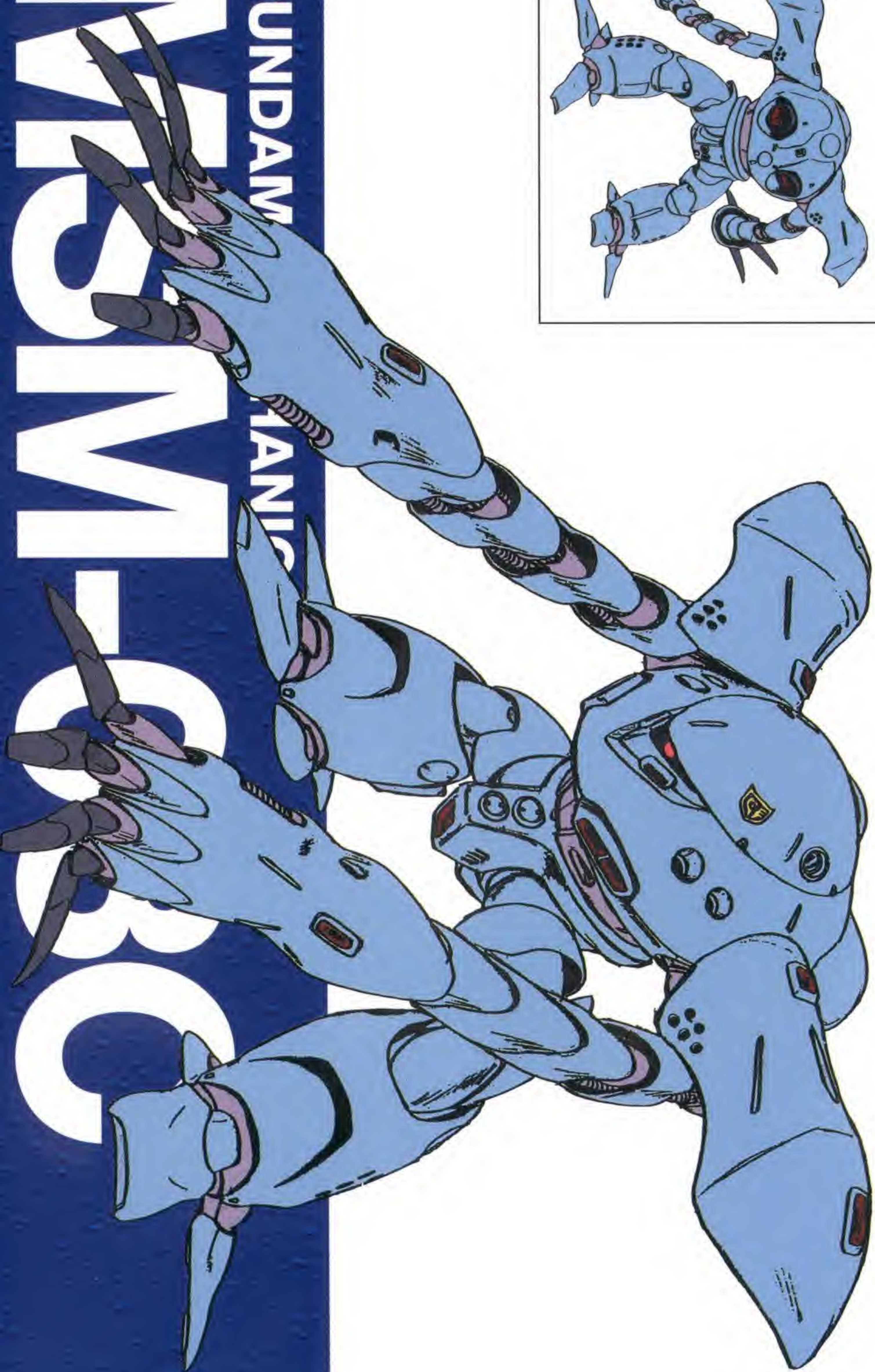
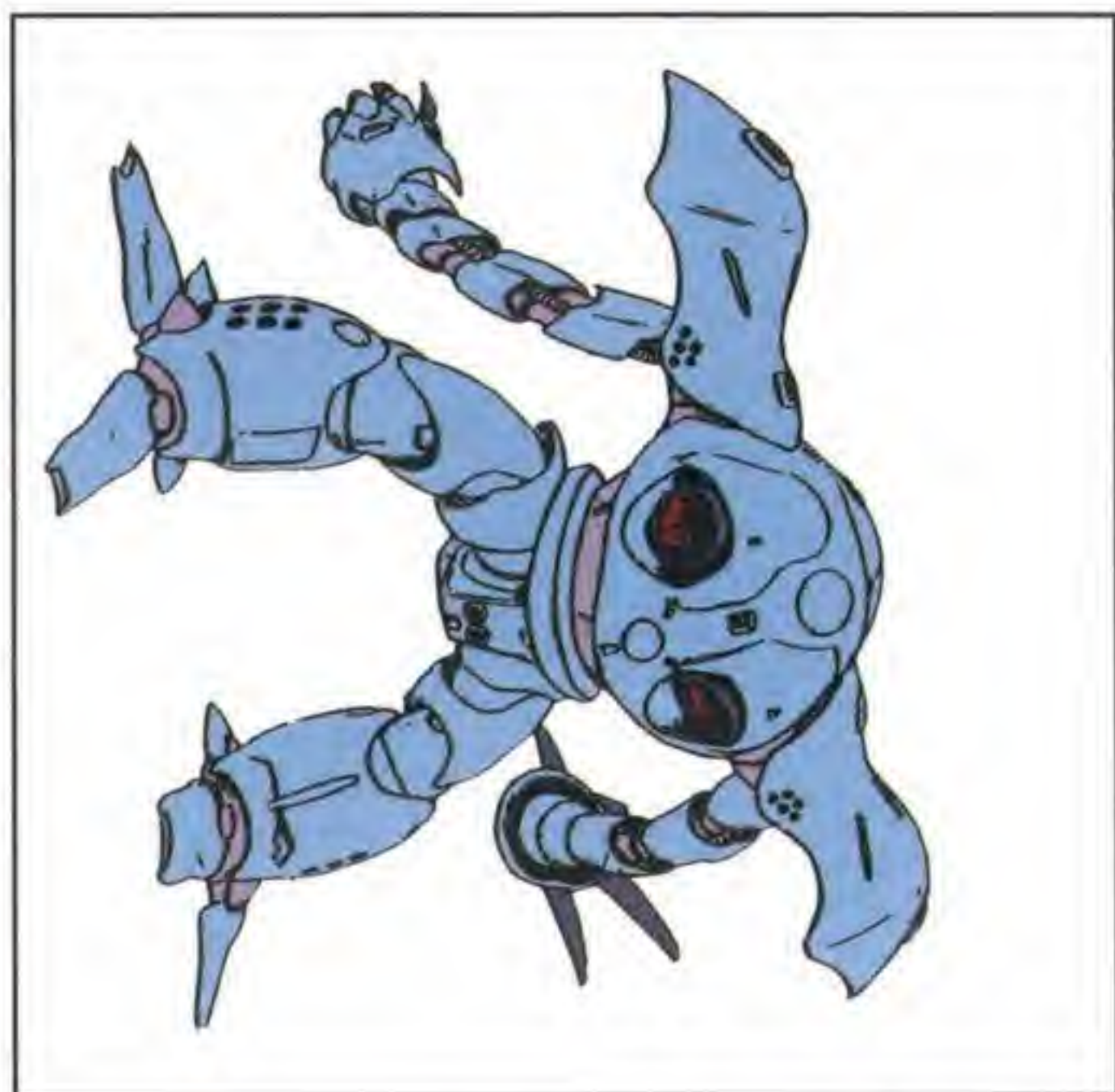
魚雷発射管



ハイゴッグ

GUNDAM

MECHANICS

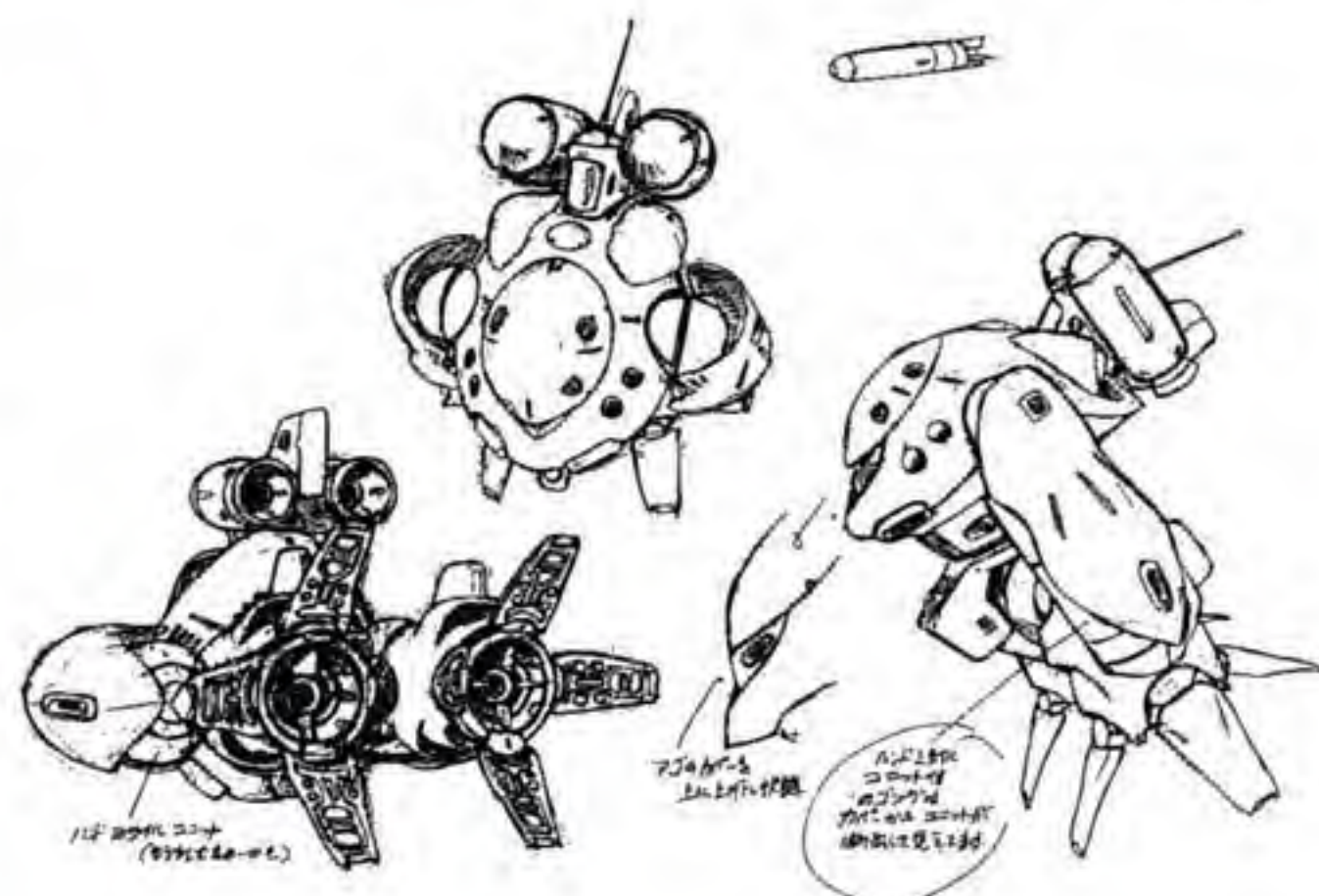
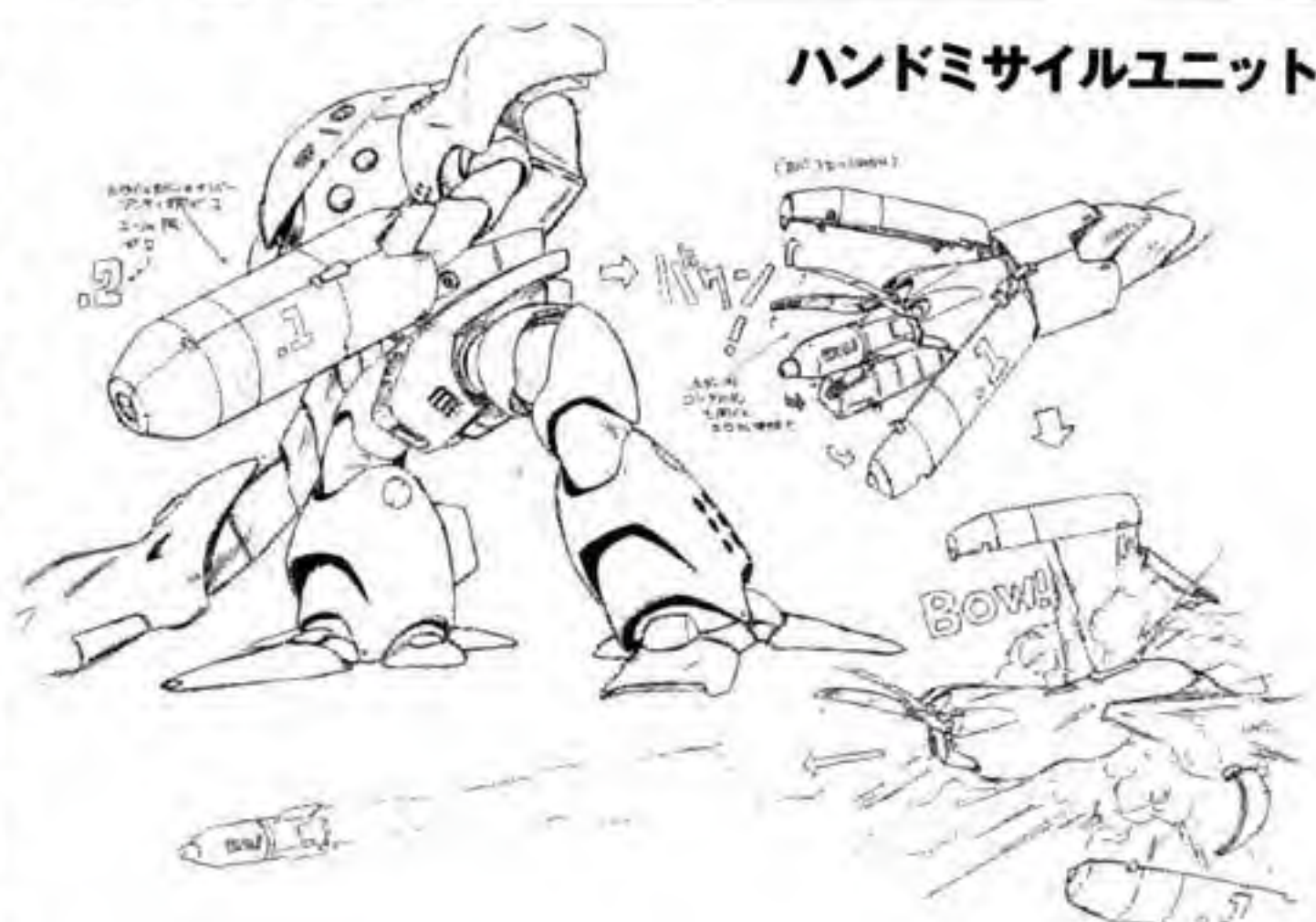
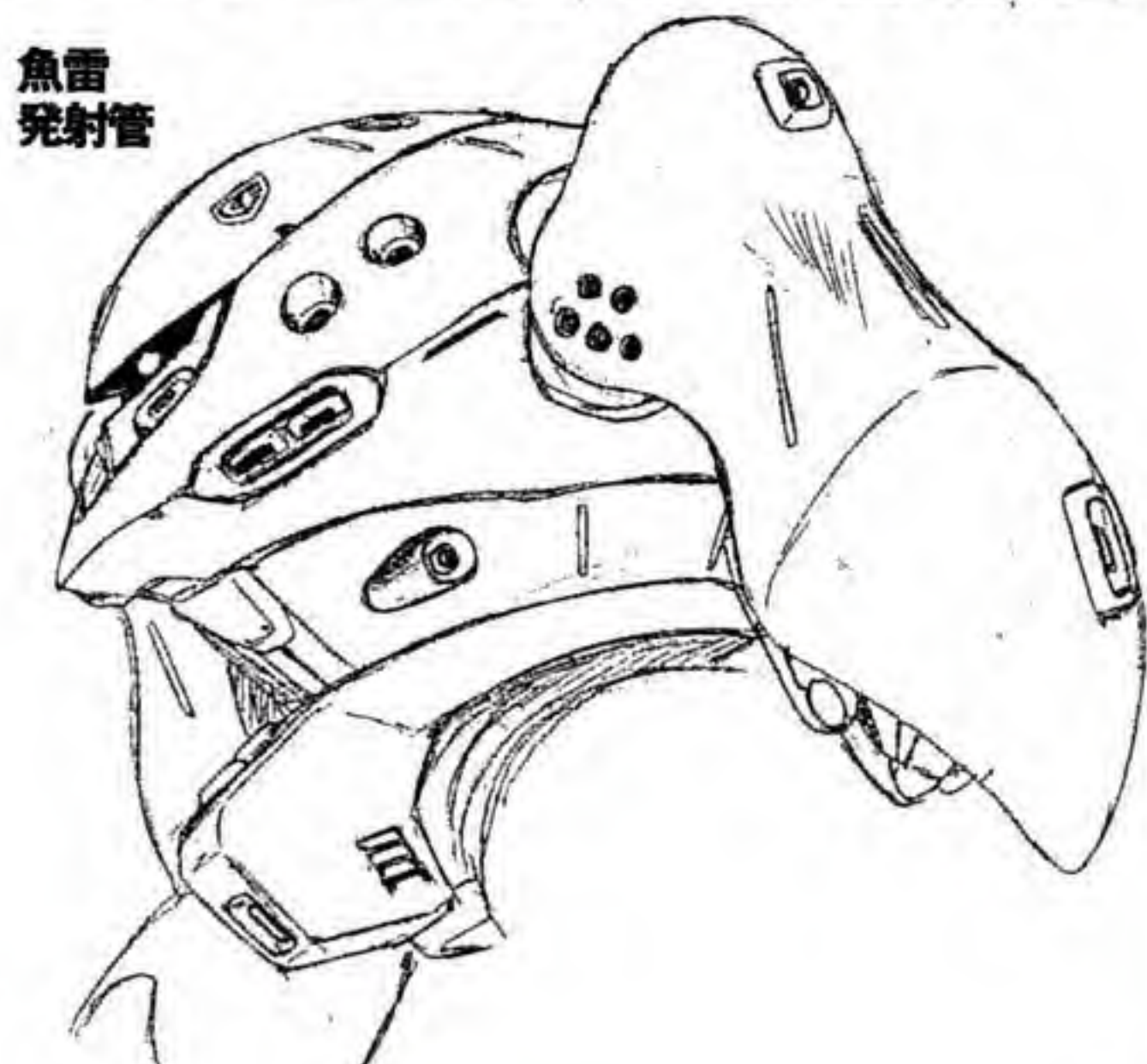
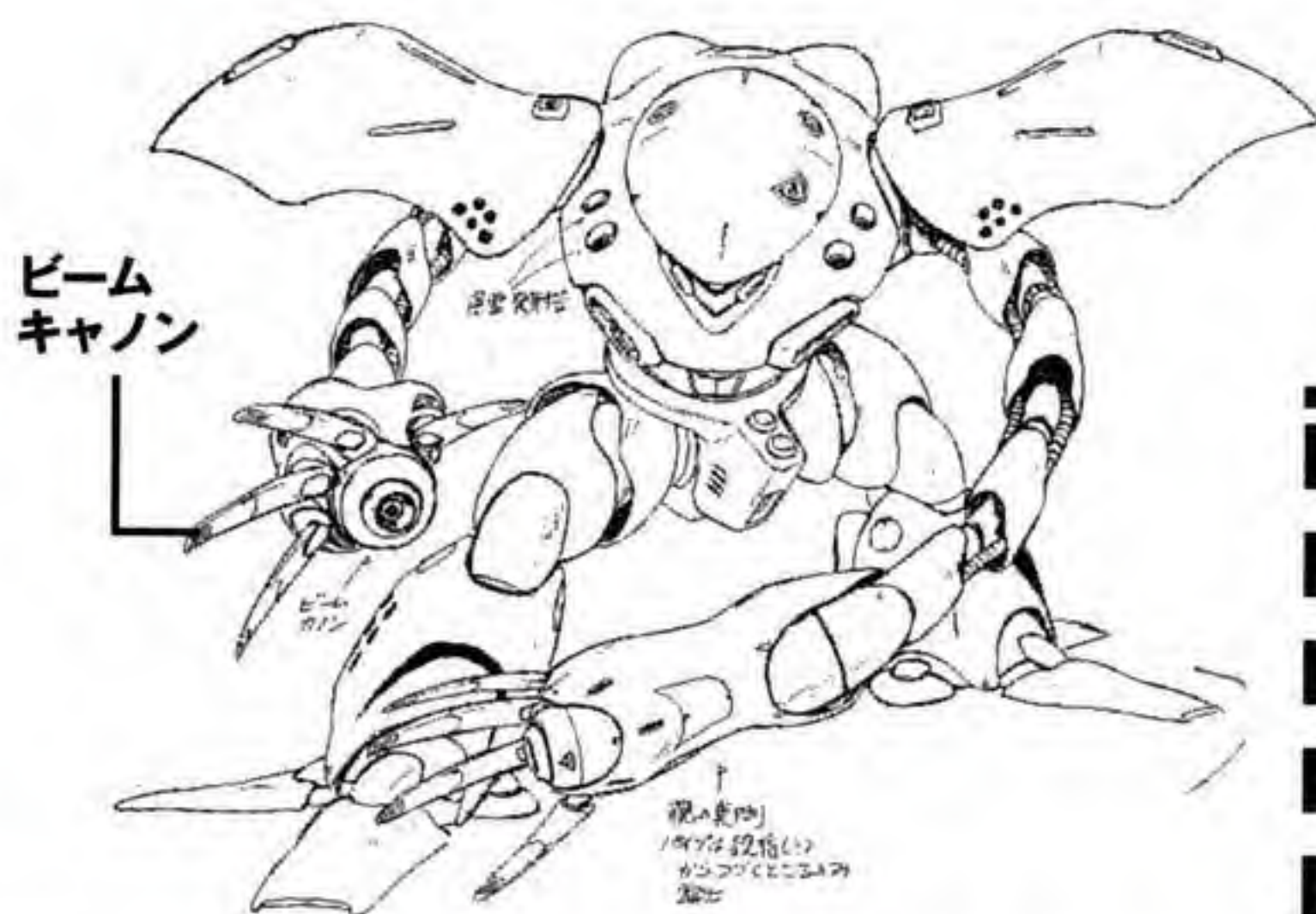
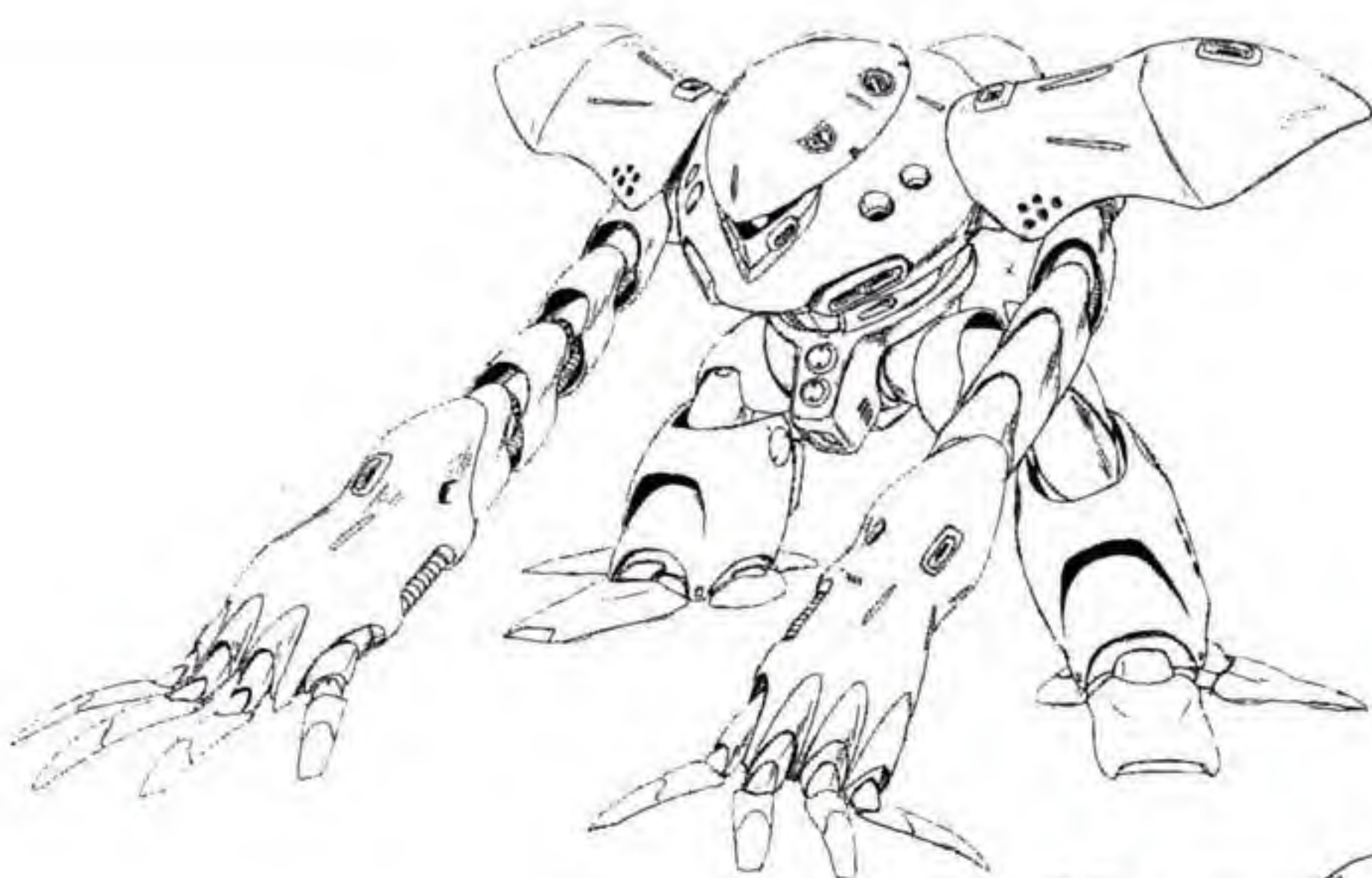


MSM-03C

ハイゴッグ

機種分類：水陸両用量産型MS
 製造会社：ツィマッド社
 全高／頭頂高：15.4／15.4m
 本体／全備重量：54.5／79.2 t
 ジェネレータ出力：2735kw
 スラスター総推力：96000kg

●「MSM-03ゴッグ」は一年戦争初期に開発されたため、陸上での行動時間が限られているなど、いくつかの欠点があった。大戦末期、一年戦争中に飛躍的に向上したMS開発の技術を生かすべく、ゴッグの機体再設計を行なって誕生したのが「MSM-03Cハイゴッグ」である。水中航行形態の改良や主推進器の配置変更などが行なわれたため、外観は原型のゴッグとはかなり異なるものとなった。ゴッグでは腹部にあったメガ粒子砲も、ハイゴッグでは腕部に発射口が移され、よりフレキシブルな攻撃が行なえるようになっている。同時に、腕部に取り付ける専用武装としてハンドミサイルユニットが開発された。これはMSの携行するミサイルとしては極めて大型であり、水中航行時に支障が出ないように保護カバーも含めた装備となっている。



アッガイ

GUNDAM MECHANICS

MS-1



MSM-04 アッガイ

機種分類：水陸両用量産型MS

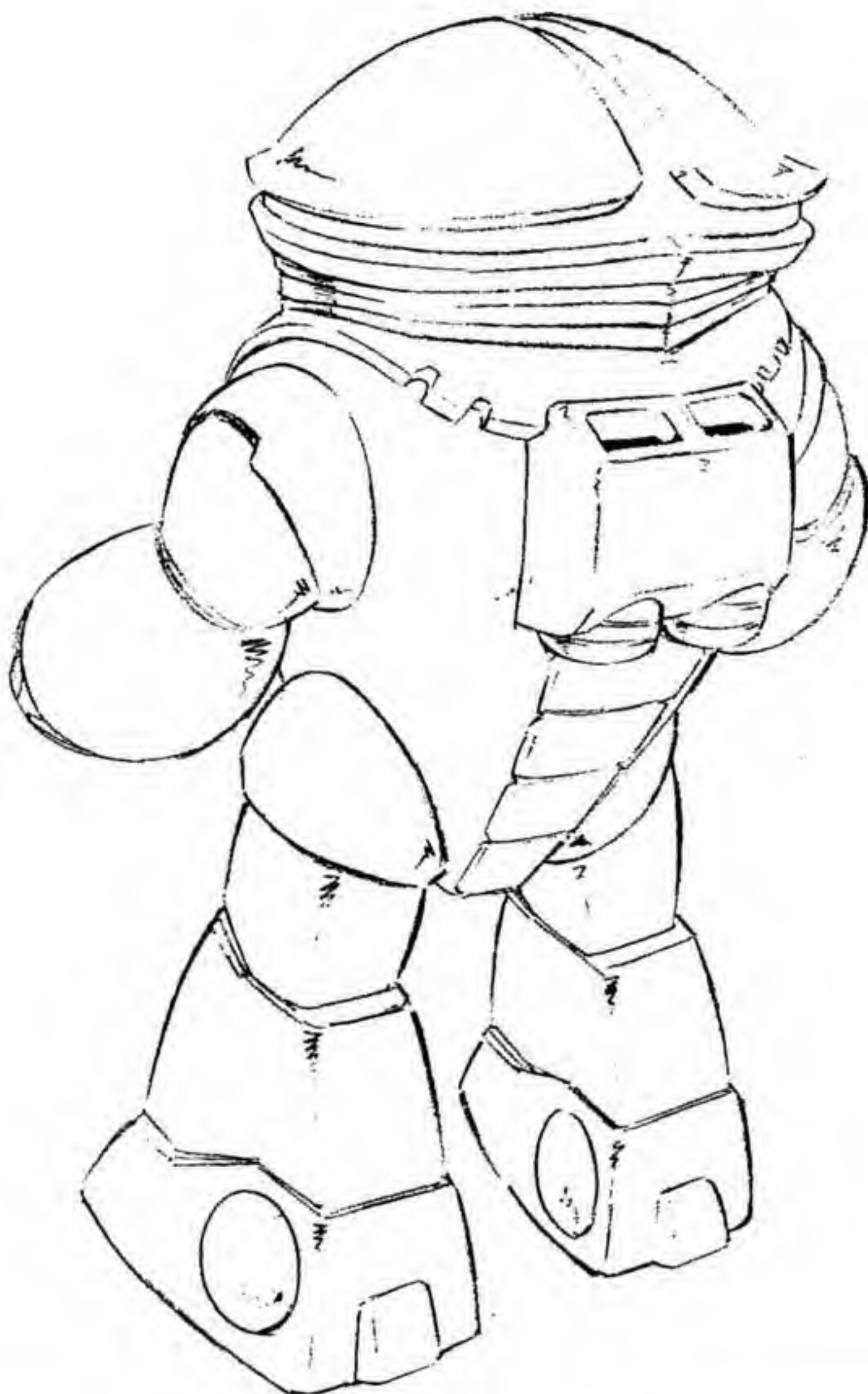
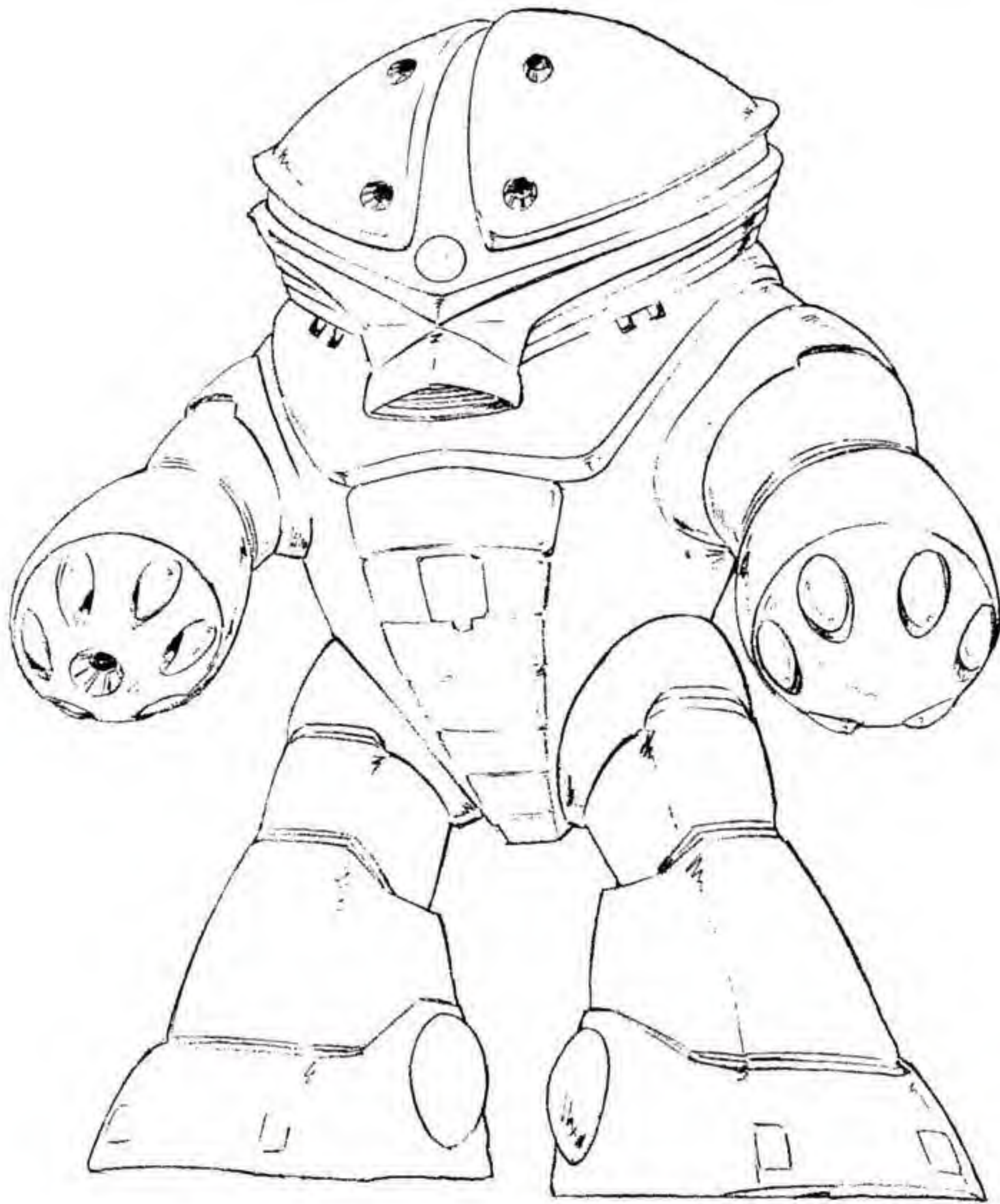
製造会社：ジオニック社

全高／頭頂高：19.2／19.2m

本体／全備重量：91.6／129.0t

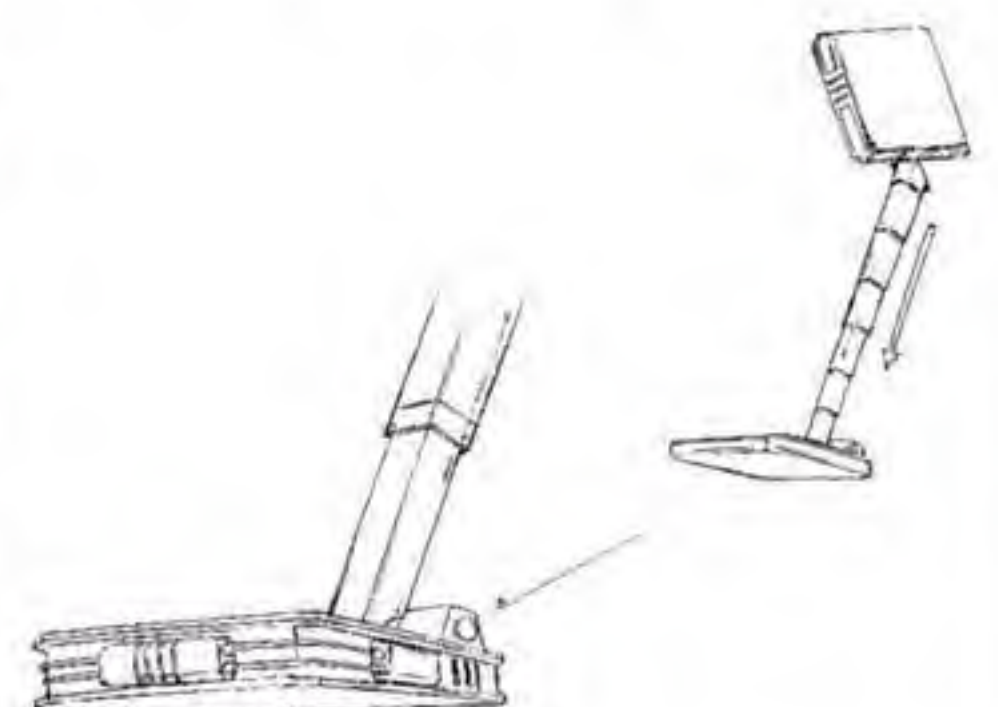
ジェネレータ出力：1,870kw

スラスター総推力：109,600kg



●「MSM-04アッガイ」は、ザクと同タイプのジェネレータを2基搭載することで、比較的高い出力を得ている。しかしメガ粒子砲は搭載できなかったため、ほかのMSMシリーズに比べ火力が弱く、大量生産は見送られた。ただ、水中での運動性能は高くないものの比較的陸上での機動性に優れ、機外への熱排出量が少なかった本機は、装甲等に手が加えられステルス性を向上させた隠密偵察用として小数が生産された。また、本機は複座機として使用が可能で、水陸両用MSの訓練用としても使用されたのである。

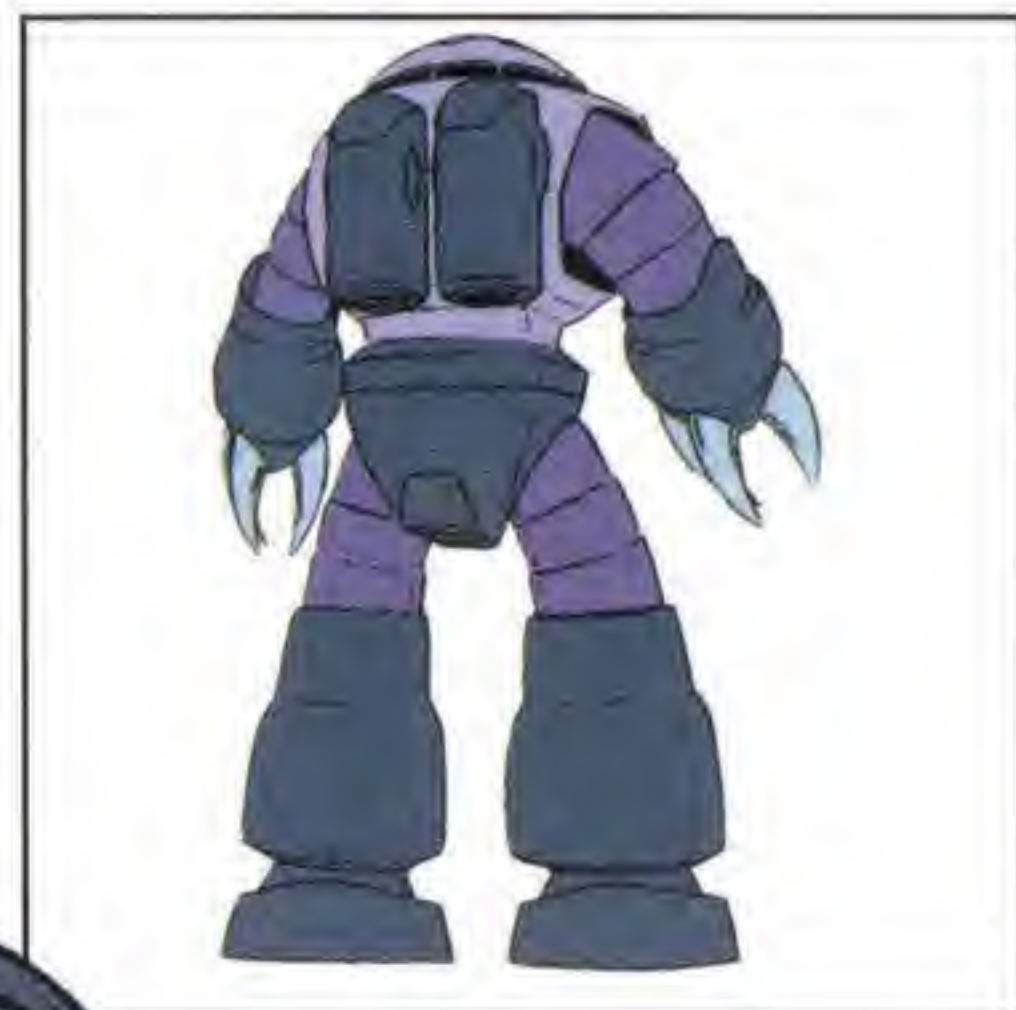
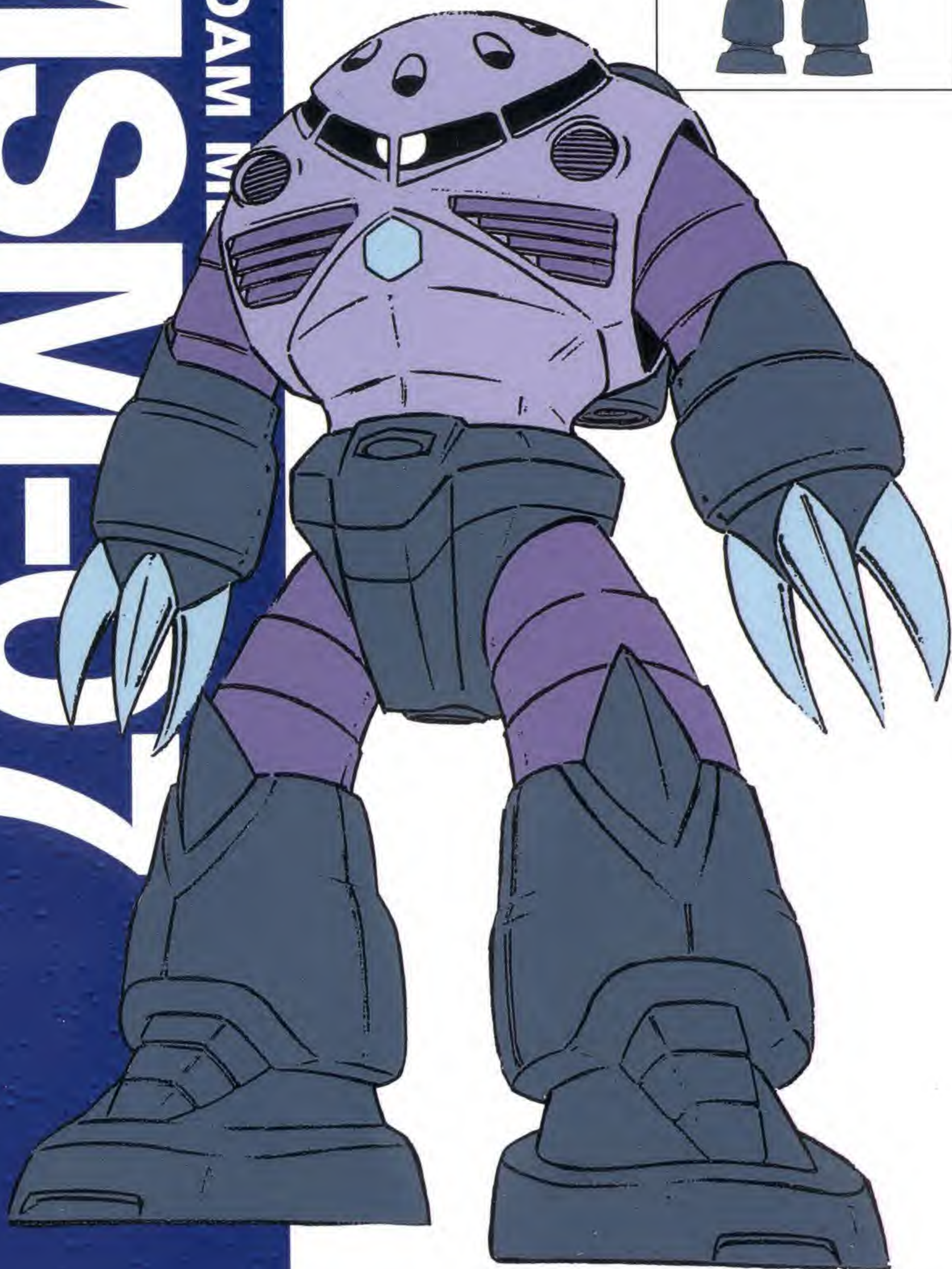
固定武装は左手の105mmマシンガン、右手のロケットランチャーとクローを装備。右腕は伸縮式で、離れた場所から目標にクロー攻撃を加えることができる。



ズゴック

GUNDAM

MS



MSM-07 ズゴック

機種分類：水陸両用量産型MS

製造会社：MIP社

全高／頭頂高：18.4／18.4m

本体／全備重量：65.1／96.4 t

ジェネレータ出力：2,480kw

スラスタ総推力：83,000kg

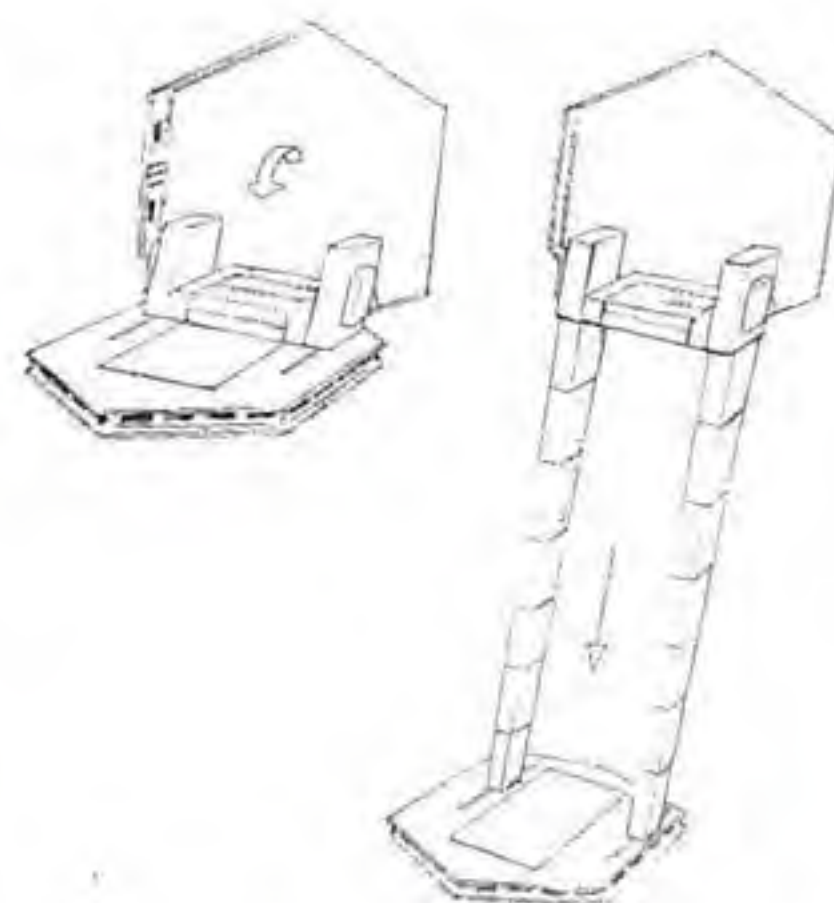
●「MSM-03ゴッグ」に次いで制式採用された水陸両用MSが、「MSM-07ズゴック」である。宇宙用高機動機の開発を得意とするMIP社が開発した唯一のMSで、腕部の格闘用クローなどに同社が開発した「モビルアーマー」の技術が生かされている。

ズゴックは水陸両用MSの中でも、特に陸上での機動性が高く、腕部のクローを用いた対MS格闘戦を得意としていた。このため、連邦がMSを配備するようになった大戦末期の上陸作戦などに多く使用された。そのほか武装として、両腕にメガ粒子砲を、頭部に240mmロケット発射管が6基装備されている。

こうした水陸両用MSはユーコン級潜水艦に搭載され、世界中の海で連邦軍の補給線を寸断した。これにより連邦軍の海洋艦隊は壊滅状態に陥り、海はジオン軍の独壇場となったのである。

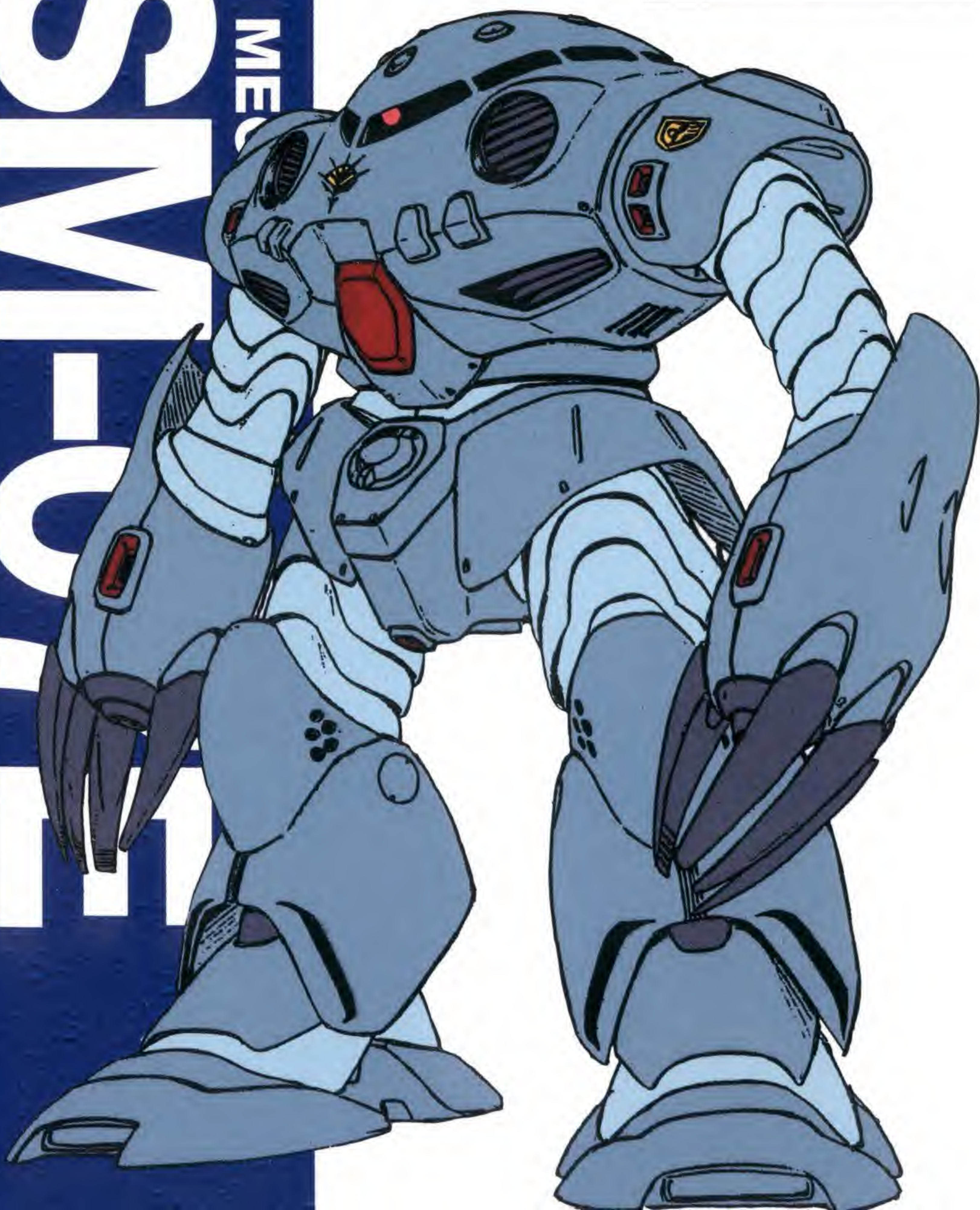
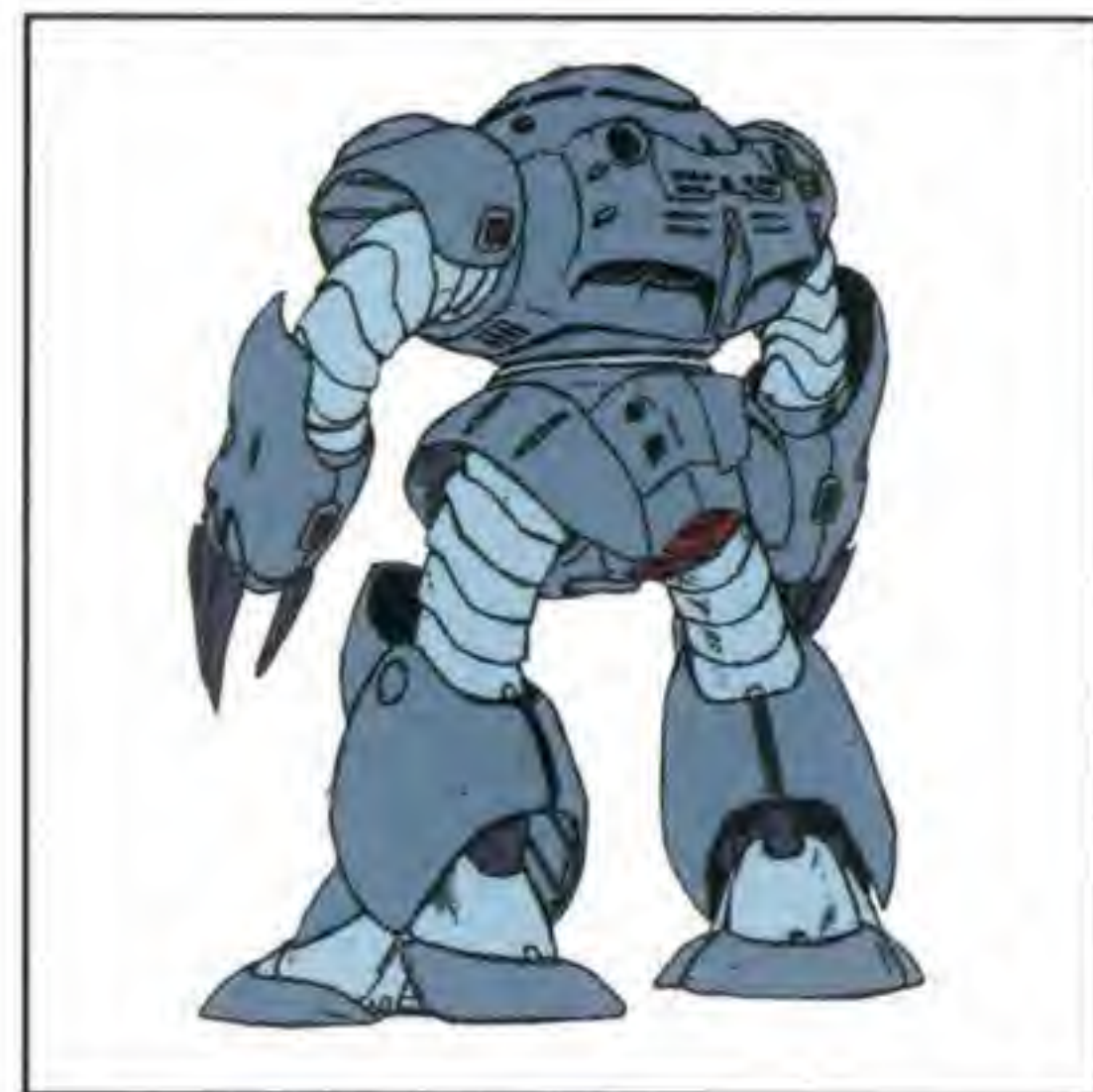
ロケットランチャー

メガ粒子砲&クロー

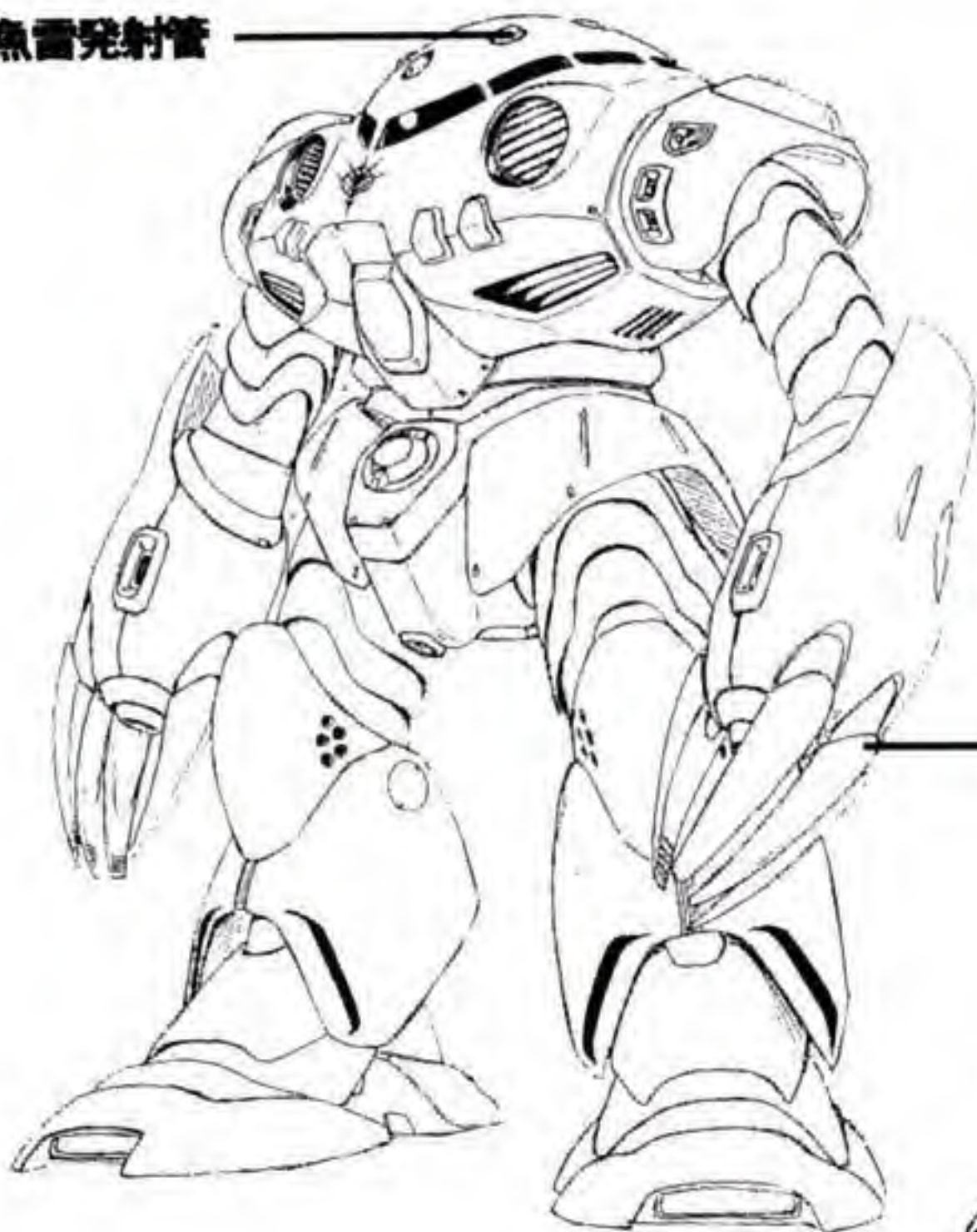


ズゴックE(実験体)

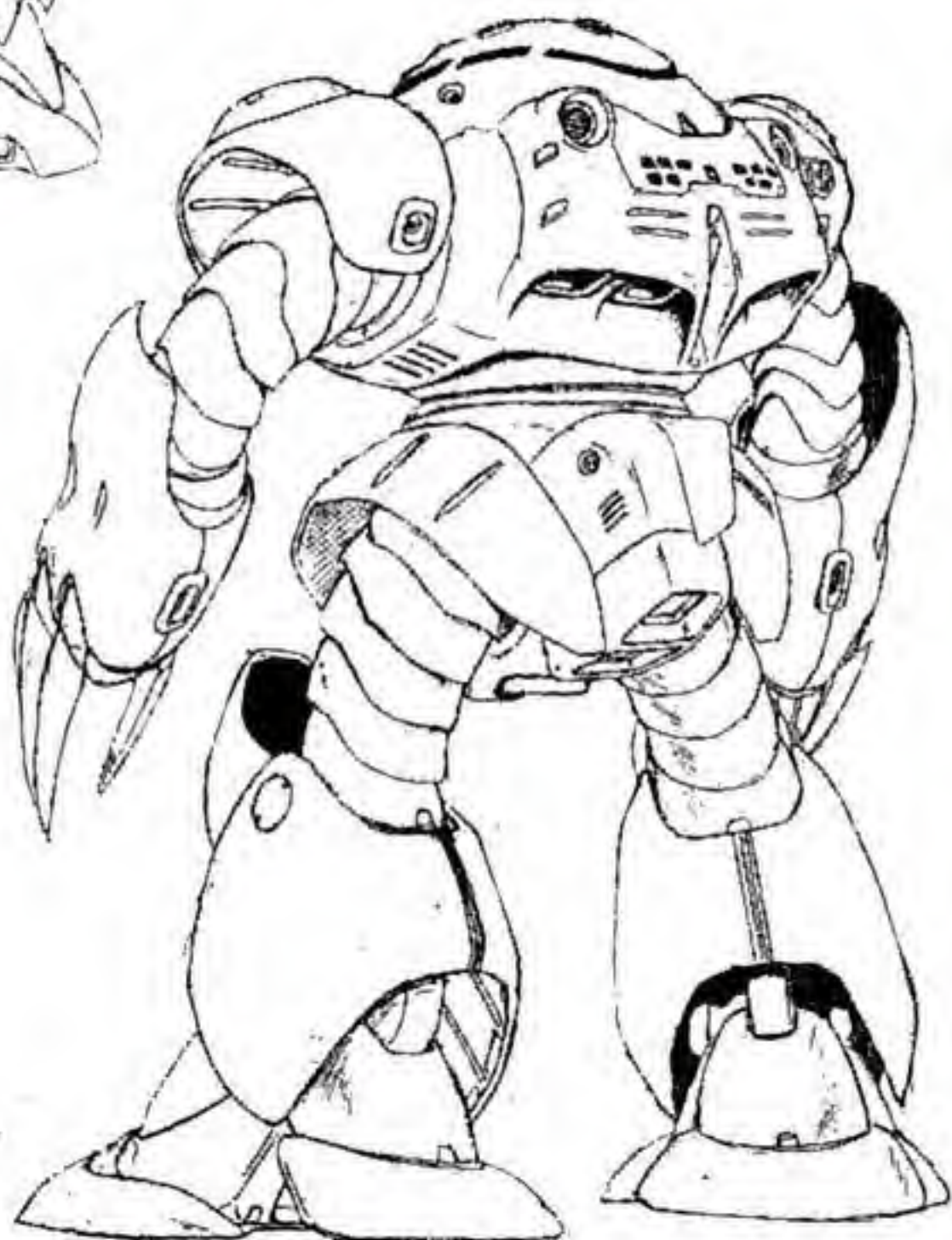
MS GUNDAM MECH



魚雷発射管



ビームキャノン&クロー



MSM-07E

ズゴックE(エクスペリメント)

機種分類：水陸両用量産型MS

製造会社：MIP社

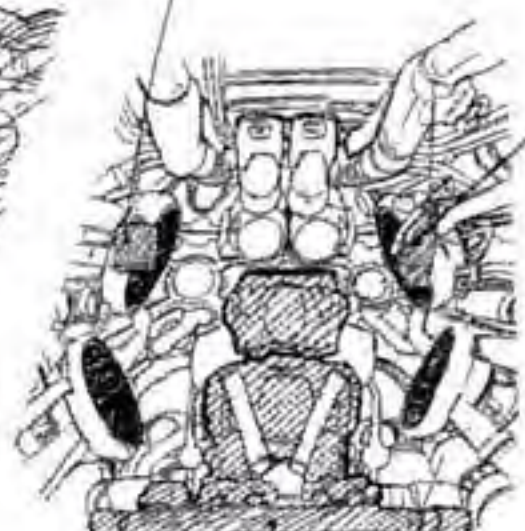
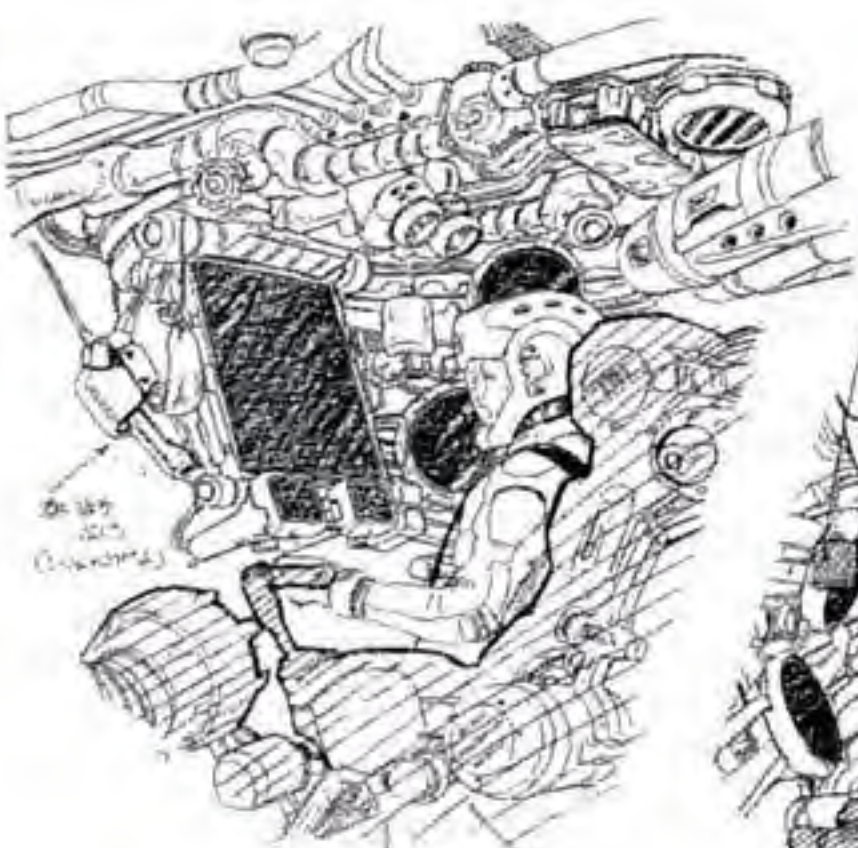
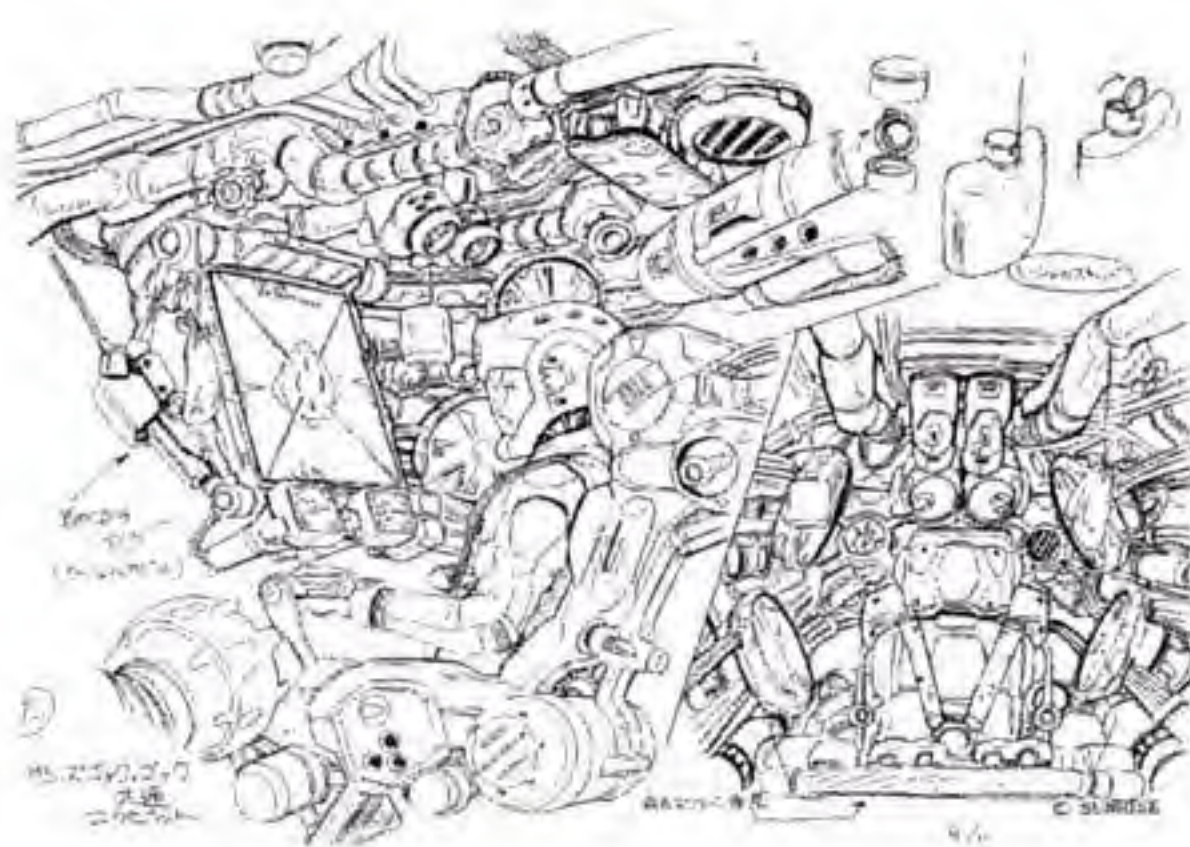
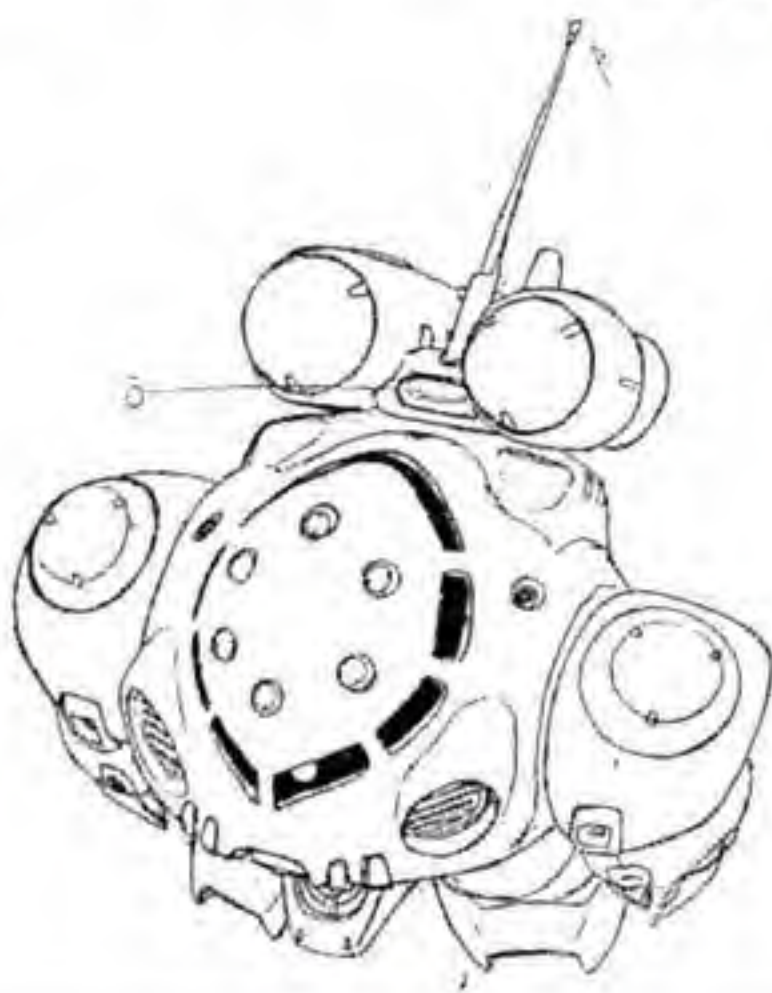
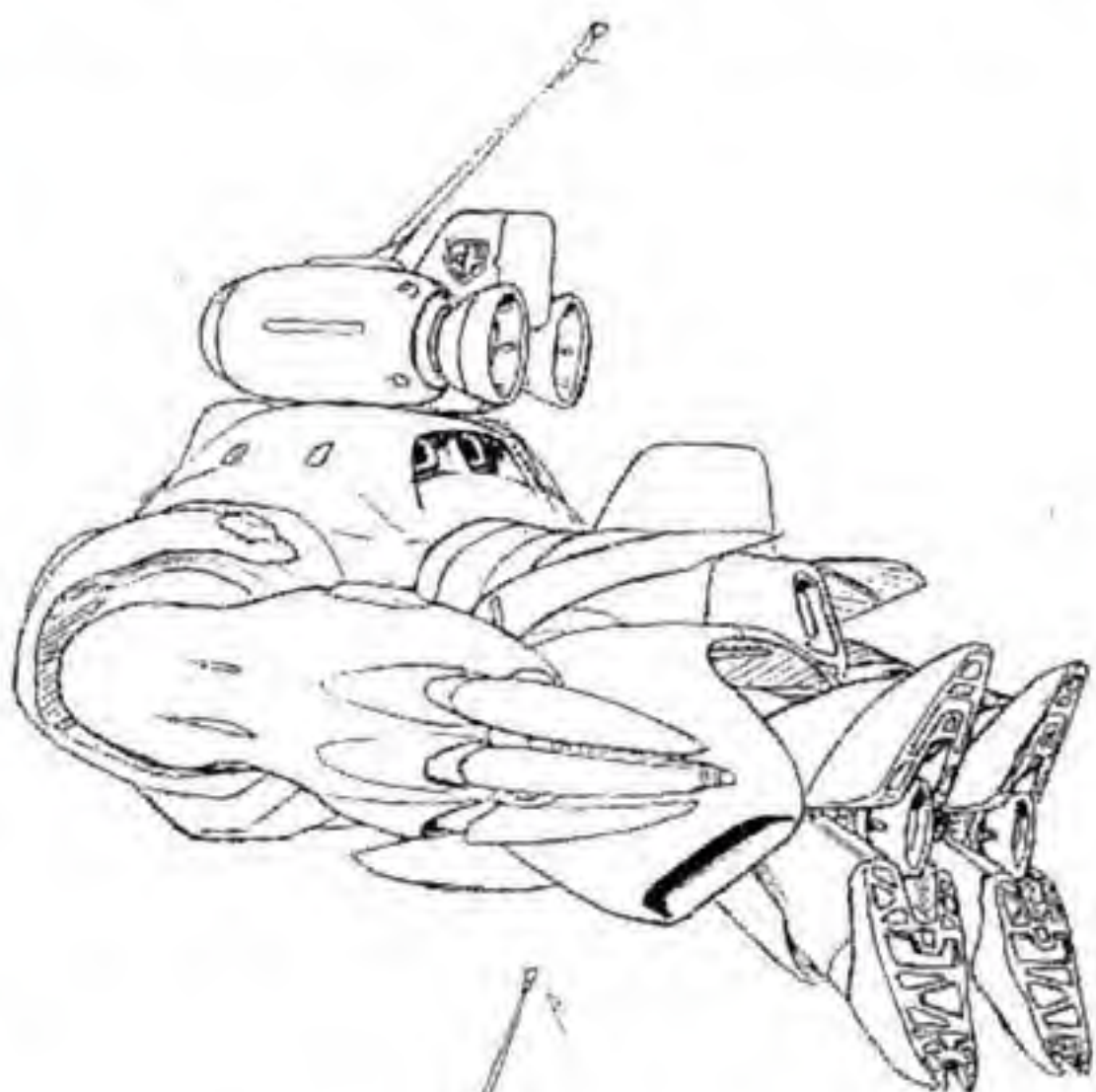
全高 頭頂高：18.4 18.4m

本体 全備重量：69.5 88.9 t

ジェネレータ出力：2,570kw

スラスタ総推力：112,000kg

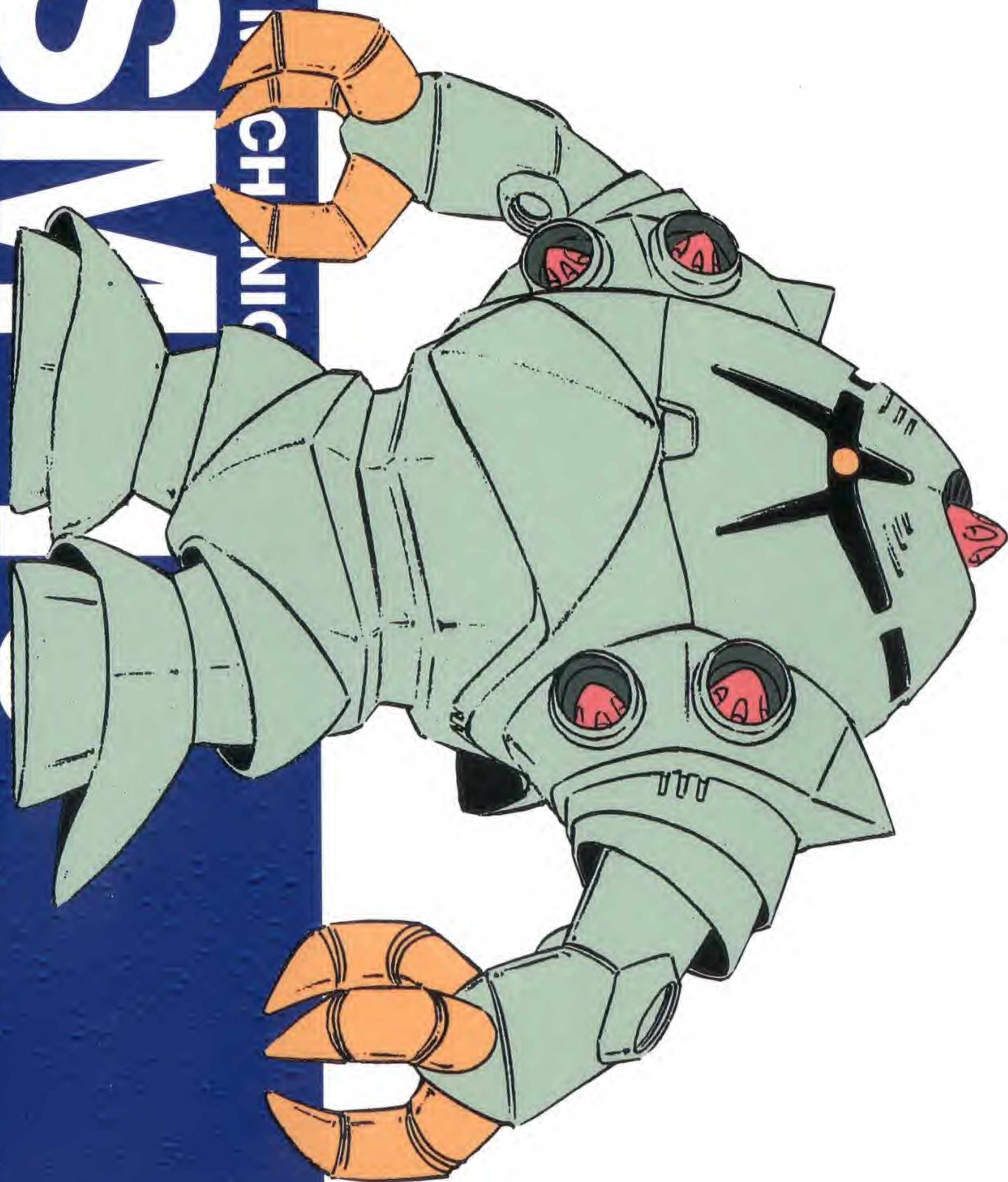
●「MSM-07E」は「MSM-07ズゴック」を改良し、水中／地上両面での作戦遂行能力を高める目的で、大戦末期に小数が試験生産された機体である。主な改良点は、「MSM-03ゴック」と同様の、四肢を縮める機構が採用されたことと、背中にあった主推進器が脚部へと移動されたことで、これらにより整流効果が高まり水中移動速度が大幅に向上した。火力面も見直しが行なわれ、両腕に装備されたビームカノンにはエネルギーCAPシステムを導入し、出力／連射性ともに初期生産型の上を行く性能を得ている。また、ビームカノンの採用により陸上戦時の火力は申し分ないものとなったため、初期量産型に装備されていた頭部のミサイルは魚雷に換装され、水中時の対艦攻撃能力向上が図られている。



コクピット

ゾック

GUNDAM MECHANICS



MSM-10

ゾック

機種分類：水陸両用量産型MS

製造：カリフォルニア基地MS工廠

全高／頭頂高：23.9／23.9m

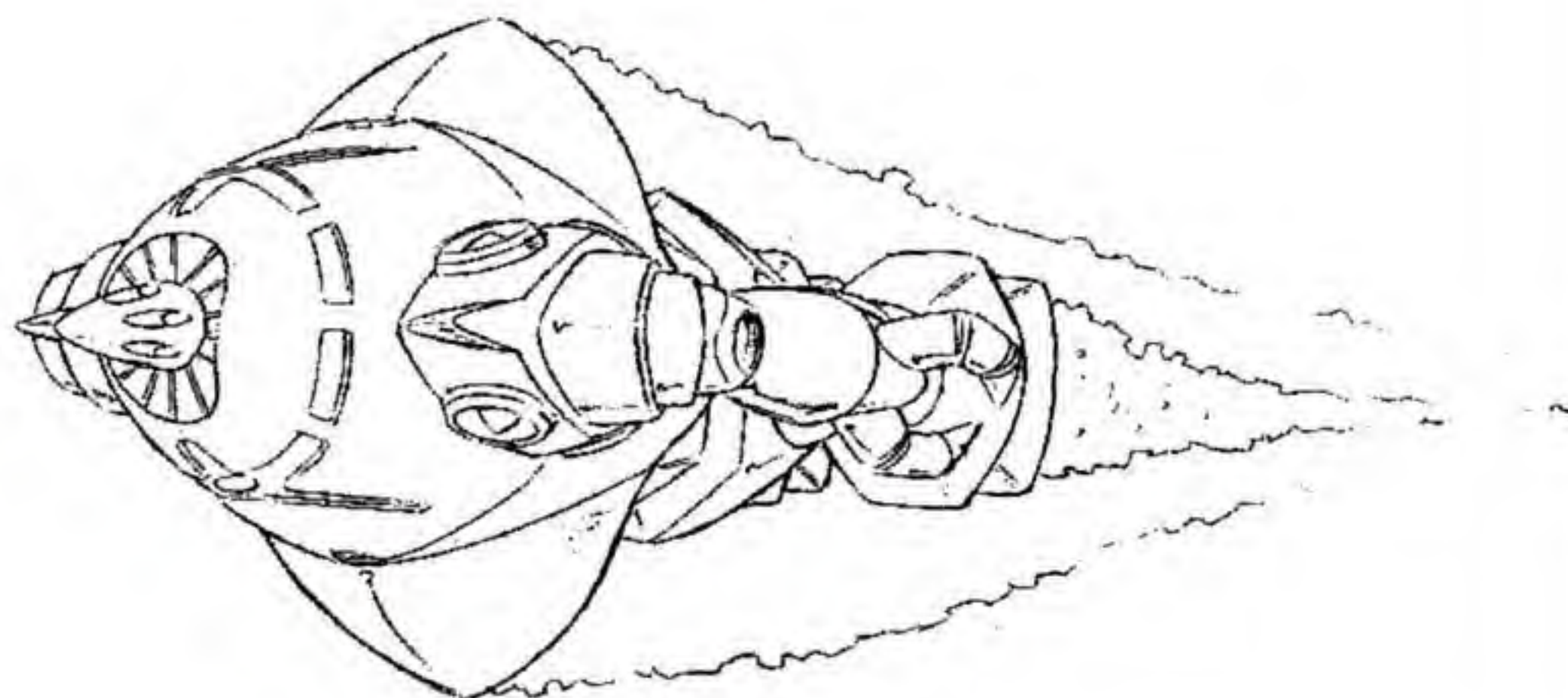
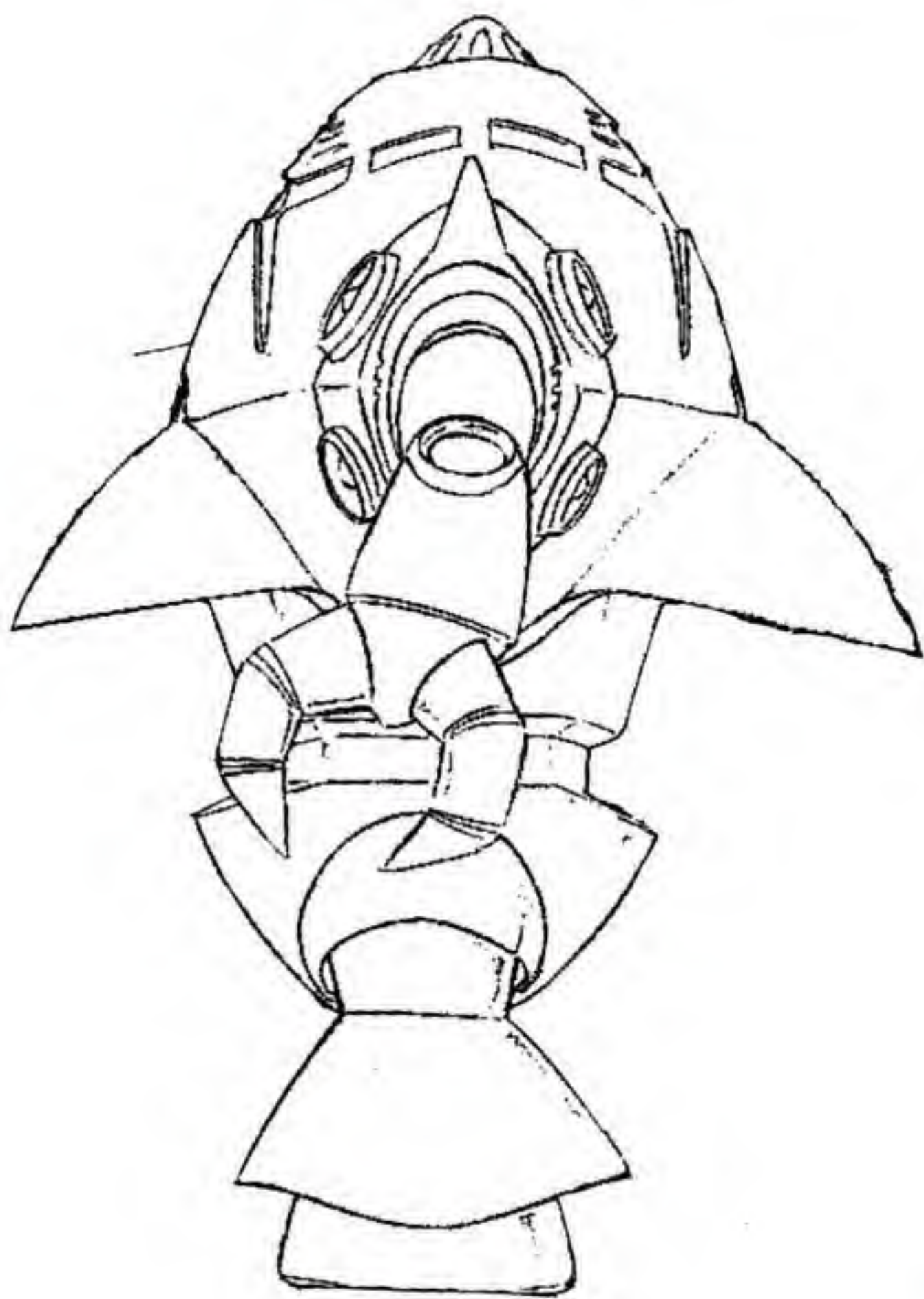
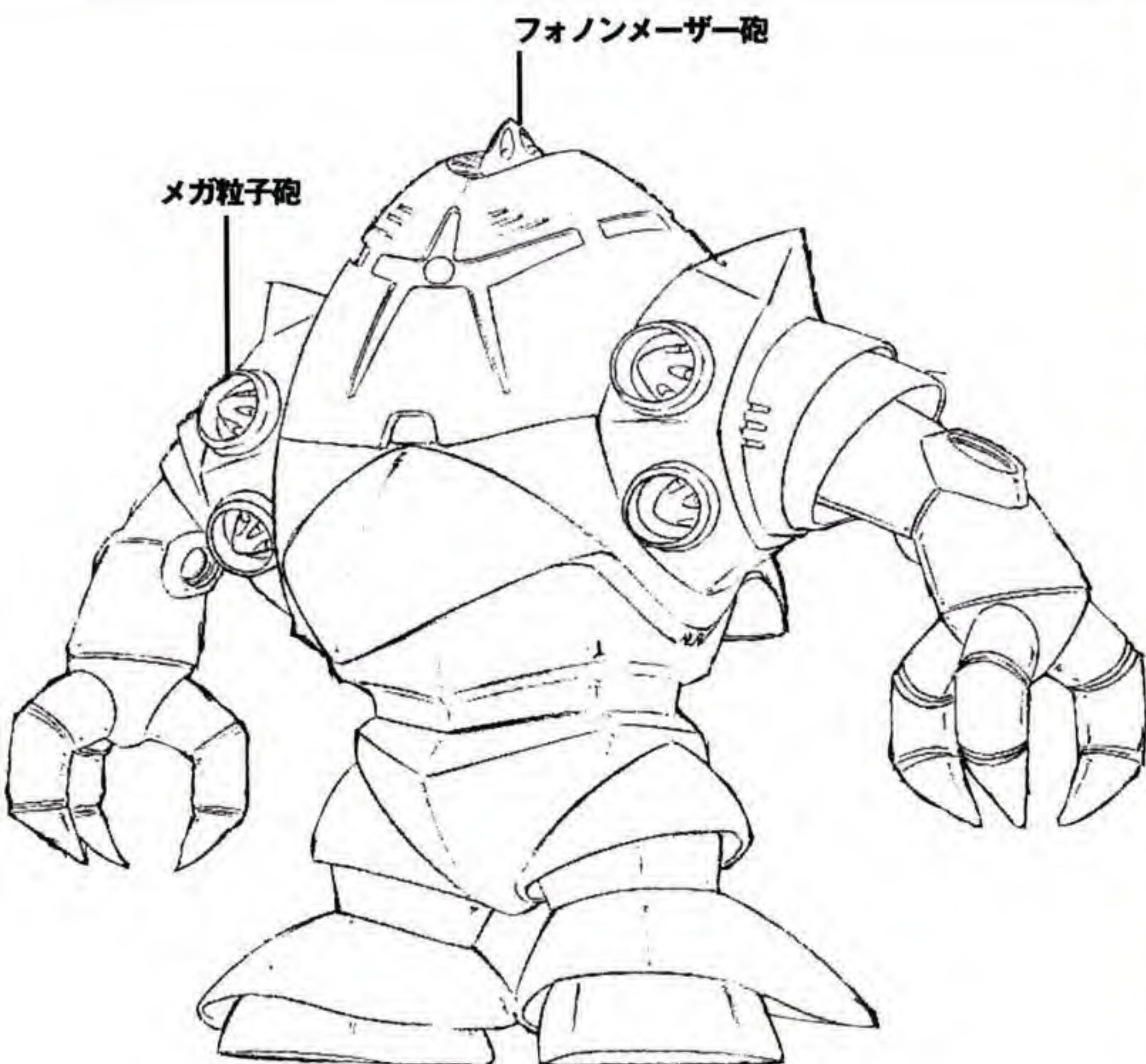
本体／全備重量：167.6／229.0 t

ジェネレータ出力：3,849kw

スラスター総推力：253,000kg

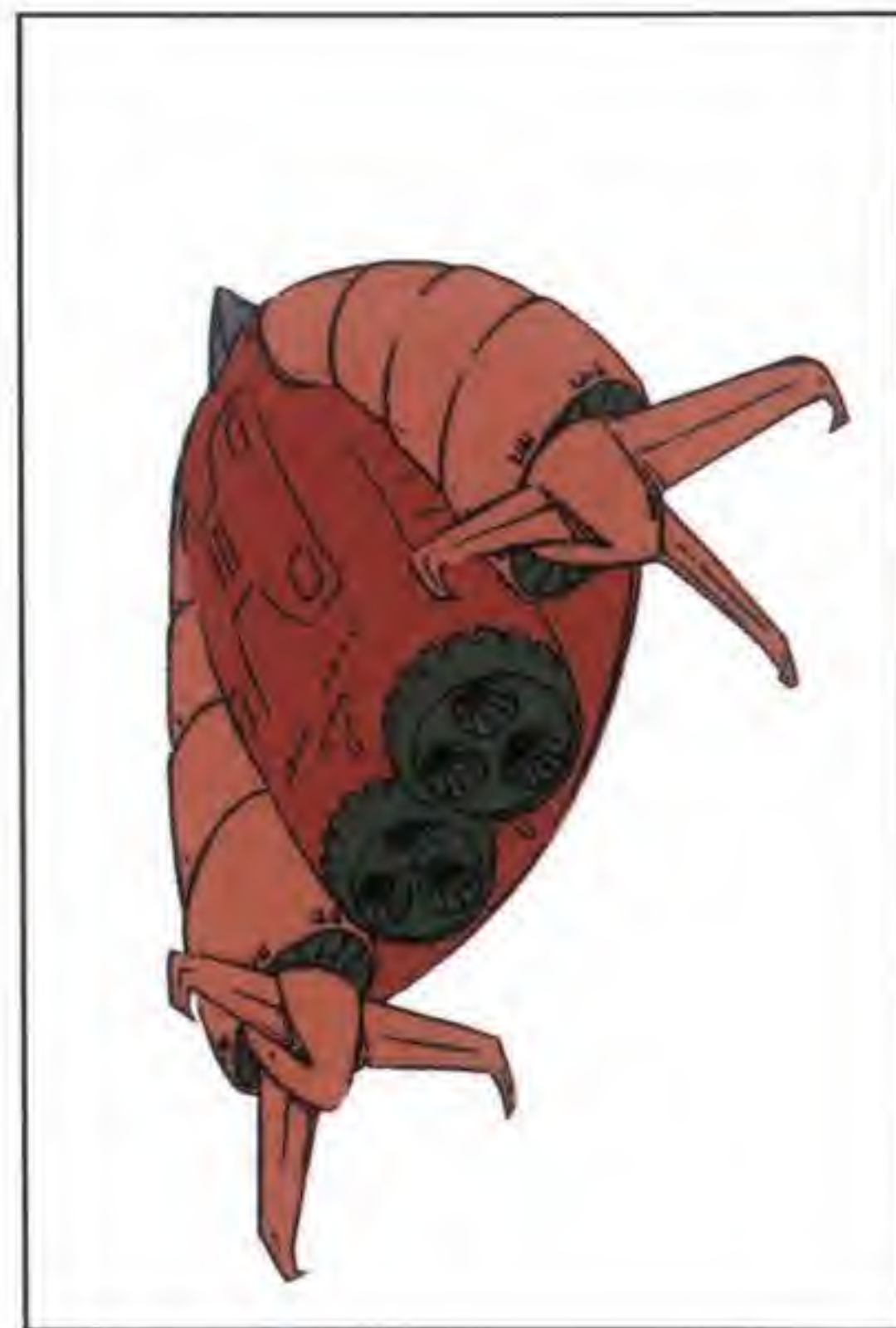
●水中戦用MSの中でも、この「MSM-10ゾック」は異色を放つ存在である。外見上手足は付いているが、これはほとんど飾りで、実際は局地戦用の移動メガ粒子砲台と言ったほうが適当なMSである。

脚部は完全に飾りで、移動は熱核ジェットによるホバー走行で行なわれる。湿地帯などの足場が安定しない地域での運用を考慮したためであるが、効果のほどは定かではない。特筆すべきはその武装で、前後方向に4門ずつメガ粒子砲を有し、加えて頭部に1門の計9門を装備している。これだけのメガ粒子砲を維持するため、ジェネレータも出力3,849kwという巨大な物が使用された。終戦までに3機が製作されたが、実際に戦闘を行なったものは、ジャブロー侵攻作戦に参加した1機のみで、残りの2機の内1機は輸送中に潜水艦ごと破壊されている。



グラプロ

GUN



MAM-07

グラブロ

機種分類：水中戦用試作型MA

製造会社：MIP社

全高／全長：26.1／40.2m

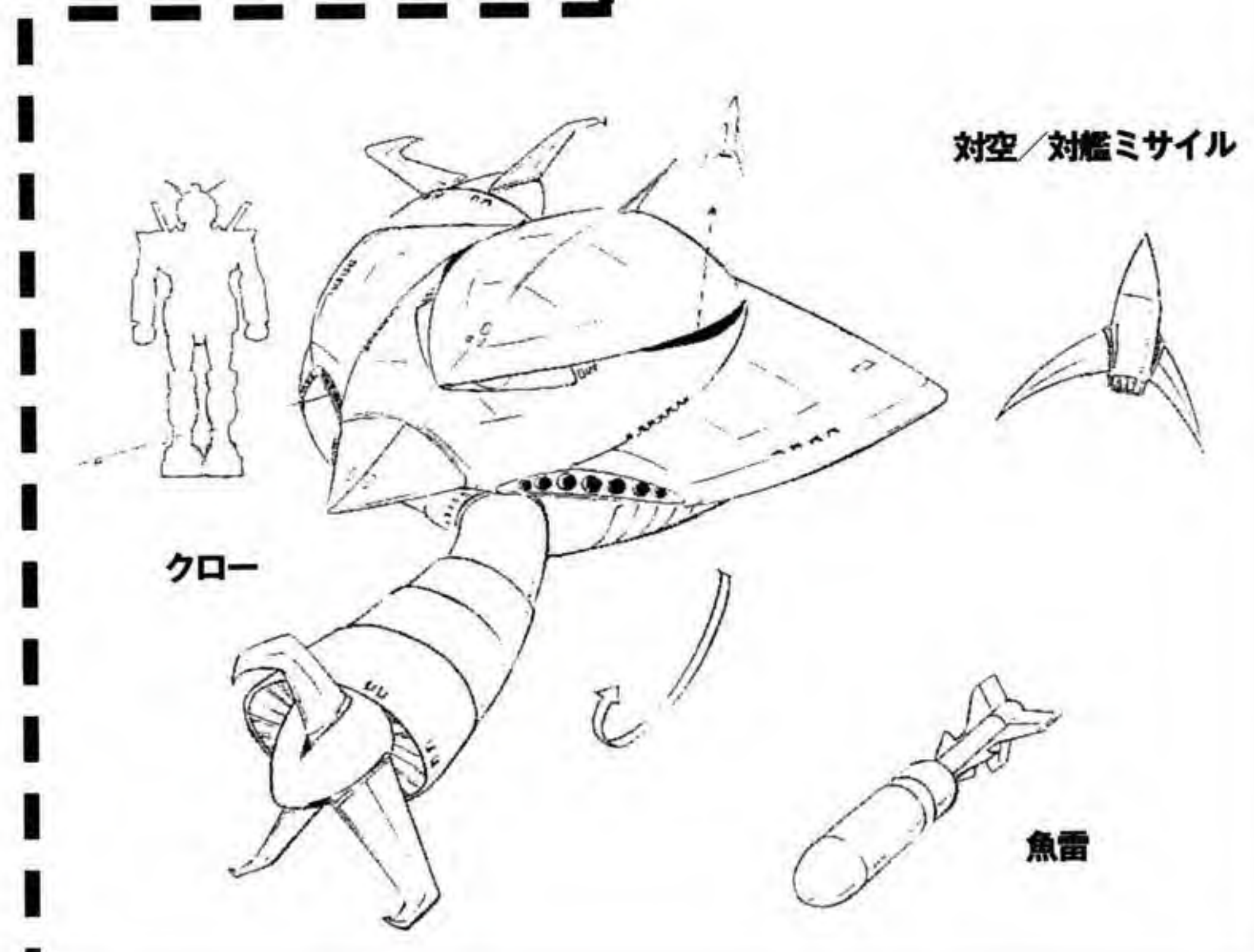
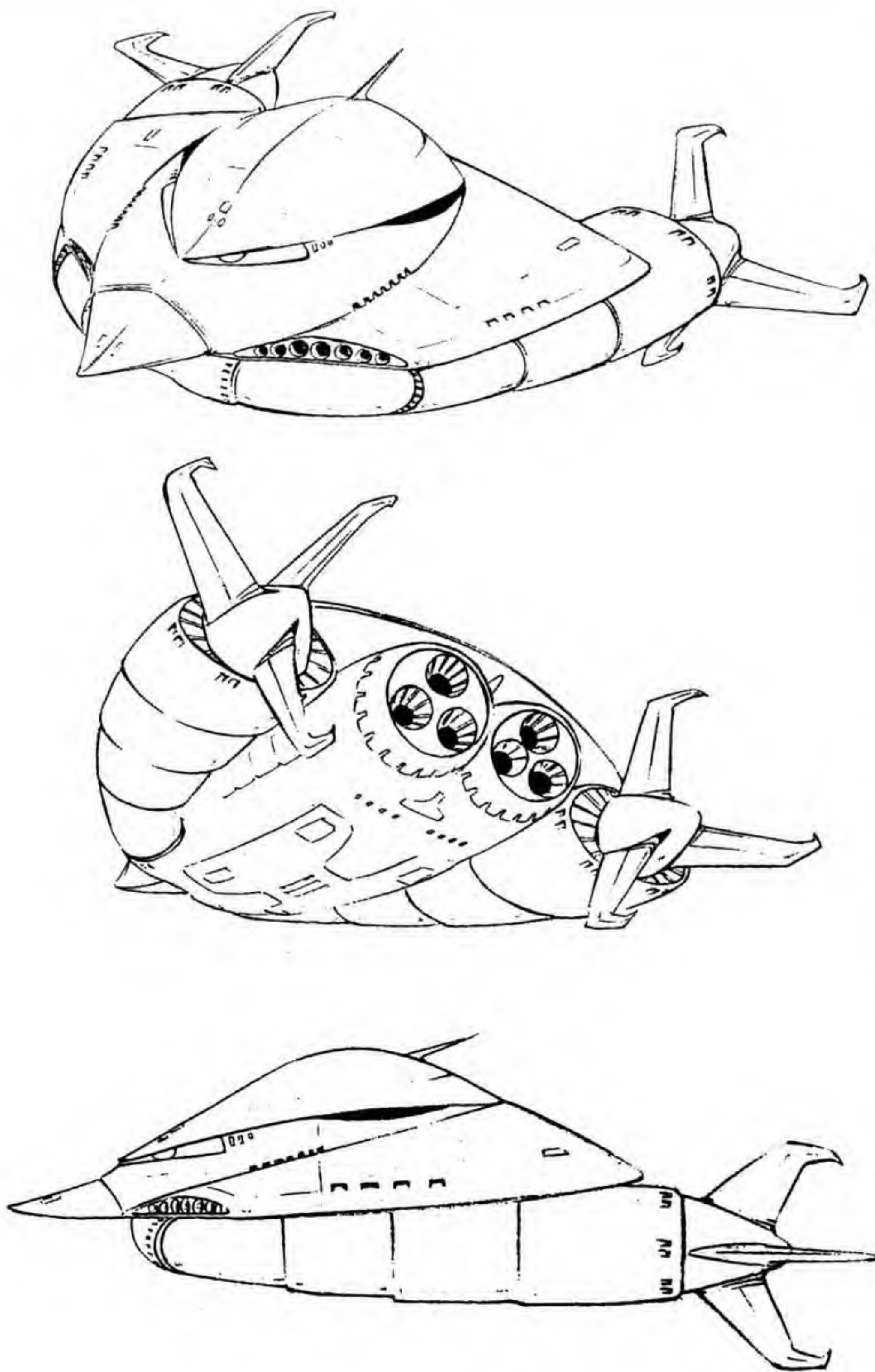
本体／全備重量：324.1／793.7 t

ジェネレータ出力：11,000kw

●水中戦用MAとして開発された「MAM-07グラブロ」は、MSMシリーズと並行して開発された。

MSに比べて巨大な機体を持つMAは、リゾート用の海洋コロニー内での実験が困難で、本格的な機体開発は地球降下作戦後、地球上で進められた。占領した連邦軍の潜水艦ドックに各パーツを搬入して機体の組み立てを行なったのである。仮組みから、本格的な機体の完成までには1月半を要し、テストはメキシコ湾を拠点に行なわれた。

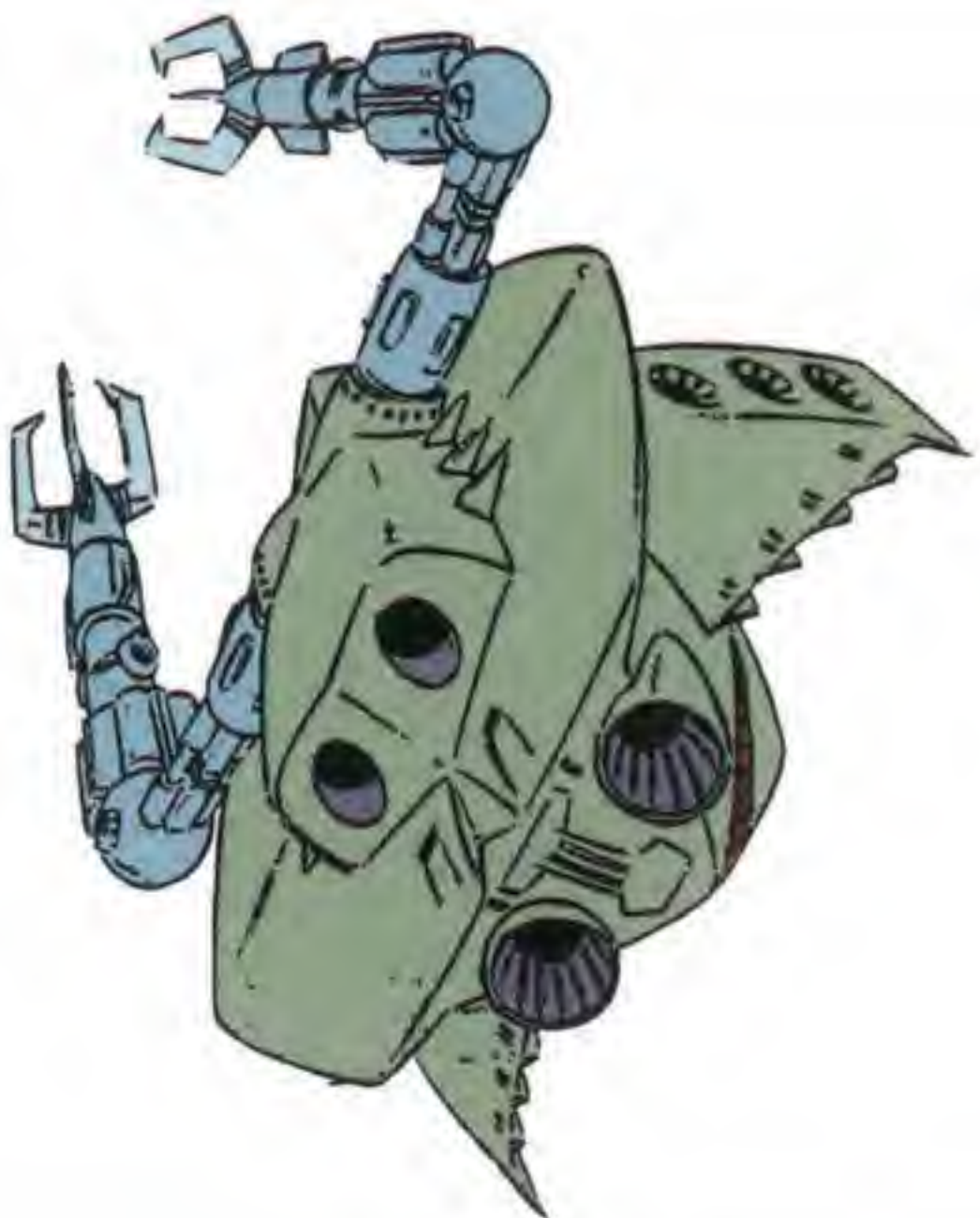
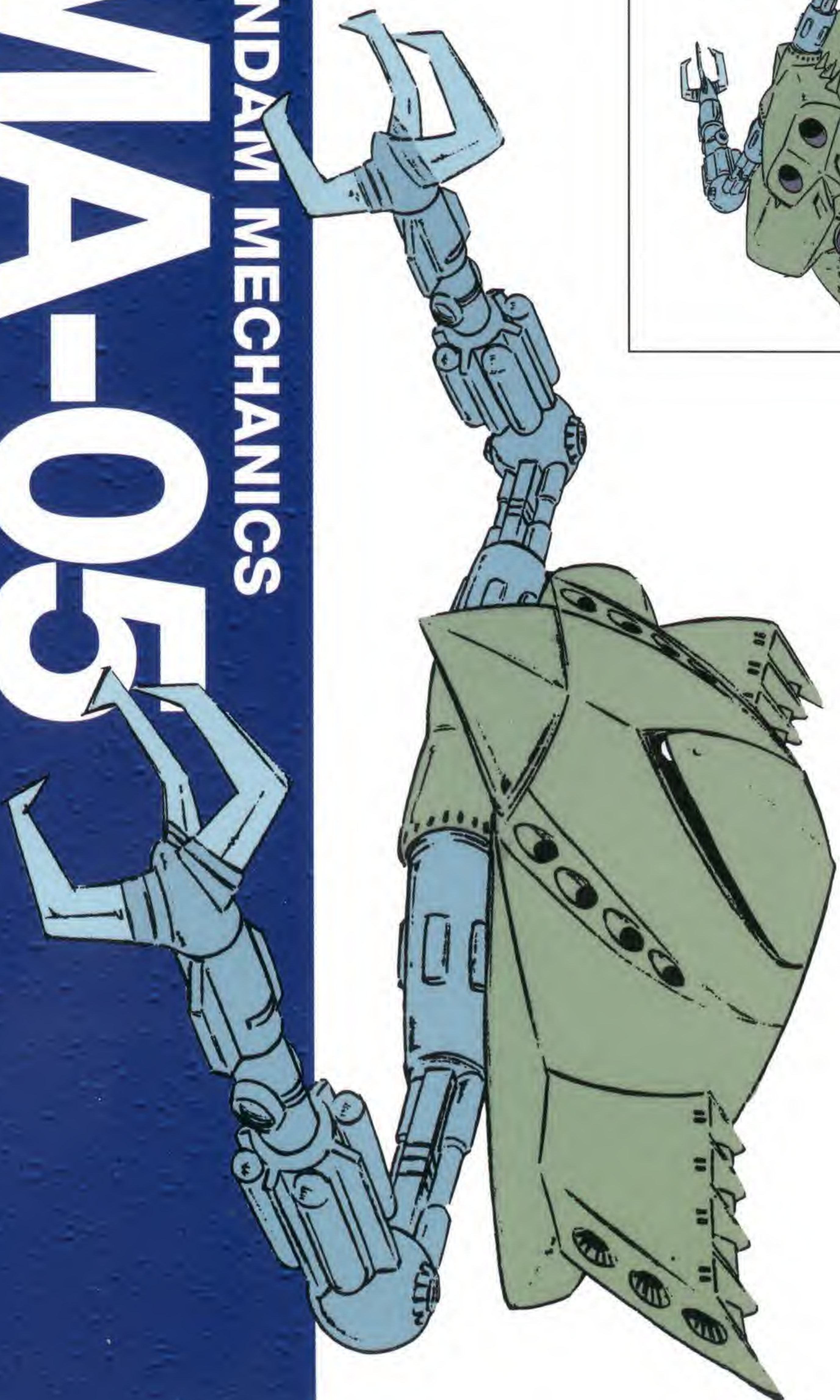
グラブロの航続距離は中型の潜水艦に匹敵し、水中での運動性はそれを上回った。武装はミサイル／魚雷発射管12門、対空／対艦ミサイルランチャーを2基装備している。また、2本の腕による攻撃は非常に強力で、完成した3機のグラブロによって、連邦軍の大西洋艦隊は大きな被害を受けた。



ビグロ

GUNDAM MECHANICS

MA-05



MA-05

ビグロ

機種分類：宇宙戦用量産型MA

製造会社：MIP社

全高／全長：23.6／45.5m

本体／全備重量：125.5／229.8t

ジェネレータ出力：17,800kw

スラスタ総推力：136,100kg

センサー有効半径：111,000m

●「モビルアーマー」とは、「モビルスーツ」と宇宙戦闘艇の中間に位置する機体で、本体に取り付けられた2本の「手」によって、限定的なAMBAC能力を持ち、高い機動性と攻撃力を発揮する。もともとはジオニック社のMSとの新兵器採用競争に敗れたMIP社の試作機「MIP-X1」が、その宇宙での高機動性を買われて、新たにMAとして開発が進められることとなったのである。

「MA-05ビグロ」は、推進器に強力な2基の熱核ロケットエンジンを使用し、機首にはメガ粒子砲を1門、ミサイルランチャーを機首左右に4門ずつ計8門装備している。索敵にはMS同様モノアイ・システムが使用され、ミノフスキー粒子散布下の索敵能力を向上させている。対艦攻撃能力に優れた本機は、少数が生産された。

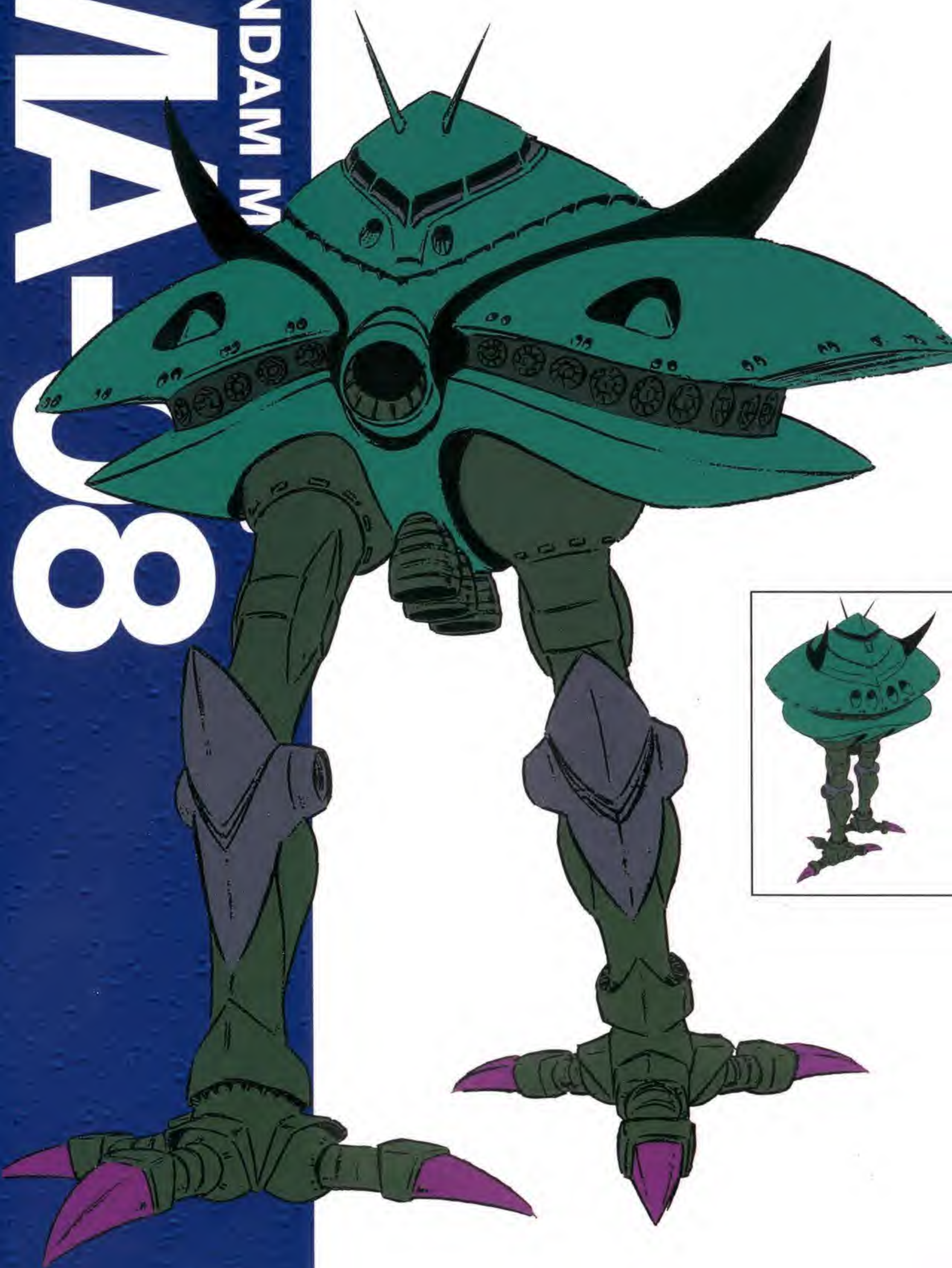
ミサイルランチャー

クロー

メガ粒子砲

ビグ・ザム

GUNDAM M



MA-08

ビグ・ザム

機種分類：対要塞戦用試作型重MA

全高：59.6m

本体／全備重量：1,021.2／1,936.0t

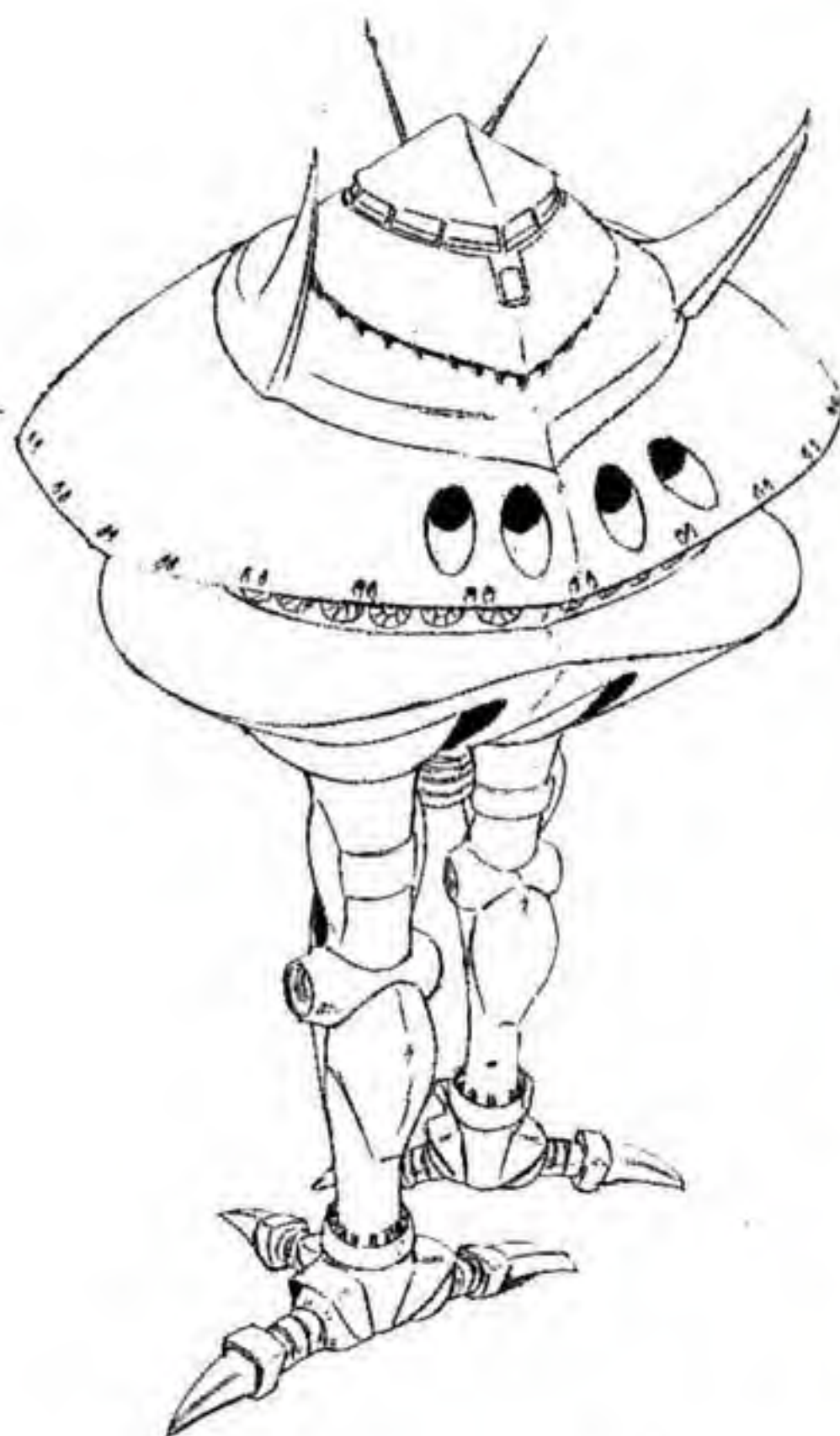
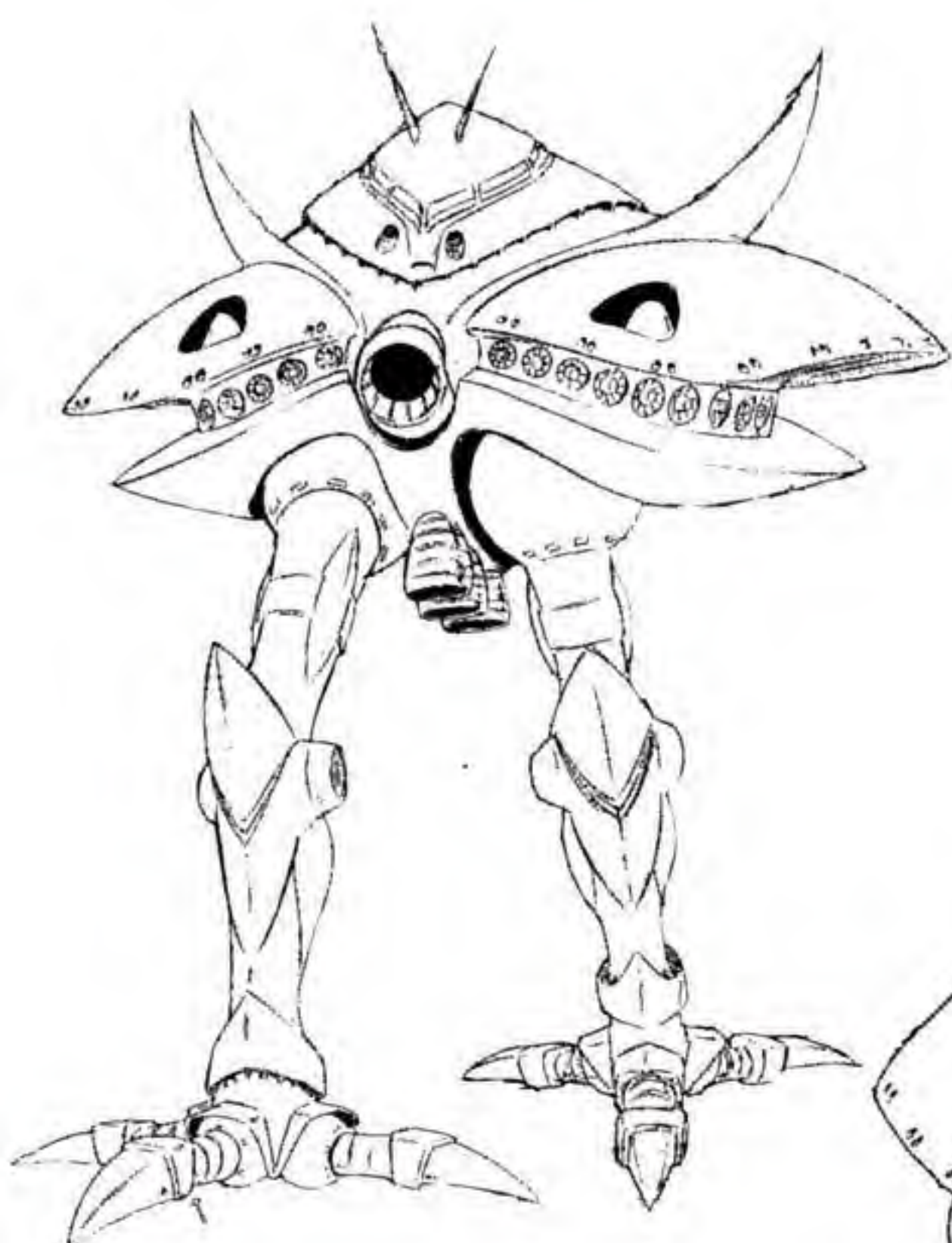
ジェネレータ出力：140,000kw

スラスタ総推力：580,000kg

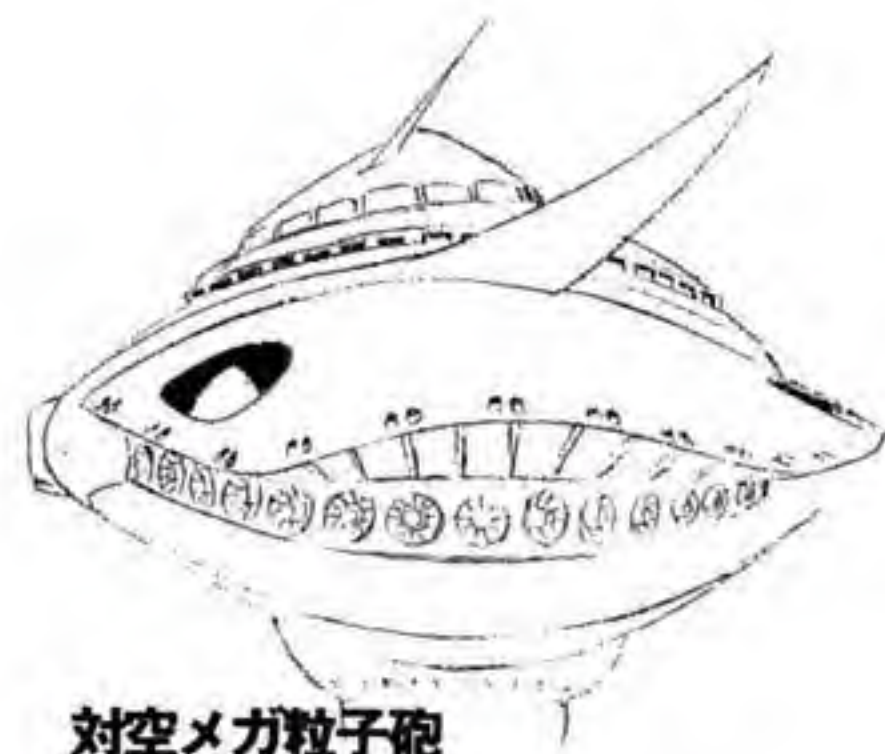
センサー有効半径：134,000m

●モビルアーマー「ビグ・ザム」は、一年戦争時の機動兵器としては、大きさ・攻撃力ともに最大の規模を誇る機体である。戦艦を一撃で沈める大型偏向メガ粒子砲を1門と機体の全周囲に28個ものメガ粒子砲を装備し、1フィールド発生装置が搭載されているため、メガ粒子砲やビームライフルの攻撃を無効にすることすらできた。このように攻撃力・防御力ともに申し分ないが、反面大きな問題もあった。出力35,000kwの高出力ジェネレーターを4基も使用しているため、冷却が追いつかず、ビグ・ザムの稼働時間は20分以下と非常に短いものであったのである。

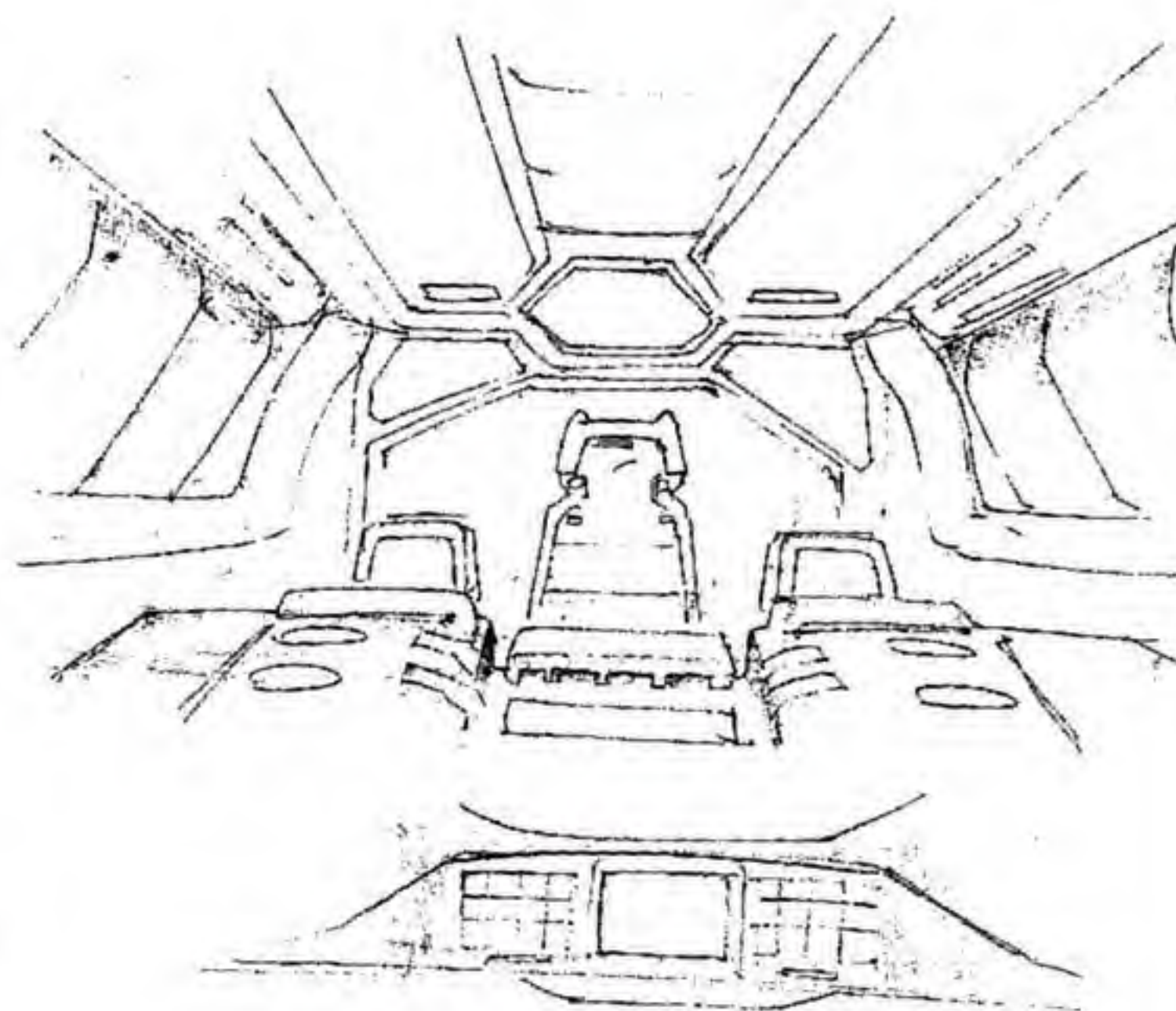
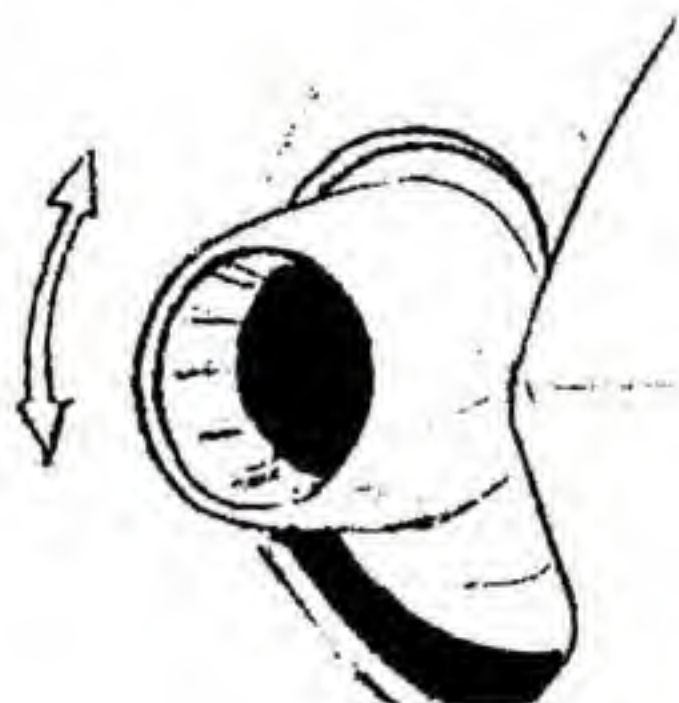
ビグ・ザムには量産計画があり、量産型にはミノフスキークラフトが搭載され、大気圏内での飛行が計画されていたという。



大型メガ粒子砲



対空メガ粒子砲



コクピット

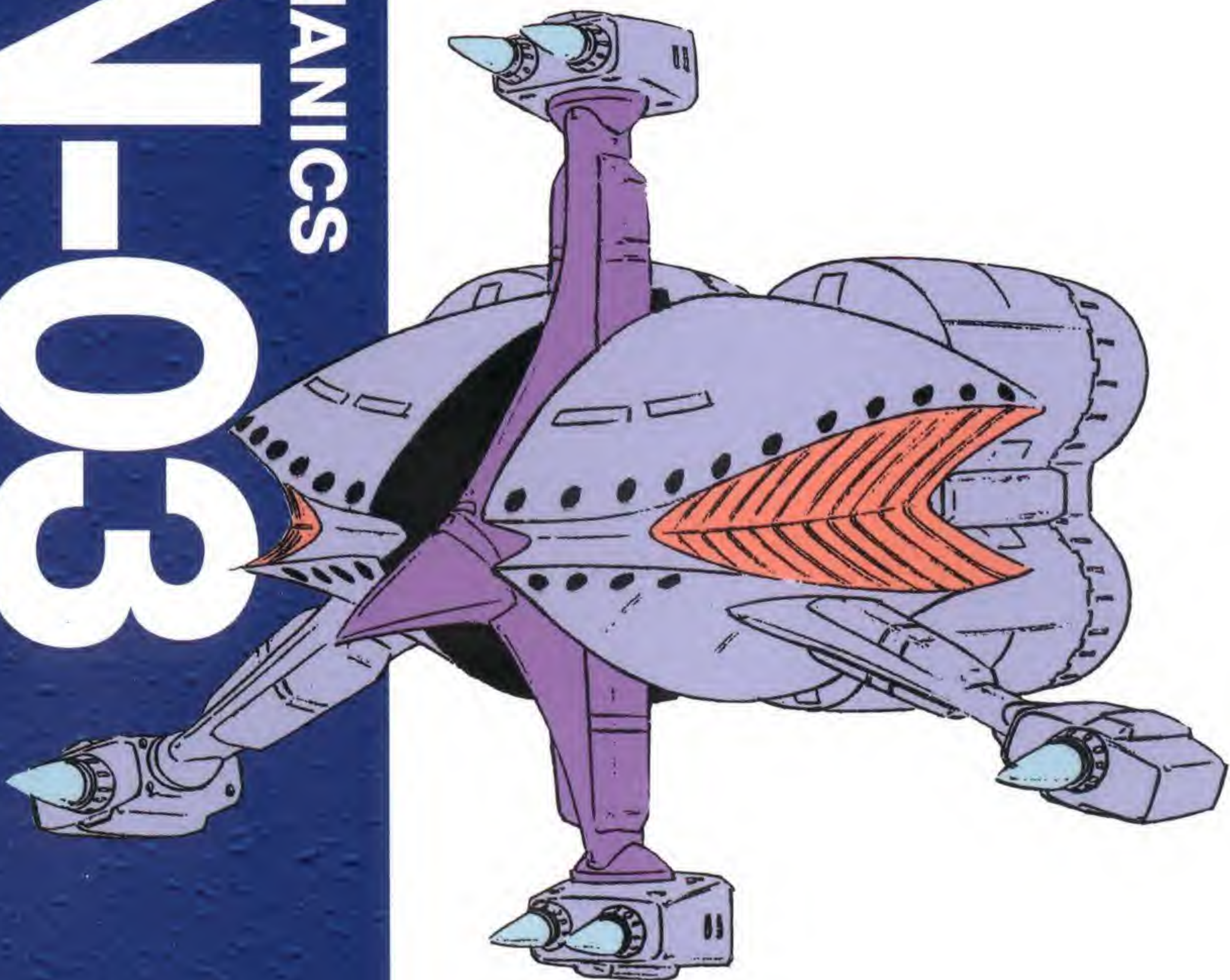
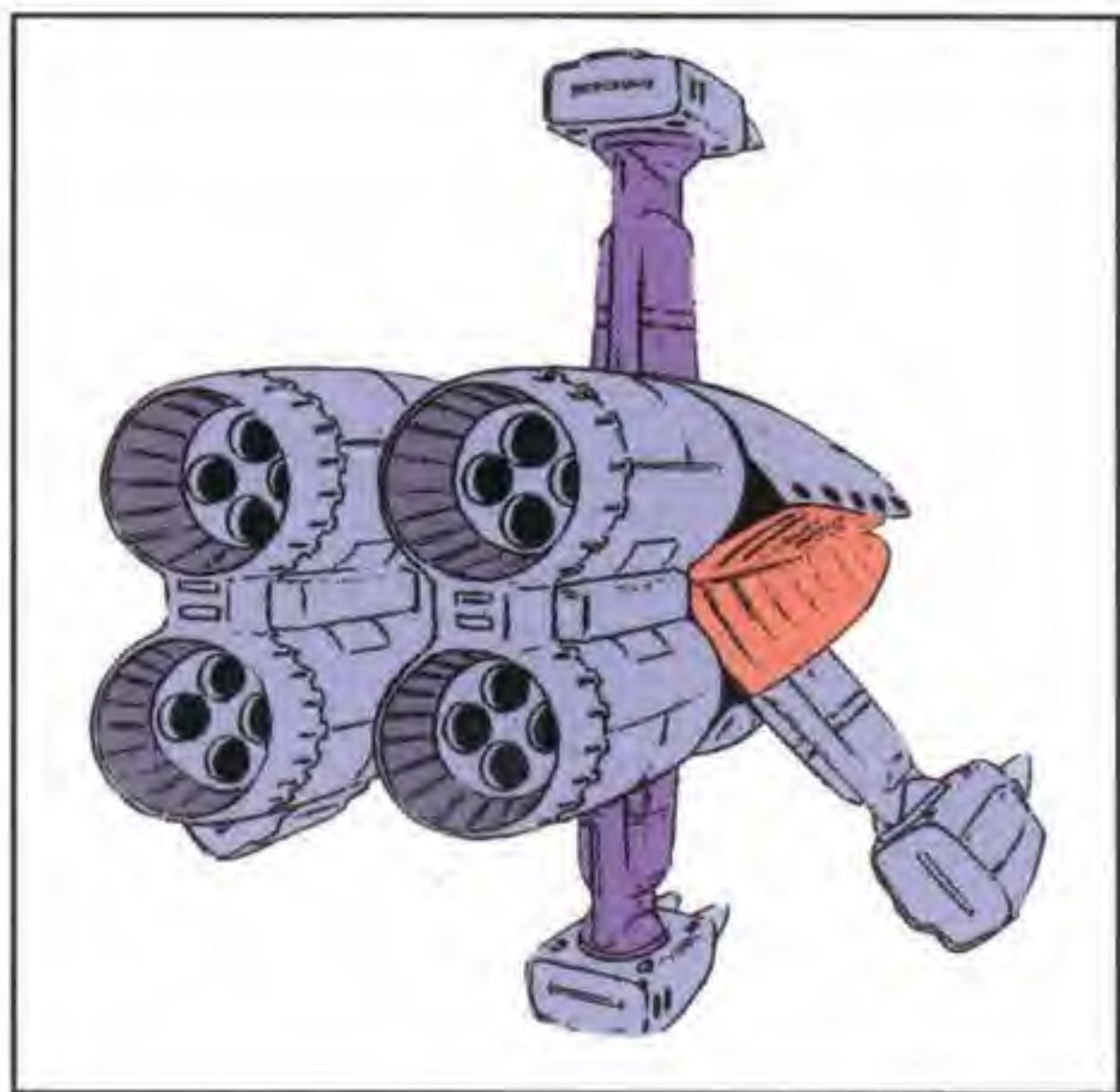


クローミサイル

ブラウ・プロ

GUNDAM MECHANICS

MAN-03



MAN-03

ブラウ・ブロ

機種分類：NT専用試作型MA

製造：フラナガン機関

全高／全長：62.4／60.2m

本体／全備重量：1735.3／2602.6t

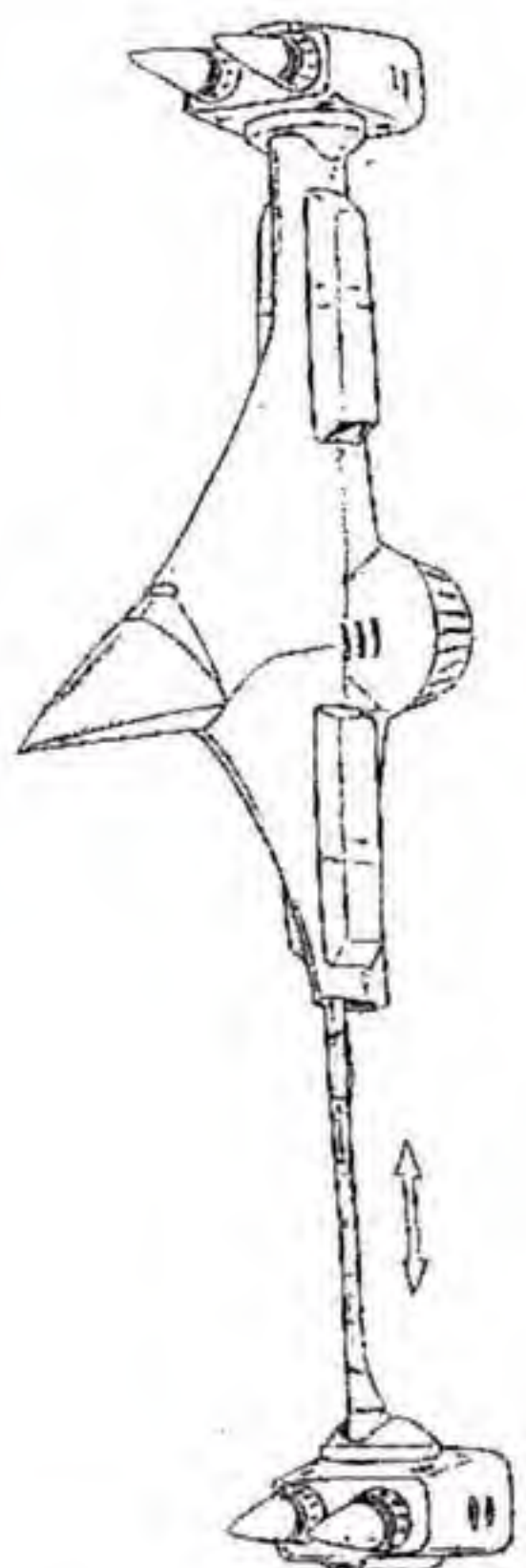
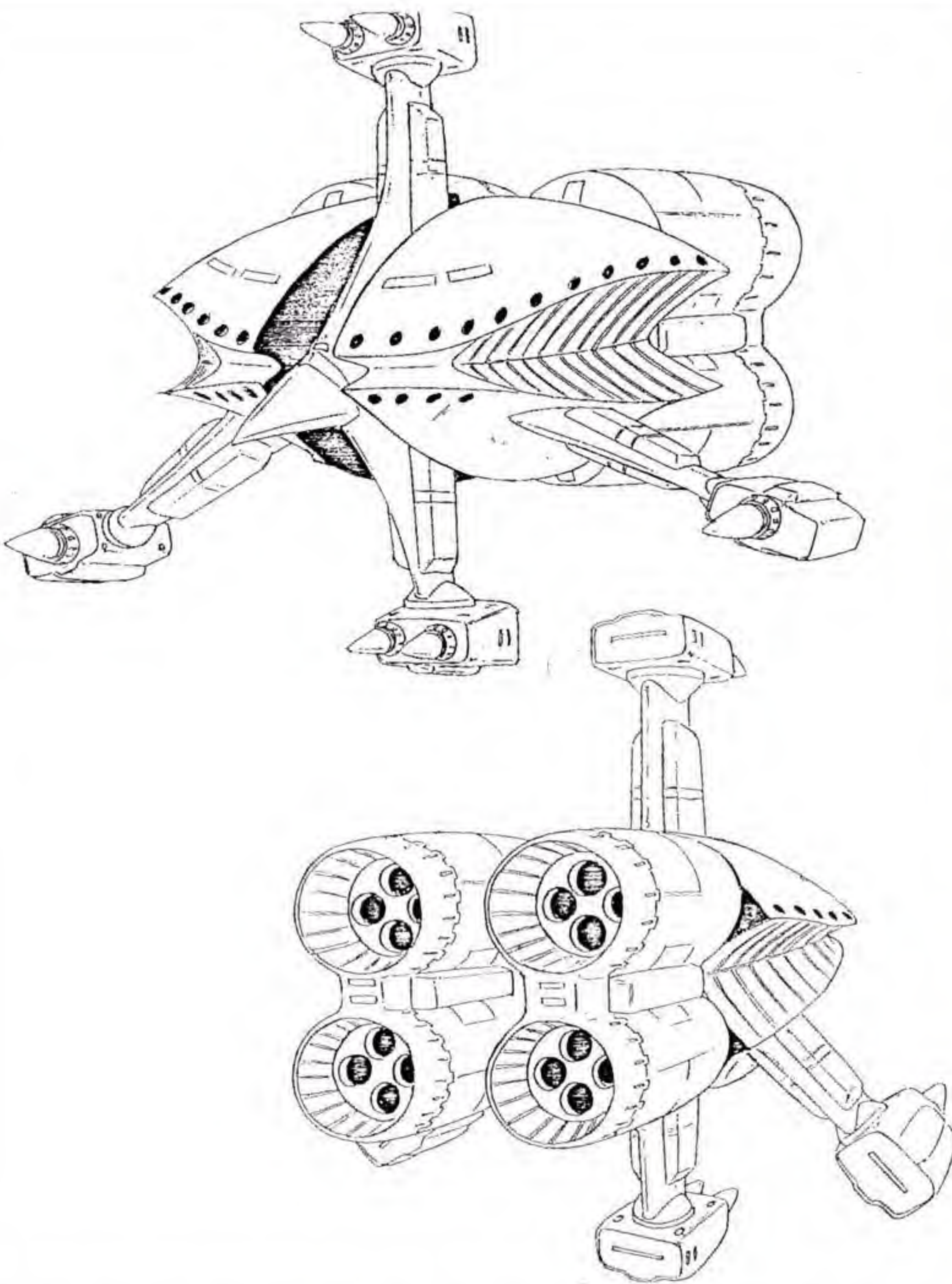
ジェネレータ出力：74,000kw

スラスタ総推力：1760,000kg

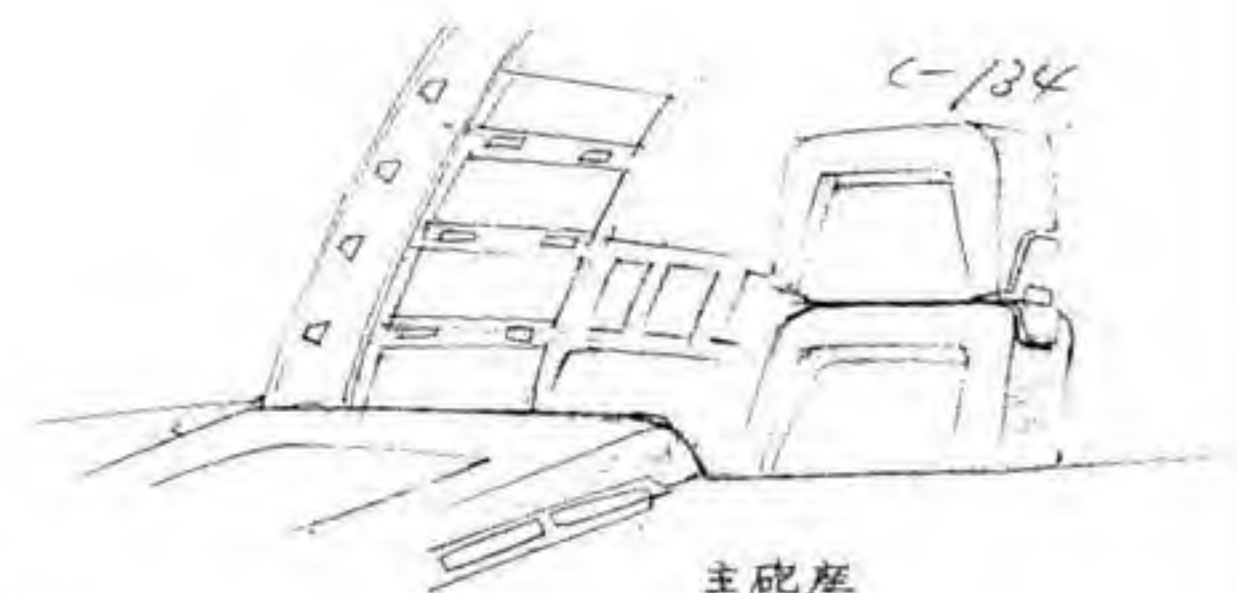
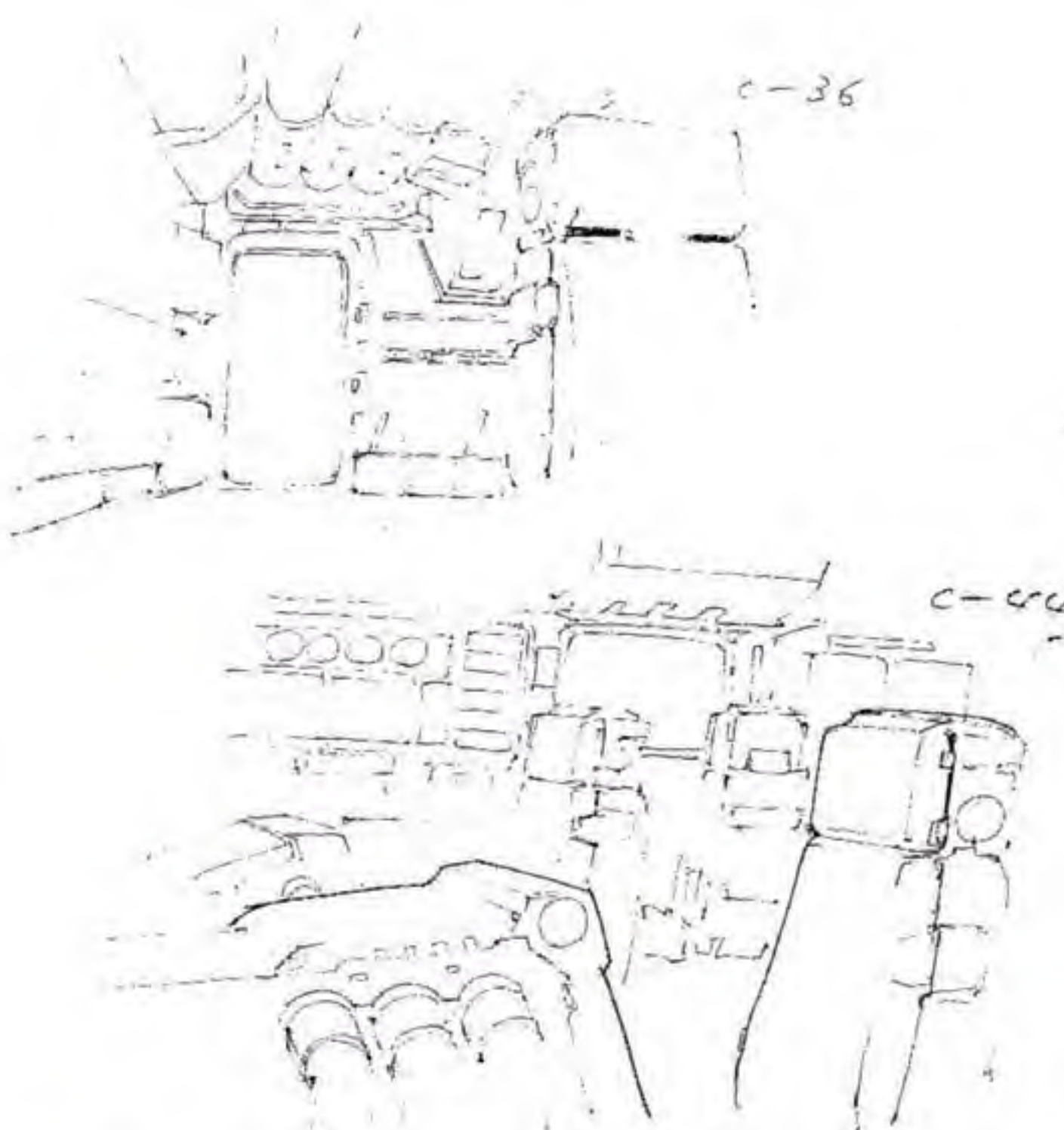
センサー有効半径：156,000m

●ミノフスキー粒子下でも影響を受けないニュータイプ精神通信（サイコミュ）能力。これを軍事利用した機動兵器が、ジオン軍のニュータイプ研究所「フラナガン機関」では試験的に開発されていた。「MA-03ブラウ・ブロ」は、ニュータイプ専用機の1号機である。

サイコミュシステムの実戦データとパイロットの回収を第一に考えられた本機は、3つのブロックに分離が可能で、それぞれが独自航行能力を有し、誘爆などの事態からコクピットを保護する対策がなされている。機体は小型宇宙艇ほどの大きさがあり、「ニュータイプ」のサイコミュコントロールにより、オールレンジ攻撃が可能な有線式のメガ粒子砲を4門装備していた。



有線メガ粒子砲



主砲座

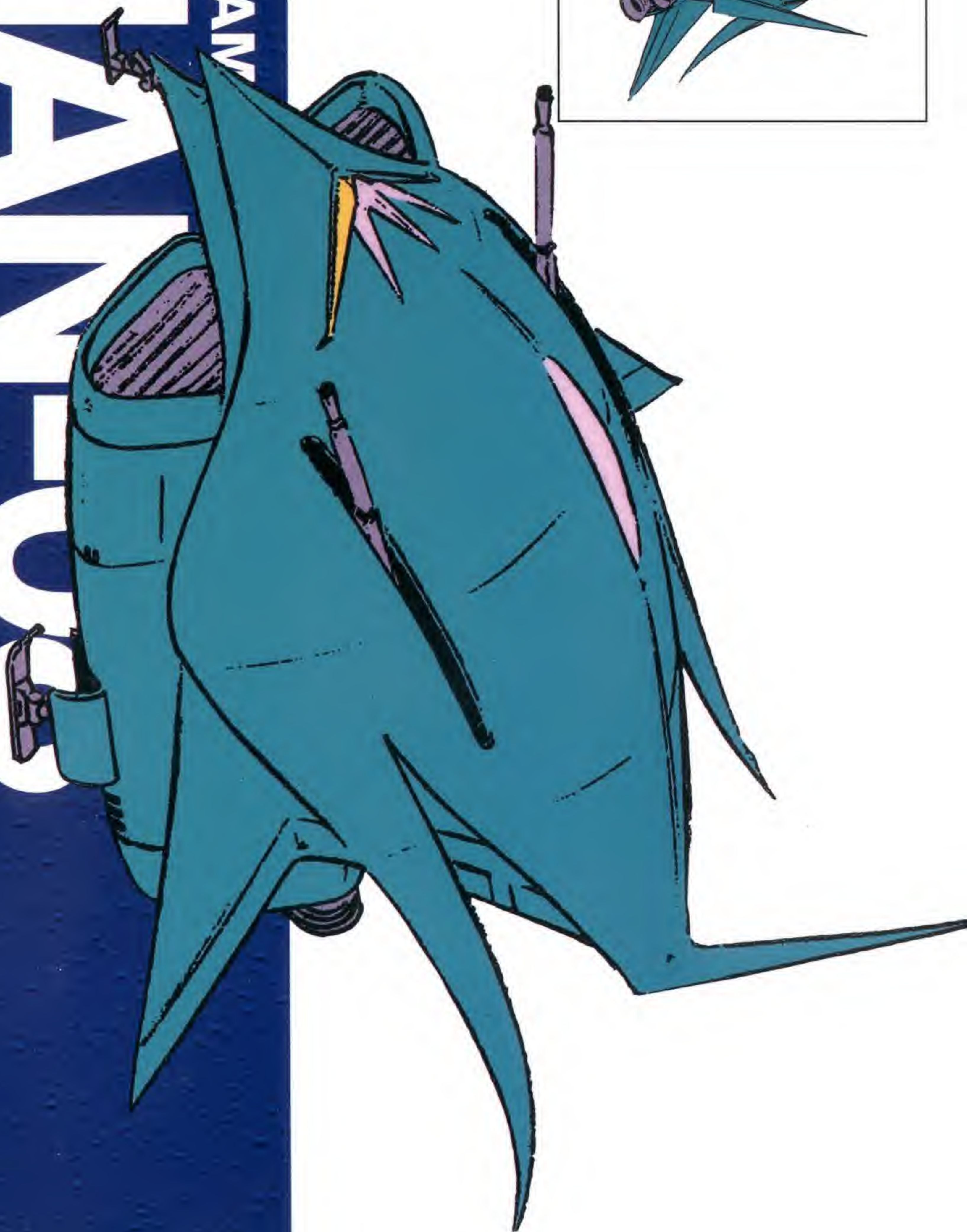
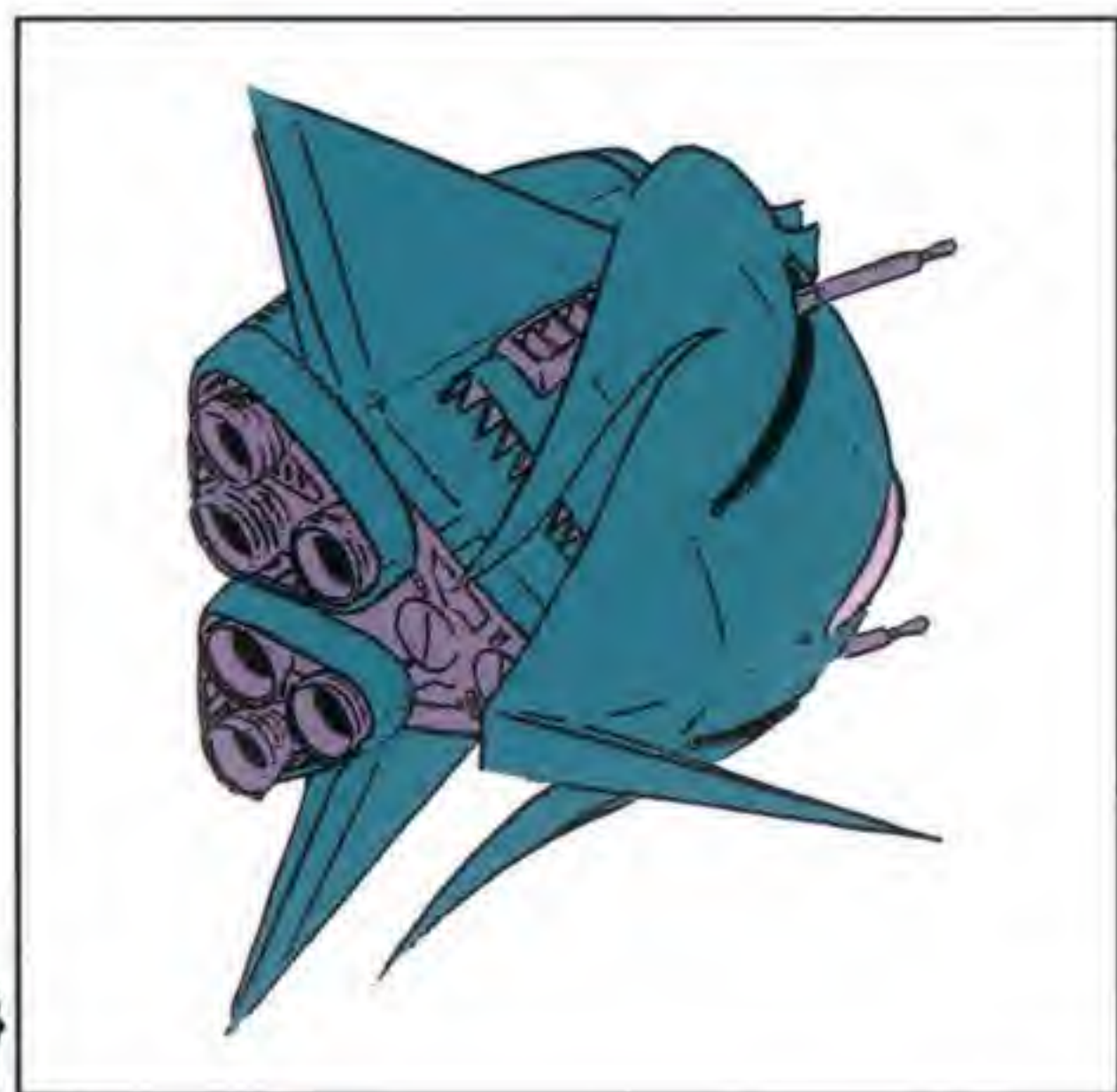


コックピット

コックピット

エルメス

GUNDAM



MAN-08

エルメス

機種分類：NT専用試作型MA

製造：フラナガン機関

全高／全長：47.7／85.4m

本体／全備重量：163.7／291.8t

ジェネレータ出力：14,200kw

スラスター総推力：645,200kg

センサー有効半径：245,000m

●2機目の「ニュータイプ」専用MA。先の「MAN-03ブラウ・プロ」に対して、この「MAN-08エルメス」は本格的な実戦型仕様になっている。

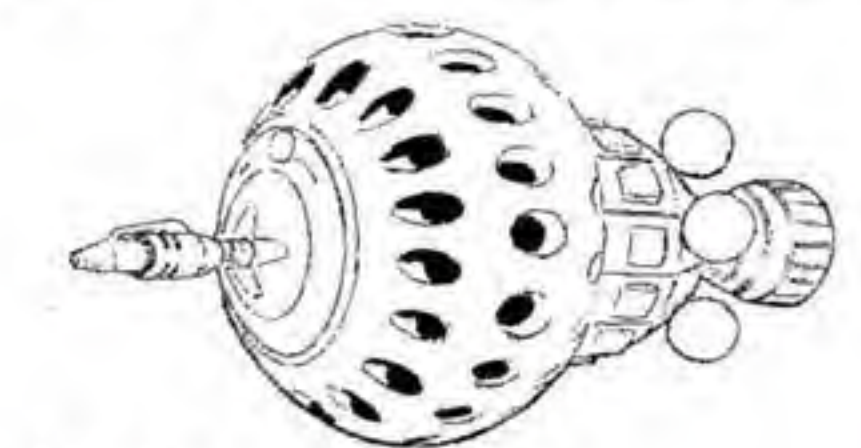
固定武装は2門のメガ粒子砲である。だが、これは自衛用の武装に過ぎない。エルメスの主武装は機体後部に収められた10基の無線サイコミュ誘導式攻撃ユニット「ビット」である。このビットは高度なサイコミュシステムにより遠隔操作が可能で、ビーム砲によって目標を攻撃する。このため、エルメスのパイロットは高いニュータイプ能力を要求される。

ラァ・スン少尉の操縦による実戦運用では、連邦軍占領後のソロモン宙域で数隻の連邦軍艦艇を沈め、連邦軍兵士たちに「ソロモンの亡霊」と恐れられた。

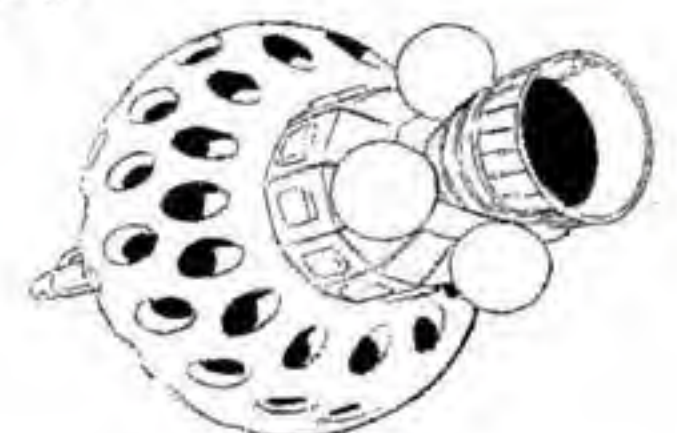
ビームキャノン

エ

コクピット

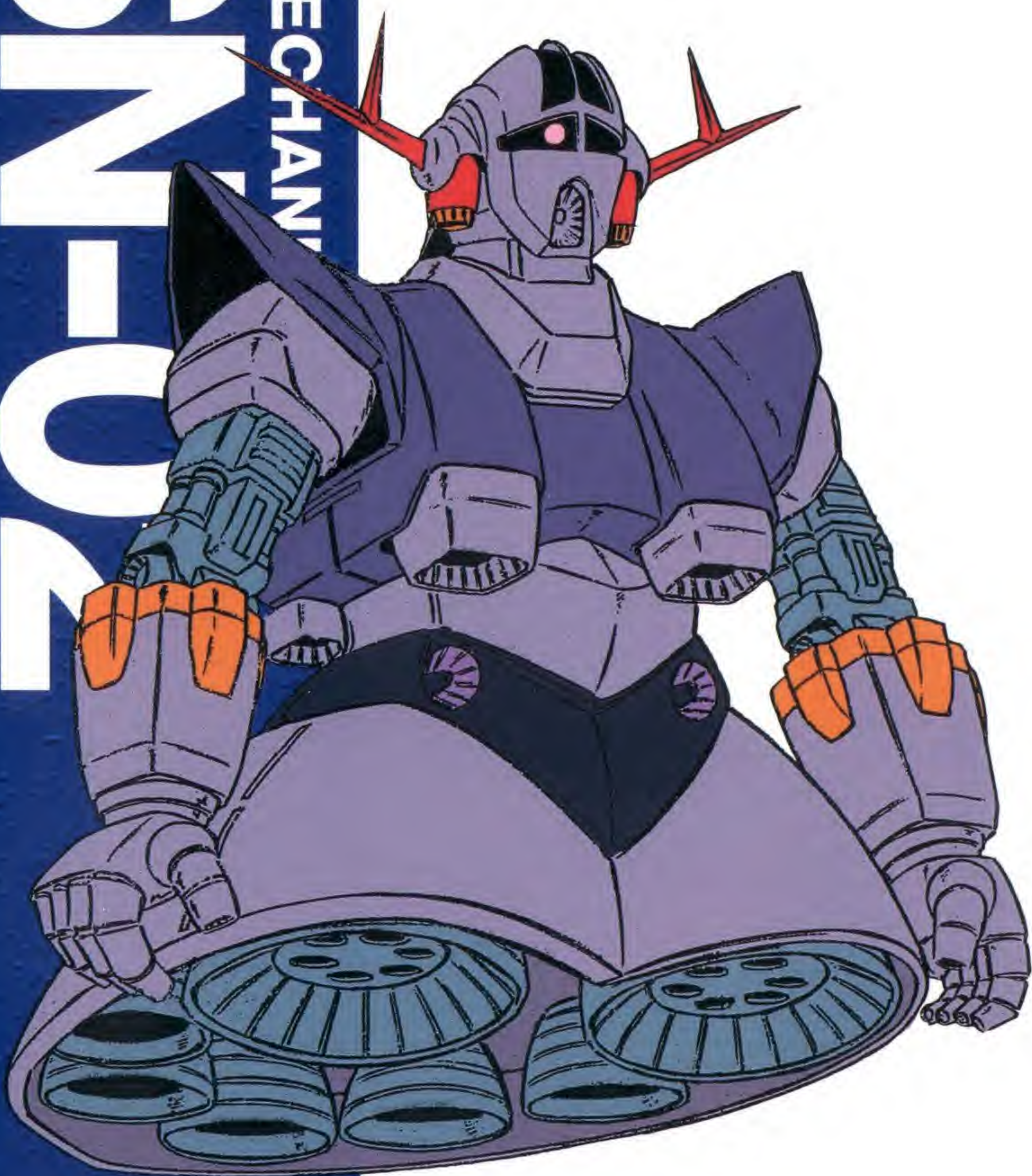


ビット



ジオング

GUNDAM MECHANICS



MSN-02

ジオング

機種分類：NT専用試作型MS

製造：ア・バオア・クー内MS工廠

全高／頭頂高：17.3／17.2m

本体／全備重量：151.2／231.91t

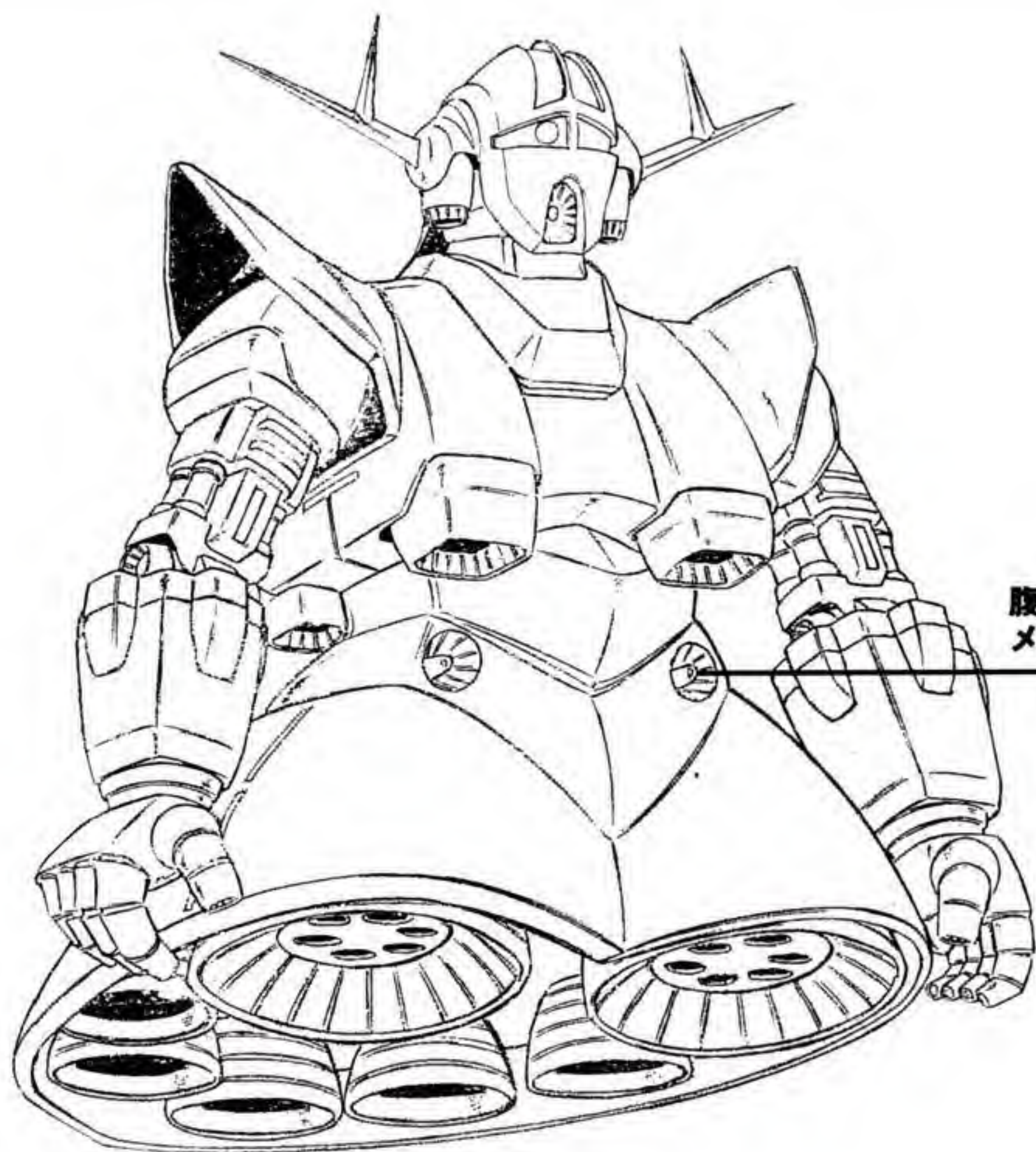
ジェネレータ出力：9,400kw

スラスタ総推力：187,000kg

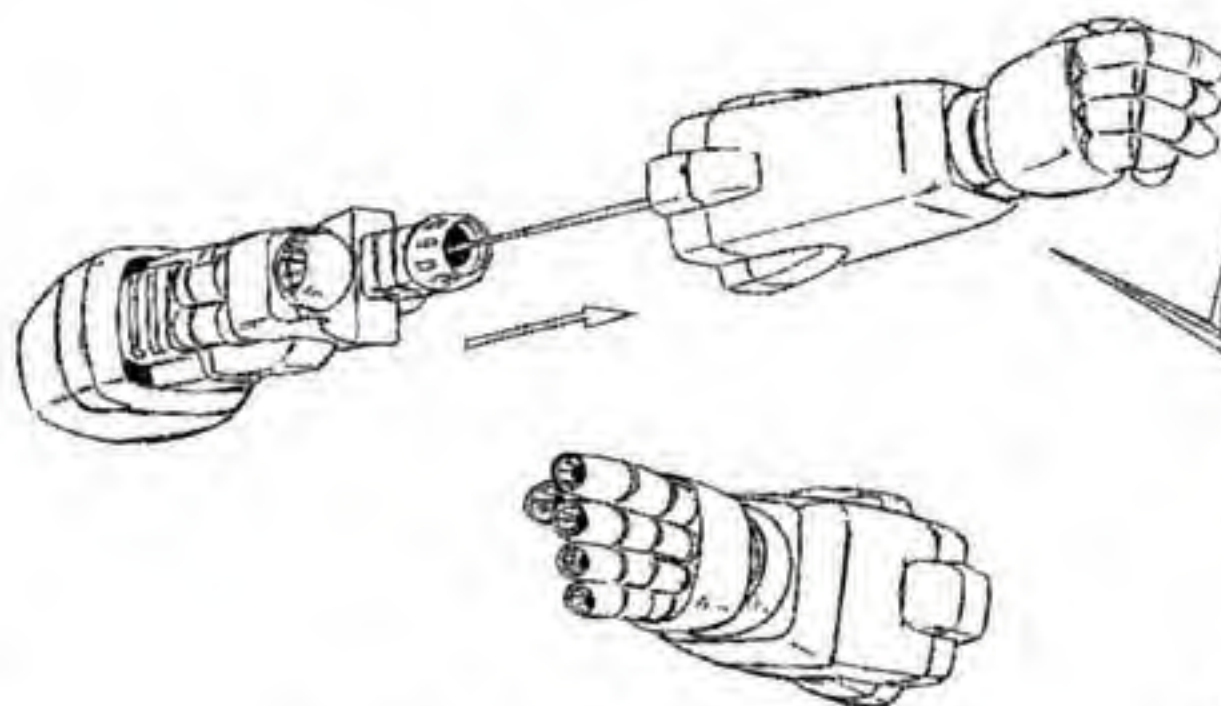
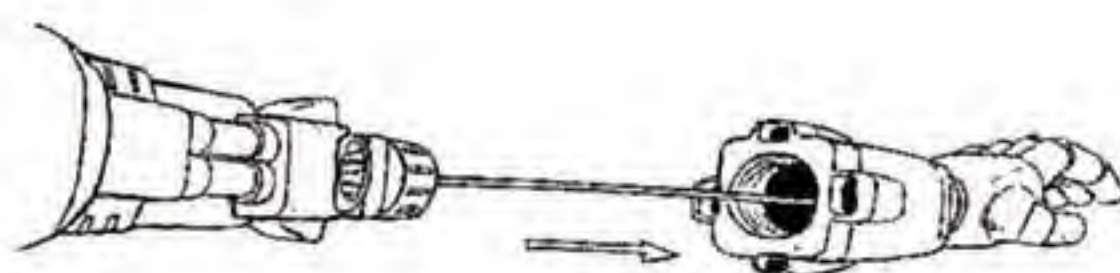
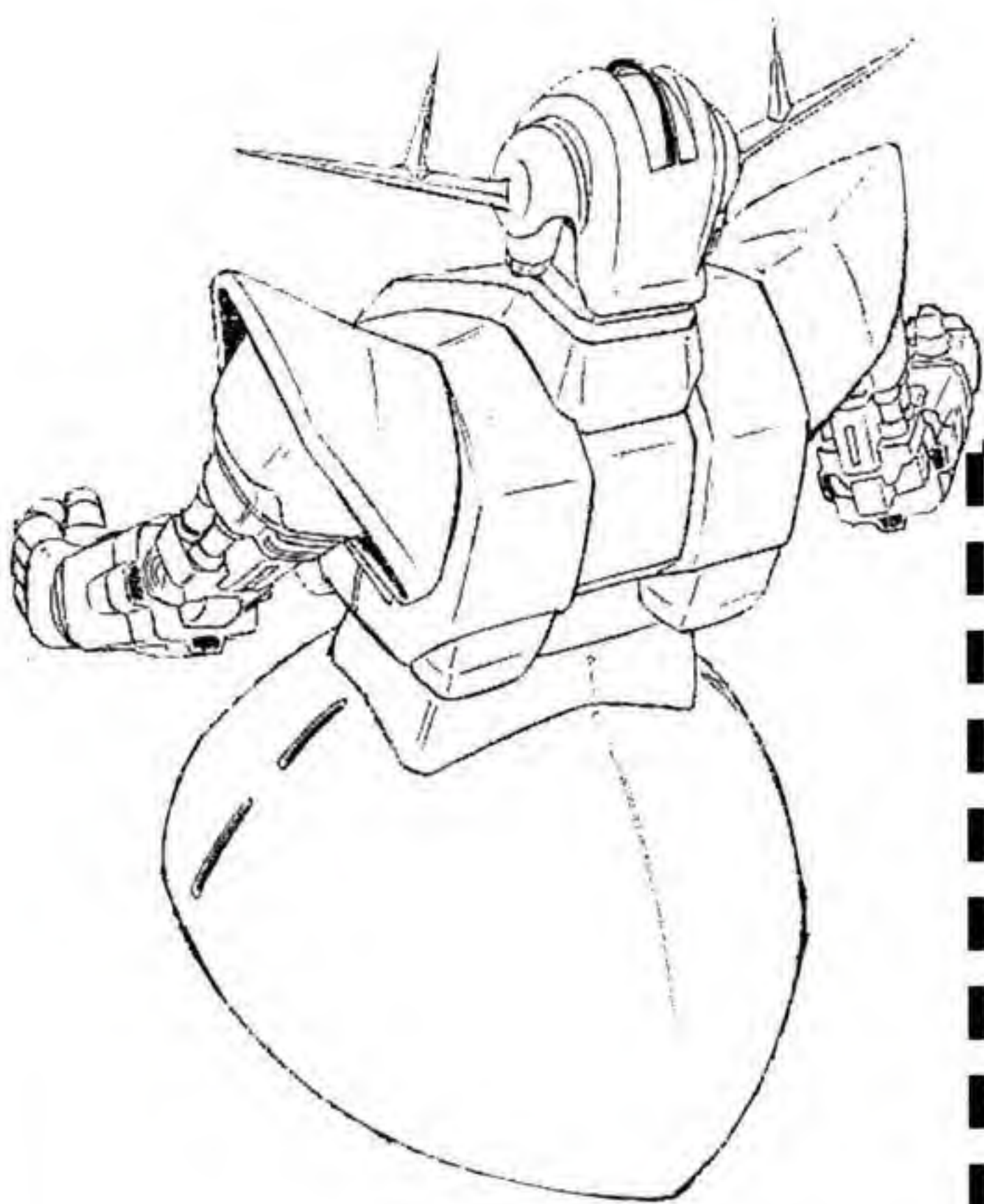
センサー有効半径：81,000m

●「MSN-02」は、ジオン軍が大戦末期に開発していたニュータイプ専用のMSである。究極のMSを目指して開発された「MSN-02」は、その期待の大きさから「ジオン」の名を授かり、「ジオング」と名付けられた。

両腕は有線サイコミュ誘導の5連装メガ粒子砲となっており、敵の四方からの攻撃「オールレンジ攻撃」を行なうことができる。ほかにも胴体と頭部にメガ粒子砲を装備しており、頭部はコクピット兼脱出装置として単独行動が可能であった。「ア・バオア・クー攻防戦」時、ア・バオア・クー内のMS工廠で組み立て、調整が行なわれていたジオングは、脚部ユニットや一部装甲を欠いた状態ながらもシャア・アズナブル大佐の操縦で出撃。連邦軍の「RX-78-2」と死闘を繰り広げた。

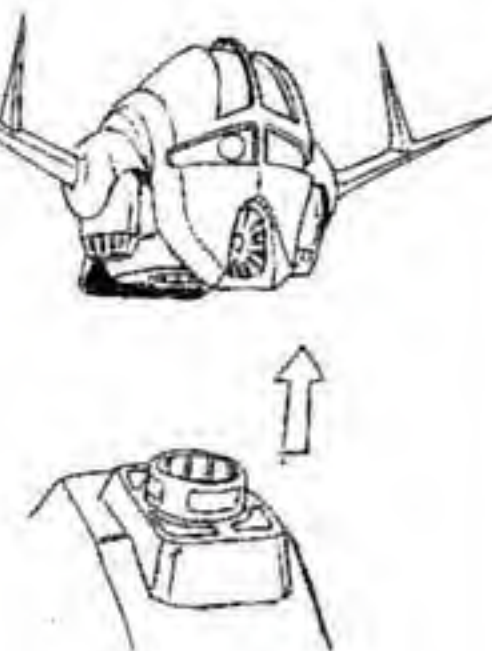


腹部
メガ粒子砲



頭部
メガ粒子砲

有線メガ粒子砲





SUPERVISION
株式会社サンライズ

COVER ILLUSTRATION
入江泰浩

ART WORKS
中川智樹
野田みさこ T-Head Design

EDITOR
佐々木健

ASSISTANT EDITOR
片岡大輔
飯島直樹

SPECIAL THANKS TO
(株)サンライズ・ライツ事業部

ガンダムメカクス I

1998年5月15日初版発行
1999年6月3日初版第3刷

発行所／株式会社ホビージャパン
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-26-5
TEL03-3354-9341
印刷所／博進紙器製作所
編集人／佐々木健
発行人／佐藤光市

禁無断転載・複製
©創通エージェンシー・サンライズ
Printed in JAPAN
ISBN4-89425-178-7

RGM-79SC、RGC-80、MS-06R-2など
一部のデータはサンライズの監修を受け、
ホビージャパンで作成したものです。
(1998年4月現在)